

平成 29 年 度
授 業 概 要
(シラバス)

家政学部生活美術学科



東北生活文化大学

シラバス項目の内容

項 目	内 容
授業の概要	授業全体の内容を記載しています。
授業の目的(到達目標)	カリキュラム全体における当該科目の位置づけと、授業の到達目標、授業のねらいは何で、受講生が何を修得し何ができるようになることを目指しているのかを示しています。
授業計画	到達目標を達成するために、具体的に何を学ぶのか、受講生が事前に内容を把握して授業に臨めるように、毎回の授業内容を記載しています。
事前学習	授業時間外の予習について記載しています。
事後学習	授業時間外の復習について記載しています。
履修上の注意	事前に獲得しておくべき知識・技能、履修したほうがよい関係科目、或いは求められる受講姿勢について記載しています。
成績評価の方法・基準	最終的に成績評価がどのような形で行われるか、加味される要素を具体的に記載しています。 ただし、総授業回数の1／3をこえて欠席した場合はその時点で不合格となりますので、注意してください。
教科書	授業で使用する、受講生が必ず購入しなければならないものを記載しています。
参考書	参考書籍がある場合記載しています。

ナンバリング：各科目の学問上の分類やその科目が位置する学修の段階、順序等をあらわします。



大分類：学科をあらわします。

- A・・・服飾文化専攻
- B・・・健康栄養学専攻
- C・・・生活美術学科
- K・・・学部共通

中分類：科目の区分

- 1・・・学部共通教養科目
- 2・・・基幹科目
- 3・・・学科専攻科目
- 4・・・教職に関する科目
- 5・・・博物館に関する科目

小分類：科目群

目 次

家政学部共通 教養科目

ナンバリング	科 目 名	開講期	対象学科・専攻・年	担 当 者	頁
K-1-a-01-1	化学Ⅰ	前期	服・美1	菅野 修一	1
B-1-a-01-1	化学Ⅰ	前期	健1	鈴木 裕行	2
K-1-a-02-2	化学Ⅱ	後期	服・美1	菅野 修一	3
B-1-a-02-2	化学Ⅱ	前期	健1	鈴木 裕行	4
K-1-a-03-1	有機化学Ⅰ	後期	服・美1	菅野 修一	5
B-1-a-03-1	有機化学Ⅰ	後期	健1	菅野 修一	6
K-1-a-04-2	有機化学Ⅱ	前期	服・美2	菅野 修一	7
B-1-a-04-2	有機化学Ⅱ	前期	健2	菅野 修一	8
K-1-a-05-1	生物学Ⅰ	前期	服・健・美1	堀江 佐知子	9
K-1-a-06-2	生物学Ⅱ	後期	健・美1・服4	堀江 佐知子	10
K-1-a-07-1	地球環境学Ⅰ	前期	服・美2	池田 展敏	11
K-1-a-08-2	地球環境学Ⅱ	後期	服・美2	池田 展敏	12
K-1-a-09-1	統計学	後期	服・健・美1	池田 展敏	13
K-1-a-10-2	数学	前期	服・健・美1	池田 展敏	14
K-1-b-01-1	経済学	前期	服・美1	星 雅博	15
	経済学Ⅰ	前期	健4	星 雅博	16
	経済学Ⅱ	後期	服・健4	星 雅博	17
K-1-b-02-1	社会学Ⅰ	前期	服・美1・健4	庄司 一平	18
K-1-b-03-2	社会学Ⅱ	後期	服・美1・健4	庄司 一平	19
K-1-b-04-1	歴史Ⅰ	前期	服・健・美1	栗原 伸一郎	20
K-1-b-05-2	歴史Ⅱ	後期	服・健・美1	栗原 伸一郎	21
K-1-b-06-1	日本国憲法	前期	服・健・美1	横田 尚昌	22
K-1-b-07-2	法学概説	後期	服・健・美1	横田 尚昌	23
K-1-c-01-1	哲学Ⅰ	前期	服・健・美1	徳田 幸雄	24
K-1-c-02-2	哲学Ⅱ	後期	服・健・美1	徳田 幸雄	25
K-1-c-03-2	心理学Ⅰ	前期	服・健・美1	植松 公威	26
K-1-c-04-2	心理学Ⅱ	後期	服・健・美1	植松 公威	27
K-1-c-05-1	美術	後期	服・美1	北折 整	28
K-1-c-06-2	美術史Ⅰ	前期	服・美1	瀬戸 典彦	29
K-1-c-07-3	美術史Ⅱ	後期	服・美1	瀬戸 典彦	30
K-1-c-08-1	生活文化論	前期	服・美1	大山 芳宏	31
K-1-d-01-1	英語Ⅰ	前期	服・健・美1	佐藤 恵	32
K-1-d-02-2	英語Ⅱ	後期	服・健・美1	佐藤 恵	33
K-1-d-03-1	英会話Ⅰ	前期	服・健・美1	上之原 博子	34
K-1-d-04-2	英会話Ⅱ	後期	服・健・美1	上之原 博子	35
K-1-d-05-1	仏語Ⅰ	前期	服・健・美1	村山 茂	36
K-1-d-06-2	仏語Ⅱ	後期	服・健・美1	村山 茂	37
K-1-d-07-1	中国語	前期	服・健・美1	尾崎 順一郎	38
K-1-d-08-1	日本語基礎	前期	服・健・美1	清水 浩一郎	39
K-1-d-09-2	国語表現法	後期	服・健・美1	清水 浩一郎	40
K-1-d-10-1	情報基礎学	前期	服・健・美2	松尾 広	41
K-1-e-01-2	スポーツ身体科学	後期	服・美1	土井 豊	42
K-1-e-02-2	スポーツ	通年	服・健・美1	土井 豊	43
K-1-e-03-3	武道	前期	服・健・美1	佐藤 淳一	44
A-1-f-01-1	スタディスキルズ	前期	服1	大学教職員	45
B-1-f-01-1	スタディスキルズ	前期	健1	大学教職員	46
C-1-f-01-1	スタディスキルズ	前期	美1	大学教職員	47
K-1-f-02-2	ライフデザイン	後期	服・健・美1	佐々木 晃	48
A-1-f-03-1	キャリア開発Ⅰ	後期	服2	井上 美紀	49
B-1-f-03-1	キャリア開発Ⅰ	前期	健1	鈴木 裕行	50
C-1-f-03-1	キャリア開発Ⅰ	通年	美2	2年次担任	51
A-1-f-04-2	キャリア開発Ⅱ	前期	服2	小野寺 美和 (集中講義)	52
B-1-f-04-2	キャリア開発Ⅱ	前期	健2	川俣 幸一	53
C-1-f-04-2	キャリア開発Ⅱ	通年	美2	2年次担任	54
A-1-f-05-3	キャリア開発Ⅲ	後期	服3	小野寺 美和	55
B-1-f-05-3	キャリア開発Ⅲ	前期	健3	健康栄養学専攻全教員	56
C-1-f-05-3	キャリア開発Ⅲ	後期	美2	工藤 稜	57
A-1-f-06-4	キャリア開発Ⅳ	後期	服3	服飾文化専攻全教員	58
B-1-f-06-4	キャリア開発Ⅳ	前期	健4	健康栄養学専攻全教員	59

ナンバリング	科 目 名	開講期	対象学科・専攻・年	担 当 者	頁
C-1-f-06-4	キャリア開発Ⅳ		美3	開講せず	—
K-1-f-07-1	キャリアサポートⅠ	通年	服・健・美3	大学教職員	60
K-1-f-08-2	キャリアサポートⅡ	前期	服・健・美4	大学教職員	61

家政学部基幹科目

ナンバリング	科 目 名	開講期	対象学科・専攻・年	担 当 者	頁
K-2-a-01-1	家政学原論	前期	服・健・美1	八巻 美智子	62
K-2-a-02-1	家族関係学	後期	服・健・美1	和泉 安希子	63
K-2-a-03-1	家庭経営学(家庭経済学を含む)	前期	服・健・美1	前田 修也	64

生活美術学科専攻科目

ナンバリング	科 目 名	開講期	担 当 者	頁
C-3-a-01-1-1	絵画基礎Ⅰ(映像メディア表現を含む)	前期	森 敏美・北折 整・工藤 稜	65
C-3-a-02-1-1	絵画基礎Ⅱ	後期	森 敏美・北折 整	66
C-3-a-03-2-2	洋 画Ⅰ	前期	森 敏美・北折 整	67
C-3-a-04-2-2	洋 画Ⅱ	後期	森 敏美・北折 整	68
C-3-a-05-3-3	洋 画Ⅲ	前期	北折 整	69
C-3-a-06-2-2	日本画Ⅰ	前期	森 敏美	70
C-3-a-07-2-2	日本画Ⅱ	後期	及川 聡子	71
C-3-a-08-3-3	日本画Ⅲ	前期	及川 聡子	72
C-3-a-09-2-2	版 画Ⅰ	前期	大堀 恵子	73
C-3-a-10-2-2	版 画Ⅱ	後期	大堀 恵子	74
C-3-a-11-3-3	版 画Ⅲ	前期	大堀 恵子	75
C-3-a-12-2-2	壁 画Ⅰ	前期	森 敏美	76
C-3-a-13-2-2	壁 画Ⅱ	後期	森 敏美	77
C-3-a-14-3-3	壁 画Ⅲ	前期	森 敏美	78
C-3-b-01-1-1	彫刻基礎Ⅰ	前期	佐藤 淳一	79
C-3-b-02-1-1	彫刻基礎Ⅱ	後期	佐藤 淳一	80
C-3-b-03-2-2	彫 刻Ⅰ	前期	佐藤 淳一	81
C-3-b-04-2-2	彫 刻Ⅱ	後期	佐藤 淳一	82
C-3-b-05-3-3	彫 刻Ⅲ	前期	佐藤 淳一	83
C-3-c-01-02-1-1	工芸基礎(プロダクト制作を含む)Ⅰ・Ⅱ	前・後	林 範親	木工 85
	工芸基礎(プロダクト制作を含む)Ⅰ・Ⅱ	前・後	立花 布美子	陶芸 86
	工芸基礎(プロダクト制作を含む)Ⅰ・Ⅱ	前・後	三浦 輝子	染織 87
	工芸基礎(プロダクト制作を含む)Ⅰ・Ⅱ	前・後	井上 直美	漆芸 88
C-3-c-03-2-2	木 工Ⅰ	前期	林 範親	89
C-3-c-04-2-2	木 工Ⅱ	後期	林 範親	90
C-3-c-05-3-3	木 工Ⅲ	前期	林 範親	91
C-3-c-06-2-2	陶 芸Ⅰ	前期	立花 布美子	92
C-3-c-07-2-2	陶 芸Ⅱ	後期	立花 布美子	93
C-3-c-08-3-3	陶 芸Ⅲ	前期	立花 布美子	94
C-3-c-09-2-2	漆 芸Ⅰ	前期	井上 直美	95
C-3-c-10-2-2	漆 芸Ⅱ	後期	井上 直美	96
C-3-c-11-3-3	漆 芸Ⅲ	前期	井上 直美	97
C-3-c-12-2-2	染 織Ⅰ	前期	三浦 輝子	98
C-3-c-13-2-2	染 織Ⅱ	後期	三浦 輝子	99
C-3-c-14-3-3	染 織Ⅲ	前期	三浦 輝子	100
C-3-d-01-1-1	デザイン基礎・平面Ⅰ(映像メディア表現を含む)	前期	三上 秀夫	101
C-3-d-02-1-1	デザイン基礎・平面Ⅱ	後期	三上 秀夫	102
C-3-d-03-1-1	デザイン基礎・立体Ⅰ	前期	林 範親	103
C-3-d-04-1-1	デザイン基礎・立体Ⅱ	後期	林 範親	104
C-3-d-05-2-2	視覚デザインⅠ	前期	三上 秀夫	105
C-3-d-06-2-2	視覚デザインⅡ	後期	三上 秀夫	106
C-3-d-07-3-3	視覚デザインⅢ	前期	三上 秀夫	107
C-3-d-08-2-2	デジタルデザインⅠ	前期	鶴巻 史子	108
C-3-d-09-2-2	デジタルデザインⅡ	後期	鶴巻 史子	109
C-3-d-10-1-2	インテリアデザインⅠ	前期	湯目 俊彦	110
C-3-d-11-1-2	インテリアデザインⅡ	後期	湯目 俊彦	111
C-3-e-01-1-2	生活美術概論Ⅰ	前期	近江 恵美子	112
C-3-e-02-2-2	生活美術概論Ⅱ	後期	近江 恵美子	113

ナンバリング	科 目 名	開講期	担 当 者	頁
C-3-e-03-1-1	情報設計概論Ⅰ	前期	鶴巻 史子	114
C-3-e-04-2-1	情報設計概論Ⅱ	後期	鶴巻 史子	115
C-3-e-05-1-2	デザイン概論	後期	三上 秀夫	116
C-3-e-06-1-2	美 学Ⅰ	前期	太田 峰夫	117
C-3-e-07-2-2	美 学Ⅱ	後期	太田 峰夫	118
C-3-e-08-1-2	美術鑑賞Ⅰ	前期	瀬戸 典彦	119
C-3-e-09-2-2	美術鑑賞Ⅱ	後期	瀬戸 典彦	120
C-3-e-10-1-1	色彩学Ⅰ	前期	大堀 恵子	121
C-3-e-11-2-2	色彩学Ⅱ	後期	大堀 恵子	122
C-3-f-01-1-2	ガラスアートⅠ	前期	森合 暢子	123
C-3-f-02-1-2	ガラスアートⅡ	後期	山口 綾子	124
C-3-f-03-2-3	ガラスアートⅢ	前期	山口 綾子	125
C-3-f-04-1-2	人形Ⅰ	前期	福田 一実	126
C-3-f-05-1-2	人形Ⅱ	後期	福田 一実	127
C-3-f-06-2-3	人形Ⅲ	前期	福田 一実	128
C-3-f-07-1-2	マンガⅠ	前期	鹿野 明子	129
C-3-f-08-1-2	マンガⅡ	後期	安孫子 三和	130
C-3-f-09-2-3	マンガⅢ	前期	安孫子 三和	131
C-3-f-10-1-2	製図Ⅰ	前期	湯目 俊彦	132
C-3-f-11-1-2	製図Ⅱ	後期	湯目 俊彦	133
C-3-f-12-2-3	図学Ⅰ	前期	湯目 俊彦	134
C-3-f-13-2-3	図学Ⅱ	後期	湯目 俊彦	135
C-3-f-14-1-3	写真Ⅰ	前期	飯沢 耕太郎 集中講義	136
C-3-f-15-1-3	写真Ⅱ	後期	及川 廣道 集中講義	137
C-3-g-01-1-3	美術教諭試験対策講座Ⅰ	後期	佐々木 晃	138
C-3-g-02-2-4	美術教諭試験対策講座Ⅱ	前期	佐々木 晃	139
C-3-g-03-1-3	アート支援Ⅰ	前期	瀬戸 典彦 集中講義	140
C-3-g-04-2-3	アート支援Ⅱ	後期	瀬戸 典彦 集中講義	141
C-3-h-01-4-3	技法研究Ⅰーa	前期	生活美術学科全教員	142
C-3-h-02-4-3	技法研究Ⅱ	後期	北折 整 洋画	143
	技法研究Ⅱ	後期	佐藤 淳一 彫刻	144
	技法研究Ⅱ	後期	森 敏美 洋画	145
	技法研究Ⅱ	後期	森 敏美 壁画	146
	技法研究Ⅱ	後期	三上 秀夫 視覚デザイン	147
	技法研究Ⅱ	後期	瀬戸 典彦 論文	148
	技法研究Ⅱ	後期	鶴巻 史子 情報デザイン	149
	技法研究Ⅱ	後期	大堀 恵子 版画	150
	技法研究Ⅱ	後期	三浦 輝子 染織	151
	技法研究Ⅱ	後期	立花 布美子 陶芸	152
	技法研究Ⅱ	後期	及川 聡子 日本画	153
	技法研究Ⅱ	後期	林 範親 木工	154
	技法研究Ⅱ	後期	井上 直美 漆芸	155
	技法研究Ⅱ	後期	森合 暢子 グラスアート	156
	技法研究Ⅱ	後期	福田 一実 人形	157
	技法研究Ⅱ	後期	鹿野 明子 マンガ	158
C-3-h-04-5-4	卒業研究Ⅰ	前期	北折 整	159
	卒業研究Ⅰ	前期	佐藤 淳一	160
	卒業研究Ⅰ	前期	森 敏美 (洋画)	161
	卒業研究Ⅰ	前期	森 敏美 (壁画)	162
	卒業研究Ⅰ	前期	三上 秀夫	163
	卒業研究Ⅰ	前期	瀬戸 典彦	164
	卒業研究Ⅰ	前期	鶴巻 史子	165
	卒業研究Ⅰ	前期	大堀 恵子	166
	卒業研究Ⅰ	前期	三浦 輝子	167
	卒業研究Ⅰ	前期	立花 布美子	168
	卒業研究Ⅰ	前期	及川 聡子	169
	卒業研究Ⅰ	前期	林 範親	170
	卒業研究Ⅰ	前期	井上 直美	171
	卒業研究Ⅰ	前期	森合 暢子	172
	卒業研究Ⅰ	前期	山口 綾子	173
	卒業研究Ⅰ	前期	福田 一実	174
	卒業研究Ⅰ	前期	鹿野 明子	175

ナンバリング	科 目 名	開講期	担 当 者	頁
C-3-h-05-5-4	卒業研究Ⅱ	後期	北折 整	176
	卒業研究Ⅱ	後期	佐藤 淳一	177
	卒業研究Ⅱ	後期	森 敏美(洋画)	178
	卒業研究Ⅱ	後期	森 敏美(壁画)	179
	卒業研究Ⅱ	後期	三上 秀夫	180
	卒業研究Ⅱ	後期	瀬戸 典彦	181
	卒業研究Ⅱ	後期	鶴巻 史子	182
	卒業研究Ⅱ	後期	大堀 恵子	183
	卒業研究Ⅱ	後期	三浦 輝子	184
	卒業研究Ⅱ	後期	立花 布美子	185
	卒業研究Ⅱ	後期	及川 聡子	186
	卒業研究Ⅱ	後期	林 範親	187
	卒業研究Ⅱ	後期	井上 直美	188
	卒業研究Ⅱ	後期	森合 暢子	189
	卒業研究Ⅱ	後期	山口 綾子	190
	卒業研究Ⅱ	後期	福田 一実	191
	卒業研究Ⅱ	後期	鹿野 明子	192
C-3-h-06-5-4	卒業研究特別講義Ⅰ	前期	森 敏美・大堀 恵子	193
C-3-h-07-5-4	卒業研究特別講義Ⅱ	後期	森 敏美・大堀 恵子	194
C-3-i-01~06-1-1~3	生活特別講義Ⅰ～Ⅵ	集中	生活美術学科教員他	195

教職に関する科目

ナンバリング	科 目 名	開講期	対象学科・専攻・年	担 当 者	頁
K-4-a-01-1	教職概論	前期	家・美1	佐々木 晃	196
K-4-b-01-2	教育原理	前期	家・美2	菅並 茂樹	197
K-4-b-02-2	教育心理学	前期	家・美2	植松 公威	198
K-4-b-03-3	教育制度論	前期	家・美3	菅並 茂樹	199
K-4-c-01-2	教育課程論	後期	家・美2	菅並 茂樹	200
K-4-c-02-3	家庭科教育法Ⅰ	通年	家・健3	鈴木 行子	201
K-4-c-03-4	家庭科教育法Ⅱ	通年	家・健4	鈴木 行子	202
C-4-c-02-3	美術科教育法Ⅰ	通年	美3	加美山 裕子	203
C-4-c-03-4	美術科教育法Ⅱ	通年	美4	加美山 裕子	204
C-4-c-04-3	工芸科教育法	通年	美3	瀬戸 典彦	205
K-4-c-04-2	道德教育の指導法	前期	家・美3	加美山 裕子	206
K-4-c-05-2	特別活動の指導法	前期	家・美2	大山 芳宏	207
K-4-c-06-3	教育方法論	後期	家・美2	植松 公威・松尾 広	208
K-4-d-01-3	生徒指導の理論と方法A	後期	家・美3	大山 芳宏	209
B-4-d-02-3	生徒指導の理論と方法B	前期	健3	大山 芳宏	210
K-4-d-02-2	教育相談	後期	家・美3	植松 公威	211
K-4-f-01-5	教職実践演習(中・高)	後期	家・美4	菅並 茂樹・植松 公威	212
B-4-f-02-5	教職実践演習(栄養教諭)	後期	健4	菅並 茂樹・植松 公威	213

博物館に関する科目

ナンバリング	科 目 名	開講期	対象学科・専攻	担 当 者	頁
K-5-a-01-2	生涯学習概論	後期	服・美1	大山 芳宏	214
K-5-a-02-2	博物館概論	前期	服・美1	近江 恵美子	215
K-5-a-03-4	博物館経営論	前期	服・美3	笠原 信男	216
K-5-a-04-3	博物館資料論	後期	服・美2	近江 恵美子	217
K-5-a-05-3	博物館資料保存論	前期	服・美2	手塚 均	218
K-5-a-06-4	博物館展示論	後期	服・美3	田中 則和	219
K-5-a-07-3	博物館情報・メディア論	後期	服・美2	佐藤 泰	220
K-5-a-08-2	博物館教育論	後期	服・美1	伊藤 優	221
K-5-a-09-5	博物館実習Ⅰ(学内・見学実習含む)	通年(前)	服・美3	小谷 竜介	222
	博物館実習Ⅰ(学内・見学実習含む)	通年(後)	服・美3	三上 秀夫	223

家政学部共通教養科目

1. 家政学部共通教養科目

授業科目		化学 I				担当者		菅野 修一	
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	服・美1年
授業の概要 私たちの衣・食・住すべてに化学物質が関与しており、化学の知識なくしては衣食住の快適な生活はあり得ない。化学 I では、食事や代謝、健康や病気など、直接それらに結びつく化学の基礎を述べると共に、身の回りを化学の目で見える習慣が身につくよう、合わせて、最新の化学技術の発展を講義する。									
授業の目標(到達目標) 我々の生活のまわりにあるすべての「もの」は物質であり、それらの物質はごく小さな粒子である分子、原子でできており、化学の基本構造であることが理解できるようになる。また、身の回りを見渡すと空気や水など、また、燃焼や呼吸などは化学物質そのものの現象であったり、それらを利用していることが理解できるようになる。									
授業計画及び内容									
1. 化学の基礎									
2. 物質とは何か、物質を粒子としてみる									
3. 身の回りの物質、無機物と有機物									
4. 物質を特徴づけるもの、物質の性質、混合物と化合物の区別									
5. 物質の状態と温度、状態変化とエネルギー									
6. 多様な原子の結合、周期律表									
7. 化学結合と物質									
8. イオン結合									
9. 金属の結合と性質									
10. 身の回りの塩素化合物と環境									
11. プラスチックの構造と性質									
12. 水の性質、電子レンジの機能、ローソクの化学									
13. 鉄の酸化、さび、脱酸素材、懐炉									
14. 燃焼（酸化）と化学反応									
15. まとめ									
事前学習		教科書の指定ページの熟読。							
事後学習		小テストの準備。							
履修上の注意		欠席せず、予習・復習をしっかりと行うこと。							
成績評価の方法・基準		毎回行う小テスト 30%、課題レポート 30%、期末プレゼンテーション 40%を総合的に評価する。							
教科書		[教養としての化学入門] [Kimberley Waldron] [化学同人] [3,000 円]							
参考書		必要に応じて個別に紹介する。							

授業科目		化学 I				担当者	鈴木 裕行		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	前期	対象	健専 1 年
授業の概要 健康栄養学専攻で履修する栄養学・生化学・食品学分野の専門科目の理解には化学の基礎知識が不可欠である。各受講者の化学の理解度に合わせてごく基礎的な事項の復習から講義し、説明と問題演習を繰り返して基礎力の向上を図る。									
授業の目標(到達目標) 今後履修する栄養学・生化学・食品学分野の専門科目の理解に必要な十分な化学一般の基礎的な知識・考え方を身につけ、関連する練習問題を解答できるようになることを目標とする。									
授業計画及び内容									
1. 健康・栄養・食品と化学									
2. 物質を構成する粒子									
3. 元素の周期律と周期表									
4. 原子の構造									
5. イオンと分子									
6. イオン性化合物～化学式の書き方									
7. 物質質量：原子量・分子量・モルとは									
8. 物質質量：原子量・分子量・モルの計算									
9. 中間試験、原子価と電子式									
10. 化学反応と反応式のつくり方									
11. 化学反応式を用いた計算									
12. 化学結合と分子構造：共有結合・イオン結合・水素結合									
13. 化学結合と電気陰性度									
14. 酸と塩基									
15. 中和反応と塩									
16. 試験									
事前学習		各時間の授業範囲に該当する教科書の記述を熟読すること。							
事後学習		板書ノートを見直し、授業で取り扱った問題の解法をよく復習すること。							
履修上の注意		今後の専門科目学習の一番の基礎なので、理解不十分なところをそのままにしないこと。							
成績評価の方法・基準		中間試験：30%、期末試験：60%、平常点（提出物等）：10%							
教科書		〔ゼロからはじめる化学〕〔立屋敷哲〕〔丸善(株)出版事業部〕〔2,376 円〕							
参考書		無し							

授業科目		化学Ⅱ				担当者	菅野 修一		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服・美1年
授業の概要									
化学Ⅰで学んだ基礎をもとに、我々の生活を支える多くの化学物質、生命を支える食料としての物質、エネルギーに関する物質、さらに地球のこれまでの進化と環境に関連する大気や水や土壌に関連する化学について述べ、その反応と諸現象との関連を講義する。合わせて、暮らしを豊かにしてくれる化学について概観する。									
授業の目標(到達目標)									
自然の現象の中で我々が日常的に目にし、手に触れている事が化学反応に基づいている事を理解できるようになる。熱気球が大気中に上昇すること、カイロが暖まるわけ、脱酸素剤の原理、豆腐ができる現象、花の色が変化する現象、化学電池や燃料電池の原理などがすべて身近にある化学反応であることが理解できるようになる									
授業計画及び内容									
1. 気体の圧力と沸騰									
2. 蒸発と沸騰、気化熱									
3. 水に溶けるものと油に溶けるものの違い									
4. 過冷却、融解熱の実験									
5. 化学反応熱などの熱とエネルギー									
6. 塩析と生体の機能									
7. 酸と塩基、水素イオン濃度、酸塩基の強さ、中和反応									
8. 酸化数、身の回りの酸化剤、還元剤									
9. 角砂糖の燃焼と生体エネルギー									
10. 酸化と還元、活性酸素									
11. 電子の移動と電池、燃料電池など各種電池									
12. 太陽エネルギーと光合成									
13. 光、波と粒子としての性質、電波と光									
14. 物質の色、炎色反応									
15. 高分子化合物、酸素の性質									
事前学習		教科書の指定ページの熟読。							
事後学習		小テストの準備。							
履修上の注意		欠席せず、予習・復習をしっかり行うこと。							
成績評価の方法・基準		毎回行う小テスト 30%、課題レポート 30%、期末プレゼンテーション 40%を総合的に評価する。							
教科書	[教養としての化学入門] [Kimberley Waldron] [化学同人] [3,000 円]								
参考書	必要に応じて個別に紹介する。								

授業科目		化学Ⅱ				担当者	鈴木 裕行		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	前期	対象	健専1年
授業の概要									
健康栄養学専攻で履修する栄養学・生化学・食品学分野の専門科目の理解には化学の基礎知識が不可欠である。各受講者の化学の理解度に合わせてごく基礎的な事項の復習から講義し、説明と問題演習を繰り返して基礎力の向上を図る。									
授業の目標(到達目標)									
今後履修する栄養学・生化学・食品学分野の専門科目の理解に必要な十分な化学一般の基礎的な知識・考え方を身につけ、関連する練習問題を解答できるようになることを目標とする。									
授業計画及び内容									
1. 中和反応と濃度計算									
2. 水素イオン濃度とpH									
3. 酸化と還元									
4. 酸化数と酸化還元反応									
5. 酸化剤・還元剤									
6. 金属元素のイオン化列と電池									
7. 物質の三態、気体の性質、気体の法則									
8. 気体の状態方程式									
9. 中間試験、溶液の性質									
10. 浸透圧									
11. 化学反応と熱・熱化学方程式									
12. 熱量変化の計算									
13. 有機化合物の基礎：構造式の書き方									
14. 有機化合物の基礎：有機化合物の種類									
15. 有機化合物の基礎：有機化合物の反応									
16. 期末試験									
事前学習		各時間の授業範囲に該当する教科書の記述を熟読すること。							
事後学習		板書ノートを見直し、授業で取り扱った問題の解法をよく復習すること。							
履修上の注意		今後の専門科目学習の一番の基礎なので、理解不十分なところをそのままにしないこと。							
成績評価の方法・基準		中間試験：30%、期末試験：60%、平常点（提出物等）：10%							
教科書	〔ゼロからはじめる化学〕〔立屋敷哲〕〔丸善(株)出版事業部〕〔2,376円〕								
参考書	無し								

授業科目		有機化学 I				担当者名	菅野 修一		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服・美1年
授業の概要 有機化学の基礎として、各原子の電子配置から解説する。特に炭素原子の $sp \cdot sp^2 \cdot sp^3$ の各混成軌道をはじめとする電子軌道の形が、分子の形に直接影響することを認識させ、それをベースに様々な基本となる有機化合物を紹介する。									
授業の目標(到達目標) 主要な原子について理解し、それをベースとした主要な有機化合物の分子レベルでの理解すること。									
授業計画及び内容									
1. 日常生活における有機化学の重要性の認識について									
2. 元素の周期表、元素記号、必須元素、同族元素									
3. アルカリ金属、アルカリ土類金属、ハロゲン元素、希ガス									
4. 分子模型を用いての立体化学、炭素の結合手									
5. 原子番号と電子の配列、イオン結合の復習									
6. 原子の構造、同位体、放射性同位元素の生化学における利用									
7. 分子式、組成式、示性式、有機化合物の異性体									
8. 分子量、式量、構造式、炭素の正四面体構造									
9. 炭素の二重結合、三重結合、分かち書きの分子式									
10. 飽和炭化水素、アルカンの構造、アルカンの性質									
11. 不飽和炭化水素、共有結合（電子対結合）、電子対									
12. 非共有電子対、配合結合、金属結合、不対電子									
13. メタン分子、軌道電子の昇位、混成軌道、 δ 結合、 π 結合									
14. 直鎖の飽和炭化水素とその命名法、数詞、アルキル基									
15. 分岐炭化水素とその命名法、慣用名									
16. 試験									
事前学習		教科書の指定ページの熟読。							
事後学習		小テストの準備。							
履修上の注意		出席し、予習・復習をしっかり行うこと。							
成績評価の方法・基準		毎回行う小テスト 30%、レポート 30%、中間試験等 40%を基準として総合的に評価する。							
教科書		[有機化学基礎の基礎] [立屋敷哲] [丸善株式会社] [2,700 円]							
参考書		必要に応じて個別に紹介する。							

授業科目		有機化学 I				担当者	菅野 修一		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	後期	対象	健専1年
授業の概要 生命現象を分子レベルで理解するため、生体を構成している物質の分子構造、およびそれを組み立てている結合のしくみを知る事は必須である。化学 I・II で学んだことをもとに有機化学の基本概念を述べ、それらの分子の反応性を化学結合、とりわけ共有結合の電子の配置から説明し、それをもとに官能基の性質について講義する。									
授業の目標(到達目標) これまで学んできた化学反応の知識をもとに、生体構成物質の構造を理解し、その生体内での機能を化学物質の反応性、つまり電子の片寄り、移動で理解できるようになるための基礎が分るようにする。そのため、炭素化合物の共有結合、炭素の正四面体構造など、生体を構成する物質の基礎が理解できるようにする。									
授業計画及び内容									
1. 健康栄養学における有機化学の重要性の認識について									
2. 元素の周期表、元素記号、必須元素、同族元素									
3. アルカリ金属、アルカリ土類金属、ハロゲン元素、希ガス									
4. 分子模型を用いての立体化学、炭素の結合手									
5. 原子番号と電子の配列、イオン結合の復習									
6. 原子の構造、同位体、放射性同位元素の生化学における利用									
7. 分子式、組成式、示性式、有機化合物の異性体									
8. 分子量、式量、構造式、炭素の正四面体構造									
9. 炭素の二重結合、三重結合、分かち書きの分子式									
10. 飽和炭化水素、アルカンの構造、アルカンの性質									
11. 不飽和炭化水素、共有結合（電子対結合）、電子対									
12. 非共有電子対、配合結合、金属結合、不対電子									
13. メタン分子、軌道電子の昇位、混成軌道、 δ 結合、 π 結合									
14. 直鎖の飽和炭化水素とその命名法、数詞、アルキル基									
15. 分岐炭化水素とその命名法、慣用名									
16. 試験									
事前学習		教科書の指定ページの熟読。							
事後学習		小テストの準備。							
履修上の注意		出席し、予習・復習をしっかりと行うこと。							
成績評価の方法・基準		毎回行う小テスト 30%、レポート 30%、中間試験等 40%を基準として総合的に評価する。							
教科書		[有機化学基礎の基礎] [立屋敷哲] [丸善株式会社] [2,700 円]							
参考書		必要に応じて個別に紹介する。							

授業科目		有機化学Ⅱ				担当者名	菅野 修一		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	服・美2年
授業の概要									
有機化学の基礎として知っておく必要のある典型的な有機化合物を個別に解説していく。									
授業の目標(到達目標)									
衣食住の様々な分野で、有機化合物はなくてはならない化合物であることが理解できる。さらには、有機合成反応と化合物の構造の基礎的な関係がわかるようになる。									
授業計画及び内容									
1. 有機化合物の官能基、化合物の名称									
2. アルコール、エーテル、エステルの一般的性質									
3. アンモニア、アミン、アミノ酸の構造と性質									
4. ケトン、カルボン酸の構造と性質、その関連性									
5. アルデヒドの構造、還元性としての性質、アルコールとの関係									
6. 生体内のケトン体としての構造とその存在の意味付け									
7. 芳香族炭化水素、アロマの語源、ナフタリン									
8. アルカンの誘導体、ハロアルカン、トリハロメタン									
9. 共有結合の分極、フロンガスとオゾン層の破壊									
10. 求核的置換反応、脱離反応									
11. アミンの分類と性質、アンモニアの塩基性の意味									
12. 第二級アミンと亜硝酸からニトロソアミンの生成およびその意味									
13. アルコールの構造、多価アルコール、トリアシングリセロール									
14. 不飽和有機化合物の性質と反応性									
15. 共鳴と共鳴構造、酸の強弱との関係									
16. 試験									
事前学習		教科書の指定ページの熟読。							
事後学習		小テストの準備。							
履修上の注意		欠席せず、予習・復習をしっかりと行うこと。							
成績評価の方法・基準		毎回行う小テスト 30%、レポート 30%、中間試験等 40%を基準として総合的に評価する。							
教科書	[有機化学基礎の基礎] [立屋敷哲] [丸善株式会社] [2,700 円]								
参考書	必要に応じて個別に紹介する。								

授業科目		有機化学Ⅱ			担当者名		菅野 修一		
単位数	2	必・選	管栄 (必)	授業形式	講義	開講期	前期	対象	健2年
授業の概要 食事や代謝、健康や病気に関連する現象は体内のタンパク質・糖質・脂質などの化学変化によりもたらされる。生体構成物質の化学構造と有機化合物としての反応、その機能を説明し、遺伝情報物質である遺伝子の構造と機能についても述べ、あわせて、身近な天然有機化合物の構造と役割についても講義する。									
授業の目標(到達目標) 食事として摂取した物質が多くの化学変化を受けて我々の生体を構成する物質を合成し、エネルギーを生み出しているが、そのもとになる物質は主として有機化合物であることが理解でき、ビタミンや補酵素などはその有機化学反応がスムーズに進行する手助けをしていることなどが理解できる。									
授業計画及び内容									
1. 有機化合物の官能基、化合物の名称									
2. アルコール、エーテル、エステル的一般性									
3. アンモニア、アミン、アミノ酸の構造と性質									
4. ケトン、カルボン酸の構造と性質、その関連性									
5. アルデヒドの構造、還元性としての性質、アルコールとの関係									
6. 生体内のケトン体としての構造とその存在の意味付け									
7. 芳香族炭化水素、アロマの語源、ナフタリン									
8. アルカンの誘導体、ハロアルカン、トリハロメタン									
9. 共有結合の分極、フロンガスとオゾン層の破壊									
10. 求核的置換反応、脱離反応									
11. アミンの分類と性質、アンモニアの塩基性の意味									
12. 第二級アミンと亜硝酸からニトロソアミンの生成およびその意味									
13. アルコールの構造、多価アルコール、トリアシングリセロール									
14. 不飽和有機化合物の性質と反応性									
15. 共鳴と共鳴構造、酸の強弱との関係									
16. 試験									
事前学習		教科書の指定ページの熟読。							
事後学習		小テストの準備。							
履修上の注意		欠席せず、予習・復習をしっかりと行うこと。							
成績評価の方法・基準		毎回行う小テスト 30%、レポート 30%、中間試験等 40%を基準として総合的に評価する。							
教科書		[有機化学基礎の基礎] [立屋敷哲] [丸善株式会社] [2,700 円]							
参考書		必要に応じて個別に紹介する。							

授業科目		生物学 I			担当者		堀江 佐知子		
単位数	2	必・選	必(健) 選(服)・(美)	授業形式	講義	開講期	前期	対象	服・健・美1年
授業の概要									
本講義は、生き物の不思議さがなぜ進化したのか、その理由を探る講義である。生き物の不思議さは、長い進化の歴史を経て生まれた。そして、その不思議さが進化した背景には、きっと何らかの合理的な理由があると考えられる。本講義では、地球が誕生し、その地球上で生命が受け継がれてきた道筋を学ぶことで、生き物の不思議さが進化してきた理由を探る講義である。									
授業の目標(到達目標)									
今までと違う新たな視点で生き物の不思議さを見ることができるようになること。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス									
2. 地球と生命の誕生と進化									
3. 原始地球の誕生									
4. 魚の進化									
5. 植物の進化（植物の誕生）									
6. 植物の進化（裸子植物の進化）									
7. 植物の進化（被子植物の進化）									
8. 哺乳類の誕生									
9. 哺乳類の進化									
10. 鳥の進化									
11. 昆虫の進化（昆虫の誕生）									
12. 昆虫の進化（昆虫の情報戦略）									
13. 昆虫の進化（昆虫の共進化）									
14. 人類の進化									
15. 講義のまとめ									
16. 試験									
事前学習		生物に関する話題を新聞や書籍などから見つけておくこと。							
事後学習		講義では疑問や興味を持ったことは、自ら調べたり、質問をして理解に努めること。							
履修上の注意		特にテキストは使わず、プリントなどで進める。復習を行い、理解に努めること。							
成績評価の方法・基準		受講態度（50%）、レポートおよび期末試験（50%）により評価する。							
教科書		授業前にプリントを配布する							
参考書		授業前にプリントを配布する							

授業科目		生物学Ⅱ				担当者	堀江 佐知子			
単位数	2	必・選	必(健) 選(美)	授業形式	講義	開講期	後期	対象	健・美1年 服4年	
授業の概要										
生物学は生物や生命現象を学ぶ自然科学である。扱う対象は細胞内の分子のようなミクロレベルから生物圏の現象のようなマクロレベルまで幅広い。生物の一種として、ヒトの生物学的特徴の分子遺伝学や生理学、生態学などさまざまな視点から学んでいく講義である。										
授業の目標(到達目標)										
生物の一種として、ヒトの普遍性と特殊性を学び、我々ヒトの生物学的特徴の理解を通じて、生物学を多様な視点から捉え、「生物」や「環境」などを総合的に考えられるようになること。										
授業計画及び内容										
1. ガイダンス										
2. 生命誕生										
3. ヒトの設計図、遺伝子										
4. 骨・筋肉										
5. 肝臓										
6. 胃・腸										
7. 心臓・血管										
8. 免疫										
9. 脳と心 (知覚)										
10. 脳と心 (記憶)										
11. 脳と心 (こころの進化)										
12. 遺伝子 (日本人のルーツ)										
13. 遺伝子 (精神の設計図)										
14. 生物多様性と保全										
15. 講義のまとめ										
16. 試験										
事前学習		生物に関する話題を新聞や書籍などから見つけておくこと。								
事後学習		講義では疑問や興味を持ったことは、自ら調べたり、質問をして理解に努めること。								
履修上の注意		特にテキストは使わず、プリントなどで進める。復習を行い、理解に努めること。								
成績評価の方法・基準		受講態度 (50%)、レポートおよび期末試験 (50%) により評価する。								
教科書		授業前にプリントを配布する								
参考書		授業前にプリントを配布する								

授業科目		地球環境学Ⅰ				担当者	池田 展敏		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	服・美2年
授業の概要									
私たち人間を含む生物が生存できる環境は、どのように作られ、どのように守られているのか、自然科学的な立場から考察する。特に、生物の生存に有利な環境が生物自身によって生み出されたことを強調し、人はその環境を急速に破壊しうる能力を持つにいたったこと、それゆえ人には地球環境を維持する責務があることを説明する。									
授業の目標(到達目標)									
重力、電磁場、電磁波、放射線、元素、エネルギーなど、物理の基本的事項に慣れる。「地球の誕生」「生物の誕生」の謎について理解する。生物が地球環境に与える影響を理解する。環境問題を取り上げることができる。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス：地球環境学で何を学ぶのか。									
2. 太陽系形成の謎：太陽系の始まり、重力と惑星の形成、生物が生存できる範囲									
3. 地球の形成：初期の地球についてどこまでわかっているのか									
4. 地球の特徴：生物が生存できる環境とは？									
5. 地球の持つ環境維持システム(1)：太陽と磁気圏、電磁波、放射線									
6. 地球の持つ環境維持システム(2)：大気と海流、エネルギー収支									
7. 地球の持つ環境維持システム(3)：地球の自転、月の影響、宇宙船地球号									
8. なぜ、金星や火星は地球になれなかったのか。テラフォーミングの試み									
9. 生物と地球環境の相互作用(1)：生物誕生の謎、生物最初の 30 億年と環境への影響									
10. 生物と地球環境の相互作用(2)：多細胞生物の誕生・進化と環境への影響									
11. 生物と地球環境の相互作用(3)：生物の大絶滅に見る地球環境の変動									
12. 生物と地球環境の相互作用(4)：人間の登場と環境への影響									
13. 地球環境問題：地球温暖化の現状と取り組み、再生エネルギー、持続可能性社会									
14. 地球環境問題：さまざまな環境汚染									
15. 生物多様性の危機と環境への影響と小テスト									
事前学習		前回までのストーリーを、プリント・ノートを見て復習しておくこと。							
事後学習		プリント等の宿題を出すので取り組むこと。							
履修上の注意		教科書はないが、資料と自分自身のメモが教科書となる。資料の整理と、授業中の書き込みを怠らないこと。							
成績評価の方法・基準		提出物（60%）。小テスト(40%)。							
教科書	適時、資料を配布する。								
参考書	なし								

授業科目		地球環境学Ⅱ				担当者	池田 展敏		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服・美2年
授業の概要									
生物が生存できる環境に関して、太陽や地球など宇宙的な観点から考察した後、人間の活動が地球環境に与える影響について授業を行う。授業の後半は、人間の活動と環境への影響に焦点を当てる。アクティブラーニングによるチーム学習を通じて、地球環境問題とその解決に向けた取り組みについて、調査と発表を行うよう授業を行う。									
授業の目標(到達目標)									
地球や生物の時空間のスケールについて理解する。環境問題について具体的に説明することができる。環境問題の解決に向けた取り組みについて自ら調べ、発表・説明ができる。チーム学習において互いに協力できる。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス：地球環境学Ⅱで何を学ぶか。授業の概要と進め方									
2. 宇宙と生物の空間スケールとタイムスケール、地球の環境維持システム									
3. 地球環境と生物の相互作用									
4. 地球環境問題の概要：問題提起									
5. 地球温暖化への対応：調査									
6. 地球温暖化への対応：発表準備									
7. 地球温暖化への対応：発表									
8. 環境汚染にはどのようなものがあるか：調査									
9. 環境汚染にはどのようなものがあるか：発表準備									
10. 環境汚染にはどのようなものがあるか：発表									
11. 生物多様性の危機にはどんなものがあるか：調査									
12. 生物多様性の危機にはどんなものがあるか：発表準備									
13. 生物多様性の危機にはどんなものがあるか：発表									
14. 発表を受けて：環境問題への取り組みのまとめ									
15. 持続可能性社会の実現へ向けて私たちは何をすべきか。および、小テスト									
事前学習		地球環境学Ⅰの復習。発表のテーマについてインターネット等で調べる。							
事後学習		発表がスケジュール通りにできるよう調査・準備を行うこと。							
履修上の注意		地球環境学Ⅰを履修していなくても受講できるが、深い理解のためには履修していることが望ましい。発表準備に向けチームで協力してください。							
成績評価の方法・基準		調査と発表への取り組み方（60%）。小テスト（40%）。							
教科書	資料を適時配布する。								
参考書	なし								

授業科目		統計学			担当者		池田 展敏		
単位数	2	必・選	必(健) 選(服)・(美)	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服・健・美1年
授業の概要									
統計学で扱う基礎的な概念（平均、標準偏差、相関など）の理解と、統計的資料のまとめ方について理解を深める。次に、確率や確率分布（特に2項分布と正規分布）について学び、それが統計的な推測や検定などで、どのように応用されるのか講義する。									
授業の目標(到達目標)									
平均、標準偏差、相関係数、相関表などの意味と定義を理解し、計算ができるようになること。簡単な確率の問題が解けるようになること。2項分布や正規分布がどんな分布か理解し、数表の使い方、応用の仕方がわかるようになること。推定と検定の基本概念を理解すること。									
授業計画及び内容									
1. 序章：ガイダンス、統計学のイメージと概要（記述と推測）									
2. 1章：資料の整理（データと度数分布）									
3. 1章：資料の整理（ヒストグラム、データの代表値）									
4. 1章：資料の整理（散布度、偏差、分散、標準偏差、データの標準化）									
5. 1章：資料の整理（散布図、共分散、相関係数）									
6. 2章：確率（統計的確率と数学的確率、コイン投げ）									
7. 2章：確率（順列や組み合わせなどの場合の数と確率）									
8. 2章：確率（確率に関する演習）									
9. 2章：確率（確率変数、確率分布、離散型の場合の平均値の定義）									
10. 2章：確率（確率変数、連続型の場合の平均値の定義、分布表の使い方、%点）									
11. 3章：なぜ正規分布が必要か。2項分布									
12. 4章：平均値の区間推定（分散既知の場合とそうでない場合）									
13. 4章：区間推定の演習問題									
14. 5章：検定とはどんなものか									
15. 5章：検定の具体例									
16. 試験									
事前学習		授業は教科書に沿って行われるので、次回の授業範囲の予測は容易である。その内容を完全に理解する必要はないが、キーワード（各節の題に出てくる言葉など）は何なのかをおさえておくといよい。							
事後学習		授業は教科書に沿って行われるので、授業で進んだ分をよく読んで復習すること。授業内で配布する資料や練習問題等を解くこと。							
履修上の注意		電卓が必要になることがある。							
成績評価の方法・基準		期末テスト（50%）。レポート（50%）							
教科書	〔中学数学でわかる統計授業〕〔涌井良幸・他〕〔日本実業出版〕〔1,800円〕								
参考書	なし								

授業科目	数学					担当者	池田 展敏			
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	服・健・美1年	
授業の概要										
数学は自然科学だけでなく、文系の分野でも幅広く利用される道具としての意味もある。授業では、集合論、代数学、解析学、幾何学など数学の体系を説明しながら、中学・高校で教えられる基礎的数学との関連性を、演習問題を通じ学習するようにする。										
授業の目標(到達目標)										
数学の歴史や体系、現代における応用のされ方など、数学とはどんな学問なのかを理解し、数学に関する教養を修得すること。就職試験などで出題されるレベルの数学の問題に慣れ、実際にとけること。										
授業計画及び内容										
1. 集合と写像：集合の元の個数を比べるために集合から集合への写像を考える。										
2. 無限集合の元の個数を比べること。										
3. 集合に関する記法等の基礎事項。										
4. 数と数直線。整数、有理数、無理数、実数。										
5. 移動と回転で幾何学模様を分類する。										
6. 回転操作と演算表。群の定義。										
7. 2項演算と代数学。方程式が解けるために必要なこと。										
8. 一次方程式を作ったり解いたりする演習。										
9. 速さと時間、距離。グラフを書く練習。										
10. 微分の定義。										
11. 数列と簡単な関数（一次関数、2次関数）の演習										
12. 積分の意味。										
13. 図形の面積、立体の体積。										
14. いろいろな幾何学。同じ図形とは何なのか考える。ユークリッド幾何、射影幾何、トポロジー										
15. 順列と組み合わせの演習										
事前学習	宿題と合わせ、高校レベルの教科書や e-learning を活用し、高校以前の数学を復習しておくこと。									
事後学習	各回、進度分の資料はよく読んで復習してください。わからない点は積極的に質問してください。宿題で間違った箇所は、正解が導けるよう練習してください。									
履修上の注意	細かく課題を出すのでコツコツ勉強してほしい。プリントはファイルに閉じて毎回持ってくること。									
成績評価の方法・基準	テーマごとに出す宿題の提出（50%）。レポート（50%）。									
教科書	学習内容のプリントを配布する。									
参考書	なし									

授業科目		経済学				担当者		星 雅博	
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	服・美1年
授業の概要									
日本は経済大国となったが、まだまだ貧しい人々もいる。それはなぜであろうか。日本 はまた世界の中で最も早く高齢化が進んでいる国でもある。それは日本経済の将来にどの ような問題をもたらすのか。この講義では一国経済と国民の日常生活との関わりについて、 経済学の基礎知識をもとに解説する。									
授業の目標(到達目標)									
今、国内、国外の経済が多様化している中で、基礎の経済理論を学ぶことによって経済 を分析する「道具」を得ることにより、現実の経済社会を自分なりの「視点」で幅広く概 観し、理解する。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス（経済学とはなにか。）									
2. 社会の変容と経済理論の変遷、需要と供給									
3. 消費者の選択									
4. 消費需要の決定、企業の生産行動									
5. 損益分岐点と操業停止点、余剰、企業の集中									
6. 市場の失敗、国際経済									
7. 貿易に関する基礎理論、国際経済機構と地域経済連携									
8. E P AとO D A、国民所得の決定									
9. 乗数理論、景気									
10. 財政									
11. 金融									
12. 財政・金融政策									
13. 戦後の国際経済制度、終戦直後の日本経済、高度経済成長期									
14. バブルと日本経済									
15. まとめ									
16. 試験									
事 前 学 習		事前に配布するプリントの経済用語を調べてみる。							
事 後 学 習		講義で知った知識が現実の経済のどの場面のものか考えてみる。							
履修上の注意		常に、新聞（経済・社会）に目を通し、現実の社会動向を見てみる。							
成績評価の 方法・基準		試験（80%）、提出課題（10%）、事前、事後学習を含む授業姿勢（10%）							
教科書	適宜プリントを配布します。								
参考書	なし								

授業科目		経済学Ⅰ				担当者	星 雅博		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	健4年
授業の概要									
日本は経済大国となったが、まだまだ貧しい人々もいる。それはなぜであろうか。日本 はまた世界の中で最も早く高齢化が進んでいる国でもある。それは日本経済の将来にど のような問題をもたらすのか。この講義では一国経済と国民の日常生活との関わりについて、 経済学の基礎知識をもとに解説する。									
授業の目標(到達目標)									
今、国内、国外の経済が多様化している中で、基礎の経済理論を学ぶことによって経済 を分析する「道具」を得ることにより、現実の経済社会を自分なりの「視点」で幅広く概 観し、理解する。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス（経済学とはなにか。）									
2. 社会の変容と経済理論の変遷、需要と供給									
3. 消費者の選択									
4. 消費需要の決定、企業の生産行動									
5. 損益分岐点と操業停止点、余剰、企業の集中									
6. 市場の失敗、国際経済									
7. 貿易に関する基礎理論、国際経済機構と地域経済連携									
8. E P AとO D A、国民所得の決定									
9. 乗数理論、景気									
10. 財政									
11. 金融									
12. 財政・金融政策									
13. 戦後の国際経済制度、終戦直後の日本経済、高度経済成長期									
14. バブルと日本経済									
15. まとめ									
16. 試験									
事前学習		事前に配布するプリントの経済用語を調べてみる。							
事後学習		講義で知った知識が現実の経済のどの場面のものか考えてみる。							
履修上の注意		常に、新聞（経済・社会）に目を通し、現実の社会動向を見てみる。							
成績評価の 方法・基準		試験（80%）、提出課題（10%）、事前、事後学習を含む授業姿勢（10%）							
教科書	適宜プリントを配布します。								
参考書	なし								

授業科目		経済学Ⅱ				担当者	星 雅博		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服・健4年
授業の概要									
日本は経済大国となったが、まだまだ貧しい人々もいる。それはなぜであろうか。日本 はまた世界の中で最も早く高齢化が進んでいる国でもある。それは日本経済の将来にどの ような問題をもたらすのか。この講義では一国経済と国民の日常生活との関わりについて、 経済学の基礎知識をもとに解説する。									
授業の目標(到達目標)									
今、国内、国外の経済が多様化している中で、基礎の経済理論を学ぶことによって経済 を分析する「道具」を得ることにより、現実の経済社会を自分なりの「視点」で幅広く概 観し、理解する。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス（経済学とはなにか。）									
2. 社会の変容と経済理論の変遷、需要と供給									
3. 消費者の選択									
4. 消費需要の決定、企業の生産行動									
5. 損益分岐点と操業停止点、余剰、企業の集中									
6. 市場の失敗、国際経済									
7. 貿易に関する基礎理論、国際経済機構と地域経済連携									
8. E P AとO D A、国民所得の決定									
9. 乗数理論、景気									
10. 財政									
11. 金融									
12. 財政・金融政策									
13. 戦後の国際経済制度、終戦直後の日本経済、高度経済成長期									
14. バブルと日本経済									
15. まとめ									
16. 試験									
事 前 学 習		事前に配布するプリントの経済用語を調べてみる。							
事 後 学 習		講義で知った知識が現実の経済のどの場面のものか考えてみる。							
履修上の注意		常に、新聞（経済・社会）に目を通し、現実の社会動向を見てみる。							
成績評価の 方法・基準		試験（80%）、提出課題（10%）、事前、事後学習を含む授業姿勢（10%）							
教科書	適宜プリントを配布します。								
参考書	なし								

授業科目		社会学Ⅰ				担当者	庄司 一平		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	服・美1・健4年
授業の概要									
社会とは何か、個人とは何か、そして自分とは何かを考えるための様々なきっかけを提供する。社会学に関する基礎知識を習得するだけでなく、自己と現代社会を批判的に見つめる視角を自律的に獲得することを目指す。									
授業の目標(到達目標)									
私たちか「あたりまえ」と思っている常識や価値観の問題を社会学的に考える。家族・不安・つながりといった身近なトピックを検討しながら、社会学的に考えることの意義について理解する。									
授業計画及び内容									
1. イントロダクション：「社会」ということば									
2. 「社会」の誕生									
3. 社会学の見方（1）：自殺の社会学									
4. 社会学の見方（2）：資本主義の社会学									
5. 社会の「きまりごと」：知識社会学の考え方（1）									
6. 「きまりごと」と個人：知識社会学の考え方（2）									
7. アイデンティティ：自己と他者									
8. 家族の社会学（1）：家族の諸問題									
9. 家族の社会学（2）：日本の家族、アメリカの家族									
10. 不安の社会学(1)：不安と恐怖									
11. 不安の社会学(2)：社会不安の諸相									
12. つながりの社会学（1）：社会的ネットワーク論									
13. つながりの社会学（2）：ソーシャル・キャピタル論									
14. つながりの社会学（3）：日本とアメリカのソーシャル・キャピタル									
15. まとめ									
事前学習		各テーマのキーワードの意味を調べ、関連する時事問題の情報収集を行うこと。							
事後学習		配布資料を見直すこと。							
履修上の注意		社会学Ⅱとの通年履修が望ましい。							
成績評価の方法・基準		受講態度(ミニットペーパー)（30％）および期末レポート（70％）により総合的に評価する。							
教科書	プリントを配布する。								
参考書	授業中に適宜紹介する。								

授業科目		社会学Ⅱ				担当者	庄司 一平		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服・美1・健4年
授業の概要									
時間と人生について社会学的に考える。人の生と死に対する関心を高め、個人と社会という二つの視点から、自己の生と死、他者の生と死の問題を主体的に考える態度を身につける。									
授業の目標(到達目標)									
人間として避け得ない「死」という問題、そしてそれを踏まえた「生」という問題について社会学的に考える。民俗社会と現代社会における人の一生のあり方を見比べつつ、私たちの時間や人生をめぐる価値観を客観的に検討し、現代社会における生と死をめぐる諸問題について考える能力を身につける。									
授業計画及び内容									
1. イントロダクション：時間と人生									
2. さまざまな時間の考え方									
3. 時間を超えて									
4. 暦：一日と一年									
5. 年齢と人の一生									
6. 子供の社会学：誕生と成長									
7. 若者の社会学：一人前と結婚									
8. 老いの社会学（1）：老いとは何か									
9. 老いの社会学（2）：超高齢社会の諸問題									
10. 病気の社会学：病気と社会									
11. 医療の社会学：医療と社会									
12. 死の社会学（1）：死と社会									
13. 死の社会学（2）：死と文化									
14. 死生学の諸問題									
15. まとめ									
事前学習		各回のキーワードの意味を調べ、関連する時事問題の情報収集を行うこと。							
事後学習		配布資料を見直すこと。							
履修上の注意		社会学Ⅰとの通年履修が望ましい。							
成績評価の方法・基準		受講態度(ミニットペーパー) (30%) および期末レポート (70%) により総合的に評価する。							
教科書	プリントを配布する。								
参考書	授業中に適宜紹介する。								

授業科目		歴史Ⅰ				担当者	栗原 伸一郎		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	服・健・美1年
授業の概要									
日本の歴史を取り上げ、過去を知る材料(歴史資料)の性格やその利用方法など、歴史を考察する上での基礎を紹介する。その際、仙台・東北に関わる歴史資料や歴史上の人物に注目し、資料から読み取ることができる内容やその限界について考える。									
授業の目標(到達目標)									
① 歴史に親しみ、歴史資料の内容を理解する。									
② 歴史資料の生格を考え、歴史事象を知るための方法を理解する。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス～講義の概要～									
2. 歴史資料に親しむ①手紙									
3. 歴史資料に親しむ②記録									
4. 歴史資料に親しむ③地図・絵図									
5. 歴史資料に親しむ④公文書									
6. 歴史資料を読み解く①日記									
7. 歴史資料を読み解く②石碑									
8. 歴史資料を読み解く③新聞									
9. 歴史資料を読み解く④実物を見る									
10. 資料と人物①伊達正宗と伝記									
11. 資料と人物②伊達正宗と神社									
12. 資料と人物③伊達正宗と位									
13. 資料と人物④伊達正宗と祭									
14. 資料と人物⑤伊達正宗と現代									
15. 補論と総括～歴史資料を考える～									
16. 試験									
事前学習		各自、関心がある歴史に関する書籍に目を通しておくこと。							
事後学習		配布した資料を再読し、講義で紹介した参考書を読むこと。							
履修上の注意		博物館の展示見学を予定している。歴史Ⅱを受講する場合は、この講義を受講することが望ましい。地域文化論は、この講義を理解する上で参考になる。なお、講義の進展にろっては、内容を一部変更する場合である。							
成績評価の方法・基準		平常点（授業への参加状況、毎回記入するコメントペーパーの内容）30％ 小レポート 20％ 定期試験（論述形式、課題は事前に公表する）50％							
教科書	授業前にプリントを配布する。								
参考書	講義中に紹介する。								

授業科目		歴史Ⅱ				担当者	栗原 伸一郎		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服・健・美1年
授業の概要									
日本における変革期である幕末維新期に注目して、それが明治時代から現代までどのように認識され、語られえきたのかを考える。その際、地域の視点でも歴史を捉えることで、多様な歴史像について検討する。									
授業の目標(到達目標)									
① 歴史事象は多様な解釈ができることを理解する。 ② 歴史観が形成される過程や背景を理解する。 ③ 歴史事象を多角的に捉え、考える能力を身につける。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス～講義の内容～									
2. 幕末維新のイメージ①教科書									
3. 幕末維新のイメージ②メディア									
4. 歴史観の形成①明治時代									
5. 歴史観の形成②昭和戦前戦後									
6. 歴史観の形成③各地域の履歴書									
7. 幕末維新の人物①井伊直弼									
8. 幕末維新の人物②新撰組									
9. 幕末維新の人物③坂本龍馬									
10. 幕末維新の人物④玉虫左太夫									
11. 東北地方と幕末維新①幕末の政争									
12. 東北地方と幕末維新②戊辰戦争									
13. 東北地方と幕末維新③奥州越列藩同盟									
14. 東北地方と幕末維新④東日本と西日本									
15. 補論と総括～さまざまな歴史像									
16. 試験									
事前学習		高校で日本史を学んでいる場合は、教科書を再読しておくこと。また、幕末維新期に関する書籍等に目を通しておくことが望ましい。							
事後学習		配布した資料を再読し、講義で紹介した参考書を読むこと。							
履修上の注意		受講する場合は、歴史Ⅰを受講することが望ましい。また、地域文化論は、この講義を理解する上で参考になる。なお、講義の進展によっては、内容を一部変更する場合がある。							
成績評価の方法・基準		平常点（授業への参加状況、毎回記入するコメントペーパーの内容）30% 定期試験（論述形式で、課題は事前に公表する）70%							
教科書	授業前にプリントを配布する。								
参考書	講義中に紹介する。								

授業科目		日本国憲法				担当者	横田 尚昌		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	前期	対象	服・健・美1年
授業の概要									
憲法という言葉は、よく耳にするけれども、いったい何だろう？という問いに答えられるように講義します。そこでは、憲法の各条文が定めていることの要点・枠組みを、生活の中で起こり得る事例を掲げながら解説していきます。									
授業の目標(到達目標)									
「一人ひとりの人間を個人として尊重する」という憲法の基本理念の意味が理解できる。									
授業計画及び内容									
1. 憲法とは何か									
2. 国民主権と象徴天皇制そして平和主義									
3. 選挙制度と政党									
4. 国会のしくみ									
5. 内閣の役割									
6. 裁判所の機能									
7. 地方自治とは何か									
8. 人権とは何か									
9. 人権の分類と適用範囲									
10. 幸福追求権、法の下での平等									
11. 内心の自由（思想及び良心の自由、信教の自由、政教分離原則）									
12. 表現の自由									
13. 経済的自由権									
14. 社会権									
15. 参政権、国務請求権									
16. 試験									
事前学習		新聞で憲法に関わる記事に触れたら、これを熟読し論点を整理しておく。							
事後学習		基本的な用語の定義や概念を、説明できるようにする。							
履修上の注意		今どのようなことが我が国で問題になっているのかを把握しておくこと。							
成績評価の方法・基準		定期試験（1回）70％、不定期に実施するレポート（3回）30％							
教科書	とくに教科書は指定せず、少し詳しいレジュメを配布して授業を行います。								
参考書	〔いちばんやさしい憲法入門 第4版補訂版〕〔初宿正典ほか〕〔有斐閣〕〔1,728円〕								

授業科目		法学概説				担当者	横田 尚昌		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服・健・美1年
授業の概要									
身近な法律問題について、まず説例を掲げて、そこで当事者は何に困っているのか、何を怒っているのか等を明らかにし、いかに法規を解釈適用して解決するのかを考えます。									
授業の目標(到達目標)									
一見不合理と思える法律の解釈適用であっても、それにはそれなりの理由があることがわかったと言うことができる。様々な法解釈それぞれに、合理性があることが理解できる。									
授業計画及び内容									
1. みんなの法とわたしの法？									
2. どうして約束は守らないといけないの？									
3. 電車が遅れても切符の料金は戻ってこないの？									
4. どうして事故を起こしたら責任を負わされるの？									
5. 子供のしつけと虐待はどこが違うの？									
6. 校長先生の決定には従わないといけないの？									
7. 漫画やアニメを規制してもいいの？									
8. どうして悪いことをした人にも権利があるの？									
9. ギャンブルってやっちゃいけないの？									
10. 仕事ができないとクビにされるの？									
11. 手でつかめないものにも権利があるの？									
12. 敵対的企業買収って何？									
13. 保険とギャンブルって違うの？									
14. 自動車保険について									
15. 傷害疾病保険について									
16. 試験									
事前学習		各回ごとに、そのテーマに即して、身近な法律問題を探して考えてみる。							
事後学習		法規の適用・不適用の在り方について、その基本的な考え方を定着させる。							
履修上の注意		毎回学んだ法律概念や用語を忘れないように覚えこむこと。そして、そのことをベースに、日々の生活の中で触れる法律問題に関心を寄せること。							
成績評価の方法・基準		定期試験（1回）70％、不定期に実施するレポート（3回）30％							
教科書	〔カリンと学ぶ法学入門〕〔林誠司編〕〔法律文化社、2015年〕〔2,376円〕								
参考書	特になし。								

授業科目		哲学Ⅰ				担当者	徳田 幸雄		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	服・健・美1年
授業の概要									
人は何のために生き、死んだらどうなるのか？本講義では、この死生観に関わる問いを軸として、古代ギリシャ哲学における諸議論を解説する。									
授業の目標(到達目標)									
「生きる目的とは？」「死とは？」「愛とは？」「幸福とは？」といった諸問題を、ギリシャ哲学を通して考えることによって、自身の生き方を見直すための知識を習得する。									
授業計画及び内容									
1. オリエンテーション									
2. 古代ギリシャの時代背景－アテネとスパルター									
3. ソクラテス①『ソクラテスの弁明』より									
4. ソクラテス②『クリトン』より									
5. ソクラテス③『パイドン』より									
6. プラトン① プラトンの生涯									
7. プラトン② イデア論									
8. プラトン③ 想起説									
9. プラトン④ 愛と美について									
10. プラトン⑤ 徳と善について									
11. アリストテレス① アリストテレスの生涯									
12. アリストテレス② 三原理と四原因説									
13. アリストテレス③ 自然観、神観									
14. アリストテレス④ 霊魂観、倫理観									
15. まとめ									
16. 試験									
事前学習		プラトンあるいはアリストテレスの著作を少なくとも一冊は読んでおくこと。							
事後学習		配布資料を整理しておくこと。							
履修上の注意		私語を慎み、遅刻をしないこと。							
成績評価の方法・基準		授業時に課す小課題（50%）、テスト（50%）							
教科書	授業前にプリントを配布する								
参考書	なし								

授業科目		哲学Ⅱ				担当者	徳田 幸雄		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服・健・美1年
授業の概要									
「人間とは何か？」この問いは、20 世紀になって改めて問い直されるようになった根本的な問いである。本授業では、この問いを哲学史をはじめ様々な観点から検討する。									
授業の目標(到達目標)									
哲学や思想の歴史を、「人間とは何か？」という問いを軸に学ぶことによってより深く、かつより広い人間理解を身につける。それとともに、この時代、今の自分に求められる人間理解も合わせて習得する。									
授業計画及び内容									
1. オリエンテーション									
2. ヘレニズムの人間理解									
3. ヘブライズム（ユダヤ教）の人間理解									
4. キリスト教の人間理解									
5. イスラームの人間理解									
6. 仏教の人間理解									
7. 合理論の人間理解 ーデカルトー									
8. 経験論の人間理解 ーロックとヒュームー									
9. 心理学の人間理解 ー精神分析学を手がかりにー									
10. 〃 ー交流分析を手がかりにー									
11. 〃 ーライフサイクル理論を手がかりとしてー									
12. 宗教学の人間理解 ーエリアーデの近代批判ー									
13. 脳死・臓器移植の問題について									
14. 人口妊娠中絶の問題について									
15. まとめ									
事前学習		授業予定のテーマ、もしくは思想家・哲学者に関する著作を少なくとも一冊は読んでおくこと。							
事後学習		配布資料を整理しておくこと。							
履修上の注意		私語を慎み、遅刻をしないこと。							
成績評価の方法・基準		授業時に課す小課題（50%）、レポート（50%）							
教科書	授業前にプリントを配布する								
参考書	なし								

授業科目	心理学Ⅰ					担当者	植松 公威		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	服・健・美１年
授業の概要									
心理学では条件操作的な実験によって仮説の検証を行い、心のメカニズムを明らかにしようとしている。講義の前半では心理学における条件操作的な実験の意義について述べる。後半では現代の心理学の背景として行動主義心理学や社会的学習理論、精神分析学などを取り上げ説明する。また、記憶の実験を通して記憶のメカニズムを考える。									
授業の目標(到達目標)									
1「条件操作的な実験による仮説検証」がこころの理解にとって不可欠であることを説明できるようにする。									
2 行動主義心理学、社会的学習理論、精神分析の各理論の人物名とキーワードを理解する。									
3 自我防衛のメカニズムの具体例から種類の名称を答えられるようになる。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス（教授内容と教育目標）									
2. 心理学における条件操作的な実験の重要性について－「利口な馬ハンス」の話などを通して－									
3. 心理学の目標と研究のプロセス									
4. 心理学実験の一例－説得における「一面（片面）提示」と「二面（両面）提示」の効果－									
5. 実験心理学の始まり									
6. 現代の心理学の背景① 行動主義心理学（ワトソンの理論）									
7. 現代の心理学の背景② 行動主義心理学（スキナーの理論）									
8. スモールステップの事例									
9. 現代の心理学の背景③ 社会的学習理論（バンデュラの理論）									
10. 現代の心理学の背景④ 精神分析（フロイトの理論）									
11. 抑圧による心身への影響									
12. 精神分析における自我防衛のメカニズム									
13. 記憶の実験 ー系列位置曲線と系列位置効果ー									
14. 記憶のしくみ ー感覚的記憶・短期記憶・長期記憶ー									
15. エビングハウスの忘却曲線									
16. 学期末試験									
事前学習	シラバスをよく読み、キーワードの意味を事前に調べ、疑問をあらかじめ明らかにしておくことよい。								
事後学習	作成したノート、配られたプリントをもう一度見直し、わかったところ、わからないところを明らかにしておく。ノートは後で見てわかるように補足のコメントなどを加筆しておくことよい。								
履修上の注意	私毎回コメントペーパーに感想などを書いて提出すること。								
成績評価の方法・基準	試験の成績 90%、受講態度 10%								
教科書	授業の中でプリントを配布する								
参考書	授業の中で適宜、紹介する								

授業科目		心理学Ⅱ				担当者	植松 公威		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服・健・美1年
授業の概要									
性格検査の種類について実習をとりいれながら講義する。また、性格を表現し記述する方法、他者の性格を推測するときに注意すべきことを解説する。認知療法や交流分析といった心理療法についても実習形式で学べるようにする。講義を通して心理学には性格に関する様々な理論や方法があることを学ぶ。									
授業の目標(到達目標)									
1 質問紙法、作業検査表、投影法それぞれの長所と短所を理解する。 2 認知療法による「7つのコラム法」が気分の改善に効果があるのはなぜか、考察ができるようになる。 3 交流分析における「エゴグラム」を作成し、その意味について理解し、自己の性格の改善に向けて動機づけを高める。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス（教授内容と教育目標）									
2. 質問紙法の性格検査（YG 性格検査）の実施方法と判定方法									
3. 質問紙法の性格検査（YG 性格検査）の判定方法と長所・短所									
4. 質問紙法の性格検査の問題点－質問項目における具体的状況の欠如と行動の一貫性について－									
5. 作業検査法（内田クレペリン精神検査）の実施方法									
6. 作業検査法（内田クレペリン精神検査）の判定方法と長所・短所									
7. 投影法の種類と長所・短所									
8. 他者の性格を推論するときに注意すべきこと－認知のゆがみなど－									
9. 認知療法の基本的な考え方									
10. 認知療法（7つのコラム法）の作成方法についての解説									
11. 交流分析における基本的な考え方とエゴグラムの作成									
12. 交流分析におけるエゴグラムの理解とストロークの種類									
13. 交流分析における幼児決断と人生脚本									
14. 性格の分類、記述方法－類型論、特性論の違いについて－									
15. まとめの講義									
16. 学期末試験									
事前学習		シラバスをよく読み、キーワードの意味やテーマについて事前に調べ、疑問をあらかじめ明らかにしておくことよい。							
事後学習		作成したノート、配られたプリントをもう一度見直し、わかったところ、わからなかったところを明らかにしておく。ノートは後で見えてわかるように補足のコメントなど加筆しておくことよい。							
履修上の注意		毎回コメントペーパーに感想などを書いて提出すること。							
成績評価の方法・基準		試験の成績 90%、受講態度 10%							
教科書	授業の前に配布する								
参考書	講義の中で適宜、紹介する								

授業科目		美術				担当者	北折 整		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服・美1年
授業の概要									
広範な美術作品(含む大衆美術)の鑑賞や、それに付随する簡単な演習を行い、美術の基礎的な考え方や、表現として扱う内容および問題などを平易に教授する。									
授業の目標(到達目標)									
美術を生活文化の重要な構成要素として自覚し、日常目にするありふれたものや事柄に対して、美術的視座を獲得すると共に、新たな価値観の構築を可能にすること。また、基礎的な美術表現の知識や方法論を得ること。									
授業計画及び内容									
1. 導入：科目の説明、授業の方針など									
2. 「扉」：出入り口をテーマに扱った美術									
3. 「壁」：壁を意識した美術									
4. 「西瓜割」：視覚化に関わる美術表現									
5. 「ジプシーの荷物」：〃									
6. 「詰め込む」：日常の作業感覚を取り入れた美術									
7. 「蛇口から出るもの」：〃									
8. 「つなぐ」：〃									
9. 「夢の世界」：深層心理を顕在化した美術									
10. 「ダヴィデ」：環境との関係によって創出される物の意味									
11. 「動物を描く」：個人的キャラクターの創造									
12. 「空」：空の表現に見る美術史									
13. 「リレー絵本」：コラボレーション制作における誤解と可能性									
14. 「リレー絵本」：〃									
15. 総括：授業のまとめ									
事前学習		毎時、次回授業についての簡単な説明を行い、その内容についてなすべき事前学習を指示する。							
事後学習		各回で扱った美術の諸要素に関連する作品及び事柄について各自考察しまとめを行う。							
履修上の注意		主に西洋美術史や美術鑑賞に関連する科目を履修し、本授業で得た知見と関連付けて美術全般をとらえていくことが望ましい。							
成績評価の方法・基準		各回の課題(創意、表現力等)70%平常点(授業態度、取り組みの姿勢等)30%							
教科書	授業時にプリント配布								
参考書	特になし								

授業科目	美術史 I					担当者	瀬戸 典彦		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	服・美1年
授業の概要 ウエルンドルフのビーナスから近代に至る過程について説明し、社会的背景及び作品間の関連性に関する示唆を提供する。(パワーポイント使用)									
授業の目標(到達目標) ・19世紀までの西洋美術史の脈絡について説明できる。 ・作品とその作品がつくられた社会的背景の関係について説明できる。									
授業画及び内容									
1. 美術史における個人の役割について									
2. メソポタミア文明以前の美術									
3. エジプト文明の美術									
4. ギリシャ文明化～ヘレニズム時代の美術									
5. 初期キリスト教美術									
6. ビザンティン美術									
7. 初期中世美術									
8. 中間テスト									
9. ロマネスク・ゴシックの美術									
10. ルネッサンス									
11. ルネッサンスとベネチア派									
12. マニエリスム～北方ルネッサンス									
13. バロック・ロココ									
14. 新古典主義・ロマン主義・写実主義の美術									
15. 象徴主義の美術									
16. 試験									
事前学習		配布資料を確認する。							
事後学習		クイズで答えられなかった問題について調査する。							
履修上の注意		毎回、クイズを行います。中間テスト、期末試験を行います。							
成績評価の方法・基準		中間テスト:20% 期末試験:70%、クイズ提出:10% 期末試験では資料の参照を認めます。但し、その場合は、満点を90点とします。(参照なしで提出されたものについては、満点を110点とします)							
教科書		〔つくる美術史のテキスト〕〔瀬戸典彦〕〔自費出版〕〔無料〕							
参考書		〔美術史脳を刺激する曖昧な絵-クイズ集〕〔瀬戸典彦〕〔自費出版〕〔無料〕 〔美術史脳を刺激する曖昧な絵-解答・解説〕〔瀬戸典彦〕〔自費出版〕〔無料〕							

授業科目		美術史Ⅱ				担当者	瀬戸 典彦		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服・美1年
授業の概要									
縄文土器から浮世絵に至る過程について、個々の作品とその社会背景、さらには作品間の関係性にふれつつ、理解を促す。(パワーポイント使用)									
授業の目標(到達目標)									
・日本美術史の流れについて説明できる。									
・作品とその作品がつくられた社会的背景の関係について説明できる。									
授業計画及び内容									
1. オリエンテーション									
2. 縄文時代									
3. 弥生時代・古墳時代の美術									
4. 仏教、仏像について									
5. 飛鳥時代の美術									
6. 奈良(白鳳)時代の美術									
7. 奈良(天平)時代の美術1(塑像等)									
8. 中間テスト									
9. 奈良(天平)時代の美術2(乾漆像等)									
10. 奈良(天平)時代の美術3(平面)									
11. 平安時代の美術1(密教美術)									
12. 平安時代の美術2(立体)									
13. 平安時代の美術3(平面)									
14. 鎌倉時代・南北朝時代・室町時代の美術									
15. 桃山・江戸時代以降の美術									
16. 試験									
事前学習		配布資料を確認する。							
事後学習		クイズで答えられなかった問題について調査する。							
履修上の注意		毎回、クイズを行います。中間テスト、期末試験を行います。							
成績評価の方法・基準		中間テスト:20% 期末試験:70%、クイズ提出:10% 期末試験では資料の参照を認めます。但し、その場合は、満点を90点とします。(参照なしで提出されたものについては、満点を110点とします)							
教科書	その都度、資料を配布する。								
参考書	その都度、参考資料を配布する。								

授業科目		生活文化論				担当者	大山 芳宏		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	服・美1年
授業の概要									
生活文化について、「衣」「食」「住」に焦点をあて、文献資料、スライド資料、DVD 資料等をとおして具体的に理解させるとともに、歴史的背景や社会的背景を踏まえ体系的に学ばせる。 双方向の授業や記述課題をとおして生活文化の諸相についての考察や感想を述べさせ、主体的な学びが身につくようにする。									
授業の目標(到達目標)									
世界の諸地域における生活文化との比較をとおして、日本の生活文化の特質を「衣」「食」「住」を中心に理解できる。また、生活文化の背景にある気候や風土、歴史的・社会的な変遷、先人の思考や感性及び技能をとおして創造され、人々の努力によって維持・保存されてきたことなどを理解し、今後の生活文化の動向や課題について考察できるようになる。									
授業計画及び内容									
1. 生活文化とは何か									
2. 風土と世界の住居									
3. 衣服と世界の民族服									
4. 食生活と世界の食文化									
5. 日本の生活文化の背景(1) 縄文時代～弥生時代									
6. 日本の生活文化の背景(2) 古墳時代～奈良時代									
7. 日本の生活文化の背景(3) 平安時代～鎌倉時代									
8. 日本の生活文化の背景(4) 室町時代～安土・桃山時代									
9. 日本の生活文化の背景(5) 江戸時代									
10. 日本の生活文化の背景(6) 洋風化のもととなるヨーロッパの生活文化									
11. 日本の生活文化の背景(7) 明治時代									
12. 日本の生活文化の背景(8) 大正時代～昭和時代									
13. 現代日本の生活文化の背景(1) 戦後の生活の変化と大衆変化									
14. 現代日本の生活文化の背景(2) 生活の多様化とライフスタイルの変化									
15. 現代日本の生活文化の背景(3) 今後の生活文化の動向と課題									
16. 試験									
事前学習		世界や日本の生活文化について興味・関心を持ち、文献等で調べる。							
事後学習		課題について考察し、自分の考えや感想をまとめ提出する。							
履修上の注意		毎回の課題が成績評価に大きく影響するので、欠席をしないように。							
成績評価の方法・基準		毎回の課題（60点）と試験（40点）による総合評価（100点）							
教科書	毎回レジュメプリントを配布する								
参考書	必要に応じ資料プリント配布する								

授業科目		英語 I			担当者	佐藤 恵			
単位数	2	必・選	必(服・健) 選(美)	授業形式	講義	開講期	前期	対象	服・健・美1年
授業の概要									
イギリスの伝統と文化を扱ったテキストを用い、その歴史的・文化的背景を学習することによって、異文化理解と英語力の向上を図る。英語 I では食文化を中心に上げる。									
授業の目標(到達目標)									
英語でコミュニケーションを行うための基礎的な技能と語彙を身につけながら、異文化理解を深めることができる。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス									
2. The Worst Food in the World? (the British Attitude to Food)									
3. " (the Foreign Influence)									
4. " (Exercises)									
5. “Time, Please!” (the Public House)									
6. " (Pub Grub, Games)									
7. " (Exercises)									
8. Review 1									
9. Four into One (Three Countries from Great Britain)									
10. " (Northern Ireland)									
11. " (Exercises)									
12. Tea—the National Drink (Green Tea, Black Tea)									
13. " (Afternoon Tea, High Tea)									
14. " (Exercises)									
15. Review 2									
16. 試験									
事前学習		わからない語を辞書でひいてノートを作りながら、予め自分なりに解いてくこと。							
事後学習		学習内容を振り返り、特に事前にわからなかった箇所や間違えた問題を中心に復習を行うこと。							
履修上の注意		予習した上で、必ず辞書を持参して授業に臨むこと。							
成績評価の方法・基準		平常点 40%（授業への参加状況および毎時の小テストで総合的に判断する）、学期末試験 60%							
教科書		〔A Background of British Culture〕〔石黒昭博 他〕〔英宝社〕〔1,400 円〕							
参考書		なし							

授業科目		英語Ⅱ			担当者	佐藤 恵			
単位数	2	必・選	必（健） 選（服・美）	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服・健・美1年
授業の概要									
イギリスの伝統と文化を扱ったテキストを用い、その歴史的・文化的背景を学習することによって、異文化理解と英語力の向上を図る。英語Ⅱでは住文化と歳時記を中心に取り上げる。									
授業の目標(到達目標)									
英語でコミュニケーションを行うための基礎的な技能と語彙を身につけながら、異文化理解を深めることができる。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス									
2. Stately Homes (Architecture)									
3. " (The National Trust)									
4. " (Exercises)									
5. Bath, Britain's Only Hot Spring (Roman Bath)									
6. " (Bath Bun, Sally Lunn)									
7. " (Exercises)									
8. Review 1									
9. "Penny for the Guy" (Guy Fawkes Night)									
10. " (Gunpowder Plot)									
11. " (Exercises)									
12. British Xmas (Twelve Days of Christmas)									
13. " (Christmas Feast)									
14. " (Exercises)									
15. Review 2									
16. 試験									
事前学習		わからない語を辞書でひいてノートを作りながら、予め自分なりに解いてくこと。							
事後学習		学習内容を振り返り、特に事前にわからなかった箇所や間違えた問題を中心に復習を行うこと。							
履修上の注意		予習した上で、必ず辞書を持参して授業に臨むこと。							
成績評価の方法・基準		平常点（平常点は、授業への参加状況および毎時の小テストで総合的に判断する）40%、学期末試験 60%							
教科書	〔A Background of British Culture〕〔石黒昭博 他〕〔英宝社〕〔1,400 円〕								
参考書	なし								

授業科目		英会話 I			担当者		上之原 博子		
単位数	1	必・選	必(服・健) 選(美)	授業形式	演習	開講期	前期	対象	服・健・美1年
授業の概要 テキストを用い、やさしい英語での会話を学ばせる。また、グループワークとして英和文を作りながら、実際に会話文を作る演習を行い様々な英語活動を通して学生が向上していけるよう指導する。									
授業の目標(到達目標) 1.自分自身に関する事柄について説明できる。 2.他者に対して、いくつかの方法で質問できる。 3.日常生活レベルの基礎的な会話ができる。 4.基本表現を使用できる。									
授業計画及び内容 1. ガイダンス 自分の好きな事を話す。(不定詞と動名詞) 2. 定期的にすることや、行動の様子を質問したり答えたりする。(頻度の副詞) 3. これからの予定について、短いやり取りができる。(going to～) 4. これからの予定について、詳しいやり取りができる。(be + ～ing) 5. 情報を求められたり、相談を受けた時、適切な表現をもちいて伝える。(will) 6. 様々な表現を使い、友人を誘う。(提案の基本形) 7. 様々な表現で、友人にアドバイスをする。(アドバイスの基本形) 8. 適切な表現を使って、忠告や規則を伝えることができる。(許可の基本形) 9. 普段する事や過去にした事について、簡単な質問や答えることができる。(was/were) 10. 童話を英語で楽しむ。(過去形1) 11. 過去の出来事を話す事ができる。(過去形2) 12. 日常生活で起きた事と、行動の様子を描写できる。(過去形3) 13. 自分の経歴や興味があった事を説明できる。(used to) 14. 自分に直接関わる活動や、毎日の生活に関連する事を説明できる (過去進行形) 15. 物事を複数の観点から検討し、理由や考えを表現できる (形容詞 ed と～ing) 16. 試験 事前学習 予習は必要ないが、課題は必ず行うこと。 事後学習 学習内容を振り返り、本文の音読をすること。 履修上の注意 積極的に授業に参加すること。 成績評価の方法・基準 授業態度 30% 毎日の課題 30% 学期末の試験 40%(筆記テストは行わない。) 教科書 [PEGASUS][Steven Mitchell] [CHEERS] [2,500 円] 参考書 特になし									

授業科目	英会話Ⅱ				担当者	上之原 博子			
単位数	1	必・選	選	授業形式	演習	開講期	後期	対象	服・健・美1年
授業の概要 テキストとプリントを用い、会話の続け方、発展のさせ方を学ばせる。また、自分の意見の述べ方も指導する。									
授業の目標(到達目標) 前期で学んだ事を、日常生活のあらゆる場面で実際に使える様になることを目標とする。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス。自分の好きな事を伝える。									
2. 高校生活や大学生活について話す。日本事象の説明1.“花見”を説明しよう									
3. 週末の予定について友達と話す。友人のイベントに誘う。									
4. 大学祭の準備の手順について話し合う。外国の文化を学ぶ1 ハロウィンについて									
5. 大学や店、レストランなどで、自分の望みや意見を伝え丁寧に説明する。									
6. 疑問文を作る練習をし、様々な状況を設定し使ってみる。									
7. 自分の大学や生活する場所、行きたい場所などについて、簡単な説明の練習。 There is a～. There are～.									
8.好きな事について友達と情報交換する。外国の文化を学ぶ2 Christmasについて									
9. 団体旅行と個人旅行の選択について意見をのべあう。									
10. 自分のホームタウンを紹介する。									
11. 留学生を招くイベントでやりたい事について話す。日本事象の説明3 お正月を説明しよう									
12. 料理やレシピについて話す。日本事象の説明4 お節料理を説明しよう									
13. 自分自身のことについてはなす。									
14. 自分が直接関わる活動や将来の抱負などについて、簡単に説明ができる。									
15. 学期を振り返り、したことやできるようになった事について、話し合う。									
16. 試験									
事前学習	予習は必要ないが、課題は必ず行うこと。								
事後学習	学習内容を振り返り、音読すること。								
履修上の注意	積極的に授業に参加すること。								
成績評価の方法・基準	授業態度 30% 毎日の課題暗記 30% 学期末の試験 40%(筆記テストは行わない。)								
教科書	授業前にプリントを配布します。								
参考書	特になし								

授業科目		仏語 I				担当者	村山 茂		
単位数	1	必・選	選	授業形式	演習	開講期	前期	対象	服・健・美1年
授業の概要									
発音の基礎から始め、簡単なあいさつや自己紹介はもちろん、初級文法に則った読み、書き、聞き、話す能力が身につくよう指導する。さらにフランスにまつわる様々な情報を盛り込み、多方面からのフランス語理解に努める。受講生全体のレベルに合わせて進行する。									
授業の目標(到達目標)									
初級フランス語入門レベルの修得を目標とし、あわせて、ヨーロッパの中心的存在であるフランスの文化にも触れ、国際的視野を身につける。									
授業計画及び内容									
1. 授業方針。アルファベ。									
2. アルファベ復習。発音の規則 1。									
3. 発音の規則 2。									
4. 発音の規則小テスト。フランスについて。数字 1。									
5. 数字 2。簡単なあいさつの表現。									
6. パリに着いた！（空港）1. 解説と会話文。									
7. パリに着いた！（空港）2. 文法。									
8. パリに着いた！（空港）3. 練習問題。									
9. ホテルにて（フロント）1. 解説と会話文。									
10. ホテルにて（フロント）2. 文法。									
11. ホテルにて（フロント）3. 練習問題。									
12. アロー，アロー（郵便，電話）1. 解説と会話文。									
13. アロー，アロー（郵便，電話）2. 文法。									
14. アロー，アロー（郵便，電話）3. 練習問題。									
15. まとめの講義									
16. 試験									
事前学習		宿題を忘れないこと。							
事後学習		学習したことに目を通し、疑問点を明確にしておくこと。							
履修上の注意		私語を慎み、積極的に授業に参加すること。辞書については初回、教室にて指示する。							
成績評価の方法・基準		最終回に行なう確認のための筆記試験(70%～80%)に、20～30%程度の平常点（積極性など）を加えて算出し、評価する。							
教科書	〔はじめてのパリー新・改訂版－〕〔大津、瀧川、藤井共著〕〔朝日出版社〕〔2,400 円〕								
参考書	特になし								

授業科目	仏語Ⅱ				担当者	村山 茂			
単位数	1	必・選	選	授業形式	演習	開講期	後期	対象	服・健・美1年
授業の概要 初級文法に則った読み、書き、聞き、話す能力が身につくよう指導する。フランスにまつわる様々な情報を盛り込み、フランス映画などをも教材に取り入れて、多方面からのフランス語理解に努める。 仏語Ⅰを引き継ぐ形で進めてゆく。									
授業の目標(到達目標) 仏語Ⅰ履修者を対象とし、引き続き初級フランス語の修得を目標として、フランスの文化にも触れながら、国際的視野を身につける。									
授業計画及び内容									
1. テラスでお茶を (カフェ) 1. 解説と会話文。									
2. テラスでお茶を (カフェ) 2. 文法。									
3. テラスでお茶を (カフェ) 3. 練習問題。									
4. メトロに乗ろう (地下鉄) 1. 解説と会話文。									
5. メトロに乗ろう (地下鉄) 2. 文法。									
6. メトロに乗ろう (地下鉄) 3. 練習問題。									
7. 名所を廻ろう (観光バス) 1. 解説と会話文。									
8. 名所を廻ろう (観光バス) 2. 文法。									
9. 名所を廻ろう (観光バス) 3. 練習問題。									
10. ビデオによる学習。									
11. 水を買う (食料品店) 1. 解説と会話文。									
12. 水を買う (食料品店) 2. 文法。									
13. 水を買う (食料品店) 3. 練習問題。									
14. まとめの講義1									
15. まとめの講義2 (補足を含む)									
16. 試験									
事前学習	宿題を忘れないこと。								
事後学習	学習したことに目を通し、疑問点を明確にしておくこと。								
履修上の注意	初心を忘れず、根気よく継続すること。								
成績評価の方法・基準	最終回に行なう確認のための筆記試験(70%～80%)に、20～30%程度の平常点(積極性など)を加えて算出し、評価する。								
教科書	〔はじめてのパリ―新・改訂版―〕〔大津、瀧川、藤井共著〕〔朝日出版社〕〔2,400円〕								
参考書	特になし								

授業科目		中国語				担当者	高橋 亨		
単位数	1	必・選	選	授業形式	演習	開講期	前期	対象	服・健・美1年
授業の概要									
中国語には、日本語にない母音・子音が多く、「声調」という音声の抑揚があるため、まずはこれらの正確な習得を目指します。発音の練習を終えると、教科書の例文の読解や、受講者相互の会話練習を通して、中国語会話の基礎的な知識を身につけていきます。									
授業の目標(到達目標)									
この授業では、中国語の正確な発音を習得した上で、中国語で自己紹介やあいさつ、簡単な会話ができるようになります。加えて、中国の文化・習慣や旅行で役立つ情報なども紹介するので、中国に対する理解も深めていくことができます。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス：中国語を学ぶために。									
2. 第一課：声調と単母音の発音。									
3. 第一・二課：複母音と子音(声母)の発音。									
4. 第二・三課：鼻音と子音(声母)の発音。									
5. 第四課：注意すべき発音とこれまでの復習。									
6. 第五課：“是”を用いた文章など。発音練習・例文読解・練習問題									
7. 第六課：自己紹介の仕方など。発音練習・例文読解									
8. 第六課：自己紹介の仕方など。発音練習・練習問題									
9. 第七課：代名詞“这”“那”等を用いた文章など。発音練習・例文読解									
10. 第七課：代名詞“这”“那”等を用いた文章など。発音練習・練習問題									
11. 第八課：疑問詞“什么”“哪个”等を用いた文章など。発音練習・例文読解									
12. 第八課：疑問詞“什么”“哪个”等を用いた文章など。発音練習・練習問題									
13. 第九課：数の数え方・年齢の言い方など。発音練習・例文読解									
14. 第九課：数の数え方・年齢の言い方など。発音練習・練習問題									
15. 発音・文法のまとめ。発音テスト									
16. 文法テスト									
事前学習		教科書の例文の中国語とピンインを自分で書き、日本語訳してみる。							
事後学習		例文の中国語とピンインを自分で書き、例文の発音を復習する。							
履修上の注意		日本語と異なる発音を身につけるため、発音練習ではしっかり声を出しましょう。また、進行状況により、授業計画が前後する場合があります。							
成績評価の方法・基準		平常点 30% 発音テスト 20% 文法テスト 50%							
教科書		[日中いぶこみ交差点][相原茂 等][朝日出版社][2,500 円]							
参考書		なし							

授業科目		日本語基礎				担当者	清水 浩一郎		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	服・健・美1年
授業の概要									
前半は日本語能力の基礎となることがらを問題演習を通じて学習する授業をおこなう。後半では日本語の特性や実践的な用法について講義をおこないます。									
授業の目標(到達目標)									
まず日常的に使用する言葉や文法を習得します。その上で、日本語に関する基礎的な知識の講義を通じて、学生或いは社会人として要求される日本語能力を学習します。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス：履修上の注意・講義の目的と概要についての説明									
2. 日本語能力の基礎①：漢字と慣用句									
3. 日本語能力の基礎②：文法と表記									
4. 日本語能力の基礎③：敬語									
5. 日本語能力の基礎④：敬語の練習問題									
6. 日本語能力の基礎⑤：文章作法									
7. 日本語の特徴①：漢字・ひらがな・カタカナのなりたちや役割									
8. 日本語の特徴②：鎌倉時代までの日本語とその特徴									
9. 日本語の特徴③：室町時代までの日本語とその特徴									
10. 日本語の特徴④：江戸時代までの日本語とその特徴									
11. 日本語の特徴⑤：過去から現代に至る日本語の連続性									
12. 「国語に関する世論調査」①：文化庁が実施した日本語意識調査について紹介									
13. 「国語に関する世論調査」②：平成 22～23 年度調査についての分析									
14. 「国語に関する世論調査」③：平成 24～25 年度調査についての分析									
15. 講義のまとめ									
16. 試験									
事前学習		配布資料に目を通しておいください。							
事後学習		講義と配布資料の内容をまとめ、授業内容に対する理解を深めるよう努めてください。							
履修上の注意		講義の始めに小テストを実施しますので（2 回目以降）、遅刻しないようにしてください。							
成績評価の方法・基準		期末試験（50％）と受講態度（50％）で評価します。特に受講態度を重要視しますので、初回のガイダンスで説明する履修上の注意を厳守してください。							
教科書	講義前にプリントを配付します								
参考書	授業中適宜紹介します								

授業科目	国語表現法				担当者	清水 浩一郎			
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服・健・美1年
授業の概要 自己紹介文や手紙文、論作文の書き方や文章の要約、履歴書やエントリーシートなど、各種の文書を書く上での要点を講義します。									
授業の目標(到達目標) 日本語を「読み」・「書き」・「話す」ための要点を理解し、各種文章・文書を実際に作成することで、実践的な日本語表現能力の習得を目標とします。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス：授業の概要と履修上の注意について説明します									
2. スピーチ①：人前で話をする際の方法や留意事項について学びます									
3. スピーチ②：自己紹介のスピーチ原稿を作成します									
4. 文書作成①：履歴書や履歴書に添付する文書の書き方を学びます									
5. 文書作成②：履歴書を作成します									
6. 文書作成③：エントリーシートの書き方を学びます									
7. 文書作成④：エントリーシートを作成します									
8. 文書作成⑤：履歴書・エントリーシートを完成させます									
9. 論作文①：論作文の書き方を学びます									
10. 論作文②：出題されたテーマについて論作文を作成します									
11. 論作文③：前回に引き続き、論作文の作成をおこないます									
12. 文章の要約①：文章の要点を簡潔にまとめる方法を学びます									
13. 文章の要約②：文章を読んで要約文を作成します									
14. 手紙・案内文①：手紙や案内文の書き方を学びます									
15. 手紙・案内文②：手紙や案内文を作成します									
事前学習	配付された資料を予め読んでおいてください。								
事後学習	学習した内容は必ず復習し、課題作成に活かしてください。 課題作成が遅れている場合、次の講義までに進捗させること。								
履修上の注意	授業への積極的な参加を希望します。 実際に文書を作成し、課題として提出してもらいます。								
成績評価の方法・基準	試験は実施しません。課題提出（50%）と受講態度・授業への参加状況（50%）で評価します。なお、課題は必ず提出してください。未提出のものがある場合には評価の対象としないことがあります。								
教科書	プリントを配付します								
参考書	無し								

授業科目		情報基礎学				担当者	松尾 広		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	服・健・美2年
授業の概要									
文書作成、表計算、プレゼンテーション、簡単な画像処理などのコンピュータリテラシーを身につける。									
授業の目標(到達目標)									
データの集計・加工、グラフ作成、写真の加工を行い、それらを組み合わせて体裁の整った文書を作成したり、プレゼンテーションをしたりできるようになる。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス									
2. Word による文書作成（ビジネス文書作成、表の作成）									
3. Word による文書作成（図形の扱い、クリップアートの利用）									
4. Word による文書作成（課題制作）									
5. Excel による表計算（表の作成）									
6. Excel による表計算（グラフの作成）									
7. Excel による表計算（統計データの加工）									
8. Excel による表計算（課題作成）									
9. Photoshop による画像処理（色調補正、選択範囲の設定、レイヤー機能）									
10. Photoshop による画像処理（調整レイヤー、レイヤーマスクの利用）									
11. Photoshop による画像処理（修復ツールによる画像加工）									
12. Photoshop による画像処理（課題制作）									
13. Powerpoint によるプレゼンテーション（シンプルなスライドの作成）									
14. Powerpoint によるプレゼンテーション（アニメーションの利用）									
15. Powerpoint によるプレゼンテーション（課題制作）									
事前学習		前回の内容にもう一度目を通しておくこと							
事後学習		もし、つまずいたところがあったら、くりかえしてみること							
履修上の注意		ある場所で使える操作が他の場所でも応用できることが多い。自力で解決しようとする手間を惜しまないこと							
成績評価の方法・基準		受講態度 40%、課題等提出物 60%							
教科書	授業前にプリントを配布する								
参考書	使用せず								

授業科目		スポーツ身体科学				担当者	土井 豊		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服・美1年
授業の概要									
本授業では、日本における疾病構造の今昔（かつての感染症中心から現代の生活習慣病中心へ）を踏まえ、今後はいかなる健康対策が必要であるのかについて、運動・栄養・休養を中心に解説する。									
授業の目標(到達目標)									
本授業では、運動と健康・体力との関連性についての認識を深めるべく、現代人の多くが自覚あるいは罹患している愁訴ないし各種症候群・疾病と運動不足との関連、及び運動による治療効果等に関する学習を通して、今後の健康・体力の維持増進への意欲と実践力を身につける。									
授業計画及び内容									
1. 「スポーツ身体科学」概説（ガイダンス）									
2. 「健康の定義」及び「現在の日本における健康の姿」等について									
3. 「日本における平均寿命延長の主な要因」について									
4. 「現在の日本人に多い疾病及び死因等」について									
5. 「ライフサイクルにおける健康上の問題及び課題」について									
6. 「ライフスタイル（生活習慣）の現状と課題」について									
7. 健康的痩身方法に関する理論と実践Ⅰ：「身体組成」及び「肥瘦度判定」について									
8. 健康的痩身方法に関する理論と実践Ⅱ：「誤った減量法」等について									
9. BMI・体脂肪率・基礎代謝量・超音波骨密度等の測定実習（体験）									
10. 「メタボリックシンドロームとその予防」について									
11. 「ロコモティブシンドロームとその予防」について									
12. 「骨粗鬆症とその予防」について									
13. 「運動習慣の必要性」及び「運動処方の方考え方」等について									
14. 「性と健康」（STD 及び HIV／AIDS 等を含む）について									
15. まとめ及び総括（健康増進における栄養・運動・休養の役割について）									
事前学習		教員の指示に従い、授業内容に関する事柄を予習する。							
事後学習		復習を通じて、授業内容の確認、不明な点の発見と解決を行う。							
履修上の注意		正当な理由無き「欠席」は厳禁とする。							
成績評価の方法・基準		出席状況と随時課すレポートを基に総合的に評価する。 その内訳は、受講態度（熱心さ）50%、レポート50%。							
教科書	使用しない。授業前に資料を配布する。								
参考書	適宜紹介する。								

授業科目		スポーツ				担当者	土井 豊		
単位数	2	必・選	選	授業形式	実技	開講期	通年	対象	服・健・美1年
授業の概要									
複数のスポーツ・運動を実施する。毎回出席者を戦力がほぼ均等になるよう複数チームに班分けした上で、リーグ戦等を行う。そして、勝利チームには勝ち点等を加点し奮起を促す。一方、個人種目の場合には、個人の勝敗あるいは達成度等により評価は異なる。									
授業の目標(到達目標)									
色々なスポーツ・運動実践を通し、各人が“健康・体力づくりの重要性”に気づくと共に、今後さらに適度なスポーツや運動を実践・継続していけるだけの人材に成長すること。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス（個人票作成等）					16. ラジオ体操の練習成果発表				
2. 身体計測（体位・体格等診断）					17. バスケットボールⅠ（班編成、練習試合）				
3. 体力測定Ⅰ（体力診断テスト）					18. 同上Ⅱ（基礎的技術の練習、試合）				
4. 同上Ⅱ（運動能力テスト）					19. 同上Ⅲ（基礎的技術の強化、試合）				
5. ソフトボールⅠ（班編成、練習試合）					20. ターゲットバードゴルフⅠ（基礎的練習）				
6. 同上Ⅱ（基礎的技術の練習、試合）					21. 同上Ⅱ（技術向上練習）				
7. 同上Ⅲ（基礎的技術の強化、試合）					22. 卓球Ⅰ（基礎的技術の練習、試合）				
8. バレーボールⅠ（班編成、練習試合）					23. 同上Ⅱ（技術向上練習 試合）				
9. 同上Ⅱ（基礎的技術の練習、試合）					24. バドミントンⅠ（基礎的練習、試合）				
10. 同上Ⅲ（基礎的技術の強化、試合）					25. 同上Ⅱ（技術向上練習 試合）				
11. フットサルⅠ（班編成、練習試合）					26. 身体計測（前期との比較）				
12. 同上Ⅱ（基礎的技術の練習、試合）					27. 体力診断テスト（前期との比較）				
13. 同上Ⅲ（基礎的技術の強化、試合）					28. 運動能力テスト（前期との比較）				
14. ラジオ体操第1＆第2の練習					29. 基礎的実技テスト				
15. 前期の総括					30. まとめ及び総評				
事前学習		次回授業でのスポーツ種目におけるルール等を予習しておく。							
事後学習		授業中の成功や失敗等を自己評価しつつ、次回の課題を明確にしておく。							
履修上の注意		毎回、運動のできる服装（ウェア）とシューズ等を完備した上で授業に臨むこと。							
成績評価の方法・基準		個人の技術や能力、並びに授業に取り組む姿勢等を総合的に評価する。 その内訳については、授業態度（熱心さ）50%、技術や能力50%。							
教科書	使用しない								
参考書	特になし								

授業科目		武道				担当者	佐藤 淳一		
単位数	1	必・選	選	授業形式	演習	開講期	前期	対象	服・健・美1年
授業の概要									
現代武道のひとつで世界 36 カ国に普及し世界統一組織でもある少林寺拳法の技法の基礎を講話と実技で指導します。護身の技術を指導するなかで、同時に呼吸法や座禅を通じて心身の調整法を教えます。お互いが協力して上達する少林寺拳法の教育システムを有効に活用して、楽しく自己確立に努めます。財団法人少林寺拳法連盟に所属して、緑帯取得を目標に指導します。									
授業の目標(到達目標)									
武士の文化であった武芸は現在武道となり、世界の武道人口は数千万人といわれます。日本の伝統文化の中で、これほど世界中の人々に受け入れられた文化はほかに見当たりません。自分をほんとうに頼りに出来る「自信」、そのことを通じての周囲への「感謝」。武道の修練を通じて、主体性に自己確立する意欲と他と学びあう協調性を身につけます。									
授業計画及び内容									
1. 「武道」について（現代武道と少林寺拳法）									
2. 少林寺拳法を学ぶ心構え									
3. 礼法、座法、調息法、立ち方、体構え									
4. 目配り、残心、足位法、運歩法、布陣法									
5. 裏拳打ち、金的蹴り、振り子突き、蹴り上げ、胴突き、蹴り									
6. 上段突き、流水受け、流水蹴り、天地拳第一									
7. 受身（前、後ろ）									
8. 小手抜き、竜王拳第一									
9. 受身（大車輪、横転起き上がり）									
10. 受け（上受け、内受け、下受け）									
11. 上段突き、中段突き、内受け、内受け突き									
12. 移動修練、前進単突き、蹴り、全転換、半転換									
13. 手刀打ち、上受け突き									
14. 上段突き、轉身蹴り									
15. 腕十字、昇級試験、レポート作成									
事前学習		図書館にある「はじめよう少林寺拳法」を読むこと							
事後学習		修得した技、動きを反復練習すること、レポート作成準備							
履修上の注意		財団法人少林寺拳法連盟に所属して学びます。							
成績評価の方法・基準		関心・態度 50%、技術修得度 30%、レポート 20%							
教科書	[少林寺拳法副読本][少林寺拳法連盟][500 円]								
参考書	[はじめよう少林寺拳法][BB マガジン][1,728 円]								

授業科目		スタディスキルズ				担当者	大学教職員		
単位数	1	必・選	必	授業形式	演習	開講期	前期	対象	服専1年
授業の概要									
本学の歴史や教育内容、大学での学びの基本的なノウハウを知るとともに、各自学習目標を考える。さらに、入学前に取り組んだ e-learning を復習し、また理解度をチェックし、さらなる理解の向上を目指し演習を行う。									
授業の目標(到達目標)									
大学生活へスムーズに移行できるように大学の様々な授業で必要とされる、一般的な学習方法について学び、大学生として身につけておきたい基礎知識を習得すること。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス、ポートフォリオについて									
2. 大学で学ぶということ（山田学長）									
3. 大学での学び、ノート等の学び方、研究倫理（鈴木学科長、八巻）									
4. 図書館の活用1（村山）									
5. 基礎学力向上1（e-learning の事後指導）（国語）①菅並									
6. 基礎学力向上2（e-learning の事後指導）（国語）②菅並									
7. 情報処理教育センターの活用（OA 室）（松尾）									
8. 基礎学力向上 e-learning を使った学習（1）（OA 室）（菅野）									
9. 基礎学力向上 e-learning を使った学習（2）（OA 室）（植松）									
10. 図書館の活用2（OA 室）（村山）									
11. 基礎学力向上3（e-learning の事後指導）（英語）①植松									
12. 基礎学力向上4（e-learning の事後指導）（英語）②植松									
13. 基礎学力向上5（e-learning の事後指導）（数学）①菅野									
14. 基礎学力向上6（e-learning の事後指導）（数学）②菅野									
15. 基礎学力向上 e-learning を使った学習（3）（OA 室）（植松）									
事前学習		入学前課題の e-learning の学習をしてくること。							
事後学習		e-learning で不得意分野を見つけ、復習しておくこと。							
履修上の注意		毎回、積極的に出席しなければ、授業内容は身につかないので、必ず初回の授業から出席すること。							
成績評価の方法・基準		授業の取り組みに対する意欲と姿勢（50%）、課題の成果や提出物（50%）							
教科書	e-learning の教材								
参考書	授業の中で各担当の教員が指示する								

授業科目		スタディスキルズ				担当者	大学教職員		
単位数	1	必・選	必	授業形式	演習	開講期	前期	対象	健専1年
授業の概要									
本学の歴史や教育内容、大学での学びの基本的なノウハウを知るとともに、各自学習目標を考える。さらに、入学前に取り組んだ e-learning を復習し、また理解度をチェックし、さらなる理解の向上を目指し演習を行う。									
授業の目標(到達目標)									
大学生活へスムーズに移行できるように大学の様々な授業で必要とされる、一般的な学習方法について学び、大学生として身につけておきたい基礎知識の習得すること。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス、ポートフォリオについて									
2. 大学で学ぶということ						学長			
3. 大学での学び、ノート等の学び方、研究倫理						学科長、八巻			
4. 図書館の活用 1						村山			
5. 情報処理教育センターの活用（新 OA 室）						担当者	松尾		
6. 基礎学力向上 1（入学前課題の事後指導）						英語	①植松		
7. 基礎学力向上 2（入学前課題の事後指導）						英語	②植松		
8. 基礎学力向上 e-learning(1)（新 OA 室）						植松			
9. 基礎学力向上 3（入学前課題の事後指導）						国語①	菅並		
10. 基礎学力向上 e-learning(2)（新 OA 室）						植松			
11. 基礎学力向上 4（入学前課題の事後指導）						国語②	菅並		
12. 図書館の活用 2（新 OA 室）						村山			
13. 基礎学力向上 5（入学前課題の事後指導）						数学	①菅野		
14. 基礎学力向上 6（入学前課題の事後指導）						数学	②菅野		
15. 基礎学力向上 e-learning(3)（新 OA 室）						八巻			
事前学習		入学前課題の学習をしてくること。							
事後学習		e-learning で不得意分野を見つけ、復習しておくこと。							
履修上の注意		毎回、積極的に出席しなければこの授業の課題は作成できないし授業内容も身に付かないので、必ず初回の授業から出席すること。							
成績評価の方法・基準		授業の取り組みに対する意欲と姿勢（50%）提出物（50%）により評価する。							
教科書	e-learning の教材								
参考書	なし								

授業科目		スタディスキルズ				担当者	大学教職員		
単位数	1	必・選	必	授業形式	演習	開講期	前期	対象	美1年
授業の概要									
本学の歴史や教育内容、大学での学びの基本的なノウハウを知るとともに、各自学習目標を考える。さらに、入学前に取り組んだ e-learning を復習し、また理解度をチェックし、さらなる理解の向上を目指し演習を行う。									
授業の目標(到達目標)									
大学生活へスムーズに移行できるように大学の様々な授業で必要とされる、一般的な学習方法について学び、大学生として身につけておきたい基礎知識が習得できる。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス、学修ポートフォリオについて									
2. 大学で学ぶということ（学長）									
3. 大学での学び（生活美術学科長）									
4. 図書館の活用 1（村山）									
5. 履修の方法等(授業の受け方、試験に関する心得)（北折）									
6. 情報処理教育センターの活用（松尾）									
7. 基礎学力向 1（入学前課題の事後指導）e-learning（三上）									
8. 研究倫理について（森）									
9. 基礎学力向 2（入学前課題の事後指導）e-learning（立花）									
10. 基礎学力向上 3 国語（三浦）									
11. 図書館の活用 2（村山）									
12. 基礎学力向上 4 国語（大堀）									
13. ポートフォリオ制作について（鶴巻）									
14. ノートの取り方・レポートの書き方（瀬戸）									
15. まとめ（1年担任）									
事前学習		入学前課題の学習をしてくること。							
事後学習		TSB e-learning で正解率が低かったところを、復習しておくこと。							
履修上の注意		毎回、積極的に出席しなければこの授業の課題は作成できないし授業内容も身に付かないので、必ず初回の授業から出席すること。							
成績評価の方法・基準		提出物（50%）、授業の取り組みに対する意欲と姿勢（50%）により評価する。							
教科書	e-learning の教材（他、授業時にプリントを配布する）								
参考書	適宜、配布、指示する								

授業科目		ライフデザイン				担当者	佐々木 晃		
単位数	1	必・選	必	授業形式	演習	開講期	後期	対象	服・健・美1年
授業の概要									
レポートの作成・発表、小論文の作成等の学習活動を通して実社会で求められる基礎的な能力等を習得させるための授業を行う。									
授業の目標(到達目標)									
自分の今後の将来設計を描くにあたって、確かな勤労観を持ち、有為な社会人として活躍できる基本的な能力・技能・資質を身につける。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス、 ライフデザインを学ぶ意義									
2. 自分史作成 ～自己を知る～									
3. 自己分析・自己理解・自己管理									
4. 学生生活のデザイン									
5. 時事問題理解力、思考力、表現力									
6. 社会人に求められるもの									
7. 社会で働くための資質・能力									
8. 業界・企業研究									
9. 課題発見能力・協調性・提案力									
10. ライフデザインとライフプラン（ライフステージとライフイベント）									
11. ビジョン構築力									
12. ライフプランの作成									
13. ライフデザインの作成									
14. ライフデザインの発表									
15. キャリア開発に向けて									
事前学習		今後、取得したい資格や身につけたい資質・能力について具体的に考えておくこと。							
事後学習		授業で紹介した書籍等を読み、識見を広げること。							
履修上の注意		本学キャリア教育の1年次としての自覚を持ち受講すること。							
成績評価の方法・基準		小論文・レポート・課題（70%）（必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としない場合がある。）授業の参加状況等の平常点（30%）							
教科書	〔シンプルリスト〕〔ドミニック・ローホー〕〔講談社〕〔630 円〕								
参考書	なし								

授業科目		キャリア開発 I				担当者	井上 美紀		
単位数	1	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服専 2 年
授業の概要									
消費者力を高め、充実した生活を送ることができるように、消費生活に関わる各分野の基礎を解説する。検定受験を目標とするため、各分野の要点解説と検定対策が中心の講義となる。									
授業の目標(到達目標)									
消費生活に関する正しい知識を身につけ、消費者力を高めることができるようにする。また、消費者力検定の受験も目標とし、級取得レベルの知識を身につける。									
授業計画及び内容									
1. はじめに：消費者力とは、 検定の概要、衣生活									
2. 食生活									
3. 住生活									
4. 契約・悪質商法 1 契約									
5. 契約・悪質商法 2 悪質商法の事例と対策									
6. 環 境									
7. サービス									
8. 検定試験									
9. おわりに：セミナーのまとめ、検定の振り返り									
事 前 学 習		前時の振り返りと次時の内容を確認すること。							
事 後 学 習		ワークブックで反復練習すること。授業内容を振り返り臨むこと。							
履修上の注意		消費者力検定を受験するため、検定申込（掲示で指示）が必要となる。							
成績評価の方法・基準		検定結果 50%、ミニットペーパーと受講態度に対し 50%							
教科書	消費者力検定ワークブック，日本消費者協会，630 円								
参考書	必要に応じてプリントを配布								

授業科目		キャリア開発Ⅰ				担当者	鈴木 裕行		
単位数	1	必・選	選	授業形式	演習	開講期	前期	対象	健専1年
授業の概要									
化学Ⅰ・Ⅱで扱った内容に関連する基礎的な問題の演習を主とし、個々の学生の理解度に合わせて、教員および学修支援員により個別に指導する。また授業で提示された練習問題の解説を行う。さらに管理栄養士の業務の実際と国家試験についても説明する。									
授業の目標(到達目標)									
健康栄養学専攻の栄養学・食品学関連の多くの専門科目では化学を必須基礎知識とするが、化学の学力が十分でない学生にとってはその授業の理解にしばしば困難をきたす。そこで問題演習・個別指導により化学Ⅰ・Ⅱの授業の内容をより深く理解できるようになること、また、管理栄養士の業務の実際と国家試験についてもその概要と化学の学習とのつながりを理解できるようになることを目標とする。									
授業計画及び内容									
1. 物質の構成に関連する問題演習と解説									
2. 周期表に関連する問題演習と解説									
3. 原子・イオン・分子に関連する問題演習と解説									
4. 化学式に関連する問題演習と解説									
5. 物質質量：原子量・分子量の計算に関連する問題演習と解説									
6. 管理栄養士の仕事について、モルの計算に関連する問題演習と解説									
7. 化学反応式に関連する問題演習と解説									
8. 化学結合に関連する問題演習と解説									
9. 酸・塩基、中和に関連する問題演習と解説									
10. 水素イオン濃度と pH に関連する問題演習と解説									
11. 管理栄養士国家試験について、酸化と還元に関連する問題演習と解説									
12. 酸化数と酸化還元反応に関連する問題演習と解説									
13. 気体の性質に関連する問題演習と解説									
14. 溶液の性質に関連する問題演習と解説									
15. 化学反応と熱に関連する問題演習と解説									
事前学習		各時間の授業範囲に該当する教科書の記述を熟読すること。							
事後学習		板書ノートを見直し、授業で取り扱った問題の解法をよく復習すること。							
履修上の注意		今後の専門科目学修の一番の基礎なので、理解不十分なところをそのままにしないこと。							
成績評価の方法・基準		課題：50%、平常点（提出物等）：50%							
教科書	〔ゼロからはじめる化学〕〔立屋敷哲〕〔丸善(株)出版事業部〕〔2,376円〕								
参考書	無し								

授業科目		キャリア開発Ⅰ				担当者	2年次担任（瀬戸典彦・三浦輝子）			
単位数	1	必・選	選	授業形式	演習	開講期	通年	対象	美2年	
授業の概要										
各コースによる外部講師の講義と現場見学で構成する。講師は各コースの専門分野で活躍する人物（卒業生他）を予定し、仕事のノウハウを実体験させることにより仕事に対する実践的な方法論を理解させる。										
授業の目標(到達目標)										
具体的な就業体験の話しと現場見学股は体験を通して、キャリアに対する意識が高まること、主体的に自身の進路を選択・決定できる能力を身につける。										
授業計画及び内容										
1. ガイダンス										
2. 外部講師による講義（デザイナー）										
3. 外部講師の現場見学（デザイナー）										
4. 外部講師による講義（漫画家）										
5. 外部講師の現場見学（漫画家）										
6. 外部講師による講義（工芸家）										
7. 外部講師の現場見学（工芸家）										
8. 外部講師による講義（ギャラリー経営）										
9. 外部講師の現場見学（ギャラリー経営）										
10. 外部講師による講義（教員）										
11. 外部講師の現場見学（教員）										
12. 外部講師による講義（画家）										
13. 外部講師の現場見学（画家）										
14. 外部講師による講義（クラフト作家）										
15. 外部講師の現場見学（クラフト作家）										
事前学習		事前に外部講師の紹介を指示するので、関係する仕事について調べておくこと。								
事後学習		レポート作成のため毎回講義ノート等、内容をまとめておくこと。								
履修上の注意		外部講師との日程調整のため授業計画にある順番は前後する場合もある。開講日と内容の詳細は掲示で指示する。								
成績評価の方法・基準		授業参加状況 50% レポート等提出物の内容 50%								
教科書	資料等を配布									
参考書	適宜指示する									

授業科目		キャリア開発Ⅱ				担当者	小野寺 美和		
単位数	1	必・選	選	授業形式	集中講義	開講期	前期	対象	服専2年
授業の概要									
色彩技能パーソナルカラーの理論的部分を講義する。									
授業の目標(到達目標)									
パーソナルカラーの基礎理論として、色の属性（性質）の違いにより顔の見え方は理論的(客観的)に変化することについて理解する。日本パーソナルカラー協会・アシスタントアドバイザーの資格取得をすることで、客観的な根拠に基づき、固有感情（属性の反応による色白効果、血色効果、小顔効果、つや出し効果）を実践する力をみにつける。									
授業計画及び内容									
1. パーソナルカラー理論①・・・カラー戦略と演出法を学ぶ									
2. パーソナルカラー理論②・・・フォーシーズンとベストカラー診断									
3. パーソナルカラー理論③・・・外見心理学・色彩心理学									
4. パーソナルカラー理論④・・・カラー読心術									
5. パーソナルカラー理論⑤・・・色彩理論									
6. パーソナルカラー理論⑥・・・固有感情・表現感情									
7. パーソナルカラー理論⑦・・・パーソナルカラーのコーディネート術									
8. パーソナルカラー理論⑧・・・モジュール1の過去問対策									
9.									
10.									
11.									
12.									
13.									
14.									
15.									
事前学習		色彩学の基礎である AFT 3 級の内容を十分に復習しておくこと。							
事後学習		毎回配布するプリント課題をしてくること。							
履修上の注意		初回の講義で説明する履修上の注意を厳守すること。							
成績評価の方法・基準		検定試験の結果（50％）レポート（50％）							
教科書	〔「色彩技能パーソナルカラー検定公式テキスト／モジュール1・モジュール2」役に立つ色彩理論〕〔青娥書房〕〔4,200 円〕								
参考書	使用せず								

授業科目		キャリア開発Ⅱ				担当者	川俣 幸一		
単位数	1	必・選	選	授業形式	演習	開講期	前期	対象	健専2年
授業の概要									
応用栄養学実習Ⅰと連動して、栄養士・管理栄養士としての必要な知識の取得を目指す									
授業の目標(到達目標)									
1) 自分の食生活の現状についてアセスメントを行う能力を身につける									
2) 自分の身体に合う食事についての栄養管理法を総合的に理解できるようになる。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス									
2. 食事調査法①（実施方法の練習）									
3. 食事調査法②（栄養価計算の練習）									
4. 身体活動量を求める実習（24時間タイムスタディ法）									
5. 3日間の食物摂取状況の把握（栄養価計算）									
6. アセスメント（前半まとめ①、説明）									
7. 〃 （前半まとめ②、演習）									
8. 食事計画①（加重平均食品群別栄養成分表の作成、説明）									
9. 食事計画②（加重平均食品群別栄養成分表の作成、演習）									
10. 食事計画③（食品構成表の作成、説明）									
11. 食事計画④（食品構成表の作成、演習）									
12. 食事計画⑤（献立の作成、説明）									
13. 食事計画⑥（献立の作成、演習）									
14. 食事計画⑦（献立の栄養価計算）									
15. まとめ									
事前学習		事前に配布する予習プリントを熟読すること							
事後学習		板書やノート、配布資料を見直して復習する事							
履修上の注意		応用栄養学・基礎栄養学・栄養教育論・臨床栄養学・公衆栄養学等の科目と内容的に重なる部分が多いので、それぞれの科目での学習内容と対比して理解を深めること。							
成績評価の方法・基準		課題レポート・・・90% 受講状況・・・10%							
教科書	[すぐわかる栄養指導実習][萌文書林][1,680円]								
	[エネルギー早わかり][女子栄養大学出版部][1,460円]								
	[調理のためのベーシックデータ][女子栄養大学出版部][1,890円]								
参考書	[食品成分表] [女子栄養大学出版部] [1,512円]								

授業科目	キャリア開発Ⅱ（インターンシップ）				担当者	2年次担任（瀬戸典彦・三浦輝子）			
単位数	1	必・選	選	授業形式	演習	開講期	通年	対象	美2年
授業の概要 インターンシップの事前調査／準備を支援し、履修者が希望する職種での就業をコーディネートする。									
授業の目標(到達目標) ・就業体験をとおし、責任感、コミュニケーション力の必要性を理解する。 ・職業意識を身につける。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス「なぜ人は働くのか」									
2. 職業調査1（一般）									
3. 職業調査2（美術系）									
4. 職場調査（一般）									
5. 職場調査（美術系）									
6. インターンシップ用エントリーシート（記入）									
7. インターンシップ用エントリーシート（校正）									
8. インターンシップ用エントリーシート（修正）									
9. 職場体験（導入）									
10. 職場体験（まとめ）									
11. レポート作成（アウトライン）									
12. レポート作成（トピック）									
13. レポート作成（ボディー）									
14. レポート作成（考察）									
15. まとめ									
事前学習	職業調査、職場調査								
事後学習	就業体験に関するレポート作成								
履修上の注意	開講日等の詳細については、掲示にて通知する。								
成績評価の方法・基準	授業参加状況（20％） 受入れ機関から提出される所見書（60％） レポート（20％）								
教科書	資料を配布								
参考書	使用しない								

授業科目		キャリア開発Ⅲ				担当者	小野寺 美和		
単位数	1	必・選	選	授業形式	演習	開講期	後期	対象	服専3年
授業の概要									
AFT 色彩検定 2 級試験の対策講座と AFT 色彩検定 1 級実技試験の対策講座を行う。									
授業の目標(到達目標)									
インテリアやファッション業界、また、グラフィックや企業のデザイン・宣伝部門など、幅広い分野で活用される「色」に関する専門知識を学ぶ。本授業では、AFT 色彩検定 2 級取得に合格できる色の知識と、色の活用方法について実践する力を身に着ける。									
授業計画及び内容									
1. AFT 色彩検定 3 級復習テスト・生活と色 1 (身の回りの見え方)・配色カードの扱い方									
2. 光と色 1 (光の性質と色・視覚系の構造と色)・光と色 2 (照明)									
3. マンセル表色系 1 (色相・色相環・明度・彩度・色の表示方法)									
マンセル表色系 2 (色立体・マンセル表色系の色票集・色名)									
4. 色彩調和・配色イメージ									
5. ビジュアルデザインと色彩・プロダクトデザインと色彩									
6. インテリアデザインと色彩 1 (インテリアデザインと色彩・インテリアの配色)									
インテリアデザインと色彩 2 (インテリアスタイルと配色・インテリアの素材,照明)									
7. エクステリアデザインと色彩 1 (環境と色彩・カラーコーディネーション)									
エクステリアデザインと色彩 2 (環境配色・材料・照明・色彩計画の手順)									
8. AFT 色彩検定 1 級・2 級試験の試験対策									
9.									
10.									
11.									
12.									
13.									
14.									
15.									
事前学習		色彩学の基礎である AFT 3 級の内容を十分に復習しておくこと。							
事後学習		毎回配布するプリント課題をしてくること。							
履修上の注意		履修者は,AFT2 級受験を前提とする。							
成績評価の方法・基準		レポート (10%) 課題 (20%) 検定結果 (70%)							
教科書	〔AFT 色彩能力検定対策テキスト 2 級編〕〔(社) 全国服飾教育連合会〕〔3,150 円〕								
参考書	使用せず								

授業科目		キャリア開発Ⅲ				担当者	健康栄養学専攻全教員 7 名		
単位数	1	必・選	選	授業形式	演習	開講期	前期	対象	健専 3 年
授業の概要									
管理栄養士国家試験の問題を解きながら、国家試験に向けて修得しておかなければならない事柄を中心に講義を行う。出題範囲の理解、頻出事項を理解できるようにする。									
授業の目標(到達目標)									
管理栄養士の国家試験の問題を解きながら、国家試験受験に向けて必要な知識を身につける。									
授業計画及び内容									
1. 問題集配布 ガイダンス（教科ごとの解説）（担当：鈴木・栗山・半澤・伊澤）									
2. 栄養教育論（担当：伊澤）									
3. 栄養教育論（担当：伊澤）									
4. 栄養教育論（担当：伊澤）									
5. 食べ物と健康（担当：佐藤(靖)・ ）									
6. 食べ物と健康（担当：佐藤(靖)・ ）									
7. 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち（担当：鈴木・ ）									
8. 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち（担当：鈴木・ ）									
9. 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち（担当：鈴木・ ）									
10. 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち（担当：鈴木・ ）									
11. 基礎栄養学（担当：鈴木）									
12. 基礎栄養学（担当：鈴木）									
13. 基礎栄養学（担当：鈴木）									
14. 基礎栄養学（担当：鈴木）									
15. ミニテスト（担当：伊澤）									
16. ミニテスト返却とガイダンス（担当：伊澤）									
事前学習		該当科目受講前に、配布された問題集の問題を解いてくること。事前学習のチェックも行う。							
事後学習		解説をもとに、テキストを見ながら復習し、知識をまとめておくこと。							
履修上の注意		管理栄養士国家試験受験希望者は履修すること。遅刻、欠席をしないこと。各教員から使用するテキストについて指示が出るので注意すること。各自問題集を予習すること。クエスチョンバンクの発売は 7 月(仮)。							
成績評価の方法・基準		平常点 80%（平常点は、感想用紙の提出および問題集の進捗度合いなどを総合的に判断する。）とミニテスト 20%の結果で評価する。							
教科書		〔問題集 2017 年版〕〔大学作成〕 〔クエスチョンバンク 2018〕〔クイックメディア〕〔未定〕							
参考書		各授業で使用したテキスト、プリントなど							

授業科目		キャリア開発Ⅲ				担当者	工藤 稜		
単位数	1	必・選	選	授業形式	演習	開講期	後期	対象	美2年
授業の概要									
授業前半は講義と鑑賞を通じてイラスト・漫画における表現の多様性を理解させる。 後半は実技演習を行い、より高度な技術を身につけさせる。									
授業の目標(到達目標)									
キャラクターイラストの表現方法の多様性を理解できるようになる。キャラクターの様々な表情やポーズ、状況を描けるように、描写力が向上する。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス									
2. イラストとは									
3. 日本キャラクターイラスト史									
4. 〃 江戸時代～大正									
5. 〃 昭和～現代									
6. キャラクター作画演習①スタンプキャラ作画									
7. 〃 ②躍動感等の追加									
8. アートアニメーションについて①海外作品鑑賞									
9. 〃 ②日本作品鑑賞、解説									
10. キャラクター作画演習③模擬試験									
11. 〃 ④作品発表、講評									
12. ヒーローデザイン史 ①東洋と西洋のマスクデザインについて									
13. 〃 ②アートからの引用 商業デザインとしてのメカ									
14. 作品鑑賞 学生映画と現代のクリエイタの関係									
15. まとめ									
事前学習		掲示にて指示。							
事後学習		講義内で指示。							
履修上の注意		課題には積極的に取り組むこと。							
成績評価の方法・基準		授業参加状況 50%、実技 50%							
教科書	プリント配布、プロジェクター使用								
参考書	なし								

授業科目		キャリア開発Ⅳ				担当者	服飾文化専攻全教員		
単位数	1	必・選	選	授業形式	演習	開講期	後期	対象	服専3年
授業の概要									
進路決定や就職活動の準備や対策を行う。本学では本授業以外に就活支援の授業を開講しているが、本授業では就活で必要となる履歴書やエントリーシートの作成のための支援、SPI 対策を主に行う。さらに、服飾文化専攻学生が多く希望するアパレル業界特有の活動対策、その他の業界対策、家庭科教員の試験対策等、個別の希望に応じたバックアップを行う。									
授業の目標(到達目標)									
キャリア開発Ⅳでの準備や対策を通して各自が希望する進路を考察し、就職活動に必要なスキルとビジネススキルを身につけ、卒業後の進路に向かって活動をスタートできるようになること。									
授業計画及び内容									
1. 進路を考える（植松先生）、SPI 対策（菅野、植松）									
2. 業界研究、情報収集の方法（図書館で行う：菅野）									
3. 履歴書ポイント説明（菅野）と個別指導（菅並、植松、井上、川又、小野寺）									
4. 履歴書・エントリーシートの主な項目の作成（菅野）									
5. 校正の個別指導（菅並、植松、井上、川又、小野寺）、添え状、封書作成（菅野）									
6. 希望の進路に応じたグループ指導（服飾：井上、一般：菅野、教職：菅並）									
7. 就職活動時の着装・メイク（小野寺）									
8. 面談練習（菅並、植松、井上、川又、小野寺、菅野）、SPI 試験（菅野、植松）									

授業科目		キャリア開発Ⅳ				担当者	健康栄養学専攻教員 11 名			
単位数	1	必・選	選	授業形式	演習	開講期	前期	対象	健専 4 年	
授業の概要										
管理栄養士国家試験の問題や模擬試験を解きながら、国家試験に向けて修得しておかなければならない事柄を中心に講義を行う。模擬試験を中心に頻出事項、法改正等の講義を行う。										
授業の目標(到達目標)										
管理栄養士の国家試験の模擬試験を解き、各自の勉強の進行度合い、苦手分野を確認する。また、問題を解きながら、必要な知識を身につける。										
授業計画及び内容										
1. ガイダンス					16. 問題解説					
2. 模擬試験 1					17. 問題解説					
3. 問題解説					18. 模擬試験 3					
4. 問題解説					19. 問題解説					
5. 問題解説					20. 問題解説					
6. 問題解説					21. 問題解説					
7. 問題解説					22. 問題解説					
8. 問題解説					23. 問題解説					
9. 問題解説					24. 問題解説					
10. 問題解説					25. 問題解説					
11. 模擬試験 2					26. 問題解説					
12. 問題解説					27. 問題解説					
13. 問題解説					28. 模擬試験 4					
14. 問題解説					29. 問題解説					
15. 問題解説					30. 問題解説					
事前学習		配布された問題集の問題を 8 月までに計画的に進めること。模擬試験終了後は、模擬試験直しを毎回見直すこと。								
事後学習		解説をもとに、テキストを見ながら復習し、知識をまとめておくこと。模擬試験の直しを行うこと。								
履修上の注意		管理栄養士国家試験受験希望者は履修すること。遅刻、欠席をしない。各教員から使用するテキストについて指示が出るので注意すること。問題集は各自で行うこと。								
成績評価の方法・基準		平常点 80%（平常点は、感想用紙の提出および問題集の進行度合いなどを総合的に判断する。）と模擬試験 20%の結果で評価する。								
教科書		〔問題集 2017 年版〕〔大学作成〕 〔クエストバンク 2017〕〔クイックメディア〕								
参考書		各授業で使用したテキスト、プリントなど								

授業科目		キャリアサポートⅠ				担当者	大学教職員		
単位数	1	必・選	選	授業形式	演習	開講期	通年	対象	服・健・美3年
授業の概要									
様々な外部講師の講話、ワークシートの作成、グループワーク、模擬試験等を通じ、自己理解、職業・業界・企業理解、基礎学力養成等を具体的に指導し、就職内定に至る現実的方法を学ぶ。									
授業の目標(到達目標)									
① 広い視野で考え、将来の進路を選択・決定する力を身につける。									
② 書類選考、SPI、面接等の就職選考試験に合格する力を身につける。									
授業計画及び内容									
1. 人生の楽しみ方（働くことの意義）					16. 第2回SPI模擬試験				
2. アンガーマネジメント（感情のコントロール）					17. ビジネスマナーセミナー（マナーの基本）				
3. 就活スタートアップ（就活の現状・基礎知識）					18. プレゼンテーションセミナー（魅力的な表現法）				
4. 第1回SPI模擬試験					19. SPI模擬試験解説会（非言語編）				
5. 公務員試験・教員採用試験ガイダンス					20. SPI模擬試験解説会（言語編）				
6. 自己理解Ⅰ（自分から見た自分）					21. ES・履歴書セミナーⅠ（ES・履歴書の意味）				
7. 自己理解Ⅱ（他者から見た自分）					22. ES・履歴書セミナーⅡ（自己PR）				
8. 職業理解Ⅰ（世の中の流れ・仕組み・働く意味）					23. ES・履歴書セミナーⅢ（志望動機）				
9. 進路を考えるセミナー（幅広い視野で進路を考える）					24. 面接対策セミナーⅠ（面接の基本）				
10. 職業理解Ⅱ（業種・職種・様々な働き方）					25. 面接対策セミナーⅡ（ロールプレイ）				
11. 職業理解Ⅲ（他者の力を借りた職業理解）					26. ワークルールセミナー（労働法の基礎知識）				
12. SPIセミナーⅠ（損益算、仕事算、割合）					27. 産学連携協議会セミナー（求める人材像）				
13. SPIセミナーⅡ（速さ、集合）					28. 総括セミナー（この1年の振り返り）				
14. SPIセミナーⅢ（組合せ、確率、グラフの領域）					29. 人事採用担当者セミナー（求める人材像）				
15. SPIセミナーⅣ(同義語・反義語・文章理解)					30. 内定者による就活報告会（内定者から学ぶ）				
事前学習		授業の際に次回の内容を予告するので、そのことについて予習すること。							
事後学習		・自分の強みと弱みを把握して強みは一層強化し、弱みは克服するよう意識すること。 ・授業中に指導された内容を必ず次回の授業までに復習して、確実に身につけておくこと。							
履修上の注意		この授業は、就職活動に必要な要素を盛り込んでいる。授業に集中し、就職決定力向上に努めること。授業中のおしゃべり、居眠り、無断欠席は厳禁である。							
成績評価の方法・基準		授業態度（50%）、課題提出（50%）							
教科書	授業時にプリントを配布する								
参考書	〔内定のツボ〕〔佐川泰宏〕〔東京アカデミー〕〔1,000円〕								

授業科目		キャリアサポートⅡ				担当者	大学教職員		
単位数	1	必・選	選	授業形式	演習	開講期	前期	対象	服・健・美４年
授業の概要									
具体的な就職活動を通して、就職内定が得られるように、実践的な体験型学習など各種集団指導や個別指導を行う。									
授業の目標(到達目標)									
① グループディスカッション試験、小論文試験に対応出来る基礎力を身につける。 ② 就職活動中及び将来働く上で必要な労働法の基礎知識を身につける。 ③ 現在の就職環境を理解する									
授業計画及び内容									
１．一歩踏み出す勇氣（就活生へのエール）									
２．グループディスカッション（GD）セミナーⅠ（GDとは、自由討論型GD体験）									
３．グループディスカッション（GD）セミナーⅡ（ディベート型GD・企画型GD体験）									
４．グループディスカッション（GD）セミナーⅢ（課題解決型GD体験、全体振り返り）									
５．小論文セミナーⅠ（小論文の基本、課題取組み）									
６．小論文セミナーⅡ（課題取組み、全体振り返り）									
７．ワークルールセミナー（労働法の基礎知識）									
８．これからの就職活動（就職環境、今後の見通し）									
９．学内単独会社説明会Ⅰ（会社名後日発表 任意参加）									
10．学内単独会社説明会Ⅱ（ 〃 ）									
11．学内単独会社説明会Ⅲ（ 〃 ）									
12．学内単独会社説明会Ⅳ（ 〃 ）									
13．学内単独会社説明会Ⅴ（ 〃 ）									
14．学内単独会社説明会Ⅵ（ 〃 ）									
15．学内単独会社説明会Ⅶ（ 〃 ）									
事前学習		自宅で履歴書・ESや論作文を書いた上で授業を受講し、改善すべき課題を把握できるようにすること。また、筆記試験対策を怠らないこと。							
事後学習		授業で把握した改善すべき課題の解決に取り組み、就職支援センターの添削、模擬面接等のサポートを受けること。							
履修上の注意		毎回定められた授業に出席すること。指示された課題に誠実に取り組むこと。							
成績評価の方法・基準		授業態度（50%）、課題提出（50%）							
教科書	なし								
参考書	授業中に指示								

家 政 学 部 基 幹 科 目

2. 家政学部基幹科目

授業科目		家政学原論				担当者	八巻 美智子		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	前期	対象	服・健・美1年
授業の概要									
「家政学とは何か」について学ぶ。近代以降家政学がどのように扱われてきたか、また現在、私たちが抱えている生活の問題点について概説する。									
授業の目標(到達目標)									
家政学部で各自が所属する学科で専攻科目を学びながら人間生活と生活に関わる家政学の独自性に気づき、その根本について理解する事。さらに、実際に生活する上でいかに家政学が重要かを理解するとともに、各自が自立しよりよく生きるための力を身につける。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス									
2. 家政学とは									
3. 家政学をなぜ学ぶのか									
4. 家政学の特質、対象									
5. 本学の歴史について									
6. 我が国の家政学史(1) 学制以前～									
7. 〃 (2) 昭和時代～									
8. 諸外国の家政学について (ヨーロッパ)									
9. 〃 (アメリカ)									
10. 生活上の諸問題 (家庭、衣生活)									
11. 〃 (食生活)									
12. 〃 (住生活環境、消費生活)									
13. 〃 (福祉、高齢化社会)									
14. 今後の家政学									
15. まとめの講義									
16. 試験									
事前学習		日頃から生活の諸問題に対し自分の意見を持ち行動する事。							
事後学習		講義で学んだことを実生活に生かしレポートする事。							
履修上の注意		出席を重視。私語は厳禁。							
成績評価の方法・基準		テスト 40%、レポート・発表 30%、授業態度(提出物やその内容、教員の指示に対応しているか)30%							
教科書	プリント配布								
参考書	〔家政学原論〕〔朝倉書店〕〔3,132 円〕								

授業科目		家族関係学				担当者	和泉 安希子		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服・健・美1年
授業の概要									
「家族」は誰にとっても身近な存在であるが、それゆえに客観的に、また科学的に考察される機会が少ないともいえる。本講義では、「家族」をめぐる諸問題やその背後にある社会の変化について、様々な統計データも取り入れ、概説する。									
授業の目標(到達目標)									
多様な様相を呈する現代の家族現象を考察し、講義を通じて、「家族」を取り巻く諸問題について理解を深め、多様化した家族形態別に問題点を改善していく能力を身につける。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス 講義の進め方 テキストについて 評価について									
2. テーマ1 人間にとって家族とは (1) 家族とは何か									
3. 〃 (2) 家族と文化									
4. テーマ2 日本における家族の変化 (1) 家族はどのように変化したか									
5. 〃 (2) 男女関係・夫婦関係の変化									
6. 〃 (3) 新しい家族									
7. テーマ3 結婚と家族 (1) 配偶者の選択									
8. 〃 (2) 夫婦の成立									
9. 〃 (3) 離婚問題と結婚の未来									
10. テーマ4 家族と子ども (1) 新しい生命の誕生と家族									
11. 〃 (2) 子どもの成長発達と親子関係									
12. 〃 (3) 社会的養護の中の子ども									
13. テーマ5 高齢化社会における家族 (1) 高齢期の生活と自立									
14. 〃 (2) 高齢期の自立を支える社会制度と家族関係									
15. 総 括 家族をめぐる新たな現象									
16. 試験									
事前学習		新聞・書籍等「現代の家族」について常に関心を持ち、視野を広めておく事。							
事後学習		講義で学んだ内容について、各自、自分の意見を持ち、将来について考える事。							
履修上の注意		欠席時数が 1/3 を越えた場合、及びレポート未提出の場合は放棄とみなします。							
成績評価の方法・基準		授業参加状況（小レポート含む）(40%)、学期末の試験(40%)、レポート課題(20%)							
教科書	講義時に指示する								
参考書	講義時に指示する								

授業科目		家庭経営学（家庭経済学を含む）				担当者	前田 修也		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	服・健・美1年
授業の概要									
家庭生活を取り巻く環境は大きく変化しつつある。社会のあらゆる面における国際化、少子・高齢化、情報化などである。本講義では、このような変化に対応した家庭経営のあり方を、「家計」という視点から解説する。									
授業の目標(到達目標)									
現代の日本経済が直面している社会保障制度を中心とした諸問題を、家政学の視点から分析する力を獲得することができる。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス：講義内容についての説明									
2. 家庭経済とは何か：①家庭の経済活動									
3. " ：②家庭経済の特質									
4. 国民経済の中の家庭経済：①家庭経済と国民経済との関連									
5. " ：②国民経済計算における家庭経済の収支									
6. " ：③家庭経済の経済活動と国民経済									
7. 家庭経済の基礎としての世帯：①世帯規模と世帯構造の変動									
8. " ：②核家族化、少子高齢化									
9. 収支と支出：①世帯の所得									
10. " ：②所得の分布と格差									
11. " ：③家庭の消費構造									
12. " ：④消費支出に影響を与える要因									
13. 物 価：①物価とは何か									
14. " ：②消費者物価指数の作り方									
15. 振り返り									
事前学習		事前にテキストのテーマに関連する参考文献を、図書館等で検索し、読んでおくことが望ましい。							
事後学習		新たな授業で指示された参考文献を、図書館等で検索し、ノートを充実させることが望ましい。							
履修上の注意		私語を慎み授業へ積極的な参加を望みます。							
成績評価の方法・基準		概ね振り返り(40%)、ノートの内容(30%)とレポートの内容(30%)等で評価します。							
教科書	〔増補改訂よくわかる日本経済入門〕〔塚崎公義〕〔朝日新聞出版〕〔820 円〕								
参考書	無し								

生活美術学科専攻科目

3. 生活美術学科専攻科目

授業科目		絵画基礎Ⅰ (映像メディア表現を含む)			担当者	森 敏美・北折 整・工藤 稜			
単位数	2	必・選	必	授業形式	実技	開講期	前期	対象	美1年
授業の概要 静物（石膏像を含む）、人物、風景をモチーフとして鉛筆、木炭でデッサンを、水彩、アクリル絵具、油絵具などの着彩材料、技法を駆使できるように指導する。これに加え絵画的視点に立った各自のテーマに沿った映像制作法を学んでもらう。									
授業の目標(到達目標) 生活美術学科の基礎的な授業として、生活と美の融合を志向する上で必要となる観察力や制作態度を獲得し、様々な描画材や絵画表現の特長を理解することができる。また、映像制作ではプレゼンテーションの方法を学ぶことができる。									
授業計画及び内容									
1.	導入・制作Ⅰ：【デッサン・石膏像】科目・課題・画材の説明								
2.	(北折・森) エスキース制作、構図の決定								
3.	全体的な形体・明暗の把握								
4.	細部の描き込み、講評（形体・明暗など）								
5.	制作Ⅱ：【着彩・風景】課題の説明、エスキース制作、構図の決定、全体的な明暗・								
	(北折・森) 色彩の把握								
6.	細部の描き込み、講評（形体・色彩など）								
7.	制作Ⅲ：【着彩・着衣人物】課題の説明、クロッキー・エスキース制作、								
	構図の決定								
8.	全体的な形体・明暗・色彩の把握								
9.	細部の描き込み、講評（プロポーション、色彩など）								
10.	制作Ⅳ：【着彩・静物】課題の説明、エスキース制作、構図の決定								
11.	(北折・森) 全体的な形体・明暗・色彩の把握								
12.	細部に向かった調子、質感等のバランスを見てゆく。								
13.	細部の描き込み、講評（色彩、材質感など）								
14.	制作Ⅴ：【映像制作】映像表現に関する説明、テーマに沿った映像の収集								
15.	(工藤稜) 映像の組み立て完成 講評（映像の精度、説得力）								
事前学習		授業時間はあくまで本制作を行う時間とし、作品プランなどについては事前に検討しておく。							
事後学習		モチーフ、イーゼル等は各課題終了時まで固定設置になるので、制作過程に応じて授業時間外に制作を続行する。							
履修上の注意		課題に応じて、常時画集などの参考となる資料の検索を行うこと。							
成績評価の方法・基準		出席を含む平常点 10%（平常点は授業への参加状況および制作態度で判断する。）提出課題 90%							
教科書		資料配布。							
参考書		使用しない。							

授業科目	絵画基礎Ⅱ				担当者	森 敏美・北折 整			
単位数	2	必・選	選	授業形式	実技	開講期	後期	対象	美1年
授業の概要 静物（石膏像を含む）、人物をモチーフとして各自の制作に適した描画材を使用しての制作方法を学んでもらう。各課題とも十分な制作時間が与えられているので、効率よく密度の高い描き込みを行ってもらおう。									
授業の目的(到達目標) 生活美術学科の基礎的な授業として、生活と美の融合を志向する上で必要となる観察力、デッサン力、色彩感覚など絵画の表現技術を獲得することができる。									
授業計画及び内容									
1.	導入・制作Ⅰ：【着彩・デッサン・ヌード】科目・課題の説明、クロッキー・（北折・森） エスキース制作 構図の決定								
2.	全体的な形体の把握								
3.	全体的な明暗・色彩の把握								
4.	描き込み								
5.	細部の描き込み、講評（プロポーション、ムーブマンなど）								
6.	制作Ⅱ：【デッサン・石膏像】課題の説明、エスキース制作、構図の決定								
7.	（北折・森） 全体的な形体の把握								
8.	全体的な明暗・空間の把握								
9.	描き込み								
10.	細部の描き込み、講評（量感、空間など）								
11.	制作Ⅲ：【デッサン・着彩・静物】課題の説明、エスキース制作、構図の決定								
12.	（北折・森） 全体的な形体の把握								
13.	全体的な明暗・色彩の把握								
14.	描き込み								
15.	講評（絵画の造形性など）								
事前学習	授業時間はあくまで本制作を行う時間とし、作品プランなどについては事前に検討しておく。								
事後学習	モチーフ、イーゼル等は各課題終了時まで固定設置になるので、制作過程に応じて授業時間外に制作を続行する。								
履修上の注意	課題に応じて、常時画集などの参考となる資料の検索を行うこと。								
成績評価の方法・基準	出席を含む平常点 10%（平常点は授業への参加状況および制作態度で判断する。）提出課題 90%								
教科書	資料配布。								
参考書	特になし。								

授業科目		洋画Ⅰ				担当者	森 敏美・北折 整			
単位数	2	必・選	選	授業形式	実技	開講期	前期	対象	美2年	
授業の概要										
制作Ⅰ～Ⅲ毎に石膏デッサン、静物着彩、構想表現の中から一つを選択し、各自の表現技術の深化を目的とした制作を行ってもらう。										
授業の目的(到達目標)										
絵画分野の専門的な技術を身につけ、描画の多様性、可能性について理解を深めることができる。										
授業計画及び内容										
1.	導入・制作Ⅰ：【選択課題】科目・課題の説明、選択の申告、エスキース制作									
2.	(北折・森) 作品の全体感・完成予想の把握・本制作									
3.	描き込み									
4.	仕上げ、完成									
5.	講評会Ⅰ：各自作品の説明、教員の講評									
6.	制作Ⅱ【選択課題】課題の説明・エスキース制作									
7.	(北折・森) 作品の全体感・完成予想の把握・本制作									
8.	描き込み									
9.	仕上げ、完成									
10.	講評会Ⅱ：各自作品の説明、教員の講評									
11.	制作Ⅲ：【選択課題】課題の説明・エスキース制作									
12.	(北折・森) 作品の全体感・完成予想の把握・本制作									
13.	描き込み									
14.	仕上げ、完成									
15.	講評会Ⅲ：各自作品の説明、教員の講評									
事前学習		制作ノートを作り、資料、プランを作っておく。								
事後学習		参考作品等作品に関わる資料を整理しておく。								
履修上の注意		準備物は授業時間前に各自用意すること。								
成績評価の方法・基準		課題制作 90%、出席を含む平常点 10%（平常点は授業への参加状況および制作態度で判断する）								
教科書	資料配布。									
参考書	特になし。									

授業科目		洋画Ⅱ				担当者	森 敏美・北折 整			
単位数	2	必・選	選	授業形式	実技	開講期	後期	対象	美2年	
授業の概要										
課題Ⅰは人体（コスチュームかヌード）をテーマとし、課題Ⅱ・Ⅲは各自、設定されたモチーフを元に自由な発想、目的で制作を行う事ができるよう指導する。										
授業の目標(到達目標)										
洋画分野の専門的な表現技術を身につけ、自己の表現力、創造力の基盤を獲得することができる。										
授業計画及び内容										
1. 導入・制作Ⅰ：【自由制作・人体】科目・課題の説明、制作方針の申告、エスキース (北折・森) 制作										
2. 作品の全体感・完成予想の把握・本制作										
3. 描き込み										
4. 仕上げ、完成										
5. 講評会Ⅰ：各自作品の説明、教員の講評										
6. 制作Ⅱ：【自由制作・静物】課題の説明、制作方針の申告、エスキース制作										
7. (北折・森) 作品の全体感・完成予想の把握・本制作										
8. 描き込み										
9. 仕上げ、完成										
10. 講評会Ⅱ：各自作品の説明、教員の講評										
11. 制作Ⅲ：【自由制作・静物】課題の説明、制作方針の申告、エスキース制作										
12. (北折・森) 作品の全体感・完成予想の把握・本制作										
13. 描き込み										
14. 仕上げ、完成										
15. 講 評 会 Ⅲ：各自作品の説明、教員の講評										
事前学習		制作ノートを作り、資料、プランを作っておく。								
事後学習		制作過程の画像等を記録しておく。								
履修上の注意		準備物は授業時間前に各自用意すること。出席率の悪い学生は放棄とみなす。								
成績評価の方法・基準		課題作品評価 90%、平常点 10%（平常点は授業への参加状況および制作態度で判断する）								
教科書	資料配布。									
参考書	特になし。									

授業科目		洋画Ⅲ				担当者	北折 整		
単位数	2	必・選	選	授業形式	実技	開講期	前期	対象	美3年
授業の概要 個人の表現力や個性を最大限に引き出すために、ドローイングを含め多数の制作を課し、各自の課題の明確化と独自の表現の具現化について指導する。様々な画材を使用したドローイング(B1 サイズ程度)6 点と、自由制作(サイズは自由)2 点を制作する。また、講評会において他者の作品についての鑑賞を促す。									
授業の目標(到達目標) 1～2 年次で修得した絵画技能と他科目で得た知見等を関連付け、絵画への理解を深めることができる。さらに自身の課題を発見し、独自の表現へ向けて主体的、必然性を持って継続的に取り組む姿勢を身に付けることができる。									
授業計画及び内容									
1. 導入：科目の説明、授業方針等									
2. 制作Ⅰ：ドローイング(1、2)・固形描画材									
3. 制作Ⅰ：ドローイング(3、4)・水性描画材									
4. 制作Ⅰ：ドローイング(5、6)・ミクストメディア									
5. 制作Ⅱ：自由制作・制作の意図の決定、エスキース制作									
6. 制作Ⅱ：自由制作・エスキース制作、構図・色彩計画決定									
7. 制作Ⅱ：自由制作・支持体準備、描画(下描き)									
8. 制作Ⅱ：自由制作・描画(着彩、仕上げ)									
9. 制作Ⅱ：自由制作・講評会									
10. 制作Ⅲ：自由制作・制作の意図の決定、エスキース制作									
11. 制作Ⅲ：自由制作・エスキース制作、構図・色彩計画決定									
12. 制作Ⅲ：自由制作・支持体準備、描画(下描き)									
13. 制作Ⅲ：自由制作・描画(着彩)									
14. 制作Ⅲ：自由制作・描画(仕上げ)									
15. 制作Ⅲ：自由制作・講評会									
事前学習		制作に必要な各種資料の収集および支持体の準備を行う。							
事後学習		担当からのアドバイスを踏まえた上で、制作を続行する。							
履修上の注意		アトリエは常時使用可能なので、授業時間外での制作を意欲的に行う。							
成績評価の方法・基準		提出課題 90%(技能、表現力、創造性等)、平常点 10%(授業態度、集中力、主体性、協調性等)							
教科書		各種画集を使用する。							
参考書		各種画集を使用する。							

授業科目	洋画Ⅲ					担当者	森 敏美		
単位数	2	必・選	選	授業形式	実技	開講期	前期	対象	美3年
授業の概要 洋画のジャンルにおける幅の広さを認識し、各自に適した技法やテーマを申告し、その習得が実現できる様に取り組ませる。									
授業の目標(到達目標) 洋画Ⅰ・Ⅱを履修して身に付けた技法や、テーマを各自展開してゆく。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス。人物を(モデル使用)用いた制作Ⅰ①エスキース・下地・構図の確認									
2. 制作②全体像の把握									
3. 制作③各部の描きこみに入る									
4. 制作④詳細な描きこみ・完成へ									
5. 講評会Ⅰ									
6. 課題制作Ⅱ①エスキース・下地・構図の確認									
7. 制作②全体像の把握									
8. 制作③各部の描きこみに入る									
9. 制作④詳細な描きこみ・完成へ									
10. 講評会Ⅱ									
11. 課題制作Ⅲ①エスキース・下地・構図の確認									
12. 制作②全体像の把握									
13. 制作③各部の描きこみに入る									
14. 制作④詳細な描きこみ・完成へ									
15. 講評会Ⅲ									
事前学習	各自大学図書館やネットで参考作品や作家の研究を進める。								
事後学習	授業で足りない分は各自あいている時間帯で進める。								
履修上の注意	時間内に来て、準備をしておくこと。								
成績評価の方法・基準	課題作品評価 90%、平常点 10% (平常点は授業への参加状況および制作態度で判断する)								
教科書	資料配布								
参考書	使用しない								

授業科目		日本画Ⅰ				担当者	及川 聡子		
単位数	2	必・選	選	授業形式	実技	開講期	前期	対象	美2年
授業の概要									
デッサン、エスキースからタブローに至る制作を通し、日本画の基礎知識、基礎技法を学ばせる。 提出作品は 10 号以上。									
授業の目標(到達目標)									
描写力の養成を目指し、素描力を高めるとともに、日本画の画材の基礎知識、基礎技法を習得する。									
授業計画及び内容									
1. 導 入 科目の説明									
2. 構想									
3. デッサン									
4. デッサンからエスキース(小下図) 作成									
5. 大下図の制作 開始									
6. 大下図の制作 仕上げ 水張り									
7. タブロー(本画)制作 トレース 骨描き									
8. タブロー(本画)制作 墨にて陰影を施す									
9. タブロー(本画)制作 墨での陰影仕上げ									
10. タブロー(本画)制作 下塗り、下地作り									
11. タブロー(本画)制作 水干及び、岩絵具での大まかな描き込み									
12. タブロー(本画)制作 水干及び、岩絵具での各部分描き込み									
13. タブロー(本画)制作 水干及び、岩絵具での細部の描き込み									
14. タブロー(本画)制作 仕上げ									
15. 講評									
事前学習		明治時代から現代までの日本画を鑑賞し、 自分なりの感想を持っておくこと。							
事後学習		道具の手入れを心をこめて行うこと。制作の遅れがある場合、授業時間外の制作に努めること。							
履修上の注意		丹念に対象を観察すること。基本技法を素直な気持ちで習得すること。毒性のある赤系の絵の具は水道に流さない。朱を使用した皿は、拭き取り後、洗浄。							
成績評価の方法・基準		課題作品 70% (完成度 50% 意図・発想 20%)、 授業態度 30% (創作意欲や、創作の自主性等)							
教科書	無し。								
参考書	無し。								

授業科目		日本画Ⅱ				担当者	及川 聡子		
単位数	2	必・選	選	授業形式	実技	開講期	後期	対象	美2年
授業の概要									
制作1 テンプレートによって、様々な技法を体験させる。									
制作2 タブロー(本画) 制作(10号以上)により、制作1で身につけた技法を活用させる。									
授業の目標(到達目標)									
箔押しや盛り上げ等の日本画の様々なマチエルや、支持体へのドーサ引きによる描画の変化を体験する。日本画材以外の画材との併用も試み、自分の表現への日本画材の取り入れ方を模索する。									
授業計画及び内容									
1. 導入 科目の説明									
2. 制作1 : テストプレート ドーサ引き									
3. 制作1 : テストプレート 盛り上げ									
4. 制作1 : テストプレート 重ね塗り・たらし込みアクリルとの併用									
5. 制作1 : テストプレート 箔押し・絵具を焼く									
6. 制作2 : デッサン・資料研究 テーマの探求									
7. 制作2 : デッサン・資料研究 テーマの探究									
8. 制作2 : エスキース (小下図) 制作開始									
9. 制作2 : エスキース (小下図) 仕上げとトレース									
10. 制作2 : タブロー(本画)制作 墨での下描き、もしくは下地作り作り開始									
11. 制作2 : タブロー(本画)制作 墨での下描き、もしくは下地作り仕上げ									
12. 制作2 : タブロー(本画)制作 水干及び岩絵具での制作開始									
13. 制作2 : タブロー(本画)制作 水干及び岩絵具での制作描き込み									
14. 制作2 : タブロー(本画)制作 水干及び岩絵具での制作仕上げ									
15. 講評									
事前学習		速やかに制作を開始できるよう、各自、準備をすること。							
事後学習		道具の手入れを心をこめて行うこと。制作の遅れがある場合、授業時間外の制作に努めること。							
履修上の注意		毒性のある赤系の絵の具は水道で流さない。朱を使用した皿は、ふき取った後、洗浄。							
成績評価の方法・基準		課題作品 80% (完成度 50% 意図・発想 30%)、授業態度 20% (創作意欲や、創作の自主性等)							
教科書	無し。								
参考書	無し。								

授業科目		日本画Ⅲ				担当者	及川 聡子		
単位数	2	必・選	選	授業形式	実技	開講期	前期	対象	美3年
授業の概要									
自分のテーマを具体的に意識しながら制作させ、鑑賞者に制作の意図が伝わるよう努力させる。 素材の特質を意識させ、支持体の選択、マチエルの工夫をしながら制作させる。									
授業の目標(到達目標)									
自己や社会に向き合い、自分の表現におけるテーマを見いだす。表現に必要な技法を駆使し、また工夫し、自ら技法を編み出す力を付ける。									
授業計画及び内容									
1. 制作1 20号 構想・デッサン									
2. 制作1 20号 デッサン									
3. 制作1 20号 エスキース(小下図)制作開始									
4. 制作1 20号 エスキース(小下図)描き込み									
5. 制作1 20号 エスキース(小下図)仕上げ 水張り									
6. 制作1 20号 タブロー(本画)制作 トレース									
7. 制作1 20号 タブロー(本画) 墨による陰影描き込み仕上げ									
8. 制作1 20号 タブロー(本画) 墨による陰影描き込み開始									
9. 制作1 20号 タブロー(本画) 墨による陰影描き込み仕上げ									
10. 制作1 20号 タブロー(本画)下地作り 下塗り									
11. 制作1 20号 タブロー(本画)水干絵具及び岩絵具による大まかな描き込み									
12. 制作1 20号 タブロー(本画)水干絵具及び岩絵具による各部分の描き込み									
13. 制作1 20号 タブロー(本画)岩絵具による細部の描き込み									
14. 制作1 20号 タブロー(本画) 仕上げ									
15. 講評									
事前学習		速やかに制作を開始できるよう、各自、準備をすること。日本画に限らず、現代の美術表現、また美術以外の表現活動にも意識を向けるよう努めておくこと。							
事後学習		道具の手入れを心をこめて行うこと。							
履修上の注意		丹念に対象を観察すること。基本技法を素直な気持ちで習得すること。毒性のある赤系の絵の具は水道で流さない。 朱を使用した皿は、 絵の具をふき取り後、洗浄。							
成績評価の方法・基準		課題作品80％（完成度50％ 意図・発想30％）授業態度20％（創作意欲や、創作の自主性等）							
教科書	無し。								
参考書	無し。								

授業科目	版画 I					担当者	大堀 恵子		
単位数	2	必・選	選	授業形式	実技	開講期	前期	対象	美2年
授業の概要 シルクスクリーン、木版画の基本的な版種の制作工程を経験し、それぞれの版の特質にふれ、自己のイメージと版表現の融合ができるように指導する。									
授業の目標(到達目標) それぞれの版種の特徴や技法を理解し、実際の制作をととしての創作版画（Original Graphic Print Art）による表現の能力を身につける。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス・授業内容の説明									
2. 制作 シルクスクリーンについて（ビデオ鑑賞）、色料(マゼンダ、シアノ、イエロー) の三原色の実験									
3. 制作 イメージ決定後、版下を作り製版。									
4. 制作 印刷工程の流れを経験する。									
5. 制作 版を重ねてみる。									
6. 制作 版を重ねる順番をかえてみる。									
7. 制作 印刷する紙の素材をかえてみる。									
8. 講評会									
9. 制作 木版画について（ビデオ鑑賞）									
10. 制作 黒一色のイメージを考え、版にうつし彫版する。									
11. 制作 印刷する紙の色をかえる。									
12. 制作 色（赤、青、黄）の三原色によるイメージを考え、版にうつし彫版する。									
13. 制作 版を重ねてみる。									
14. 制作 版を重ねる順番をかえてみる。									
15. 講評会									
事前学習	版を制作し授業に臨むこと。								
事後学習	いろいろな展覧会を見ること。								
履修上の注意	作品の計画又は途中経過を記録する制作ノートを作成すること。								
成績評価の方法・基準	1. 課題作品（50%） 2. 制作ノート（30%） 3. 授業態度(20%)								
教科書	授業前にプリントを配布する。								
参考書	[版画ガイドブック][町田国際版画美術館][2,500 円]								

授業科目	版画Ⅱ					担当者	大堀 恵子		
単位数	2	必・選	選	授業形式	実技	開講期	後期	対象	美2年
授業の概要 リトグラフ、銅版の基本的な版種の制作工程を経験し、それぞれの版の特質にふれ、自己のイメージと版表現の融合ができるように指導する。									
授業の目標(到達目標) それぞれの版種の特徴や技法を理解し、実際の制作をとおしての創作版画（Original Graphic Print Art）による表現の能力を身につける。									
授業計画及び内容									
1.	ガイダンス 授業内容の説明								
2.	制作 リトグラフについて（ビデオ鑑賞）								
3.	制作 転写カーボン紙、紙の空刷り、版をつくる。								
4.	制作 版に描画								
5.	制作 製版工程								
6.	制作 印刷工程（主版）								
7.	制作 印刷工程（グラデーション）								
8.	講評会								
9.	制作 銅版（板紙凸凹版含む）について（ビデオ鑑賞）								
10.	制作 版に描画								
11.	制作 製版工程								
12.	制作 印刷工程の流れを経験する								
13.	制作 印刷する紙の素材をかえてみる								
14.	制作 印刷する紙の色をかえてみる								
15.	講評会								
事前学習	版を制作し授業に臨むこと								
事後学習	いろいろな展覧会を見る。								
履修上の注意	作品の計画又は途中経過を記録する制作ノートを作成する。								
成績評価の方法・基準	1. 課題作品（50%） 2. 制作ノート（30%） 3. 授業態度(20%)								
教科書	授業前にプリントを配布する。								
参考書	[版画ガイドブック][町田国際版画美術館][2,700 円]								

授業科目	版画Ⅲ					担当者	大堀 恵子		
単位数	2	必・選	選	授業形式	実技	開講期	前期	対象	美3年
授業の概要 2年次で経験した版種別の基本的な制作工程をふまえて、“版”による多様な表現を試み、より完成度の高い作品制作への指導を行い、版の重要な基本的性質のひとつである複数性を利用して、受講生全員による版画集制作を指導する。									
授業の目標(到達目標) 版画は直接筆や鉛筆を使って描いていく絵画と違い、版という間接的な素材と制作工程を経ることによって絵画表現とは異なった表現効果がある。これらの試行錯誤を自身の制作ノートの中に記録として残し、制作の充実をはかる能力を身につける。									
授業計画及び内容									
1.	ガイダンスー授業内容の確認								
2.	制作Ⅰ テーマ・エスキース								
3.	Ⅰ 版制作・製版								
4.	Ⅰ 試刷り								
5.	Ⅰ 本刷り								
6.	制作Ⅱ 版制作・製版								
7.	Ⅱ 試刷り								
8.	Ⅱ 本刷り								
9.	制作Ⅲ 版制作・製版								
10.	Ⅲ 試刷り								
11.	Ⅲ 本刷り								
12.	版画集制作・表紙のデザイン検討・印刷								
13.	版画集制作・中表紙のデザイン検討・印刷								
14.	版画集にまとめる								
15.	講評会								
事前学習	版を制作し、授業に臨むこと。								
事後学習	いろいろな展覧会を見ること。								
履修上の注意	制作ノートにそれぞれの版種別プロセスと制作の試行錯誤をまとめること。								
成績評価の方法・基準	1 提出課題（50％） 2 制作ノート（30％） 3 平常点（取り組む姿勢、意欲 20％）								
教科書	授業前にプリントを配布する。								
参考書	随時紹介。								

授業科目		壁画Ⅰ				担当者	森 敏美		
単位数	2	必・選	選	授業形式	実技	開講期	前期	対象	美2年
授業の概要									
昔のモザイクの模写を通して、モザイクの考え方や正確な技法を身につけさせる。									
授業の目標(到達目標)									
絵画には様々な技法があるが、その中に最も古い技法のひとつとして壁画がある。 ここではその古典技法の一つであるモザイクの歴史と技法を、制作を通して身に付ける事ができる。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス：画集で作品紹介。材料、用具等の説明。									
2. 下 絵 制 作：模写をする為、画集から選考し下絵を作る。									
3. 材料研究：模写の材料を選択し、材料の加工に入る。									
4. 制 作：パネル制作・材料加工準備。									
5. パネル周辺からモザイクをはり出す。									
6. 徐々に内側に。									
7. モチーフの中心部を手がける。									
8. モチーフを仕上げて行く。									
9. モチーフと周辺のバランスを見て行く。									
10. 周辺部分とモチーフ絵柄の部分を合わせて行く。									
11. 次第に完成に近づける。									
12. 細部を仕上げて行く。									
13. 全体のバランスを見て仕上げる。									
14. 作品完成， 片付け， 材料整理。									
15. 講 評 会									
事 前 学 習		図書館、工房でモザイクの画集等を見ておく。							
事 後 学 習		担当教員の指示を受け、必要とあれば制作する事。							
履修上の注意		時間に遅れない事、授業内で足りない分は、 空き時間も利用し完成させる。							
成績評価の方法・基準		課題制作 90%、平常点 10%（平常点は授業への参加状況および制作態度で判断する）							
教科書	資料配布。								
参考書	図書館、工房にあるもの。								

授業科目		壁画Ⅱ				担当者	森 敏美		
単位数	2	必・選	選	授業形式	実技	開講期	後期	対象	美2年
授業の概要 基本的なステンドグラスの模写を通して技法を学び、絵付け等の技法を身につけさせる。									
授業の目標(到達目標) 壁画の古典技法の一つであるステンドグラスの歴史と技法を学ぶ事ができ、作品を仕上げる事ができる。									
授業計画及び内容									
1.	ガイダンス：図書館の画集や工房の資料を利用し説明。								
2.	下 絵 制 作：模写をする為、画集等を見てコピーしトレースする。								
3.	制 作：型紙制作とガラスのカット練習。								
4.	ガラスカット練習（型紙を使う）								
5.	第1回絵付け（ラインをひく） 釜入れ								
6.	ぼかし絵付け 釜入れ								
7.	ガラス組み作品カット								
8.	第2回絵付け（ライン入れ） 釜入れ								
9.	ぼかし絵付け 釜入れ								
10.	シルバーステイン作業 釜入れ								
11.	ガラス調整								
12.	コパーテープ巻き								
13.	ハンダ付け								
14.	仕上げ								
15.	講 評 会								
事前学習		ステンドグラス絵付けの技法書を必ず読むこと。							
事後学習		担当教員の指示を受け、必要とあれば制作すること。							
履修上の注意		時間に遅れない事、授業内で足りない分は、空き時間も利用し制作を行なう。							
成績評価の方法・基準		課題制作 90%、平常点 10%（平常点は授業への参加状況および制作態度で判断する）							
教科書		資料配布。							
参考書		大学図書館、工房にある関係図書。							

授業科目		壁画Ⅲ				担当者	森 敏美		
単位数	2	必・選	選	授業形式	実技	開講期	前期	対象	美3年
授業の概要 空間を演出する壁画として、2年次に学んだ壁画の各技法を申告し、制作にあたってもらう。更に2年次で習得できなかった技法を学ぶ場合も申告で対応する。									
授業の目標(到達目標) 2年次で学んだ壁画技法の熟達と、空間演出としての壁画の認識を深めてゆき、創作力を発揮した作品を作る事ができる。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス：技法を選択し申告する。									
2. 制作：エスキース・マケット等制作									
3. 材料研究									
4. 本制作（パネル製作等）									
5. 材料準備									
6. 作業1 制作に入る									
7. 作業2 制作過程を確認									
8. 作業3 全体像を把握する									
9. 作業4 全体像の作りこみ									
10. 作業5 各部位の作りこみ									
11. 作業6 各部位の確認									
12. 作業7 詳細の作りこみに入る									
13. 作業8 詳細のバランス確認									
14. 作業9 仕上げ、完成									
15. 作業10 講評会									
事前学習		制作に必要な各種技法書を読んでおく。							
事後学習		担当教員の指示を受け、制作に専念する事。							
履修上の注意		担当教員の指示を受け、意欲的に制作すること。							
成績評価の方法・基準		課題（制作）90%、含む平常点10%（平常点は授業への参加状況および制作態度で判断する）							
教科書		資料配布。							
参考書		特になし。							

授業科目		彫刻基礎Ⅰ				担当者	佐藤 淳一		
単位数	2	必・選	必	授業形式	実技	開講期	前期	対象	美1年
授業の概要 塑造により友人の頭像を制作し 彫刻の造形要素について体得します。 また、石膏型取りの基本を指導します。									
授業の目標(到達目標) 彫刻の造形要素について、理解できる。素材（粘土）の扱いに慣れ、塑像法を習得できる。生命的イメージについて理解し作品として表現することができる。石膏技法に慣れ、石膏取りの技法を修得できる。									
授業計画及び内容									
1. 彫刻について「世界をつなぐ彫刻」解説									
2. 友人の頭部（彫刻的デッサン）、頭蓋骨研究 講評									
3. 制作（粘土ねり、心作り）									
4. 制作（荒付け…面取り）									
5. 制作（荒付け…塊と動勢）									
6. 制作（全体と部分）									
7. 制作（細部、表面）									
8. 講評会（自分や他の人の作品について述べるができる）									
9. 石膏取り 解説、									
10. 石膏取り 雌型作り、振りかけ、厚み付け									
11. 石膏取り 型はずし									
12. 石膏取り 粘土掻き出し									
13. 石膏取り 離型、張り込み									
14. 石膏取り 割り出し、修正									
15. 講評会									
事前学習		自分の手等のデッサンをクロッキーブック等にする（授業で指示します）							
事後学習		彫刻作品集（授業で指示します）							
履修上の注意		河北美術展彫刻部見学レポート等、時間外も課題に積極的に取り組むこと。							
成績評価の方法・基準		作品（40%）、授業態度（粘り強く制作しているか20%、積極的に意見を発表し、他の人の意見を聞いているか10%、学んだ事を制作に活かしているか10%）、提出レポート（20%）							
教科書		なし。							
参考書		[彫刻をつくる][建畠 覚造著][美術出版社][2,400 円]							

授業科目		彫刻基礎Ⅱ				担当者	佐藤 淳一		
単位数	2	必・選	選	授業形式	実技	開講期	後期	対象	美1年
授業の概要 軟石を使用して、動物彫刻を制作する。八木山動物園で実際の動物を見て、その生命力を具象的に表現する。学内を展示の「場」と考え作品を仮設置することで彫刻作品の可能性について指導します。									
授業の目標(到達目標) 彫刻の造形要素について、素材を通して理解できる。彫造の方法について理解できる。石膏取りを正確にできる。生命的イメージを石で表現できる。学内での石彫アートの展示会を企画し、運営できる。									
授業計画及び内容									
1.	ガイダンス（授業の内容と計画）								
2.	八木山動物園にてデッサン、動物研究								
3.	エスキース制作（土粘土使用） 「場」についての考察								
4.	石膏取り（外型）								
5.	〃（内型、割り出し、修正）完成 講評								
6.	石彫（動物彫刻） 石材と彫刻について 学内という「場」について								
7.	〃 〃 面取り								
8.	〃 〃 塊と動勢、彫造の方法								
9.	〃 〃 量と量の関係								
10.	〃 〃 軟石の制作法								
11.	〃 〃 表面とイメージ								
12.	〃 〃 生命的イメージ								
13.	〃 〃 作品と密度								
14.	学内石彫アート展、準備作業、設置場所検討								
15.	学内石彫アート展搬入、広報、展示、開催								
事前学習		動物の骨格、動き等について研究しておくこと。							
事後学習		動物彫刻の作品集を鑑賞する。							
履修上の注意		宮城県芸術祭彫刻展見学レポート等、積極的に取り組むこと。							
成績評価の方法・基準		作品（設置空間「場」を意識しているか）（40%）、授業態度（粘り強く制作しているか 20%、積極的に意見を発表し、他の人の意見を聞いているか 10%、学んだ事を制作に活かしているか 10%）、提出レポート（20%）							
教科書		なし。							
参考書		[彫刻をつくる][建畠 覚造著][美術出版社][2,400 円]							

授業科目		彫刻 I				担当者	佐藤 淳一		
単位数	2	必・選	選	授業形式	実技	開講期	前期	対象	美2年
授業の概要 人体塑像の制作を行なう。人体をモチーフとして心作りから粘土付の制作を体験する。 人体からインスパイアされたイメージを石膏を素材として展開し抽象彫刻の制作を指導します。									
授業の目標(到達目標) 人体彫刻の造形要素について理解できる。制作に対して意欲的にとり組み作品を完成することができる。人体から感得したイメージを抽象彫刻として展開することができる。									
授業計画及び内容									
1. 人体彫刻を知る。(のぞみ研究、デッサン)									
2. 骨学、解剖学講義(人体について理解する、骨デッサン)									
3. モデルデッサン ポーズの研究									
4. 心作り 粘土練り									
5. 荒付け 制作の方法 量と面、塊と塊の関係									
6. " 比例(量と量)、量感									
7. 作りこみ 粘土付の方法									
8. " 自己イメージの具現化									
9. 粘土作品講評									
10. 抽象彫刻 作例研究 野外彫刻と空間									
11. " デッサン、心棒制作									
12. " 石膏について、石膏荒付け									
13. " 石膏彫刻法									
14. " 石膏細部彫刻法、磨き									
15. 完成、講評、感想発表									
事前学習		自分の手、腕、等をクロッキーしたり、デッサンしたりしておくこと。							
事後学習		具象、抽象彫刻の作品集を見て研究すること。							
履修上の注意		河北美術展彫刻部見学レポート等、時間外も課題に積極的に取り組むこと。							
成績評価の方法・基準		作品完成度(40%)、関心・態度(40%)、提出レポート(20%)							
教科書		資料配布。							
参考書		[彫塑][岩野勇三 著][日貿出版社][3,800 円]							

授業科目		彫刻Ⅱ				担当者	佐藤 淳一		
単位数	2	必・選	選	授業形式	実技	開講期	後期	対象	美2年
授業の概要 石、木、鉄、樹脂を素材として、主として抽象表現をとりあげて自己のイメージを作品として表現する。彫刻が置かれる「場」と「空間」と「作品」の関係性について野外アート展を企画させ、実践をさせながら研究させる。									
授業の目標(到達目標) 素材（石・木・鉄・樹脂）を使用して造形思考を深める。彫造方法を十分に理解し、独創的に展開できる。自己のイメージと素材の関係を理解し、野外彫刻作品として「場」や「空間」を意識して表現できる。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス 授業のねらい、計画について説明する。									
2. 学内の空間を研究し、作品と場の関係を研究する。デッサン、構想図									
3. 学内の設置場所を確定し、実際の場所を考慮したマケット制作									
4. 石彫、木彫、鉄材実技（野外彫刻としての可能性）									
5. （荒作りのやり方、道具使用法）									
6. （彫造法）									
7. （作りこみ）									
8. （彫造法－細部）									
9. （密度）									
10. （野外彫刻としての展開）									
11. （ペーパースカルプチュアー）									
12. （溶接、溶断）									
13. 設置場所の再検討（場）									
14. 野外アート展準備									
15. 野外アート展準備、設営計画、実施準備									
事前学習		樹木や風景等をデッサンすること。厚紙等を構成するトレーニングをしておくこと。							
事後学習		国内、海外の設置された彫刻作品集を見ておくこと。							
履修上の注意		宮城県芸術祭レポート、新現美術協会展のレポートに積極的に取り組むこと。							
成績評価の方法・基準		作品完成度（40%）、関心・態度（40%）、提出レポート（20%）							
教科書		資料配布。							
参考書		授業で紹介します。							

授業科目		彫刻Ⅲ				担当者	佐藤 淳一		
単位数	2	必・選	選	授業形式	実技	開講期	前期	対象	美3年
授業の概要 2年生までの基礎的造形思考・技能をさらに発展させて、自己の造形思考を磨き、作品として完成させて公募展で発表し、野外アート展を企画しながら彫刻の可能性を研究させる。									
授業の目標(到達目標) 作品、作家研究を行い様々な造形思考を理解できる。自己の造形思考を深めることができる。公募展に作品を出品し、様々な「場」での彫刻の可能性を追求する事ができる。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス (目的・計画)									
2. 作品研究 ブランクーシ、ヘンリームア、ジョージシーガル									
3. 〃 ジャコメッティ、ミシュトロビッチ、イサムノグチ									
4. 〃 流 政之、建畠寛造、佐藤忠良、舟越保武									
5. 素材研究(石材、木材、金属、その他)									
6. テーマ研究(彫刻論、造形論他)									
7. デッサン(イメージ検討)マケット制作									
8. マケット型取り、修正									
9. 素材選択									
10. 素材荒作り 1 量のバランス									
11. 〃 2 量のハーモニー									
12. 中作り 1 量の密度									
13. 〃 2 量と空間									
14. 作品と「場」プレゼン									
15. 展示発表、講評									
事前学習		授業でとりあげる作家をよく研究しておくこと。							
事後学習		授業時の課題、自己の課題。							
履修上の注意		授業でとりあげる展覧会等についてのレポートも重要。							
成績評価の方法・基準		作品 (40%)、授業態度 (40%)、提出レポート (20%)							
教科書		資料配布。							
参考書		授業で紹介します。							

授業科目		工芸基礎(プロダクト制作を含む)Ⅰ・Ⅱ				担当者	林 範親		
単位数	各 2	必・選	Ⅰ(必) Ⅱ(選)	授業形式	実技	開講期	Ⅰ-前 Ⅱ-後	対象	美 1 年
授業の概要 木を材料とした工芸としての木工について説明し、 鋸や鑿などの基本的な道具や、 プロダクト制作に欠かせない木工旋盤などを使用して小木工芸品を制作させる。									
授業の目標(到達目標) 工芸の要素としての用途、 材料、 加工技術、 美的感覚を、 鑑賞や制作を通して、 工芸とは工芸品とは何かを学修する。 さらに木の質感、 加工、 成形の楽しさなど、 その魅力を体感し、 木工への意欲を高める。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス：講義・工芸について、 木工とは 参考資料等を見る									
2. 実 習 準 備：木工の道具について、 材料について									
3. // : デザイン及び制作について									
4. 課題① 板物による制作									
5. カッティングボード等のデザイン									
6. カッティングボード等の制作									
7. 課題② 刳物による制作									
8. スプーン等のデザイン									
9. スプーン等の制作									
10. 課題③ 挽物による制作									
11. 木工旋盤による小皿等のデザイン									
12. 木工旋盤による小皿等の制作									
13. 課題④ 寄木や木象嵌など木による装飾技法を決め、デザインをする。									
14. 寄木や木象嵌など木による装飾技法を行う									
15. まとめ：講評会									
事前学習		普段の生活においてスプーンやまな板、 皿などの生活用具を意識して見る事。 又使い勝手を確認し、 時にはそのサイズを計ってみる。 雑貨店をまわり、 実際に小木工品等を数多く見ること。							
事後学習		自身の作品を実際に使ってみて、 使い勝手や機能・デザインをチェックし、 次につなげる。							
履修上の注意		作業しやすい服装で受講し、ケガには充分注意すること。							
成績評価の方法・基準		課題作品 70% (アイディア・オリジナリティ 3、デザイン 3、テクニク 2、完成度 2) 遅刻・欠席、授業への取り組み方や意欲 30%							
教科書		なし。							
参考書		随時紹介。							

授業科目		工芸基礎(プロダクト制作を含む)Ⅰ・Ⅱ				担当者	立花 布美子		
単位数	各 2	必・選	Ⅰ(必) Ⅱ(選)	授業形式	実技	開講期	Ⅰ-前 Ⅱ-後	対象	美 1 年
授業の概要 ・ やきものの歴史、陶土・磁土の違い、作業工程、釉薬の特性、各用途に合わせた基礎となる技術を習得できるよう指導する。 ・ 道具の手入れ、管理について教授する。									
授業の目標(到達目標) 陶芸(やきもの)の基礎知識、作業工程、道具の使用法を学び、制作や鑑賞を通して“やきもの”についての理解を深める。									
授業計画及び内容									
1.	ガイダンス 製陶法(歴史、陶土・磁土、釉薬について、作業工程等)								
2.	・土練り(荒練り、菊練り)、紐づくり練習								
3.	・手びねり成形①つまみ出し成形による飯碗制作								
4.	②つまみ出し成形による飯碗仕上げ								
5.	③紐づくり成形によるマグカップ制作(切立・各自デザインの2種)								
6.	④紐づくり成形によるマグカップ仕上げ(切立)								
7.	⑤紐づくり成形によるマグカップ仕上げ(各自デザイン)								乾燥後、随時窯詰め
8.	・タタラ(板)成形①板皿制作 粘土をスライスする								作業(素焼き)
9.	②板皿制作 形のデザイン、(石膏による押し型成形も含)								
10.	③陶箱制作 顔料の練込み・粘土をスライスする								
11.	④陶箱制作 カット・組み立て、仕上げ								
12.	・釉掛け(飯碗・マグカップ) *釉薬の掛け分け								
13.	・釉掛け(板皿) *下絵付けによる装飾								掛け後、随時窯詰め
14.	・釉掛け(陶箱) → 窯詰め(本焼き)								作業(本焼き)
15.	窯出し 講評								
事前学習		工芸作品に関する参考資料収集、鑑賞を行うこと。							
事後学習		各回、作業日誌を記入し、ポイントをまとめる。 授業内で各自個別指導を行う。							
履修上の注意		工芸基礎科目であるため、欠席・遅刻の無いよう授業に臨むこと。							
成績評価の方法・基準		授業参加状況 50% 課題作品 50%							
教科書		授業前にプリントを配布する。							
参考書		随時紹介する。							

授業科目		工芸基礎(プロダクト制作を含む)Ⅰ・Ⅱ				担当者	三浦 輝子		
単位数	各 2	必・選	Ⅰ(必) Ⅱ(選)	授業形式	実技	開講期	Ⅰ-前 Ⅱ-後	対象	美 1 年
授業の概要 織計画に基づく組織図の記入方法及び浸染（酸性染料）による糸染めについて指導を行う。色糸効果では、平織の色糸配列によるパターンの可能性に関する探究を行い、染織の用具等についても教授する。									
授業の目標(到達目標) 浸染実習では、染色器具、染料、助剤の役割について理解を深め、基本的な染色技法を習得する。織実習では三原組織と織機の構造について学び、平織りの技法を身につける。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス染織の基礎知識について									
2. 織り実習：色糸効果 平織りの組織図と色糸配列について									
3. 〃 ：織計画 デザイン									
4. 〃 ：糸量の計算									
5. 浸染実習：糸の総分け									
6. 〃 ：精練（羊毛）									
7. 〃 ：浸染（酸性染料）1 色目									
8. 〃 ：浸染（酸性染料）2 色目									
9. 〃 ：糸巻き 色見本帳制作									
10. 織り実習：整経									
11. 〃 ：機上げ（卓上機）									
12. 〃 ：織り作業①（下部）									
13. 〃 ：織り作業②（上部）									
14. 〃 ：仕上げ									
15. 自動織機「織華」を用いた三原組織の試織									
事前学習		制作に必要な事前調査・資料収集を行う。							
事後学習		制作記録ノートをまとめる。							
履修上の注意		染料・助剤等の化学薬品使用時は、作業内容に応じて仕事着、防護メガネを着用のこと。							
成績評価の方法・基準		提出課題 80%、出席を含む平常点 20%（平常点は制作への取り組み等総合的に判断する。）							
教科書		授業前にプリントを配布する。							
参考書		[図解 染織技術事典][田中清香 土肥悦子][理工学社][4200 円]							

授業科目		工芸基礎(プロダクト制作を含む)Ⅰ・Ⅱ			担当者	井上 直美			
単位数	各 2	必・選	Ⅰ(必) Ⅱ(選)	授業形式	実技	開講期	Ⅰ-前 Ⅱ-後	対象	美 1 年
授業の概要 摺漆（漆を拭き重ねる、10 回以上）のお椀 2 客を制作させ、漆がすでに塗ってある黒塗皿への加飾 2 枚を制作させる。 後半に、お椀制作と平行して塗り皿への加飾を学ばせる。									
授業の目標(到達目標) 漆芸技法の中でも基礎といえる摺漆技法を通し、漆の特性と可能性を知る。 摺漆技法を身に付ける。 漆の特性を知る。(性質) 箔絵・漆絵による加飾の多様な表現ができる力を身に付ける。									
授業計画及び内容									
1.	講義・漆について。 授業の説明・注意、 作品の紹介、 ビデオ鑑賞								
2.	材料配布・木地調整・木地固め								
3.	目止め、 塗り皿のデザイン考察								
4.	目止め研ぎ、 箔絵作業 （金箔、 銀箔を貼って絵や文様を見せる）								
5.	述べ摺り 漆 1：灯油 2 箔絵下書き 漆絵作業（既存の色漆を使って自由に絵を書く）								
6.	述べ摺り 漆 1：灯油 1 箔絵マスキング 漆絵下書き								
7.	述べ摺り 漆 2：灯油 1 箔貼り 1 回目 マスキング								
8.	述べ摺り 漆 3：灯油 1 箔貼り 2 回目 色漆塗り 1 色目								
9.	生摺り 1 回目 箔貼り 3 回目 色漆塗り 2 色目								
10.	生摺り 2 回目 箔仕上げ 色漆塗り 3 色目								
11.	生摺り 3 回目 摺り漆 色漆塗り 4 色目								
12.	生摺り 4 回目 調整 仕上げ								
13.	生摺り 5 回目 サイン サイン								
14.	生摺り 6 回目、 サイン								
15.	磨き・合評会								
事前学習		櫨のお椀を使用するので木の種類などが載っている図鑑などあったら見ておく。 塗り皿の加飾の図柄の参考になる本、 画集などあったら見ておく。							
事後学習		摺り漆の回数が足りない人は各自制作しておく。							
履修上の注意		漆はかぶれますので、取り扱いに注意する。忘れ物をしない。作業着を着用上、 授業に望むこと。							
成績評価の方法・基準		授業態度（50％）→積極性、 普段の姿勢、 理解度など 作品提出（50％）→ 完成度、 デザイン、 センス、 成長率							
教科書	特になし。								
参考書	[やさしく身に付くうるしのはなし 1][日本漆工協会][2160 円]。								

授業科目		木工Ⅰ				担当者	林 範親		
単位数	2	必・選	選	授業形式	実技	開講期	前期	対象	美2年
授業の概要									
木工の概論を教授し基本的な道具の使い方と調整の仕方、刃の研ぎ方を解説する。木工の基礎として基本型の小箱とオリジナルな小箱のデザインと制作をさせる。その間、グリーンアドベンチャーを通して木材となる樹木を解説し、工芸の展覧会で木工作品を見学させる。									
授業の目標(到達目標)									
鉋、鋸、鑿等、道具の基本的な使い方、刃の研ぎや調整の仕方を制作を通して体得する。制作として小箱を取りあげ、木工技法の基本を学修し身に付ける。さらにオリジナルな小箱の制作を試み、デザインと材料としての木材と、その加工技術の関係を実践を通して身に付ける。									
授業計画及び内容									
1.	ガイダンス：シラバス説明・参考資料及び参考図書を見る。								
2.	木工概論：道具について、材料について、グリーンアドベンチャー								
3.	道具の調整と研ぎ：鉋								
4.	〃：鑿								
5.	基礎木工：◎小箱（基本形）の制作								
6.	〃：・箱について								
7.	〃：・板削り、木取り・墨付け								
8.	〃：・組み立て加工								
9.	〃：・仕上げ								
10.	工芸展見学 木工芸品の鑑賞								
11.	課題制作：◎オリジナルな小箱のデザインと制作								
12.	〃：・木取り・墨付け								
13.	〃：・組み立て加工								
14.	〃：・仕上げ								
15.	ま と め：講 評 会								
事前学習		箱について普段から意識して見て触れてみる。							
事後学習		利用した箱を実際使用して、使い勝手やデザイン等を省みる。							
履修上の注意		作業しやすい服装と遅刻をしない事（授業の最初で諸説明を行う）							
成績評価の方法・基準		課題作品 50%（デザイン 4、アイディア・オリジナリティ 3、テクニック 3） 授業への取り組み方や意欲 25% 出席や遅刻 25%							
教科書	使用せず。								
参考書	随時紹介する。								

授業科目		木工Ⅱ				担当者	林 範親		
単位数	2	必・選	選	授業形式	実技	開講期	後期	対象	美2年
授業の概要 家具のデザインを教授する。小テーブルのデザイン及び制作を指導する。 その間、刃物等、 道具店や家具ショールームを見学させる。									
授業の目標(到達目標) 木工Ⅰで学んだ基本をもとに、技術的、アイディア・センス等デザイン的な向上を目ざしその能力を身に付ける。 鉋や鑿などの刃物の研ぎを習得する。									
授業計画及び内容									
1. 家具のデザイン：◎小テーブルのデザインについて									
2. 〃 : ・テーブルについて、 参考資料等を見る									
3. 〃 : ・テーブルデザインとして									
4. 〃 : アイディアスケッチ、デザイン図の作成									
5. 〃 : デザイン図及び図面									
6. 家具ショールームや道具店の見学									
7. 小テーブルの制作：荒木取り									
8. 〃 : 鉋削り									
9. 〃 : 墨付け									
10. 〃 : 木取り									
11. 〃 : 接合等組み立て加工									
12. 〃 : ・天板巾矧ぎ									
13. 〃 : ・加工									
14. 〃 : 仮組み・調整・組み立て・仕上げ									
15. まとめ：合評会									
事前学習		普段の生活の中で使用する家具（テーブル等）を意識し、よく観察する。							
事後学習		制作したテーブルを実際使用することで、その機能・使い勝手やデザイン等をチェックし次につなげる。							
履修上の注意		作業しやすい服装と遅刻をしない事。（授業の最初に諸説明を行う）							
成績評価の方法・基準		課題作品 50%（デザイン 4、アイディア・オリジナリティ 3、テクニック 3） 授業への取り組み方や意欲 25% 出席や遅刻 25%							
教科書		特になし。							
参考書		随時紹介する。							

授業科目		木工Ⅲ				担当者	林 範親		
単位数	2	必・選	選	授業形式	実技	開講期	前期	対象	美3年
授業の概要									
家具のデザインを教授する。小棚や棚物のデザイン及び制作を指導する。模型の制作や試作を指導する。									
授業の目標(到達目標)									
課題制作を通して、鉋、鑿等の刃の研ぎと調整を修得する。さらに木工の諸道具の使い方を修得し、技術的、デザイン的な向上を目ざし、その能力を身に付ける。									
授業計画及び内容									
1.	ガイダンス 参考資料を見る								
2.	小棚のデザイン及び制作について								
3.	棚を中心とした家具等の鑑賞								
4.	小棚のデザイン								
5.	図面の制作								
6.	材料・構造・技法等の検討								
7.	板削り								
8.	木取り								
9.	墨付け(接合部)								
10.	組み立て加工 天板・側板の接合部								
11.	組み立て加工 仕切板・底板・台輪の接合部								
12.	仮組み 調整								
13.	本組み								
14.	仕上げ								
15.	まとめ：講評会								
事前学習		各作業の事前の準備をしっかりとしておく事。							
事後学習		使用後の道具の手入れや刃を研ぐ等の準備をしておく事。							
履修上の注意		木工Ⅰ・Ⅱを修得していること。作業しやすい服装。遅刻しない事。							
成績評価の方法・基準		課題作品 70%（デザイン 4、 アイディア・オリジナリティ 2・テクニック 2・完成度 2） 授業への取り組み方や意欲 30%							
教科書	特になし。								
参考書	随時紹介する。								

授業科目		陶芸Ⅰ				担当者	立花 布美子		
単位数	2	必・選	選	授業形式	実技	開講期	前期	対象	美2年
授業の概要									
・工芸基礎で学んだ技法を更に深め、化粧泥による加飾、仕上げ、削り作業ができるよう指導する。 ・電動ろくろの基本的行程、焼成までの窯詰め作業（素焼き・本焼き）を指導する。									
授業の目標(到達目標)									
・粘土、釉薬の特性を活かし、様々な制作（加飾）方法を習得できるようになる。 ・電動ろくろ成形での反復練習により、基礎となる行程技術を習得できるようになる。									
授業計画及び内容									
1.	ガイダンス	製陶法の復習		化粧泥による加飾の説明					
2.	土練り（菊練り）・電動ろくろの練習	A か B のどちらかの制作を選択する							
3.	【A 電動ろくろ成形】 練習1 菊練り、土殺し				B 手びねり成形による組物制作 デザイン				
4.	練習2 菊練り、土殺し、土取り				トンボの制作				
5.	練習3 菊練り、土殺し、土取り、パイ挽き				①制作（ひねり or 紐づくり）				
6.	①-1菊練り、土殺し、土取り、パイ挽き、水挽き				①制作、削り仕上げ（化粧泥による加飾）				
7.	①-2 削り仕上げ（化粧泥による加飾）				①削り仕上げ（化粧泥による加飾）				
8.	②-1菊練り、土殺し、土取り、パイ挽き、水挽き				②制作、削り仕上げ （化粧泥による加飾）				A・B 共通 乾燥後、 随時窯詰め作業 （素焼き→本焼き）
9.	②-2 削り仕上げ（化粧泥による加飾）				②制作、削り仕上げ （化粧泥による加飾）				
10.	③-1菊練り、土殺し、土取り、パイ挽き、水挽き				②制作、削り仕上げ （化粧泥による加飾）				
11.	③-2 削り仕上げ（化粧泥による加飾）				①②仕上げ（化粧泥による加飾）				
12.	④-1菊練り、土殺し、土取り、パイ挽き、水挽き				①②仕上げ（化粧泥による加飾）				
13.	④-2 削り仕上げ（化粧泥による加飾）				釉掛け（透明釉）				
14.	釉掛け（掛け分け可）				釉掛け（ワラ白釉）				
15.	窯出し 講評								
事前学習		工芸作品に関する参考資料収集、鑑賞を行うこと。 化粧泥、トンボ、電動ろくろ工程について事前に調べておくこと。							
事後学習		各回、作業日誌を記入し、ポイントをまとめる。 授業内で各自個別指導を行う。							
履修上の注意		工芸基礎Ⅰ、Ⅱ（陶芸）のどちらかを履修していることが望ましい。 焼成日に合わせて計画的に作業を進めること。							
成績評価の方法・基準		授業参加状況 50% 課題作品 50%							
教科書	授業前にプリントを配布する。								
参考書	随時紹介する。								

業科目	陶芸Ⅱ					担当者	立花 布美子		
単位数	2	必・選	選	授業形式	実技	開講期	後期	対象	美2年
授業の概要 ・型おこし成形の利点、石膏の扱い方を指導する。 ・工芸基礎で指導した知識や技術を踏まえた上での様々な加飾を行い、各々に適した制作の段取りや進め方を理解できるよう指導する。									
授業の目標(到達目標) 粘土、釉薬の特性を習得し、更に機能性を考えたデザイン制作を試みる。 また、石膏の扱い方、特性を理解できるようになる。									
授業計画及び内容									
1.	ガイダンス ・型おこし（押し型） 成形による箸置き or ペーパーウェイト制作								
2.	デザイン、 原型づくり								
3.	原型づくり 仕上げ								
4.	石膏型づくり（凹型）								
5.	石膏型づくり（凸型） カリ石鹸の理解								
6.	石膏型仕上げ 型おこし後、随時バリ取り仕上げ								
7.	自由成形による組物制作①各成形法 デザイン								
8.	①各成形法 制作								
9.	②各成形法 制作								
10.	①各成形法 制作 削り仕上げ								
11.	②各成形法 制作 削り仕上げ								
12.	①各成形法 仕上げ								
13.	②各成形法 仕上げ								
14.	（下絵付け） → 釉掛け（掛け分けも可）								
15.	窯出し プレゼンテーション 講評								
事前学習	工芸作品に関する参考資料収集、鑑賞を行うこと。 石膏の特徴を調べておくこと								
事後学習	各回、作業日誌を記入し、ポイントをまとめる。 授業内で各自個別指導を行う。								
履修上の注意	工芸基礎Ⅰ、Ⅱ（陶芸）のどちらかを履修していることが望ましい。 焼成日に合わせて計画的に作業を進めること。彫刻刀を各自準備すること。								
成績評価の方法・基準	授業参加状況 50% 課題作品 50%								
教科書	授業前にプリントを配布する。								
参考書	随時紹介する。								

授業科目		陶芸Ⅲ				担当者	立花 布美子		
単位数	2	必・選	選	授業形式	実技	開講期	前期	対象	美3年
授業の概要									
・ 鑄込み成形で制作する利点や、石膏の扱い方、泥しょう作りの工程を指導する。 ・ 石膏、泥しょうの特徴を教授し、他の成形法での活用ができるよう指導する。									
授業の目標(到達目標)									
粘土、釉薬の特性を習得し、美的で機能的なデザインを考え、作品を制作する技能や表現力を身に付ける。また陶芸Ⅰ・Ⅱで学んだ知識と技術を更に高め、完成度の高い作品を目指し、制作過程において効率の良い段取りを組めるようになる。									
授業計画及び内容									
1.	ガイダンス 製陶法の復習 石膏の扱い方 泥しょう鑄込みとは								
2.	鑄込み成形①デザイン								
3.	②原型づくり								
4.	③石膏型づくり（凹型）								
5.	④石膏型づくり（凸型）								
6.	⑤泥しょうづくり(攪拌機、珪酸ソーダの扱い方)								
7.	⑥泥しょうづくり(泥しょうの保存法)								
8.	⑦鑄込み 型外し								
9.	⑧鑄込み 型外し バリ取り								
10.	⑨鑄込み 型外し バリ取り仕上げ								
11.	⑩鑄込み 型外し バリ取り仕上げ(ヤスリがけ)								
12.	⑪仕上げ（ヤスリがけ）								
13.	加飾 釉掛け（掛け分けも可）								
14.	加飾 釉掛け（掛け分けも可）								
15.	窯出し プレゼンテーション 講評								
事前学習		工芸作品に関する参考資料収集、鑑賞を行うこと。泥しょう鑄込みについて調べておくこと。							
事後学習		各回、作業日誌を記入し、ポイントをまとめる。 授業内で各自個別指導を行う。							
履修上の注意		焼成日に合わせ、計画的に作業を進めること。彫刻刀を各自準備すること。							
成績評価の方法・基準		授業参加状況 50% 課題作品 50%							
教科書	授業前にプリントを配布する。								
参考書	随時紹介する。								

授業科目		漆芸Ⅰ				担当者	井上 直美		
単位数	2	必・選	選	授業形式	実技	開講期	前期	対象	美2年
授業の概要									
既存の木地・皿盆を利用して、漆芸の基本である漆（きゅうしつ塗りの事）の工程を学ばせる。 径 27 cm、30 cmの変わり塗りのお盆 2 枚を制作させる。									
授業の目標(到達目標)									
木地の下地と塗りの基礎を学ぶ。 塗りの技術を身に付ける。									
授業計画及び内容									
1.	授業の説明・ビデオ鑑賞								
2.	木地調整と木地固め								
3.	蒔地	裏	1回目	(まきじ)		地の粉			
4.	〃	表	1回目						
5.	〃	裏	2回目						
6.	付	表	1回目	(さびつけ)		砥の粉			
7.	〃	裏	1回目						
8.	空研ぎ								
9.	付	表	2回目						
10.	空研ぎ・固め・捨て塗り 表								
11.	捨て塗り 裏								
12.	水研ぎ								
13.	下塗り 表								
14.	下塗り 裏								
15.	水研ぎ								
事前学習		色漆を使用するので、色の組み合わせなど考えておく。 津軽塗りの作品集や資料などがあったら参考にする。							
事後学習		塗りが足りない人は各自、塗りと研ぎをくり返しておく。							
履修上の注意		作業着を着用の上、授業に望む。漆かぶれに注意しながらすすめる。（工芸基礎Ⅰ・Ⅱ（漆芸）を履修していなくても受講可）							
成績評価の方法・基準		授業態度 （50％） → 意欲、積極性、理解度など。 作品進度 （50％） → 完成度、デザイン、センス、個性の表現							
教科書	特になし。								
参考書	[やさしく身に付くうるしのはなし 2][日本漆工協会][2160 円]。								

授業科目		漆芸Ⅱ				担当者	井上 直美		
単位数	2	必・選	選	授業形式	実技	開講期	後期	対象	美2年
授業の概要									
色漆を用いて絞漆、仕掛け漆を制作させ、変わり塗りの皿盆2枚（径 27 cm、 30 cm）を制作させる。（前期に黒塗りをした盆に加飾を施させる）									
授業の目標(到達目標)									
変わり塗りの多様な表現や色漆を自分で調合し練り作る事で、自在に色彩・柄などを楽しみ表現できる能力を身に付ける。									
授業計画及び内容									
1.	中塗 表	変わり塗りの説明と色漆の調合							
2.	〃 裏	漆の特性と絞漆の作り方（しぼうるし）							
3.	水研ぎ・固め	変わり塗りの応用と下付方法							
4.	裏・上塗り	絞漆で下付 1 回目							
5.	種蒔き	絞漆で下付 2 回目							
6.	種を落とす・掃除	色漆 1 色目							
7.	色漆 1 色目	色漆 2 色目							
8.	〃 2 色目	色漆 3 色目							
9.	研ぎ出し	ぬり込み							
10.	述べ摺り 1 回目	漆 1：灯油 1							
11.	述べ摺り 2 回目	漆 3：灯油 1							
12.	生摺り								
13.	磨き・生摺り								
14.	磨き・サイン・仕上げ								
15.	まとめ・合評会								
事前学習		こだわりたい人は手板などで色漆の実験をしておく。色の組み合わせなど、 カラーチャートや作品集を参考にしておく。							
事後学習		仕上げの摺りと磨きが足りない人は各自する。							
履修上の注意		作業着を着用の上、授業に望む。漆かぶれに注意しながらすすめる。（工芸基礎Ⅰ・Ⅱ（漆芸）を履修していなくても受講可）							
成績評価の方法・基準		授業態度（50%）→ 授業に対する意欲、積極性、理解度など。 作品進度（50%）→ 完成度、デザイン、センス、個性の表現							
教科書	特になし。								
参考書	[やさしく身に付くうるしのはなし 2][日本漆工協会][2160 円]。								

授業科目		漆芸Ⅲ				担当者	井上 直美		
単位数	2	必・選	選	授業形式	実技	開講期	前期	対象	美3年
授業の概要 乾漆の作品を2点以上制作させる。原型から制作させ、前期は素地制作を指導する。									
授業の目標(到達目標) 漆芸の中でも高度とされる乾漆技法を学び、造形としても展開できる漆の特性と可能性を追求する能力を身に付け個性的な表現を楽しみながら展開出来る能力を身に付ける。									
授業計画及び内容									
1.	乾漆の説明・ビデオ鑑賞イメージを図面におこす								
2.	原型作り（器・オブジェなど自由）原型の細部調整								
3.	石膏型制作 石膏型の調整								
4.	型に剥離剤を塗る 剥離剤の表面を整える								
5.	麻布を貼る 1枚目								
6.	空研ぎ・錆付け								
7.	麻布を貼る 2枚目								
8.	空研ぎ・錆付け								
9.	麻布を貼る 3枚目								
10.	空研ぎ・錆付け								
11.	麻布を貼る 4枚目								
12.	空研ぎ・錆付け								
13.	空研ぎ・固め・黒中								
14.	縁の始末・固め								
15.	黒中								
事前学習		作品のデザインを考えておく。							
事後学習		後期の模様、色などを考えておく。							
履修上の注意		作業着を着用の上、授業に望む。漆かぶれに注意しながらすすめる。（工芸基礎Ⅰ・Ⅱ（漆芸）を履修していなくても受講可）							
成績評価の方法・基準		授業態度（50%）→ 意欲、積極性、理解度など。 作品進度（50%）→ 完成度、デザイン、センス、個性の表現							
教科書		特になし。							
参考書		[やさしく身に付くうるしのはなし 3][日本漆工協会][2160円]。							

授業科目		染織Ⅰ				担当者	三浦 輝子		
単位数	2	必・選	選	授業形式	実技	開講期	前期	対象	美2年
授業の概要									
絞り染めでは、縫巻き絞りを中心に手ぬぐいを制作させ、蠟けつ染めではソーピングワックスを用いた風呂敷制作の指導を行う。									
授業の目標(到達目標)									
絞り染め、蠟けつ染めの技法を習得し、伝統的な染色方法について理解を深める。各防染材料の特性を学び、自身の制作に合った表現技法を探ることができる。									
授業計画及び内容									
1.	ガイダンス 授業概要 染色用具・染料・助剤について								
2.	絞り染め : 精錬 下図作成								
3.	〃 : 青花で下図を写す 青花に沿って縫う								
4.	〃 : 絞り								
5.	〃 : 染料の計算 浸染								
6.	〃 : 括りほどこ								
7.	〃 : 仕上げ								
8.	蠟けつ染め : 精錬 下図作成								
9.	〃 : 下図原寸拡大								
10.	〃 : 青花で下図を写す								
11.	〃 : 蠟伏せ (表)								
12.	〃 : 蠟伏せ (裏)								
13.	〃 : 染料の計算 地染め								
14.	〃 : 脱蠟 ソーピング 乾燥								
15.	〃 : 仕上げ 講評会								
事前学習		制作に必要な事前調査・資料収集を行う。							
事後学習		技法ごとに制作工程が異なるため、授業毎に記録しておくこと。							
履修上の注意		染料・助剤等の化学薬品使用時には、作業内容に応じて防護メガネ・マスクを着用のこと。							
成績評価の方法・基準		提出課題 80%、出席を含む平常点 20% (平常点は制作への取り組み等総合的に判断する。)							
教科書	授業前にプリントを配布する。								
参考書	[図解 染織技術事典][田中清香 土肥悦子][理工学社][4200 円]								

授業科目		染織Ⅱ				担当者	三浦 輝子		
単位数	2	必・選	選	授業形式	実技	開講期	後期	対象	美2年
授業の概要 卓上機による織物制作を行う。各自の織物計画に基づき、綴織、ノッティングの技法でタピストリー又はマット制作の指導を行う。									
授業の目標(到達目標) 卓上機の構造と織行程を理解し、織物計画を立てる。生活の中にある織物に関心を持ち、使用目的に応じて、技法や素材が選択されていることを理解できるようになる。									
授業計画及び内容									
1.	ガイダンス 授業概要 織機の構造・用具について								
2.	下図 : 綴織								
3.	〃 : ノッティング								
4.	下図原寸拡大 素材の選定 糸量の計算								
5.	整経								
6.	箆通し 綜統通し								
7.	綴織 : 織り① (下部)								
8.	〃 : 織り② (中央部)								
9.	〃 : 織り③ (上部)								
10.	〃 : 織り④ (仕上げ)								
11.	ノッティング 織り① (上部)								
12.	〃 : 織り② (中央部)								
13.	〃 : 織り③ (下部)								
14.	〃 : 織り④ (仕上げ)								
15.	講評会								
事前学習		制作に必要な事前調査・資料収集を行う。							
事後学習		技法ごとに制作工程が異なるため、授業毎に記録しておくこと。							
履修上の注意		織機・道具は丁寧に扱うこと。							
成績評価の方法・基準		提出課題 80%、出席を含む平常点 20% (平常点は制作への取り組み等総合的に判断する。)							
教科書		授業前にプリントを配布する。							
参考書		[タピストリーを織る][島貫昭子][美術出版社][2400 円]							

授業科目		染織Ⅲ				担当者	三浦 輝子		
単位数	2	必・選	選	授業形式	実技	開講期	前期	対象	美3年
授業の概要									
高機による織物制作を行う。各自の織物計画に基づいて、織工程を理解させ、格子タピストリーを制作できるよう指導する。									
授業の目標(到達目標)									
高機の構造と織り組織を理解し、イメージした布を織り上げていく。素材の選択、糸量の計算、タイアップ、箄目、織密度など織物設計に必要な工程を理解する。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス 授業概要 織物の三原組織									
2. 組織図の見方・記入方法の説明									
3. 織機の構造について 織物計画									
4. 下図作成・下図原寸拡大									
5. 糸量の計算・糸の発注									
6. 糸の総分け・精錬									
7. 糸の染色（浸染）1色目									
8. 糸の染色（浸染）2色目									
9. 糸の玉巻き・整経									
10. 綜続通し									
11. 箄通し									
12. 経糸を布巻きに結ぶ 張力調整									
13. 織り 上部									
14. 織り 下部									
15. 仕上げ・講評会									
事前学習		制作に必要な事前調査・資料収集を行う。							
事後学習		卓上機と制作工程が異なるため、授業毎に記録しておくこと。							
履修上の注意		染料・助剤等の化学薬品使用時は、作業内容に応じて仕事着、防護メガネを着用のこと。							
成績評価の方法・基準		提出課題 80%、出席を含む平常点 20%（平常点は制作への取り組み等総合的に判断する。）							
教科書		授業前にプリントを配布する。							
参考書		[テキスタイル 表現と技法][田中秀穂][武蔵野美術大学出版局][3400 円]							

授業科目		デザイン基礎・平面Ⅰ (映像メディア表現を含む)				担当者	三上 秀夫		
単位数	2	必・選	必	授業形式	演習	開講期	前期	対象	美1年
授業の概要									
画面構成の「導入」と「発展」を意識した「造形の基礎」という位置付けの授業である。課題は「アルファベット」と「点」による平面構成である。表現は絵具・筆による手描きとする。									
授業の目標(到達目標)									
デザインの基礎となる平面構成の「基本」や「考え方」を身に付け、活用できるようになる。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス									
2. レタリング 制作1 自分の名刺をつくる 課題説明									
3. レタリング 制作2 アイディアスケッチ 下描き									
4. レタリング 制作3 制作 完成 講評									
5. 平面構成 「アルファベット」 英単語を用いた構成を考える 課題説明									
6. 平面構成 「アルファベット」 説明 アイディアスケッチ 下描き									
7. 平面構成 「アルファベット」 下描き 色塗り									
8. 平面構成 「アルファベット」 色塗り 完成									
9. 平面構成 「アルファベット」 講評									
10. 平面構成 「点による構成」 (抽象) 幾何学構成 課題説明									
11. 平面構成 「点による構成」 (抽象) アイディアスケッチ下描き 色塗り									
12. 平面構成 「点による構成」 (抽象) 色塗り 完成									
13. 平面構成 「点による構成」 (抽象) 講評									
14. 映像メディア表現 講義と演習(映像による解説) 課題「点を動かす」									
15. 映像メディア表現 課題作品の発表									
事前学習		事前に情報を収集しておくこと。詳細は授業時にプリントまたは口頭で伝える。							
事後学習		授業や講評で得たことを参考に0課題作品の手直しをする。各自、将来必要となるポートフォリオのための課題作品の写真撮影をすること。							
履修上の注意		絵具は、不透明絵具を使用する。他の用具、材料について授業で指示する。							
成績評価の方法・基準		提出課題の内容(30%)、授業の取り組みに対する意欲と姿勢(40%)、講評での発表の内容(30%)で評価する。							
教科書	授業時にプリントを配布する。								
参考書	こちらで授業時に参考図書を用意する。								

授業科目		デザイン基礎・平面Ⅱ				担当者	三上 秀夫		
単位数	2	必・選	選	授業形式	演習	開講期	後期	対象	美1年
授業の概要									
画面構成の「導入」と「発展」を意識した「造形の基礎」という位置付けの授業である。 課題は「点」と「イメージ」による平面構成である。表現は絵具・筆による手描きとする。									
授業の目標(到達目標)									
デザインの基礎となる平面構成の「基本」や「考え方」を身に付け、活用できるようになる。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス 平面構成 「点による構成」 （具象） 説明									
2. 平面構成 「点による構成」 （具象） 制作1 写真の拡大コピー トレース 下描き									
3. 平面構成 「点による構成」 （具象） 制作2 色塗り									
4. 平面構成 「点による構成」 （具象） 講評									
5. 平面構成 「点による構成」 （音） 説明 音を聴く									
6. 平面構成 「点による構成」 （音） 制作1 アイディアスケッチ 下描き									
7. 平面構成 「点による構成」 （音） 制作2 色塗り									
8. 平面構成 「点による構成」 （音） 講評									
9. 平面構成 「イメージ1」 説明									
10. 平面構成 「イメージ1」 制作1 アイディアスケッチ 下描き									
11. 平面構成 「イメージ1」 制作2 色塗り									
12. 平面構成 「イメージ1」 講評									
13. 平面構成 「イメージ2」 説明 アイディアスケッチ 下描き									
14. 平面構成 「イメージ2」 制作 色塗り									
15. 平面構成 「イメージ2」 講評									
事前学習		事前に情報を収集しておくこと。詳細は授業時にプリントまたは口頭で伝える。							
事後学習		授業や講評で得たことを参考に課題作品の手直しをする。各自、将来必要となるポートフォリオのための課題作品の写真撮影をすること。							
履修上の注意		絵具は、不透明絵具を使用する。他の用具、材料について授業で指示する。							
成績評価の方法・基準		提出課題の内容（30%）、授業の取り組みに対する意欲と姿勢（40%）、講評での発表の内容（30%）で評価する。							
教科書	授業時にプリントを配布する。								
参考書	こちらで授業時に参考図書を用意する。								

授業科目	デザイン基礎・立体Ⅰ				担当者	林 範親			
単位数	2	必・選	必	授業形式	演習	開講期	前期	対象	美1年
授業の概要									
造形の素材としての材料を、板材・線材・塊材に分類し、身近にある紙や糸や木材など、それぞれの特徴をもつ材料を使つての基礎構成をさせる。									
授業の目標(到達目標)									
造形活動の基礎として身近にある材料やそれらを加工する道具の体験を通じ、立体を中心とした表現力の育成及び表現技術の開発能力を身に付ける。用意された材料、決められた条件の中で出来るだけの工夫や表現を行い、その能力を身に付ける。									
授業計画及び内容									
1.	ガイダンス：シラバス説明・デザイン基礎・立体とは								
2.	板材の構成：課題① ◎紙による基礎構成として								
3.	〃	〃	◎紙を切る						
4.	〃	〃	◎1枚の紙を立てる						
5.	〃	〃	◎1枚の紙を水平に保つ						
6.	線材の構成：課題② ◎線材の基礎構成として								
7.	〃	〃	◎糸による空間構成①補助材としての基本形の作成						
8.	〃	〃	◎糸による空間構成②糸を張る位置に印をつける						
9.	〃	〃	◎糸による空間構成③印に従って糸を張る						
10.	〃	〃	◎講評会						
11.	塊材の構成：課題③ ◎塊材の構成の基礎として								
12.	〃	〃	◎フォルムの形成 バルサブロック材にフォルムを写す						
13.	〃	〃	◎ハンドスカルプチュア①材料荒木取り						
14.	〃	〃	◎ハンドスカルプチュア②小刀や紙ヤスリで形成						
15.	〃	〃	◎講評会						
事前学習	自然物、人工物を問わず生活空間において、板状のもの、線状のもの、塊状のものなど形状で物を意識して見ること。								
事後学習	課題作品をそばに置き、課題の意図を振り返り、省みる。そして次の造形活動につなげる。								
履修上の注意	課題提出日及び時間厳守。講評会には必ず出席のこと。								
成績評価の方法・基準	課題作品 70%（オリジナリティ 3、アイディア 2、デザイン 2、テクニク・完成度 2）提出日時間厳守、授業への取り組み方や意欲 30%								
教科書	なし。								
参考書	随時紹介。								

授業科目	デザイン基礎・立体Ⅱ					担当者	林 範親		
単位数	2	必・選	選	授業形式	演習	開講期	後期	対象	美1年
授業の概要 板材、線材、塊材それぞれの素材を使って、デザイン基礎・立体Ⅰを基に、応用、デザインへの発展を指導する。									
授業の目標(到達目標) 前期のデザイン基礎・立体Ⅰを基に、素材のもつ特徴を立体のフォルムに生かす能力を身に付ける。更にデザインに重要な機能へと結びつけていく事が出来るようになる。									
授業計画及び内容									
1.	板材の構成：課題①◎板材の構成の応用・発展としてテーブルのデザイン及び模型作り								
2.	〃 〃 ○板材で構成されたテーブルとは								
3.	〃 〃 ○板材で構成されたテーブルのデザイン								
4.	〃 〃 ○デザインをもとにした模型作り								
5.	〃 〃 ◎講評会								
6.	線材の構成：課題② ◎線材の構成の応用として 線材による空間構成								
7.	〃 〃 ○線材による造形表現とは								
8.	〃 〃 ○線材の発見及び選択								
9.	〃 〃 ○線材の構成による空間構成								
10.	〃 〃 ◎講評会								
11.	塊材の構成：課題③ ◎デザインへの発展としてペーパーナイフのデザイン及び制作								
12.	〃 〃 ○ペーパーナイフについて								
13.	〃 〃 ○ペーパーナイフのデザイン								
14.	〃 〃 ○ペーパーナイフの制作								
15.	〃 〃 ◎講評会								
事前学習	自然物、人工物を問わず生活空間において、板状のもの、線状のもの、塊状のものなど形状で物を意識して見ること。								
事後学習	課題作品をそばに置き、課題の意図を振り返り、省みる。そして次の造形活動につなげる。								
履修上の注意	課題提出日及び時間厳守。講評会には必ず出席のこと。								
成績評価の方法・基準	課題作品 70%（オリジナリティ 3、アイディア 2、デザイン 2、テクニック・完成度 2）提出日時間厳守及び講評会への出席 20%、授業への取り組み方や意欲 10%								
教科書	特になし。								
参考書	随時紹介。								

授業科目		視覚デザイン I				担当者	三上 秀夫		
単位数	2	必・選	選	授業形式	実技	開講期	前期	対象	美 2 年
授業の概要									
課題は、「キャラクターデザイン」、「平面構成」他を行う。キャラクターデザインはグループによるスライド発表。平面構成は絵具・筆による手描きとする。									
授業の目標(到達目標)									
画面構成をとおして「描写力」と「構成力」を身につけることで、デザインにおけるイメージの伝達が行えるようになる。									
授業計画及び内容									
1.	ガイダンス								
2.	キャラクターデザイン テーマ設定								
3.	キャラクターデザイン 情報収集								
4.	キャラクターデザイン 色彩計画								
5.	キャラクターデザイン 発表								
6.	平面構成 「色面と立体」 制作 1 水張りパネルの説明と制作								
7.	平面構成 「色面と立体」 制作 2 下描き								
8.	平面構成 「色面と立体」 制作 3 彩色								
9.	平面構成 「色面と立体」 講評 次課題の説明 準備 取材								
10.	平面構成 「有機物と無機物」(単色の濃淡で表現) 制作 1 下描き								
11.	平面構成 「有機物と無機物」(単色の濃淡で表現) 制作 2 彩色								
12.	平面構成 「有機物と無機物」(単色の濃淡で表現) 講評 次課題の説明 準備 取材								
13.	平面構成 「有機物と無機物」(フルカラーで表現) 制作 1 下描き								
14.	平面構成 「有機物と無機物」(フルカラーで表現) 制作 2 彩色								
15.	平面構成 「有機物と無機物」(フルカラーで表現) 講評 次課題の説明 準備 取材								
事前学習		事前に情報を収集しておくこと。詳細は授業時にプリントまたは口頭で伝える。							
事後学習		授業や講評で得たことを参考に課題作品の手直しをする。各自、将来必要となるポートフォリオのための課題作品の写真撮影をすること。							
履修上の注意		B3 パネル、ケント紙水張りを事前にしておくこと。絵具は不透明絵具を使用する。他、材料について授業で指示する。							
成績評価の方法・基準		提出課題の内容 (30%)、授業の取り組みに対する意欲と姿勢 (40%)、講評での発表の内容 (30%) で評価する。							
教科書	授業時にプリントを配布する。								
参考書	こちらで授業時に参考図書を用意する。								

授業科目		視覚デザインⅡ				担当者	三上 秀夫		
単位数	2	必・選	選	授業形式	実技	開講期	後期	対象	美2年
授業の概要									
画材の扱い、描写をとおして「抽象的なもの」から「具象的なもの」へと移行し、デザインの表現の幅を広げる。イラストの魅力、必要性を再確認する。									
授業の目標(到達目標)									
イラストの「表現」「描写」の力を養うことで、魅力あるイラストが描けるようになる。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス 平面構成 「パッケージ」 説明 スケッチ									
2. 平面構成 「パッケージ」 下描き									
3. 平面構成 「パッケージ」 彩色									
4. 平面構成 「パッケージ」 講評 次課題の説明 準備 取材									
5. イラスト 「自分を表現する」 アイディアスケッチ コピー 下描き									
6. イラスト 「自分を表現する」 彩色									
7. イラスト 「自分を表現する」 講評 次課題の説明 準備 取材									
8. イラスト 「新聞広告1」 アイディアスケッチ 制作									
9. イラスト 「新聞広告1」 講評 次課題の説明 準備 取材									
10. イラスト 「新聞広告2」 アイディアスケッチ 制作									
11. イラスト 「新聞広告2」 講評 次課題の説明 準備 取材									
12. イラスト 「サイエンスイラスト」 アイディア発表									
13. イラスト 「サイエンスイラスト」 中間講評									
14. イラスト 「サイエンスイラスト」 修正									
15. イラスト 講評									
事前学習		事前に情報を収集しておくこと。詳細は授業時にプリントまたは口頭で伝える。							
事後学習		授業や講評で得たことを参考に課題作品の手直しをする。各自、将来必要となるポートフォリオのための課題作品の写真撮影をすること。							
履修上の注意		B3パネル、ケント紙水張りを事前にしておくこと。絵具は不透明絵具を使用する。他、材料について授業で指示する。							
成績評価の方法・基準		提出課題の内容（30%）、授業の取り組みに対する意欲と姿勢（40%）、講評での発表の内容（30%）で評価する。							
教科書	授業時にプリントを配布する。								
参考書	こちらで授業時に参考図書を用意する。								

授業科目		視覚デザインⅢ				担当者	三上 秀夫		
単位数	2	必・選	選	授業形式	実技	開講期	前期	対象	美3年
授業の概要									
デザインでの、作品制作における「考え方」「制作方法」について実技をとおして学ぶ。テーマ「抽象」ではより洗練された色彩と構成について、テーマ「イラスト」では描写について扱う。									
授業の目標(到達目標)									
各テーマにそって色彩感覚と構成力、描写力を身につけると同時に、材料や道具の使い方、完成度の高い制作技術を身につけることができる。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス									
2. テーマ「抽象」 制作1 課題説明 機材、道具、材料の説明、情報収集									
3. テーマ「抽象」 制作2 アイディアの検討 ラフスケッチ 計画 下描き									
4. テーマ「抽象」 制作3 作業 機材、道具、材料の確認									
5. テーマ「抽象」 制作4 作業 進行具合の確認									
6. テーマ「抽象」 制作5 細部の修正									
7. テーマ「抽象」 制作6 仕上げ 完成									
8. 講評・まとめ									
9. テーマ「イラスト」 制作1 課題説明 機材、道具、材料の説明									
10. テーマ「イラスト」 制作2 アイディア ラフスケッチ 計画 下描き									
11. テーマ「イラスト」 制作3 作業 機材、道具、材料の確認									
12. テーマ「イラスト」 制作4 作業 進行具合の確認									
13. テーマ「イラスト」 制作5 細部の修正									
14. テーマ「イラスト」 制作6 細部の確認 完成									
15. 講評・まとめ									
事前学習		事前に情報を収集しておくこと。詳細は授業時にプリントまたは口頭で伝える。							
事後学習		授業や講評で得たことを参考に課題作品の手直しをする。各自、将来必要となるポートフォリオのための課題作品の写真撮影をすること。							
履修上の注意		道具・材料について授業で指示する。							
成績評価の方法・基準		提出課題の内容（30%）、授業の取り組みに対する意欲と姿勢（40%）、講評での発表の内容（30%）で評価する。							
教科書	授業時にプリントを配布する。								
参考書	こちらで授業時に参考図書を用意する。								

授業科目		デジタルデザイン I				担当者	鶴巻 史子		
単位数	2	必・選	選	授業形式	実技	開講期	前期	対象	美2年
授業の概要 インフォグラフィックの事例を調査しながらその表現と技法への理解を深める共に、コンピューターグラフィック技術を用いた制作を行い、インフォグラフィックの基礎、考え方、視覚表現について指導する。									
授業の目標(到達目標) インフォグラフィックスにおける様々な表現を理解し、デザインするために必要なコンピューターグラフィック技術を身につけ、表現することを到達目標とする。									
授業計画及び内容									
1.	ガイダンス								
2.	プロジェクションマッピングの基礎と原理								
3.	プロジェクションマッピング入門 (Excel, PowerPoint)								
4.	プロジェクションマッピング演習								
5.	Photoshop の基本操作と原理								
6.	Photoshop による課題制作								
7.	Illustrator の基本操作と原理								
8.	Illustrator による課題制作								
9.	プレゼンテーション								
10.	インフォグラフィックの理解								
11.	インフォグラフィックス事例調査								
12.	制作：情報収集								
13.	制作：アイデア創出								
14.	制作：デジタル化								
15.	プレゼンテーション								
事前学習		情報とデザインの関係と役割について考察すること。							
事後学習		課題の制作状況をデジタルデータ形式にまとめ、保存しておくこと。							
履修上の注意		視覚表現概論 I, II を履修していること。毎回重要な説明があるので遅刻欠席をしないよう注意。グループワークでは相互に協力・協働して積極的に課題に取り組むよう心がける。制作データは USB メモリ等に保存し持参する。なお、受講人数等の状況によりシラバスの内容を変更することがある。							
成績評価の方法・基準		課題制作 70%、出席を含む平常点（授業態度、取り組みの姿勢など） 30%							
教科書		適宜指示する。							
参考書		プリントを配布する。							

授業科目	デジタルデザインⅡ				担当者	鶴巻 史子			
単位数	2	必・選	選	授業形式	実技	開講期	後期	対象	美2年
授業の概要 ユーザーインターフェースデザイン（UI）の事例を調査しながらその表現と技法への理解を深める共に、コンピューターグラフィック技術を用いた制作を行い、UIの基礎、考え方、視覚表現について指導する。									
授業の目標(到達目標) ユーザーインターフェースデザインにおける様々な表現を理解し、デザインするために必要なコンピューターグラフィック技術を身につけ、表現することを到達目標とする。									
授業計画及び内容									
1.	ガイダンス								
2.	ワークショップ①：コンセンサス等								
3.	ワークショップ②：インタビュー等								
4.	ワークショップ③：アイデアソン等								
5.	UIの理解								
6.	UIの事例								
7.	UIの調査								
8.	フィールドワーク								
9.	UIの事例分析								
10.	UIの事例分析結果まとめ								
11.	制作①：情報収集								
12.	制作①：アイデア創出								
13.	制作①：デジタル化								
14.	制作①：まとめ								
15.	プレゼンテーション								
事前学習	情報とデザインの関係と役割について考察すること。								
事後学習	課題の制作状況をデジタルデータ形式にまとめ、USB保存しておくこと。								
履修上の注意	デジタルデザインⅠを履修していること。毎回重要な説明があるので遅刻欠席をしないよう注意。グループワークでは相互に協力・協働して積極的に課題に取り組むよう心がける。制作データはUSBメモリ等に保存し持参する。なお、受講人数等の状況によりシラバスの内容を変更することがある。								
成績評価の方法・基準	課題制作 70%、出席を含む平常点（授業態度、取り組みの姿勢など） 30%								
教科書	適宜指示する。								
参考書	プリントを配布する。								

授業科目	インテリアデザイン I					担当者	湯目 俊彦		
単位数	1	必・選	選	授業形式	演習	開講期	前期	対象	美2年
授業の概要 インテリアを生活空間としてとらえ、日本の生活空間の生い立ちと西洋の生活空間との違いを歴史をとらえかつ比べながら、検証させる。インテリアコーディネーションの基本となる、家具を始め様々なインテリアエレメントの知識を習得し、理解を深める。作図の基本と家具を含めたエレメントデザインの基本も習得させる。最終的にコーディネーションを実施させる。									
授業の目標(到達目標) 日本の生活空間の生い立ちと西洋の生活空間との違いを歴史をとらえかつ比べながら、日本の生活文化を理解する。インテリアコーディネーションの基本となる、家具を始め様々なインテリアエレメントの知識を得る。作図の基本と家具を含めたデザインをモデル化までする。最終的にコーディネーションボードが出来る様になる。									
授業計画及び内容									
1. インテリアデザイン概論									
2. 西洋と日本の生活空間の歴史 (古代から中世)									
3. 西洋と日本の生活空間の歴史 (近代から現代)									
4. インテリアエレメントについて									
5. 建物を含めたスペースエレメントについて									
6. 設備機器を含めたフィックスエレメントについて									
7. 内装材・壁装材・床材の歴史について									
8. 内装材・壁装材・床材の知識									
9. ファブリックス：カーペット絨毯の歴史と知識									
10. ファブリックス：ウィンドウトリートメントの歴史と知識									
11. 照明の基礎と種類について									
12. インテリアアクセサリーの種類について									
13. 西洋と日本の家具の歴史									
14. 家具の種類と材料・構造の知識									
15. 前期授業内容のまとめ									
事前学習		配布したプリントを見ておくこと。							
事後学習		授業で特に重点視した内容を確認しておくこと。							
履修上の注意		出席、課題提出（授業時間外で、課題制作も可能）。都度渡すプリントを事前もしくは事後に、読んでおく。							
成績評価の方法・基準		前期授業内容のまとめ・課題作品の提出（試験 50%、授業態度 30%、意欲 20%）							
教科書		無し、授業開始時に都度プリント配布。							
参考書		無し、授業開始時に都度プリント配布。							

授業科目	インテリアデザインⅡ				担当者	湯目 俊彦			
単位数	1	必・選	選	授業形式	演習	開講期	後期	対象	美2年
授業の概要									
テレビボードを自分でデザインさせ、そのモデル化させる。デザインしたテレビボードが設置された、部屋のコーディネーションを、インテリアデザインⅠで習得した知識を基にコーディネーションし、プレゼンボードを作成させる。									
授業の目標(到達目標)									
インテリアデザインⅠで習得した内容を、実際のインテリアコーディネートを実践する。 作図の基本と家具を含めたデザインをモデル化までする。最終的にコーディネーションボードが出来る様にする。									
授業計画及び内容									
1. 家具のデザインの基礎知識と作図の知識									
2. 家具のデザインの作図（ラフスケッチ）									
3. 家具のデザインの作図（三面図） 表面材の選定									
4. 家具のデザインの作図に基づいた模型のパネル図作成									
5. 家具のデザインの作図に基づいた模型の製作（スチレンボード下図面）									
6. 家具のデザインの作図に基づいた模型の製作（部品製作）									
7. 家具のデザインの作図に基づいた模型の製作（シート貼り）									
8. 家具のデザインの作図に基づいた模型の製作（組立て）									
9. 家具のデザインの作図に基づいた模型の製作（仕上げ）									
10. コーディネートの説明、模型の撮影									
11. コーディネートボードの作成の為のエレメントセレクト（床、壁、天井、カーテン、キッチン）									
12. コーディネートボードの作成の為のエレメントセレクト（照明、家具）									
13. コーディネートボードの作成のための配置決定									
14. コーディネートボードの作成貼付け									
15. コーディネートボードの実例の講評会									
事前学習		最近のテレビのカタログを収集し、どのテレビを置くテレビボードデザインするか決めておく。							
事後学習		自分でデザインしたものの製品のパネル化の確認をする。							
履修上の注意		実習が多いため出席厳守、模型のシート発注の時期厳守							
成績評価の方法・基準		課題作品の提出、課題の評価（課題 50%、授業態度 30%、意欲 20%）							
教科書		無し、授業開始時に都度プリント配布。							
参考書		無し、授業開始時に都度プリント配布。							

授業科目		生活美術概論Ⅰ				担当者	近江 恵美子		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	美2年
授業の概要									
日本の伝統的な生活文化を紹介し、造形美として捉えるための事例を紹介する。									
授業の目標(到達目標)									
美術の分野の中で、日本の伝統的造形の事例を通して、日常生活に密着した生活美術の多様な視点を養わせる。									
授業計画及び内容									
1.	講義概要	：生活と美について							
2.	技術と人間	：風土と文化							
3.	〃	：道具考、暮らしと道具							
4.	〃	：職人と道具							
5.	日本人と木の文化	：匠の技、法隆寺と宮大工							
6.	〃	：式年遷宮と技術伝承							
7.	〃	：木のいのち、木のころ							
8.	用と美	：柳宗悦と民芸運動							
9.	〃	：工芸の美							
10.	〃	：民芸と民具							
11.	〃	：現代の民芸、クラフト							
12.	東北の形	：縄文の美							
13.	〃	：岡本太郎と縄文							
14.	〃	：東北の形							
15.	まとめ	：生活美術への視点							
16.	試験								
事前学習		次回テーマについて指示した項目についてレポートする。							
事後学習		講義内容に関連した事項を補足として付記する。							
履修上の注意		毎時異なるテーマのため、欠席のないように望む。欠席の場合は必ず各自補習すること。							
成績評価の方法・基準		期末試験 70%と遅刻・欠席など平常点 30%の総合評価							
教科書	使用せず。資料（プリント）を配布する。								
参考書	適宜指示。								

授業科目		生活美術概論Ⅱ				担当者	近江 恵美子		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	美2年
授業の概要									
現代の暮らしに生きる造形美の例を提示した後、原則としてフィールドワークによるグループ毎の成果発表を行わせ、各自の生活美術論を展開させる。									
授業の目標(到達目標)									
生活美術概論Ⅰで養った生活美術の視点を、自身の生活に生かし、創造の可能性の幅を広げ、合せてグループワークを通じたコミュニケーション力とプレゼンテーション力を高める。									
授業計画及び内容									
1. 講義概要 グループワーク、 フィールドワークについて									
2. 日本の形 包む心									
3. 〃 伝統パッケージ									
4. 〃 現代のパッケージデザイン									
5. 〃 「包み」の調査について									
6. 〃 グループ毎にプラン作成									
7. 〃 調査結果のプレゼン1									
8. 〃 調査結果のプレゼン2									
9. 広告の形									
10. 〃 看板、暖簾									
11. 〃 ロゴタイプ、トレードマーク									
12. 〃 「現代の広告デザイン」の調査について、グループ毎にプラン作成									
13. 〃 調査結果のプレゼン1									
14. 〃 調査結果のプレゼン2									
15. ま と め 現代の暮らしに生きる造形美									
事前学習		グループワークによるフィールドワークを行い、調査結果を発表する。							
事後学習		授業でプレゼンテーションを行った内容をまとめてレポートとして各自提出する。							
履修上の注意		生活美術概論Ⅰを習得していることが履修の条件となる。基本的にはグループワークが中心となるので、各自の分担を明確にして他に負担をかけぬよう進めること。							
成績評価の方法・基準		調査結果のプレゼン内容、及び各自のレポート内容 70%と遅刻・欠席等の出席状況と授業に臨む意欲などの平常点 30%の総合評価							
教科書		使用せず。適宜プリント配布する。							
参考書		適宜指示。							

授業科目		情報設計概論 I				担当者	鶴巻 史子		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	美1年
授業の概要 情報グラフィックデザインの事例を紹介しながらデザインへの理解を促すと共に、グラフィックソフトを用いた演習を行い、情報と視覚表現における効果的なレイアウトや配色について指導する。									
授業の目標(到達目標) 情報グラフィックデザインにおける様々な表現を理解し、デザインへの視野を広げる。グラフィックソフトの基本的な操作と表現技法を身につけることを到達目標とする。									
授業計画及び内容									
1.	ガイダンス								
2.	情報グラフィックデザイン調査								
3.	配色の基礎：イメージと表現の一致								
4.	〃：色相・明度・彩度								
5.	〃：色の役割								
6.	中間プレゼンテーション								
7.	情報グラフィックデザインの事例－広告								
8.	Photoshop の基本操作と原理								
9.	Photoshop による画像加工								
10.	Photoshop による課題制作								
11.	情報グラフィックデザインの事例－書体								
12.	Illustrator の基本操作と原理								
13.	Illustrator による画像加工								
14.	Illustrator による課題制作								
15.	プレゼンテーション								
事前学習		デザインに関する展覧会を鑑賞する等、常日頃よりデザインに触れること。							
事後学習		課題の制作状況をデジタルデータ形式にまとめ、保存しておくこと。							
履修上の注意		毎回重要な説明があるので遅刻欠席をしないよう注意。制作データは USB メモリ等に保存し持参すること。							
成績評価の方法・基準		課題制作 70%、出席を含む平常点（授業態度、取り組みの姿勢など） 30%							
教科書		適宜指示する。							
参考書		適宜指示する。							

授業科目		情報設計概論Ⅱ				担当者	鶴巻 史子		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	美1年
授業の概要									
情報コンテンツデザインの事例を紹介しながらデザインへの理解を促すと共に、グラフィックソフトを用いた演習を行い、情報の可視化と設計方法について指導する。									
授業の目標(到達目標)									
情報コンテンツデザインにおける様々な表現を理解し、デザインの視野を広げる。グラフィックソフトの基本的な操作と表現技法を身につけることを到達目標とする。									
授業計画及び内容									
1.	ガイダンス								
2.	情報の可視化 基礎								
3.	情報の可視化 実践								
4.	Illustrator の操作と応用								
5.	インフォグラフィックス演習								
6.	プレゼンテーション								
7.	情報コンテンツデザインの事例 - デジタルコンテンツ								
8.	デジタルコンテンツの基本設計								
9.	情報コンテンツデザイン演習 1								
10.	情報コンテンツデザインの事例 - UI								
11.	UI の基本設計								
12.	Photoshop の操作と応用								
13.	情報コンテンツデザイン演習 2								
14.	情報コンテンツデザイン演習 3								
15.	プレゼンテーション								
事前学習		デザインに関する展覧会を鑑賞する等、常日頃よりデザインに触れること							
事後学習		課題の制作状況をデジタルデータ形式にまとめ、保存しておくこと。							
履修上の注意		情報設計概論Ⅰを履修していることが望ましい。毎回重要な説明があるので遅刻欠席をしないよう注意。制作データは USB メモリ等に保存し持参すること。なお、受講人数等の状況によりシラバスの内容を変更することがある。							
成績評価の方法・基準		課題制作 70%、出席を含む平常点（授業態度、取り組みの姿勢など） 30%							
教科書	適宜指示する。								
参考書	適宜指示する。								

授業科目		デザイン概論				担当者	三上 秀夫		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	美2年
授業の概要									
デザインの事例を画像や映像を中心に紹介する。課題を課し、その課題をもとに、デザインの基礎概念を受講者全員で確認していく。									
授業の目標(到達目標)									
デザインの基礎概念を身につけることで、自らデザインできるようになる。 「デザインとは何か」を考えることで、人々の生活や社会との関係でデザインをとらえることができるようになる。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス									
2. 「デザインとは何か」 デザインの用語、 ジャンルについて									
3. 「デザインとは何か」 美術とデザインの違いについて									
4. 「デザインとは何か」 主にデザインで用いられる材料や加工の方法について									
5. 「デザインとは何か」 著名なデザイナーと、そのデザインについて									
6. 「デザインとは何か」 のまとめとモダンデザイン									
7. 「デザインとは何か」 のまとめとユニバーサルデザイン									
8. 「デザインとは何か」 のまとめとグッドデザイン									
9. デザインの問題点を考える									
10. 広告について (新聞、雑誌、 テレビ他)									
11. デザイン史概略 産業革命									
12. デザイン史概略 19世紀の建築、 工芸、 工業製品									
13. デザイン史概略 美術工芸運動									
14. アートディレクターの仕事からモダンデザインを考える									
15. タイプフェイスからモダンデザインを考える まとめ									
事前学習		課題の内容に沿って、そのテーマを事前に調べておくこと。							
事後学習		レポート作成のため毎回の講義ノートの内容をまとめておくこと。							
履修上の注意		課題（レポート、実技）の提出あり。							
成績評価の方法・基準		提出課題の内容（30%）、授業の取り組みに対する意欲と姿勢（40%）、講評での発表の内容（30%）で評価する。							
教科書	授業時にプリントを配布する。								
参考書	こちらで授業時に参考図書を用意する。								

授業科目		美学Ⅰ				担当者	太田 峰夫		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	美2年
授業の概要									
美しいものや恐ろしいものにふれた時の精神の働きを、人々はこれまでどのようなものとして位置づけ、理論化してきたのか。本講義では美術批評など具体的にまじえつつ、この問題を巡るこれまでの議論を概説する。その上で講義の後半では、藝術体験の理論としての美学理論が、どの程度までわれわれの日常的な感性的体験を説明しうるのか、デザインと味覚の問題を中心に履修者に考察させる。									
授業の目標(到達目標)									
美に触れた時の精神の働きを、近代の美学理論がこれまでどのように論じてきたかを理解する。自然美と人工美の共通点と相違点を理解する。藝術とデザインの共通点と相違点を理解する。近現代の美学者が味覚の問題をどのように論じてきたかを概観する。									
授業計画及び内容									
1. 序論（１）：さまざまな美的質について									
2. 序論（２）：美について									
3. 美的体験の構造（１）：想像力と美的判断力									
4. 美的体験の構造（２）：五感、とりわけ視覚・聴覚の特性について									
5. 美的体験の構造（３）：形式主義的美的について。音楽篇									
6. 美的体験の構造（４）：形式主義的美的について。美術篇									
7. 自然美と人工美（１）：自然の作品化について									
8. 自然美と人工美（２）：崇高について									
9. 藝術とデザイン（１）：美の有効性									
10. 藝術とデザイン（２）：機能美について									
11. 藝術とデザイン（３）：キッチンについて									
12. 味覚の理論（１）：理論史的な背景									
13. 味覚の理論（２）：生理的欲求と美的判断									
14. 味覚の理論（３）：社会的な観点									
15. まとめ									
16. 試験									
事前学習		日頃からさまざまなジャンルの藝術作品に接するように心がけること。							
事後学習		配布したハンドアウトの内容をよく読んでおくこと。授業でふれた文献や藝術作品の中で、興味を持ったものについて調べておくこと。							
履修上の注意		配布された資料を学期末まできちんと管理しておくこと。。							
成績評価の方法・基準		授業内のディスカッションやアンケートに参加できているかどうか、という点での評価（50%）、および学期末の筆記試験の成績（50%）をもとに判断する。							
教科書	授業前にプリントを配布する。								
参考書	なし。								

授業科目		美学Ⅱ				担当者	太田 峰夫		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	美2年
授業の概要									
この講義では、鑑賞する側の能動的なふるまいが、美的体験をいかに豊かにしているかを教える。美的体験におけるテキストの役割について概観した後、作者・作品・鑑賞者三者の関係性について考察し、批評活動の創造的な可能性を理解させる。余裕があれば、鑑賞対象のオーセンティシティの問題について履修者に考えさせたい。									
授業の目標(到達目標)									
美的体験の中で言葉（テキスト）が果たしている役割を理解する。創作活動と批評活動とが不可分なものであることを理解する。鑑賞対象のオーセンティシティ(正統性)が持つ意義を理解する。									
授業計画及び内容									
1. 序論：美的体験と概念的な理解									
2. 美的体験におけるテキストの役割（１）：タイトルと「として構造」									
3. 美的体験におけるテキストの役割（２）：コンセプチュアル・アート									
4. 作者・作品・鑑賞者の関係性（１）：前近代と近代									
5. 作者・作品・鑑賞者の関係性（２）：近代									
6. 作者・作品・鑑賞者の関係性（３）：デュシャン以降									
7. 藝術と批評（１）：作者の領分・読者の領分									
8. 藝術と批評（２）：美術についての美術・文学についての文学。19世紀篇									
9. 藝術と批評（３）：美術についての美術・文学についての文学。20世紀篇									
10. 藝術と批評（４）：1970年代以降のポピュラー文化の場合。美術篇									
11. 藝術と批評（５）：1970年代以降のポピュラー文化の場合。音楽篇									
12. オーセンティシティと美的体験（１）：複製品から考える									
13. オーセンティシティと美的体験（２）：「古楽運動」から考える									
14. オーセンティシティと美的体験（３）：美的体験と観光									
15. まとめ									
16. 試験									
事前学習		日頃からさまざまなジャンルの藝術作品に接するように心がけること。							
事後学習		配布したハンドアウトの内容をよく読んでおくこと。授業で触れた文献や藝術作品の中で、興味を持ったものについて調べておくこと。							
履修上の注意		配布された資料を学期末まできちんと管理しておくこと。							
成績評価の方法・基準		授業内のディスカッションやアンケートに参加できているかどうか、という点での評価（50％）、および学期末の筆記試験の成績（50％）をもとに判断する。							
教科書	授業前にプリントを配布する。								
参考書	なし。								

授業科目		美術鑑賞Ⅰ				担当者	瀬戸 典彦		
単位数	4	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	美2年
授業の概要									
- 美術鑑賞研修旅行において、想定される鑑賞対象に関する情報を提供する。 - 鑑賞旅行を効率的に実践するために有用な情報等を提供する。									
授業の目標(到達目標)									
- 大阪・奈良・京都の文化/歴史遺産について、説明できる。 - 美術鑑賞研修旅行(大阪・奈良・京都方面)における研修対象を主体的に選定し、それら研修対象に関する事前調査を実践できる。 - 関西研修旅行において、自主研修／調査を実践できる。									
授業計画及び内容									
1.	オリエンテーション								
2.	大阪・奈良・京都の美術について								
3.	鑑賞旅行における鑑賞対象について（興福寺関連）								
4.	鑑賞旅行における鑑賞対象について（東大寺関連）								
5.	鑑賞旅行における鑑賞対象について（奈良国立博物館関連）								
6.	鑑賞旅行における鑑賞対象について（法隆寺／薬師寺／新薬師寺／唐招提寺等）								
7.	鑑賞旅行における鑑賞対象について（平等院関連）								
8.	鑑賞旅行における鑑賞対象について（京都寺院関連-東福寺／醍醐寺）								
9.	鑑賞旅行における鑑賞対象について（京都寺院関連-銀閣寺／金閣寺／大覚寺等）								
10.	鑑賞旅行における鑑賞対象について（京都仏像関連-広隆寺／東寺等）								
11.	鑑賞旅行における鑑賞対象について（京都仏像関連-神護寺／三千院等）								
12.	鑑賞旅行における鑑賞対象について（京都近辺博物館・美術館関連）								
13.	鑑賞旅行における鑑賞対象について（大阪仏教美術関連）								
14.	鑑賞旅行における鑑賞対象について（大阪近辺博物館・美術館関連）								
15.	まとめ:鑑賞旅行計画立案								
事前学習		調査対象に関する事前調査／レジメ作成／プレゼン準備							
事後学習		調査内容に関するプレゼン評価書の作成／研修ファイル作成							
履修上の注意		美術鑑賞研修旅行（9月上旬）への参加と研修ファイルの提出が単位取得の必須条件となります。旅行代金概算：60,000 円（拝観料／食費等及び京都からの復路分移動費を除く）							
成績評価の方法・基準		プレゼンテーション:70%（資料:20% 受講生の評価:80%） プレゼン評価用紙の提出／内容:20% 研修旅行ファイルの内容:10%							
教科書	その都度、資料を配布する。								
参考書	その都度、参考資料を配布する。								

授業科目		美術鑑賞Ⅱ				担当者	瀬戸 典彦		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	美2年
授業の概要 18世紀から印象派に至る過程について、理解を促す。 - 印象派、エコール・ド・パリ、ダダ、シュール・リアリズム、抽象表現主義、ポップアート、フルクサス等に関するケーススタディーをとおし、それらの理論的背景と関係性について、情報を提供する。 - 自己の作品に関するステートメントの作成及びプレゼンテーションの実践について、指導する。									
授業の目標(到達目標) 18世紀後半以降のアートシーンについて、説明できる。 - 現代美術に至る経緯と脈絡を論述できる。 - 現代美術の脈絡と自己の作品の関係について、説明できる。									
授業計画及び内容									
1.	オリエンテーション:「もの」が「アート」になるメカニズムについて								
2.	クールベ以降のヨーロッパ美術1(ロダンとシンボリズムの作家達等)								
3.	クールベ以降のヨーロッパ美術2(マネ、モネ等)-小テスト								
4.	印象派について(ゴッホを中心に)								
5.	印象派以降(フォービズム、キュービズム)								
6.	エコール・ド・パリとその周辺の作家達について								
7.	映画「モディリアーニ」の虚と実について								
8.	近代美術家の悲劇性について								
9.	未来派、ダダ、シュール・リアリズムについて								
10.	抽象表現主義とその周辺の作家達について								
11.	フルクサス/ポップアートとその周辺の作家達について								
12.	アーティスト・ステートメントとは(事例研究)								
13.	アーティスト・ステートメントの書き方								
14.	アーティストとしてのプレゼンテーションについて								
15.	プレゼンテーション								
事前学習		配布資料確認							
事後学習		授業内容に関するレポートの作成							
履修上の注意		毎回、レポートを提出していただきます。							
成績評価の方法・基準		小テスト:10% レポート:50% プレゼン:20% ステートメント:20%							
教科書		その都度、資料を配布する。							
参考書		その都度、参考資料を配布する。							

授業科目		色彩学 I				担当者	大堀 恵子		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	美 1 年
授業の概要 たくさんある色を正確に伝え、記録し、表現するための基本的な色の用語や、色のしくみについての講義と配色演習を行う。そして色材による色再現をとおして、配色することができる指導を行う。									
授業の目標(到達目標) 美しい配色と目的に合った配色を得るために、色材を使って色再現を行ない色料の三原色の基本原則を理解する。そして、実際に色票を貼付し演習することによって、色彩の基礎から応用の段階までを系統的に理解を深める能力を身につける。									
授業計画及び内容									
1. 授業内容の説明									
2. 色相環をつくる (色再現)									
3. 明度スケール、彩度スケールをつくる (色再現)									
4. 色が見える仕組みについて (光、物、視覚)									
5. 色の混色について (加法、並置、減法)									
6. 色の属性について (有彩色と無彩色、色相＋、明度、彩度)									
7. 色の属性について (トーン)									
8. 色の対比について									
9. 色の感じ方について									
10. 配色について ①色相をもとにした配色									
11. 〃 ②彩度をもとにした配色									
12. 〃 ③トーンをもとにした配色									
13. 〃 ④配色の応用									
14. 〃 ⑤配色の応用									
15. まとめ									
16. 試験									
事前学習		色は「習うより慣れろ」と言われている。普段の生活の中で色について関心をもち積極的に生活（衣食住等）の中で生かすこと。							
事後学習		毎回出される課題をやることによって色に慣れること。							
履修上の注意		出席すること。準備物（ハーモニックカラーチャート、配色カード、はさみ、のり）と課題を忘れないこと。							
成績評価の方法・基準		1.平常点（取り組む姿勢、意欲 20%） 2.試験（40%） 3.講義ノート・演習課題ファイル（40%）							
教科書		[ハーモニックカラーチャート、配色カード][日本色彩研究所][2,500 円]							
参考書		随時紹介。							

授業科目		色彩学Ⅱ				担当者	大堀 恵子		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	美2年
授業の概要 色彩弁別器による検査と色感テストを行い、自分の色差の確認をする。そして、1年次で感得した配色の中の対比の効果を色材を使って、直線、曲線等の具体的な形を使わないトレーニングをすることで、画面全体を変化と統一感がある色面構成への展開を指導する。									
授業の目標(到達目標) 生活美術における純粋美術（絵画・デザイン分野）と応用美術（工芸分野）の基礎としての色彩に対する考え方を、体系化されたシステムを使って色になれる能力を身につける。									
授業計画及び内容									
1.	ガイダンス：授業内容の説明								
2.	演習：色相環をつくる（色再現）								
3.	実験：色彩弁別器による検査（No.1～No.50）								
4.	〃：〃（No.51～No.100）								
5.	〃：色感テスト								
6.	講義：対比の効果について（同時対比・継続対比）								
7.	演習：対比効果の応用と展開 — 同時対比（彩度）								
8.	〃：〃 — 同時対比（色相）								
9.	〃：〃 — 同時対比（明度）								
10.	〃：〃 — 継続対比（補色）								
11.	〃：〃 — 白と黒による直線構成								
12.	〃：〃 — 色による直線構成								
13.	〃：〃 — 白と黒による曲線構成								
14.	〃：〃 — 色による曲線構成								
15.	講義：まとめ								
16.	試験								
事前学習		毎回配布されるプリントの課題内容（色彩用語）を理解しておくこと。							
事後学習		講義の中で言われた作家のプロフィール又は、作品等を調べて講義ノートに記載しておく。							
履修上の注意		出席すること。準備物（ハーモニックカラーチャート）と課題を忘れないこと。							
成績評価の方法・基準		1.平常点（取り組む姿勢、意欲 20%） 2.試験（40%） 3.講義ノート・演習課題ファイル（40%）							
教科書		[ハーモニックカラーチャート 201-L][日本色彩研究所][2,500円]							
参考書		随時紹介。							

授業科目		グラスアート I				担当者	森合 暢子		
単位数	2	必・選	選	授業形式	実技	開講期	前期	対象	美2年
授業の概要 酸素バーナーワークの基礎を習得し、自由に安全に制作出来るようになる事を目標とする。									
授業の目標(到達目標) ガラス工芸の知識とバーナーワークによる制作を指導する。									
授業計画及び内容									
1. ガラス工芸の知識(座学) どういった作品を作りたいかイメージする。(ガイダンス)									
2. 安全な作業の手順 道具の説明 ガラスを溶かしてみよう。									
3. ガラスを溶かすのに慣れる 基礎的な形の制作									
4. 基礎的な形を作れるようになる ・丸、葉っぱの実演									
5. 自由制作 ・くまの実演									
6. 自由制作 ・ブタ、猫の実演									
7. 自由制作 ・魚の実演									
8. 自由制作 ・鳥などの実演									
9. 自由制作 ・イルカの実演									
10. リクエストの実演									
11. リクエストの実演									
12. 自分の作りたいものをイメージし、自由制作する。									
13. 自由制作 ・花の実演									
14. 講評会									
15. 学外研修 松島藤田喬平ガラス美術館での見学									
事前学習		図書館などで好きなガラス関連の本に目を通しておくこと。							
事後学習		自分や他の人の作品をよく見る。							
履修上の注意		安全を考えて慎重に作業すること。							
成績評価の方法・基準		授業中の態度(50%) 制作への姿勢(50%)							
教科書		プリント配布。							
参考書		プリント配布。							

授業科目		グラスアートⅡ				担当者	山口 綾子		
単位数	2	必・選	選	授業形式	実技	開講期	後期	対象	美2年
授業の概要									
軟質ガラスとエアバーナーを使つてのトンボ玉制作を指導する。									
授業の目標(到達目標)									
ガラス工芸のバーナーワークからガラスと炎の特性を知り、素材の扱い方を習得する。 基本技法を学んだ中から様々な文様のトンボ玉をつくれるようになる。									
授業計画及び内容									
1. オリエンテーション 使用材料・道具の説明									
2. ガラスを熔かす・伸ばす・丸くする。									
3. 下玉をつくる。 基本になる素地玉の練習。									
4. 技法1 点打ち ドット・同心円文様のトンボ玉									
5. 技法1 点打ち 花模様のトンボ玉									
6. 技法2 巻き付け 線模様のトンボ玉									
7. 技法3 ひっかき マーブル文様・ジグザグ文様のトンボ玉									
8. 技法4 レース レース棒を引く、 レース玉をつくる。									
9. 技法5 スキ掛け 被せガラスのトンボ玉									
10. 技法6 パーツ 文様のパーツをつくる。									
11. 基本技法を使ってトンボ玉をつくる 課題作品のデザイン・テーマを決める。									
12. 基本技法を使ってトンボ玉をつくる 技法1～6のいずれかを使用。									
13. 基本技法を使ってトンボ玉をつくる 練習①									
14. 基本技法を使ってトンボ玉をつくる 練習②									
15. 基本技法を使ってトンボ玉をつくる 仕上げ、講評									
事前学習		制作に必要な資料・デザインの収集を行うこと。							
事後学習		出来上がった作品を自己評価し、次回制作時の反省・改善などの考察を行うこと。							
履修上の注意		グラスアートⅠを履修することが望ましい。							
成績評価の方法・基準		課題達成 30％・作品 30％・製作への取組み 40％（作業に対する姿勢・進捗状況）で評価します。							
教科書	事前にプリントを配布する。								
参考書	[トンボ玉][小暮紀一][ほるぷ出版][2808 円]								

授業科目		グラスアートⅢ				担当者	山口 綾子		
単位数	2	必・選	選	授業形式	実技	開講期	前期	対象	美3年
授業の概要									
軟質ガラスとエアバーナーを使つてのトンボ玉制作を指導する。									
授業の目標(到達目標)									
ガラスと炎の特性を知ること。 素材の扱い方により技法の習熟度を高める。 基本的な技法を組み合わせ、 自由なデザインを考えられる様になる。									
授業計画及び内容									
1. オリエンテーション 授業内容の説明									
2. 基本の下玉をつくる									
3. 制作Ⅰ 表面加飾-①点打ち									
4. 〃 -②ひっかき									
5. 〃 -③コーティング									
6. 制作Ⅰ の作品提出									
7. 制作Ⅱ 玉の形の工夫-①平玉、筒玉									
8. 〃 -②ねじり玉・匂玉									
9. 制作Ⅲ パーツによる加飾-①レース									
10. 〃 -②パーツ									
11. 制作Ⅱ、Ⅲの作品提出									
12. 制作Ⅳ 自由デザイン-①									
13. 〃 -②									
14. 〃 -③									
15. 〃 -④仕上げ、講評会									
事前学習		必要に応じて授業中に指示する。							
事後学習		必要に応じて授業中に指示する。							
履修上の注意		習熟度に応じて応用技法も追加する。							
成績評価の方法・基準		課題達成 30％・作品 30％・製作への取組み 40％（作業に対する姿勢・進捗状況）で評価します。							
教科書	事前にプリントを配布する。								
参考書	[トンボ玉][小暮紀一][ほるぷ出版][2808 円]								

授業科目		人形 I				担当者	福田 一実		
単位数	2	必・選	選	授業形式	実技	開講期	前期	対象	美 2 年
授業の概要 人体の形をモデルとし、イメージの具現化を促しつつ、実寸大でデッサンに取り組ませ、人形(頭部 8cm の 4 頭身)の制作に繋げる。(原則として人形 I ではドールアイを使用せず、関節は首、肩、股間のみとする。)									
授業の目標(到達目標) 人形の造形について研究しながら学び、球体関節人形を制作するための技法を理解し、オリジナルな人形を完成させる。									
授業計画及び内容									
1. 授業の説明 方眼紙に実寸大の下図をかく。									
2. 下図を元に型紙をつくり、芯材にあててカッター等で削り形をつくる。									
3. 芯材を削り、形をつくる。									
4. 粘土を練り芯材に 3～5mm 厚さに粘土を巻く。									
5. ステンレス製の針金で手の芯をつくる。顔の造形をする。									
6. 手の芯に粘土を巻き、手の造形をする。胴、腕の造形。									
7. 足、脚の造形。									
8. 乾燥させ、すべてをみがく。									
9. 関節の球をつくる。芯材を抜く。頭部に耳を造形をする。									
10. 球を磨き、各関節に固定する。									
11. 球に対する受けをつくる。各球にゴムの通る穴を開け、ステンレス線を頭、肩、股間に固定する。									
12. 仮組をし、やすりをかけ、調整する。									
13. 塗装する。着色、メイク。									
14. 髪を貼る。									
15. 組立て完成させる。 講評									
事前学習		道具の確認。その日の行程の造形を解剖図や資料で確認。							
事後学習		その日の行程を終了させる。単純作業は(みがく、芯材を取り出す等)授業以外で。							
履修上の注意		人物の観察、本、写真等から研究して、造形力を付けておく。							
成績評価の方法・基準		課題作品 50%、授業態度 50%(出席率、忘れ物の有無、創作意欲など)							
教科書		[吉田式球体関節人形制作技法書][吉田 良][ホビージャパン][2,880 円]							
参考書		[美術解剖図ノート][視覚デザイン研究所・編集室][(株)視覚デザイン研究所][2,700 円] [はじめて作る球体関節人形][アイミ][秀和システム][2,000 円]							

授業科目		人形Ⅱ				担当者	福田 一実		
単位数	2	必・選	選	授業形式	実技	開講期	後期	対象	美2年
授業の概要									
人体の形をモデルとし、イメージの具現化を促しつつ、実寸大でデッサンに取り組み、人形(頭部 8cmの 5 頭身)の制作に繋げる。(関節は首、肩、股間、手首、足首とし、個々の進行状況により腕、脚のカットやドールアイの使用を習得させる。)									
授業の目標(到達目標)									
人形の造形について研究しながら学び、球体関節人形を制作するための技法を理解し、オリジナルな人形を完成させる。									
授業計画及び内容									
1. 授業の説明 方眼紙に実寸大の下図をかく。									
2. 下図を元に型紙をつくり、芯材にあててカッター等で削り形をつくる。									
3. 芯材を削り、形をつくる。									
4. 粘土を練り芯材に 3～5 mm厚さに粘土を巻く。									
5. ステンレス製の針金で手の芯をつくる。顔の造形をする。									
6. 手の芯に粘土を巻き、手の造形をする。胴、腕の造形。									
7. 足、脚の造形。									
8. 乾燥させ、すべてをみがく。									
9. 関節の球をつくる。関節部を切断し、芯材を抜く。頭部に耳を造形をする。									
10. 球を磨き、各関節に固定する。(頭を開き、瞳を入れる)									
11. 球に対する受けをつくる。各球にゴムの通る穴を開け、ステンレス線を頭、肩、股間に固定する。									
12. 仮組をし、やすりをかけ、調整する。									
13. 塗装する。着色、メイク。									
14. 髪を貼る。									
15. 組立て完成させる。 講評									
事前学習		道具の確認。その日の行程の造形を解剖図や資料で確認。							
事後学習		その日の行程を終了させる。単純作業は(みがく、芯材を取り出す等)授業以外で。							
履修上の注意		人物の観察、本、写真等から研究して、造形力を付けておく。							
成績評価の方法・基準		課題作品 50%、授業態度 50%(出席率、忘れ物の有無、創作意欲など)							
教科書		[吉田式球体関節人形制作技法書][吉田 良][ホビージャパン][2,880 円]							
参考書		[美術解剖図ノート][視覚デザイン研究所・編集室][(株)視覚デザイン研究所][2,700 円] [はじめて作る球体関節人形][アイミ][秀和システム][2,000 円]							

授業科目		人形Ⅲ				担当者	福田 一実		
単位数	2	必・選	選	授業形式	実技	開講期	前期	対象	美3年
授業の概要									
人体の形をモデルとし、イメージの具現化を促しつつ、実寸大でデッサンに取り組ませ、人形(頭部8cmの6頭身)の制作に繋げる。(関節は腕、脚のカットやドールアイを使用し、全関節人形を完成させる。)									
授業の目標(到達目標)									
人形の造形について研究しながら学び、球体関節人形を制作するための技法を理解し、オリジナルな人形を完成させる。									
授業計画及び内容									
1. 授業の説明 方眼紙に実寸大の下図をかく。									
2. 下図を元に型紙をつくり、芯材にあててカッター等で削り形をつくる。									
3. 芯材を削り、形をつくる。									
4. 粘土を練り芯材に3～5mm厚さに粘土を巻く。									
5. ステンレス製の針金で手の芯をつくる。顔の造形をする。									
6. 手の芯に粘土を巻き、手の造形をする。胴、腕の造形。									
7. 足、脚の造形。									
8. 乾燥させ、すべてをみがく。間接部を切断。									
9. 芯材を抜き、頭部は瞳を入れ。頭部に耳を造形する。関節の球をつくる。									
10. 球を磨き、各関節に固定する。頭部を閉じる。									
11. 球に対する受けをつくる。各球にゴムの通る穴を開け、ステンレス線を頭、肩、股間に固定する。									
12. 仮組をし、やすりをかけ、調整する。									
13. 塗装する。塗装したものを磨き、着色、メイク。									
14. 髪を貼る。									
15. 組み立て完成させる。講評。									
事前学習		道具の確認。その日の行程の造形を解剖図や資料で確認。							
事後学習		その日の行程を終了させる。単純作業は(みがく、心材を取り出す等)授業以外で。							
履修上の注意		人物の観察、本、写真等から研究して、造形力を付けておく。							
成績評価の方法・基準		課題作品 50%、授業態度 50%(出席率、忘れ物の有無、創作意欲など)							
教科書		[吉田式球体関節人形制作技法書][吉田 良][ホビージャパン][2,880 円]							
参考書		[美術解剖図ノート][視覚デザイン研究所・編集室][(株)視覚デザイン研究所][2,700 円] [はじめて作る球体関節人形][アイミ][秀和システム][2,000 円]							

授業科目	マンガ I					担当者	鹿野 明子			
単位数	2	必・選	選	授業形式	実技	開講期	前期	対象	美2年	
授業の概要										
マンガとそれを取り巻くコンテンツ、社会とのかかわりについて教授し、小作品の制作を課す。										
授業の目標(到達目標)										
マンガの制作と鑑賞を通し、幅広い視野と豊かな造形能力を身につける。										
授業計画及び内容										
1.	ガイダンス	マンガの定義／マンガを構成する要素								
2.	マンガ史①	マンガの作り方				プリント配布				
3.	マンガ史②	4コママンガ I				プリント配布				
4.	プロとアマチュア	4コママンガ II								
5.	マンガとタブー	4コママンガ III								
6.	著作権の話	レポートマンガ I								
7.	キャラクターについて	レポートマンガ II								
8.	マンガのジャンル①	レポートマンガ III								
9.	〃	②	レポートマンガ IV							
10.	〃	③	ストーリーマンガの制作 I							
11.	マンガと文学	ストーリーマンガの制作 II								
12.	外国から見た日本のマンガ	ストーリーマンガの制作 III								
13.	宮城県出身のマンガ家①	ストーリーマンガの制作 IV								
14.	〃	②	ストーリーマンガの制作 V							
15.	まとめ									
事前学習		多くの本やマンガを読み広い知識を得る。								
事後学習		制作に必要な資料を集める。								
履修上の注意		課題の提出期限を厳守すること。								
成績評価の方法・基準		出席、課題等から総合的に評価 授業態度 20% 提出課題:アイデア 40% (キャラクター、ストーリー) 絵 40% (丁寧さ、画力、仕上げ)								
教科書	必要に応じて、その都度、資料を配付する。									
参考書	特になし									

授業科目		マンガⅡ				担当者	安孫子 三和		
単位数	2	必・選	選	授業形式	実技	開講期	後期	対象	美2年
授業の概要 テーマに沿った作品制作と完成までを指導する。作画および、マンガの最大の魅力となるキャラクターの作り方と設定のしかた、世界観、コマの切り方、見せコマ等の作り方を細かに指導。読み手に伝わる、より良い作品づくりをめざす。									
授業の目標(到達目標) マンガ制作の手順をとおして技術の習得と精神性を学び、より多くの人へ伝える作品力を向上することができる。									
授業計画及び内容									
1.	授業説明 資料配付 原稿基本ワク制作 /3 キャラ 10分トレーニング								
2.	制作Ⅰ(1)企画の素① ネタを出す方法と実践								
3.	〃 (2)企画の素② あらすじとラフイラストにまとめる/記憶スケッチ								
4.	制作Ⅱ(1)キャラクター創り 主・副+αの設定・特徴を作る								
5.	制作Ⅲ(1)「4ページ(～6ページまで可) ショートストーリー」 ネタ決め、あらすじ(プロット)								
6.	〃 (2)(既存の誌、小説、童話、童謡を元ネタに創作する) コンテ、ネーム①起承								
7.	〃 (3) コンテ、ネーム②転結								
8.	〃 (4) ネームチェックと直し								
9.	〃 (5) 下絵								
10.	〃 (6) ペン入れ①人物								
11.	〃 (7) ペン入れ②背景								
12.	〃 (8) 仕上げ								
13.	制作Ⅳ(1) カラー作画 小物+背景+人物の入った1枚イラスト制作								
14.	〃 (2) 〃 仕上げ								
15.	制作Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの講評会・まとめ								
事前学習		道具をそろえる。授業計画に沿ってイメージ(自分はどう作りたいか)をふくらませてくること。制作Ⅲの既存の作品は崎に読みこんでくること。							
事後学習		制作に遅れがある場合は、授業時間外にも制作に努める。							
履修上の注意		重要な説明を随時おこなうので遅刻・欠席をしないように。							
成績評価の方法・基準		課題提出 60%(完成度 40%、伝わりやすさ・魅力 20%)、 授業態度 40%(出席率、自主性、忘れ物の有無)							
教科書		なし。							
参考書		[「人を惹きつける技術」][小池一夫][講談社][838 円] [「物語」の作り方入門7つのレッスン][円山夢久][電鳥社][1620 円] [快描教室プラス(+)] [菅野博之][美術出版社][1512 円] 授業前にプリント配布あり							

授業科目		マンガⅢ				担当者	安孫子 三和		
単位数	2	必・選	選	授業形式	実技	開講期	前期	対象	美3年
授業の概要 テーマに沿った作品制作と完成までを指導する。作画および、マンガの最大の魅力となるキャラクターの作り方と設定のしかた、世界観、コマの切り方、見せコマ等の作り方を細かに指導。読み手に伝わる、より良い作品づくりをめざす。									
授業の目標(到達目標) マンガ制作の手順をとおして技術の習得と精神性を学び、より多くの人へ伝える作品力を向上することができる。									
授業計画及び内容									
1.	ガイダンス 資料配付 説明 3キャラ顔 10分トレーニング								
2.	制作Ⅰ (1)「背景トレース+人物」ラフ、資料写真各自セレクト								
3.	〃 (2) 原稿下絵								
4.	〃 (3) ペン入れ仕上げ								
5.	〃 (4) 仕上げ、完成								
6.	制作Ⅱ「8ページオリジナルストーリー」 ネタ・アイデア								
7.	〃 (2) プロット決定								
8.	〃 (3) コンテ ネーム ①人物								
9.	〃 (4) 〃 ネームチェック修正								
10.	〃 (5) 下絵 ①								
11.	〃 (6) 〃 ②								
12.	〃 (7) ペン入れ ①人物								
13.	〃 (8) 〃 ②背景								
14.	〃 (9) 仕上げ、完成								
15.	制作Ⅰ・Ⅱの講評会 まとめ								
事前学習	道具をそろえる。授業計画に沿ってイメージ（自分はどう作りたいか）をふくらませてくること。資料のコピーなどは授業前に準備のこと。								
事後学習	制作に遅れがある場合は、授業時間外にも制作に努める。								
履修上の注意	3年次に初めて受講の場合はマンガⅡ（2年次シラバス）に順じた内容も加味します。重要な説明を随時おこなうので遅刻・欠席をしないように。								
成績評価の方法・基準	課題提出 60%（完成度 40%、伝わりやすさ・魅力 20%）、 授業態度 40%（出席率、自主性、忘れ物の有無）								
教科書	なし。								
参考書	[「人を惹きつける技術」][小池一夫][講談社][838 円] [「物語」の作り方入門 7つのレッスン][円山夢久][電鳥社][1620 円] [快描教室プラス (+)][菅野博之][美術出版社][1512 円] 授業前にプリント配布あり								

授業科目		製図 I				担当者	湯目 俊彦		
単位数	1	必・選	選	授業形式	演習	開講期	前期	対象	美 2 年
授業の概要 製図の基礎を教え、木造建築の製図を出来る様にさせる。トレースを基礎に、着色等もふくめ演習させる。									
授業の目標(到達目標) 製図の基礎を学び、建築設計ならびに木造建築物の演習の基礎を習得する。トレースを基礎に、着色等もふくめ演習する。									
授業計画及び内容									
1. 製図用具の知識、図面の基本									
2. 線の演習。三角スケールの縮尺知識。									
3. 製図用具の知識、図面の基本 文字・記号の知識の習得									
4. 製図用具の知識、図面の基本 文字・記号の実施演習									
5. 平面図の書き方の手順 1 (木造平面図) 配付した資料から縮尺変更し基準線の演習									
6. 平面図の書き方の手順 2 (木造平面図) 配付した資料から縮尺変更し柱等の演習									
7. 平面図の書き方の手順 3 (木造平面図) 配付した資料から縮尺変更し壁等の演習									
8. 三面図の書き方手順正面図 TV ボード									
9. 三面図の書き方平面図、側面図 TV ボード									
10. 三面図の書き方詳細図 TV ボード着色									
11. 平面図の書き方の手順 1 (マンション平面図) 配布した資料から縮尺変更基準線の 実習									
12. 平面図の書き方の手順 2 (マンション平面図) RC の柱・壁設備の記入									
13. 平面図の書き方の手順 3 (マンション平面図) 建具記号、平面立体記号の記入									
14. 立面図の書き方の手順 1 (マンション平面図から) 配布資料を参考に縮尺変更									
15. 立面図の書き方の手順 2 (マンション平面図から) 仕上げ									
事前学習		事前に配布したプリントを見ておくこと。							
事後学習		授業で実習した図面と配布した図面の違いがないか確認すること。							
履修上の注意		ケント紙 A4、 A3、製図用シャープペン、ロットリング (0.3/0.5) 三角スケール。 簡易平行定規等製図用具							
成績評価の方法・基準		演習課題毎の作品の提出 (授業態度 40%、期限内提出 30%、作図の正確性、仕上げの美しさ 30%)							
教科書		無し、授業開始時に都度プリント配布。							
参考書		無し、授業開始時に都度プリント配布。							

授業科目		製図Ⅱ				担当者	湯目 俊彦		
単位数	1	必・選	選	授業形式	演習	開講期	後期	対象	美2年
授業の概要									
前期で習得した製図の基礎を基に、SR 建築・内装立面図の製図を出来る様にさせる。 トレースを基礎に、着色等もふくめ演習させる。									
授業の目標(到達目標)									
製図の基礎を学び、建築設計ならびに SR 建築物・立面図の演習の基礎を習得する。ト レースを基礎に、着色等もふくめ演習する。									
授業計画及び内容									
1. キッチン平面図・詳細平面図 1									
2. キッチン平面図・詳細平面図 2									
3. キッチン平面図・詳細平面図 3									
4. 平面図と展開図マンション									
5. 平面図と展開図マンション									
6. 平面図と展開図マンション									
7. 三面図面の書き方平面図、側面図テーブル									
8. 三面図面の書き方平面図、側面図テーブル									
9. 三面図面の書き方平面図、側面図チェアー									
10. 三面図面の書き方平面図、側面図チェアー									
11. 三面図面の書き方平面図、側面図リビングボード									
12. 三面図面の書き方平面図、側面図リビングボード									
13. 平面図自由課題、テーマを与えての自由課題									
14. 平面図自由課題、テーマを与えての自由課題									
15. 平面図自由課題、テーマを与えての自由課題着色									
事前学習		事前に配布したプリントを見ておくこと。							
事後学習		授業で実習した図面と配布した図面の違いがないか確認すること。。							
履修上の注意		製図Ⅰ履修条件、製図用シャープペン (0.3/0.5)．三角スケール等製図用具を用い、授業外でも制作する。							
成績評価の方法・基準		演習課題毎の作品の提出。（授業態度 40%、期限内提出 30%、作図の正確性、仕上げの美しさ 30% ）							
教科書	無し、授業開始時に都度プリント配布。								
参考書	無し、授業開始時に都度プリント配布。								

授業科目		図学Ⅰ				担当者	湯目 俊彦		
単位数	1	必・選	選	授業形式	演習	開講期	前期	対象	美3年
授業の概要									
透視図の基礎を教授し、建築ならびに室内図面から透視図を起こすまで出来る様にする。 1点、2点、3点透視図を学び完成予想パースを書けるまでにする。絵画、クラフト、グラフィック等にも応用出来る事を理解させる。									
授業の目標(到達目標)									
2年次の製図の授業の建築設計ならびに家具設計の演習の基礎を基本に透視図法を習得する。1、2、点透視図法を基礎に、パースを起こし着色等もふくめ演習する。建物、室内、製品等を1、2点透視法を活用しパースを起こし着色し完成習得する。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス/透視図とはなんだろう									
2. 消点について 曲線の演習									
3. 分割のテクニック									
4. 増殖のテクニック									
5. 立方体を1消点、 2消点で書く									
6. 立方体を3消点で書く									
7. 室内を1消点で書く									
8. 室内を2消点で書く									
9. 建物Aを1消点で書く									
10. 建物Bを2消点で書く									
11. 建物Bを2消点で書き仕上げる									
12. 建物Cを2消点で書く									
13. 建物Cを2消点で書き仕上げる									
14. 建物Dを2消点で書く									
15. 建物Dを2消点で書き仕上げる									
事前学習		各消去法の配布したプリントを事前に見ておくこと。							
事後学習		授業で実習した図面を、配布した図面との違いがないか確認すること。							
履修上の注意		ケント紙 A4、 A3、製図用シャープペン、ロットリング（0.3/0.5）、三角スケール。簡易平行定規等製図用具、コンパス							
成績評価の方法・基準		演習課題毎の作品の提出。（授業態度 40%、期限内提出 30%、作図の正確性、仕上げの美しさ 30%）							
教科書	無し、授業開始時に都度プリント配布。								
参考書	無し、授業開始時に都度プリント配布。								

授業科目		図学Ⅱ				担当者	湯目 俊彦		
単位数	1	必・選	選	授業形式	演習	開講期	後期	対象	美3年
授業の概要 前期の透視図の基礎を前提に、建築ならびに室内図面から透視図を起こさせる。 1点、2点、3点透視図の応用をさせる。 絵画、クラフト、グラフィック等にも応用出来る事を理解させる。									
授業の目標(到達目標) 前期の演習の基礎を基本に透視図法を習得する。 1、2点透視図法を基礎に、パースを起こし着色等もふくめ演習する。 建物、室内、製品等を1、2点透視法を活用しパースを起こし着色し完成習得する。									
授業計画及び内容									
1. ダイニングキッチンを2消点で書く									
2. ダイニングキッチンを立面図を基に2消点で書く									
3. 2消点で書いたダイニングキッチンを着色する									
4. 住宅を2消点で書く									
5. 住宅を2消点+分割で書く									
6. 立体を3消点で書く（見上げ）									
7. 立体を3消点で書く（見下げ）									
8. 立体をD点透視図で書く									
9. 立体をD点簡略透視図で書く									
10. 建築物をD点消点透視図で書く									
11. 建築物をD点透視図で仕上げる									
12. 建築物をD点透視図で書きペン入れする									
13. ダイニングルームを1消点透視図で書く									
14. ダイニングルームを立面図を元に1消点透視図で書く									
15. 1消点透視図で書いたダイニングルームを着色する									
事前学習		前期で配布した消去法の基礎を事前に確認すること。（特に分割増殖）							
事後学習		授業で実習した図面を配布した図面との違いがないか確認すること。							
履修上の注意		図学Ⅰを履修条件。製図用シャープペン、(0.3/0.5) 三角スケール等製図用具を用い、授業外でも制作する。							
成績評価の方法・基準		演習課題毎の作品の提出。（授業態度 40%、期限内提出 30%、作図の正確性、仕上げの美しさ 30%）							
教科書		無し。授業開始時に都度プリント配布。							
参考書		無し。授業開始時に都度プリント配布。							

授業科目		写真Ⅰ				担当者	飯沢 耕太郎			
単位数	1	必・選	選	授業形式	集中講義	開講期	前期	対象	美3年	
授業の概要										
写真評論家としての活動を踏まえ、写真による表現のあり方を考察し、日本及び世界の写真家たちの活動を紹介する。写真集・ビデオ映像なども参考にする。										
授業の目標(到達目標)										
写真表現の面白さ、魅力について理解を深め、写真家たちの活動から表現者として姿勢を学びとる。レポート作成を通じて、理解を確認する。										
授業計画及び内容										
1. 写真とは何か① 原点としてのダイアン・アーバス										
2. 写真とは何か② 写真術の発明とその展開										
3. 写真とは何か③ 世界最初の写真集『自然の鉛筆』										
4. 写真とは何か④ 現代写真のはじまり『アメリカン・フォトグラフィス』										
5. 写真とは何か⑤ 写真作品のコレクション										
6. 写真とは何か⑥ 写真美術館と写真ギャラリー										
7. 写真とは何か⑦ ポートフォリオをどう作るか？										
8. 現代写真の展開① 日本写真協会会長新人賞の展示について										
9. 現代写真の展開② 「私写真」を巡って										
10. 現代写真の展開③ 荒木茂惟と森山大道										
11. 現代写真の展開④ 牛腸茂雄と『SELF AND OTHERS』										
12. 現代写真の展開⑤ 石内 都と杉本博司										
13. 現代写真の展開⑥ 写真表現と東北										
14. 現代写真の展開⑦ 「震災後の写真」について										
15. まとめとレポート作成に向けて										
事前学習		積極的に写真展、写真集に触れる。								
事後学習		授業で紹介する写真史、写真論の本を熟読する。								
履修上の注意		授業の内容は変更する可能性がある。								
成績評価の方法・基準		レポートを提出して評価する（80％）、授業の取り組みに対する意欲と姿勢（20％）								
教科書	なし。									
参考書	[写真を愉しむ][飯沢耕太郎][岩波新書][740 円]									

授業科目	写真Ⅱ				担当者	及川 廣道			
単位数	1	必・選	選	授業形式	集中講義	開講期	後期	対象	美3年
授業の概要 前期集中講義の写真Ⅰの実践として、表現行為の中で写真を活用する為の具体的知識を身につける。									
授業の目標(到達目標) 写真術の概要を掴み、光によって画像を形成する基本を教授する。表現行為の中に写真を利用したり、発想を得たり、写真が関わる制作行為への知識を学ばせる。									
授業計画及び内容									
1日目：写真術の発明と発展の経過、カメラ等の撮影機材の基本的知識、写真を使った表現方法について									
2日目：デジタル写真に関する技術解説と、それらを使った応用技術と実際の画像処理ソフトの使い方。									
事前学習		「写真の歴史」 エアロン・シャープ編・著 パルコ出版 「パリ・ニューヨーク・東京」 つくば写真美術館 「写真の過去と現在」 東京国立近代美術館							
事後学習		自己課題制作時の失敗や不足点について考え、再トライをこころみる。							
履修上の注意		課題等の内容が変更になることもあるので、事前の掲示を注意して見る事。集中講義のため、遅刻及び欠席は厳禁。							
成績評価の方法・基準		課題（75%）だけでなく授業態度（25%）も加味して評価する。							
教科書		授業時にプリント配布。							
参考書		特になし。							

授業科目	美術教諭試験対策講座Ⅰ				担当者	佐々木 晃			
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	美3年
授業の概要 公立学校教員採用試験（中・高美術）の過去問題を中心に、出題傾向、意図、視点を解説する。試験対策として、採用試験に向けた学習指導案の作成方法とそれに基づいた授業の実際について指導する。									
授業の目標(到達目標) 公立学校教員採用試験（中・高美術）対策として筆記、面接、実技及び模擬授業のそれぞれについて体系的に理解を深めるとともに、教員としての基本的素養を身に付ける。									
授業計画及び内容									
1.	筆記試験対策 1. 教職教養について・・・教育現場がかかえる諸問題について								
2.	" 2. 教育法規について・・・教育基本法、学校法、地公法他について								
3.	" 3. 専門教養について・・・美術・工芸に関すること								
4.	面接試験対策 1. 集団面接について・・・教師力の評価について								
5.	" 2. 個人面接について・・・人格・素養等の評価について								
6.	小論文試験対策 1 小論文試験で求められるもの								
7.	小論文試験対策 2 完成度の高い論文を目指してできること								
8.	実技試験対策 1 画材								
9.	実技試験対策 2 主題								
10.	実技試験対策 3 時間配分								
11.	教員採用試験の二次試験（模擬授業）について								
12.	学習指導案作成について、指導案作成演習Ⅰ								
13.	演習Ⅰ 模擬授業実践、指導案作成演習Ⅱ								
14.	演習Ⅱ 模擬授業実践、指導案作成演習Ⅲ								
15.	演習Ⅲ 模擬授業実践、振り返り								
事前学習	教育原理、教職概論								
事後学習	教育基本法、学校教育法、地公法について重点的な条文の抽出								
履修上の注意	受講の際は配布するプリントを持参すること。 用具等準備して臨むこと。								
成績評価の方法・基準	レポート 50%、資料分析 40%、授業態度、参加状況（グループ活動、挙手、質問等）など 10%								
教科書	〔学習指導要領解説書 美術編〕〔日本文教出版〕（96 円）								
参考書	なし。								

授業科目	美術教諭試験対策講座Ⅱ					担当者	佐々木 晃		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	美4年
授業の概要 公立学校教員採用試験（中・高美術）の過去問題を中心に出题傾向、意図、視点を解説する。試験対策として、採用試験に向けた学習指導案の作成方法とそれに基づいた授業の実際について指導する。									
授業の目標(到達目標) 公立学校教員採用試験（中・高美術）対策として筆記、面接、実技及び模擬授業のそれぞれについて体系的に理解を深めるとともに、教員としての基本的な素養を身に付ける。									
授業計画及び内容									
1. 筆記試験対策 1. 一般教養									
2. 〃 2. 教育法規Ⅰ									
3. 〃 3. 教育法規Ⅱ									
4. 〃 4. 集団面接									
5. 〃 5. 個人面接									
6. 教員採用試験実技について									
7. 実技試験対策 1 画材									
8. 実技試験対策 2 主題									
9. 実技試験対策 3 時間配分									
10. 小論文試験対策 1 今日の課題に正対する教師の役割の自覚									
11. 小論文試験対策 2 専門職意識の育成と発展									
12. 指導案作成演習（課題Ⅰ）～模擬授業演習Ⅰ									
13. 指導案（課題Ⅰ）による模擬授業演習、講評									
14. 指導案作成練習（課題Ⅱ）～模擬授業演習									
15. 指導案（課題Ⅱ）による模擬授業演習Ⅱ、講評、まとめのレポート									
事前学習	教育原理、教職概論								
事後学習	教育基本法、学校基本法、地公法について重点的な条文の抽出								
履修上の注意	受講の際は配布するプリントを持参すること。 用具等準備して臨むこと。								
成績評価の方法・基準	レポート 50%、資料分析 40%、授業態度、参加状況（グループ活動、挙手、質問等）など 10%								
教科書	〔学習指導要領解説書 美術編〕〔日本文教出版〕（96 円）								
参考書	なし。								

授業科目		アート支援Ⅰ				担当者	瀬戸 典彦			
単位数	2	必・選	選	授業形式	集中講義	開講期	前期	対象	美3年	
授業の概要										
・ボランティア活動の背景について、論じる。 ・美術による社会貢献の事例を紹介する。 ・ボランティア活動の実践／総括を支援する。										
授業の目標(到達目標)										
・ボランティア活動の理念／基本原則を説明できる。 ・美術をツールとして、他者との関係を構築できる。										
授業計画及び内容										
1. オリエンテーション										
2. ボランティア活動の理念／基本原則										
3. 事例紹介／国内										
4. 事例紹介／国外										
5. 事例紹介／ODA										
6. 事例紹介／NGO										
7. 情報収集-一般										
8. 情報収集-文化・教育										
9. 情報収集-美術系										
10. ボランティア活動（フィールドワーク-調査）										
11. ボランティア活動（フィールドワーク-実践）										
12. ボランティア活動（フィールドワーク-総括）										
13. 活動報告書作成（趣旨等）										
14. 活動報告書作成（まとめ等）										
15. 活動報告										
事前学習		活動計画書の作成								
事後学習		活動日誌の作成								
履修上の注意		対象：生活美術学科アートインストラクターコース生 授業時間：時間割の空き時間を利用して授業を行います。								
成績評価の方法・基準		活動計画書：20% 活動日誌：20% 活動報告書：30% 活動報告：30%								
教科書	その都度、資料を配布する。									
参考書	その都度、参考資料を配布する。									

授業科目	アート支援Ⅱ				担当者	瀬戸 典彦			
単位数	2	必・選	選	授業形式	集中講義	開講期	後期	対象	美3年
授業の概要									
・ボランティア活動の事例を紹介する。 ・美術による社会貢献の事例を紹介する。 ・ボランティア活動の実践／総括を支援する。									
授業の目標(到達目標)									
・ボランティア活動の意義を説明できる。 ・美術をツールとして、他者との関係を構築できる。									
授業計画及び内容									
1.	オリエンテーション								
2.	ボランティア活動の意義								
3.	事例紹介／国内								
4.	事例紹介／国外								
5.	事例紹介／ODA								
6.	事例紹介／NGO								
7.	ボランティア活動1（フィールドワーク-調査）								
8.	ボランティア活動1（フィールドワーク-実践）								
9.	ボランティア活動1（フィールドワーク-総括）								
10.	ボランティア活動2（フィールドワーク-調査）								
11.	ボランティア活動2（フィールドワーク-実践）								
12.	ボランティア活動2（フィールドワーク-総括）								
13.	活動報告書作成（趣旨等）								
14.	活動報告書作成（まとめ等）								
15.	活動報告								
事前学習		活動計画書の作成							
事後学習		活動日誌の作成、活動報告準備							
履修上の注意		対象：生活美術学科アートインストラクターコース生 授業時間：時間割の空き時間を利用して授業を行います。							
成績評価の方法・基準		活動計画書：20% 活動日誌：20% 活動報告書：30% 活動報告：30%							
教科書	その都度、資料を配布する。								
参考書	その都度、参考資料を配布する。								

授業科目		技法研究Ⅰ-a				担当者	生活美術学科教員		
単位数	2	必・選	選必	授業形式	実技	開講期	前期	対象	美3年
授業の概要 2年次で習得した各分野の様々な素材・技法による表現方法を踏まえ、制作の充実を図れるよう指導する。 木工では鉋及びノミ等の研ぎを中心に指導する。 { 洋画 日本画 版画 壁画 彫刻 木工 陶芸 漆芸 染織 } 視覚デザイン デジタルデザイン ガラスアート 人形 マンガ 論文									
授業の目標(到達目標) 2年次までに学んだ各分野の基礎を踏まえ、より主体的に研究・制作に取り組むための企画力と実践力を身につける。									
授業計画及び内容									
1.	ガイダンス ※授業内容の詳細説明については、同ジャンルの各実技科目Ⅲ内等で行う。								
2.	課題制作Ⅰ 課題の説明 素材、技法、テーマ設定								
3.	材料準備・アイデア検討								
4.	試 作								
5.	制 作								
6.	修 正								
7.	仕上げ・完成								
8.	講 評								
9.	課題制作Ⅱ 課題の説明 素材、技法、テーマ設定								
10.	材料準備・アイデア検討								
11.	試 作								
12.	制 作								
13.	修 正								
14.	仕上げ・完成								
15.	講評 ・プレゼンテーションなど								
事前学習	各実技科目Ⅲ内等で指示する。								
事後学習	各実技科目Ⅲ内等で指示する。								
履修上の注意	非常勤講師担当科目を履修する学生は、生活美術学科教員より指導を仰ぐこととする。								
成績評価の方法・基準	課題作品 50% 平常点（授業態度、取り組みの姿勢など） 50%								
教科書	事前にプリントを配布する。								
参考書	随時紹介する。								

授業科目		技法研究Ⅱ（洋画）				担当者	北折 整			
単位数	2	必・選	選	授業形式	実技	開講期		後期	対象	美3年
授業の概要										
個人の能力や表現力等を最大限に引き出すために、制作のテーマや表現方法等について話し合いを行い、それに沿って4点の絵画作品の制作指導を行う。（サイズは制作Ⅰ、Ⅱは自由、制作Ⅲは100号程度） また、講評会において他者の作品についての鑑賞を促す。										
授業の目標(到達目標)										
適切な表現方法および材料を使用し、独自の絵画表現を創造することができる。さらに、計画性を持って主体的に制作することにより、効率良く課題を達成し、自己のテーマを深めることができる。										
授業計画及び内容										
1. 導入：科目の説明、授業方針等										
2. 制作Ⅰ：制作意図の決定、エスキース制作・色彩計画										
3. 制作Ⅰ：描画(着彩)										
4. 制作Ⅰ：描画(仕上げ)										
5. 制作Ⅰ：描画・講評会										
6. 制作Ⅱ：制作意図の決定、エスキース制作・色彩計画										
7. 制作Ⅱ：描画(着彩)										
8. 制作Ⅱ：描画(仕上げ)										
9. 制作Ⅱ：描画・講評会										
10. 制作Ⅲ：制作意図の決定、エスキース制作・色彩計画										
11. 制作Ⅲ：描画(下描き)										
12. 制作Ⅲ：描画(着彩)										
13. 制作Ⅲ：描画(着彩)										
14. 制作Ⅲ：描画(仕上げ)										
15. 制作Ⅲ：描画・講評会										
事前学習		制作に必要な各種資料の収集および支持体の準備を行う。								
事後学習		担当からのアドバイスを踏まえた上で、制作を続行する。								
履修上の注意		アトリエは常時使用可能なので、授業時間外での制作を意欲的に行う。								
成績評価の方法・基準		提出課題 90%(技能、表現力、創造性等)、平常点 10%(授業態度、集中力、主体性、協調性等)								
教科書	各種画集を使用する。									
参考書	各種画集を使用する。									

授業科目	技法研究Ⅱ（彫刻）					担当者	佐藤 淳一		
単位数	2	必・選	選	授業形式	実技	開講期	後期	対象	美3年
授業の概要									
現代美術の特に立体、空間表現分野について研究し自己の作品として展開し発表できる。彫刻作品の可能性について様々な「場」での地域での展開を探究させる。									
授業の目標(到達目標)									
彫刻・立体、現代美術での表現について理解できる。空間表現の面白さ、美しさを作品として表現できる。地域でのアート展企画、公募展、グループ展、個展などで表現することができる。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス 授業の目的、計画									
2. 現代美術表現（彫刻）									
3. 〃 （立体）									
4. イメージデッサン									
5. マケット制作									
6. プレゼン研究 講評									
7. 素材研究、選択									
8. デッサン									
9. 制作（荒作り）									
10. 制作（道具）									
11. 制作（動勢）									
12. 制作（面）									
13. 制作（量）									
14. 制作（表面）									
15. 講評									
事前学習		授業でとりあげる作品・作家についてよく研究する。							
事後学習		課題を深める。（自主的に制作の密度を上げる。）							
履修上の注意		授業でとりあげる展覧会のレポート提出。							
成績評価の方法・基準		作品 40%、授業態度 40%、提出レポート 20%							
教科書	資料配付。								
参考書	授業で紹介します。								

授業科目		技法研究Ⅱ（洋画）				担当者	森 敏美		
単位数	2	必・選	選	授業形式	演習	開講期	後期	対象	美3年
授業の概要									
洋画Ⅲで学んで来たものを更に発展展開できるように、各自課題の設定と制作を進めてもらう。各種展覧会、特に同世代の表現や考えを知る上でも、卒展等は必ず県内外を問わず見て参考にすることを義務付ける。									
授業の目標(到達目標)									
洋画Ⅲを基準に深めてゆく。卒業研究、洋画で制作できるレベルに到達すること。自分の美術表現に対してのテーマ性を考える。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス 各自テーマの設定									
2. 各自課題の設定研究 図書館等での画集等美術関連の検索									
3. 各自課題の設定研究 インターネット、ギャラリー等での資料収集									
4. 各自課題の設定研究 教員とのディスカッション									
5. 各自課題の設定研究 方向性の位置づけ									
6. 各自課題のエスキース制作 1～5を踏まえエスキースに取り掛かる									
7. 各自課題のエスキース制作 エスキースの修正									
8. 各自課題のエスキース制作 エスキースのまとめ									
9. 各自課題のエスキース制作 最終案の決定									
10. 発表 教員或いは学生間との意見交換									
11. 各自課題制作Ⅰ① パネル制作・下地									
12. 各自課題制作Ⅰ② 描き出し・全体像把握									
13. 各自課題制作Ⅰ③ 描き込み									
14. 各自課題制作Ⅰ④ 仕上げに向かう									
15. 各自課題制作Ⅰ⑤講評会									
事前学習		各自作家研究を行い、制作ノートを作っておくこと。							
事後学習		空いている時間を活用し積極的に制作に励む。							
履修上の注意		必ず洋画Ⅲを履修登録しこれを履修する事。							
成績評価の方法・基準		研究課題制作 90%、平常点 10%（平常点は授業への参加状況および制作態度で判断する）							
教科書	資料配布。								
参考書	なし。								

授業科目		技法研究Ⅱ（壁画）				担当者	森 敏美		
単位数	2	必・選	選	授業形式	演習	開講期	後期	対象	美3年
授業の概要									
各壁画の技法で習得、上達したいものを申告し、各自の申告と技量に合せた制作を進め、作品を仕上げてもらう。									
授業の目標(到達目標)									
壁画Ⅲを履修した学生でさらにモザイク・ステンド・フレスコ等の技法を深め習得できること。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス									
2. 各自研究課題申告									
3. 壁画Ⅲの内容とリンクさせた制作を									
4. 研究準備させる									
5. 研究制作1 制作に入る									
6. 研究制作2 全体像把握									
7. 研究制作3 全体作りこみ									
8. 研究制作4 部分仕上げ									
9. 研究制作5 部分確認									
10. 研究制作6 中間チェック									
11. 研究制作7 詳細作りこみ									
12. 研究制作8 詳細確認									
13. 研究制作9 詳細仕上げ									
14. 研究制作10 完成									
15. 中間チェック									
事前学習		壁画Ⅲを履修した内容を精査し、本授業に備える。							
事後学習		足りない時間は、空いている時間を活用し制作する。							
履修上の注意		壁画Ⅲを履修して更に技法研究Ⅰも履修していることが望ましい。							
成績評価の方法・基準		研究課題制作 90%、平常点 10%（平常点は授業への参加状況および制作態度で判断する）							
教科書	資料配布。								
参考書	なし。								

授業科目		技法研究Ⅱ(視覚デザイン)				担当者		三上 秀夫	
単位数	2	必・選	選	授業形式	実技	開講期	後期	対象	美3年
授業の概要									
個別指導を中心に取材・調査を通してデザイン制作を行う。中間発表や最終プレゼンテーションはグループで行う。各自卒業制作を意識した素材研究・技法研究を行う。									
授業の目標(到達目標)									
「イメージを視覚化する力」「プレゼンテーション力」を身につける。卒業制作を意識した素材研究、技法研究を行うことで自分のイメージしたものを形にし、発表することができるようになる。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス					8. 課題2「各自テーマを設定」課題説明				
課題1「各自テーマを設定」テーマ設定					「各自テーマを設定」テーマ設定				
2. 「各自テーマを設定」情報収集					9. 「各自テーマを設定」情報収集				
技法・素材研究					技法・素材研究				
3. 完成予想(図やマケット)					10. 完成予想(図やマケット)				
制作 材料準備					制作 材料準備				
4. 制作 基本構造					11. 制作 基本構造				
制作 中間構造					制作 中間構造				
5. 制作 細部・表面					12. 制作 細部・表面				
制作 仕上げ					制作 仕上げ				
6. 制作 設置計画					13. 制作 設置計画				
制作 設置					制作 設置				
7. 発表					14. 発表				
手直し					手直し				
まとめ					15. 全体のまとめ				
事前学習		事前に情報を収集しておくこと。詳細は授業時にプリントまたは口頭で伝える。							
事後学習		授業や講評で得たことを参考に課題作品の手直しをする。各自、将来必要となるポートフォリオのための課題作品の写真撮影をすること。							
履修上の注意		道具・材料について授業内の話し合いで各自に適したものを指示する。							
成績評価の方法・基準		提出課題の内容(30%)、授業の取り組みに対する意欲と姿勢(30%)、講評での発表の内容(40%)で評価する。							
教科書	授業時にプリントを配布する。								
参考書	こちらで授業時に参考図書を用意する。								

授業科目		技法研究Ⅱ（論文）				担当者	瀬戸 典彦		
単位数	2	必・選	選	授業形式	演習	開講期	後期	対象	美3年
授業の概要									
・卒業論文執筆を想定し、エッセーの構成に関する理解を促す。									
授業の目標(到達目標)									
・論文のテーマを設定できる。 ・論文を構成できる。 ・論旨を的確に展開できる。									
授業計画及び内容									
1. オリエンテーション：「レポートから論文へ」									
2. アウトライン（意味）									
3. アウトライン（事例）									
4. アウトライン（作成）									
5. アウトライン（評価）									
6. アウトライン（修正）									
7. トピック（事例）									
8. トピック（作成）									
9. ボディー（事例）									
10. ボディー（作成）									
11. コンクルージョン（事例）									
12. コンクルージョン（作成）									
13. リファレンスの書き方									
14. アブストラクトの書き方									
15. まとめ（プレゼン）									
事前学習		先行事例等に関する調査							
事後学習		授業毎に提示される課題の実践							
履修上の注意		毎回、課題を提示します。							
成績評価の方法・基準		・提出課題の内容：70% ・プレゼンテーション:30%							
教科書	その都度、資料を配布する。								
参考書	その都度、資料を配布する。								

授業科目		技法研究Ⅱ（情報デザイン）				担当者	鶴巻 史子		
単位数	2	必・選	選	授業形式	演習	開講期	後期	対象	美3年
授業の概要									
コンピュータグラフィックによる情報・メディアデザインの表現と技法について研究と制作を行う。実践に近いテーマを設定し、課題を通して各自の表現を追求する。									
授業の目標(到達目標)									
情報・メディアデザインの表現と技法について主体的に研究、制作に取り組み、幅広い知識と技術、表現力を習得することを到達目標とする。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス									
2. 制作・研究テーマ設定									
3. 制作・研究テーマに関する調査									
4. 制作・研究計画の作成									
5. アイデアスケッチ制作									
6. モックアップ制作									
7. デザイン検討									
8. ユーザー調査									
9. 制作① コンテンツ									
10. 制作② グラフィック									
11. 制作③ インターフェース									
12. 中間プレゼンテーション									
13. デザイン再検討									
14. 制作④ 仕上げ									
15. プレゼンテーション									
事前学習		制作に関する情報収集、調査を行うこと。							
事後学習		制作プロセスをデジタルデータ形式にまとめ「制作ノート」として保存しておくこと。							
履修上の注意		「デジタルデザインⅠ・Ⅱ」を履修していること。制作データはUSBメモリ等に保存し持参すること。							
成績評価の方法・基準		課題制作 90%、平常点（授業態度、取り組みの姿勢など） 10%							
教科書	適宜指示する。								
参考書	適宜指示する。								

授業科目		技法研究Ⅱ（版画）				担当者	大堀 恵子		
単位数	2	必・選	選	授業形式	演習	開講期	後期	対象	美3年
授業の概要									
①学内展発表②学外展発表を目標に、「版」の存在を意識し各自の表現手法、表現内容の充実をはかれるよう指導する。									
授業の目標(到達目標)									
版画Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで学修した版の原理を基に各自の制作方法を確立する。絵画力を養い、版画の技法、版表現の様々を経験し、学内、学外展示を通して、自己の作品を客観視できる能力を身につける。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス									
2. 学内外用作品制作－テーマ・エスキース									
3. 版制作									
4. 製版									
5. 試刷り									
6. 本刷り									
7. プレゼンテーション									
8. 学内外用作品制作－テーマ・エスキース									
9. 版制作									
10. 製版									
11. 試刷り									
12. 本刷り									
13. プレゼンテーション									
14. 講評会									
15. 学内外展示、発表									
事前学習		版を制作し授業に臨むこと。							
事後学習		いろいろな展覧会を見ること。							
履修上の注意		作品の計画又は途中経過を記録する制作ノートを作成すること。							
成績評価の方法・基準		1 提出課題（50％） 2 制作ノート（30％） 3 平常点（取り組む姿勢、意欲20％）							
教科書	授業前にプリントを配布する。								
参考書	随時紹介。								

授業科目		技法研究Ⅱ（染織）				担当者	三浦 輝子		
単位数	2	必・選	選	授業形式	実技	開講期	後期	対象	美3年
授業の概要									
染織Ⅰ～Ⅲで習得した技法、または技法研究Ⅰからの研究課題を選択させ、卒業研究の基礎研究、制作の指導を行う。									
授業の目標(到達目標)									
卒業制作における準備段階として必要なテーマを設定し、研究制作を行う。 技法工程を十分に把握し、制作内容に応じた時間等も考慮した上で、研究計画を立てられるようにする。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス 授業概要									
2. 研究内容の設定									
3. 参考資料収集① 技法について									
4. 参考資料収集② 素材について									
5. 染料・素材の決定									
6. 下図作成									
7. 下図 原寸拡大									
8. 試作制作									
9. 本制作 精練									
10. 本制作 整経									
11. 本制作 機上げ									
12. 本制作 織り（上部）									
13. 本制作 織り（下部）									
14. 仕上げ									
15. 講評会									
事前学習		制作に必要な事前調査・資料収集を行う。							
事後学習		授業毎に作業内容を記録しておくこと。							
履修上の注意		染料・助剤等の化学薬品使用時には、作業内容に応じて防護メガネ・マスクを着用のこと。							
成績評価の方法・基準		提出課題 80%、出席を含む平常点 20%（平常点は制作への取り組み等総合的に判断する。）							
教科書		授業前にプリントを配布する。							
参考書		〔図解 染織技術事典〕〔田中清香 土肥悦子〕〔理工学社〕〔4200 円〕							

授業科目		技法研究Ⅱ（陶芸）				担当者	立花 布美子		
単位数	2	必・選	選	授業形式	実技	開講期	後期	対象	美3年
授業の概要									
決められた粘土量での水挽き、大物制作のための土殺し方法、“ダンゴ”の使い方を指導する。また、湿台を使用し作品に応じた削り仕上げができるよう指導する（湿台の扱い、管理含む）。									
授業の目標(到達目標)									
電動ろくろによる成形では更に高度な技術を習得するため、量の多い粘土での水挽き繰り返し練習し、様々な表現ができるよう目指す。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス 菊練り練習（3～5kg） デザイン									
2. 電動ろくろ成形（中鉢/亀板使用）土殺し練習									
3. 粘土の種類を選択 土殺し練習									
4. 土殺し練習 ダンゴの使用									
5. ①-1 土殺し 中鉢水挽き練習									
6. ①-2 削り仕上げ									
7. ②-1 土殺し 中鉢水挽き練習									
8. ②-2 削り仕上げ									
9. ③-1 土殺し 中鉢水挽き制作									
10. ③-2 削り仕上げ（湿台使用）									
11. ④-1 土殺し 中鉢水挽き制作									
12. ④-2 削り仕上げ（湿台使用）									
13. 釉掛け（技法研究Ⅰで調合した釉薬も使用）									
14. 釉掛け（加飾も含）									
15. 窯出し 講評									
事前学習		工芸作品に関する参考資料収集、鑑賞を行うこと。ダンゴ、湿台について調べておくこと。							
事後学習		各回、作業日誌を記入し、ポイントをまとめる。授業内で各自個別指導を行う。							
履修上の注意		電動ろくろの繰り返しの練習が必要とされるため、欠席の無いようにする。 焼成日に合わせ、計画的に作業を進めること。							
成績評価の方法・基準		授業参加状況 50% 課題作品 50%							
教科書	授業前にプリントを配布する。								
参考書	随時紹介する。								

授業科目		技法研究Ⅱ（日本画）				担当者	及川 聡子			
単位数	2	必・選	選	授業形式	実技	開講期	後期	対象	美3年	
授業の概要										
展示空間を想定し、その中でサイズや比率、枚数などを各自が計画、制作するよう指導する。1点のみの制作とする場合は20号以上。										
授業の目標(到達目標)										
現代における日本画の意味を考察しながら、自分自身のスタイルを確立する。作品の完成度を高めると共に、作品をめぐる展示空間を意識する感覚を養う。										
授業計画及び内容										
1. 導入 科目の説明										
2. 構想										
3. 展示図面作成										
4. エスキース（小下図）制作開始										
5. エスキース（小下図）制作仕上げ										
6. 意図と計画の説明 水張り										
7. トレース										
8. タブロー（本画）骨描き										
9. タブロー（本画）墨による陰影描き込み										
10. タブロー（本画）墨による陰影仕上げ										
11. タブロー（本画）下地作り 下塗り										
12. タブロー（本画）水干及び岩絵の具による制作開始										
13. タブロー（本画）水干及び岩絵の具による描き込み										
14. タブロー（本画）水干及び岩絵の具による仕上げ										
15. 講評										
事前学習		速やかに制作を開始できるよう、各自、準備すること。日本画に限らず、現代の美術表現、また美術以外の表現活動にも意識を向けるよう努めておくこと。								
事後学習		道具の手入れを心を込めて行うこと。制作の遅れがある場合、授業時間外の制作に努めること。								
履修上の注意		毒性のある赤系の絵の具は水道に流さない。朱を使用した皿は、ふき取りの後、洗浄。								
成績評価の方法・基準		課題作品 80%（完成度 50% 意図・発想 30%） 授業態度 20%（創作意欲や、創作の自主性等）								
教科書	無し。									
参考書	無し。									

授業科目		技法研究Ⅱ（木工）				担当者	林 範親		
単位数	2	必・選	選	授業形式	実技	開講期	後期	対象	美3年
授業の概要									
家具のデザイン、制作のまとめとして小抽斗や小箆笥のデザイン及び制作を指導する。									
授業の目標(到達目標)									
技法研究や材料研究を基に、課題を通し技術的、デザイン的な向上を目指し、完成度を高める。木工における家具制作の基本的集大成としての技能を身に付ける。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス 参考資料を見る									
2. 小抽斗及び小箆笥のデザイン及び制作について									
3. 小抽斗等を中心とした家具・木工芸品等の鑑賞									
4. 小抽斗等のデザイン									
5. 図面の制作									
6. 材料・構造・技法等の検討									
7. 材料準備									
8. 木取り墨付け									
9. 組み立て加工 天板									
10. 組み立て加工 側板									
11. 組み立て加工 仕切板及び台輪									
12. 組み立て加工 抽斗									
13. 仮組み 本体・及び抽斗・調整									
14. 本組・仕上げ									
15. まとめ・講評会									
事前学習		各作業の道具や用具、材料等事前の準備をしっかりとしておく事。							
事後学習		使用後の道具の手入れ、刃を研ぐ、調整等。							
履修上の注意		木工Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、技法研究Ⅰを修得していること。遅刻しない事。							
成績評価の方法・基準		課題作品 80%（デザイン2、アイディア・オリジナリティ2、テクニック3、完成度3）授業への取り組み方や意欲 20%							
教科書	なし。								
参考書	随時紹介。								

授業科目		技法研究Ⅱ（漆芸）				担当者	井上 直美		
単位数	2	必・選	選	授業形式	実技	開講期	後期	対象	美3年
授業の概要									
乾漆の作品を2点以上制作させる。後期は前期に制作した作品の塗りや加飾、仕上げを指導する。加飾は自由課題とし、漆による様々な表現と意匠力を養う。									
授業の目標(到達目標)									
漆芸の中でも高度とされる乾漆技法を学び、造形としても展開できる漆の特性と可能性を追求する。個性の表現を楽しみながら表現出来る力を身に付ける。									
授業計画及び内容									
1. 脱乾・縁の調整・固め・黒中									
2. 捨て塗り									
3. 研ぎ 黒中1 内									
4. 研ぎ 黒中1 外									
5. 研ぎ 黒中2 内									
6. 研ぎ 黒中2 外									
7. 色漆練り 内1									
8. 色漆練り 外1									
9. 貝、卵殻 貼り									
10. 塗り込み1									
11. 研ぎ出し 述べ摺り									
12. 生摺り1									
13. 生摺り2									
14. 磨き 蒔き絵 銀粉 金粉									
15. 仕上げ									
事前学習		作品の色、柄、模様を考えておく。							
事後学習		加飾に使う素材の学習（貝、卵殻、金粉、銀粉など）							
履修上の注意		作業着を着用の上、授業に臨む。漆かぶれに注意ながらすすめる。							
成績評価の方法・基準		授業態度（50％）→意欲、積極性、理解度など 作品進度（50％）→完成度、デザイン、センス、個性の表現							
教科書	特になし。								
参考書	[やさしく身に付くうるしのはなし 1～4][日本漆工協会][2160 円]。								

授業科目		技法研究Ⅱ（グラスアート）				担当者		森合 暢子	
単位数	2	必・選	選	授業形式	実技	開講期	後期	対象	美3年
授業の概要									
酸素バーナーワークによるガラス作品の制作を指導する。									
授業の目標(到達目標)									
グラスアートⅠよりステップアップしたバーナーワークの技術を習得し、1つの作品を制作することが目標。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス 授業の流れの説明 制作実演									
2. 道具の使い方について（復習） ガラスを熔かす									
3. ガラスを熔かし、自由造形をする									
4. 基本の動作									
5. 動物の制作（大きめ）									
6. リクエストを実演 上級テクニック									
7. 〃 （例）立体花									
8. 〃 （例）ウミウシ									
9. 〃 （例）ペンギン									
10. 〃 （例）マンボウ									
11. 〃 （例）プードル									
12. 〃 （例）雪の結晶									
13. 〃 （例）ガラスビーズ									
14. 自由制作									
15. 自由制作 講評会									
事前学習		ガラスの本などを見て、自分の作りたい作品のイメージを膨らませておくこと。							
事後学習		自分や周りの人たちの作品をよく見る。							
履修上の注意		安全を考えて、慎重に作業すること。							
成績評価の方法・基準		授業中の態度（50％）制作への姿勢（30％）作品完成度（20％）							
教科書	プリント配布。								
参考書	プリント配布。								

授業科目		技法研究Ⅱ（人形）				担当者	福田 一実		
単位数	2	必・選	選	授業形式	実技	開講期	後期	対象	美3年
授業の概要									
人形Ⅰ～Ⅲで習得した技術を基に、人体の形をモデルとし、イメージをふくらませて実寸大でデッサンし、人形を制作する。サイズは50cm以上を1体か50cm以内の自由なサイズ2体のいずれかの球体関節人形を完成させる。									
授業の目標(到達目標)									
人形の造形について研究しながら学び、球体関節人形を制作するための技法を理解し、オリジナルな人形を完成させる。									
授業計画及び内容									
1. 授業の説明 方眼紙に実寸大の下図をかく。									
2. 下図を元に型紙をつくり、芯材にあててカッター等で削り形をつくる。									
3. 芯材を削り、形をつくる。									
4. 粘土を練り芯材に3～5mm厚さに粘土を巻く。									
5. ステンレス製の針金で手の芯をつくる。顔の造形をする。									
6. 手の芯に粘土を巻き、手の造形をする。胴、腕の造形。									
7. 足、脚の造形。									
8. 乾燥させ、すべてをみがく。間接部を切断。									
9. 芯材を抜き、頭部は瞳を入れ。頭部に耳を造形する。関節の球をつくる。									
10. 球を磨き、各関節に固定する。頭部を閉じ、耳を作る。									
11. 球に対する受けをつくる。各球にゴムの通る穴を開け、ステンレス線を頭、肩、股間に固定する。									
12. 仮組をし、やすりをかけ、調整する。									
13. 塗装する。塗装したものを磨き、着色、メイク。									
14. 髪を貼る。									
15. 組み立て完成させる。講評。									
事前学習		道具の確認。その日の行程の造形を解剖図や資料で確認。							
事後学習		その日の行程を終了させる。単純作業は(みがく、心材を取り出す等)授業以外で。							
履修上の注意		人物の観察、本、写真等から研究して、造形力を付けておく。							
成績評価の方法・基準		課題作品 50%、授業態度 50%(出席率、忘れ物の有無、創作意欲など)							
教科書	[吉田式球体関節人形制作技法書][吉田 良][ホビージャパン][2,880 円]								
参考書	[美術解剖図ノート][視覚デザイン研究所・編集室][(株)視覚デザイン研究所][2,700 円] [はじめて作る球体関節人形][アイミ][秀和システム][2,000 円]								

授業科目		技法研究Ⅱ（マンガ）				担当者	鹿野 明子		
単位数	2	必・選	選	授業形式	実技	開講期	後期	対象	美3年
授業の概要									
マンガの制作をとおして、他者との関係について指導する。									
授業の目標(到達目標)									
自己満足でない、他者を楽しませる作品とは何か。また、それを伝えるための技術と表現について考える。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス 技法研究1 人体と表情									
2. 技法研究2 パースペクティヴ									
3. 技法研究3 質感とオブジェクト									
4. 制作Ⅰ 構想									
5. 制作Ⅱ シナリオ									
6. 制作Ⅲ シナリオのチェックと修正 ネーム①									
7. 制作Ⅳ ネーム②									
8. 制作Ⅴ ネームのチェックと修正									
9. 制作Ⅵ ペン入れ ①わく線、ふきだし、人物-1									
10. 制作Ⅶ ペン入れ ②人物-2、背景-1									
11. 制作Ⅷ 背景-2									
12. 制作Ⅸ 演出									
13. 制作Ⅹ 仕上げ ①									
14. 制作Ⅹ 仕上げ ②									
15. まとめ、講評会									
事前学習		デッサン力の向上、制作の資料収集、幅広い知識							
事後学習		技法や表現、素材の研究							
履修上の注意		課題の提出期限を厳守すること							
成績評価の方法・基準		課題と取り組みの様子から総合的に評価 授業態度 20% 提出課題:アイデア 40%（キャラクター、ストーリー） 絵 40%（丁寧さ、画力、仕上げ）							
教科書	必要に応じて、その都度、資料を配付する。								
参考書	特になし								

授業科目		卒業研究Ⅰ(洋画)			担当者名		北折 整		
単位数	6	必・選	選必	授業形式	演習	開講期	前期	対象	美4年
授業の概要									
卒業研究Ⅱに向けて、これまでの大学での学びを振り返り、その集大成として取り組むべき課題を明確にさせる。コンセプトノートの作成により制作内容についての言語化を図り、実制作においては試作を複数指導する。									
授業の目標(到達目標)									
卒業研究Ⅱのテーマを絞り込み、その表現に必要な方法を明確にすること。研究内容の自身との関係性および社会における意味を理解し、継続して主体的に美術に関わっていく姿勢を身に付ける。									
授業計画及び内容									
1～3回：導入：科目・課題の説明、自己の既制作のまとめ、課題確認、授業計画の作成									
4～6回：制作Ⅰ／エスキース									
7～9回：制作Ⅰ／支持体作成、描画(下描き)									
10～12回：制作Ⅰ／描画(着彩)									
13～15回：制作Ⅰ／描画(仕上げ)									
16～18回：制作Ⅱ／エスキース									
19～21回：制作Ⅱ／支持体作成、描画(下描き)									
22～24回：制作Ⅱ／描画(着彩)									
25～27回：制作Ⅱ／描画(着彩)									
28～30回：制作Ⅱ／描画(仕上げ)									
31～33回：制作Ⅲ／エスキース									
34～36回：制作Ⅲ／支持体作成、描画(下描き)									
37～39回：制作Ⅲ／描画(着彩)									
40～42回：制作Ⅲ／描画(着彩)									
43～45回：制作Ⅲ／描画(仕上げ)、プレゼンテーション、課題提出(含むレポート)									
事前学習		制作に必要な各種資料の収集を行う。							
事後学習		担当からのアドバイスを踏まえた上で、制作を続行する。							
履修上の注意		アトリエは常時使用可能なので、自分のリズムを維持し毎日制作に励むことが望ましい。							
成績評価の方法・基準		提出課題 90%(創意、表現力、計画性、完成度等)、平常点 10%(授業態度、集中力、主体性等)							
教科書		各種画集を使用する。							
参考書		各種画集を使用する。							

授業科目		卒業研究Ⅰ（彫刻）				担当者	佐藤 淳一		
単位数	6	必・選	選必	授業形式	演習	開講期	前期	対象	美4年
授業の概要 指導担当との打合せをしながら、自己のイメージ、素材、制作完成へと十分に時間をかけながら、着実に研究を進める。									
授業の目標(到達目標) 自己の独自性を発見し造形の中から彫刻を選択した意味を確認し、地域社会と自己の作品の関係性について発想し計画し展開できる。									
授業計画及び内容									
1 回～3 回：ガイダンス 卒制の動機付									
4 回：ガイダンス 意識の確立、地域と自己の作品の関係性 展覧会鑑賞研究									
5 回～8 回：テーマ研究 今迄の卒制研究									
9 回～12 回：テーマ研究 他の卒制研究									
13 回～15 回：テーマ制定 自己の作品から 発想研究									
16 回～18 回：テーマ制定、空間研究									
19 回：テーマの確認 デッサン、構想									
20 回～22 回：素材研究 粘土									
23 回～25 回： // プラスチック									
26 回～28 回： // テラコッタ									
29 回～33 回： // 石材									
34 回～38 回： // 木材									
39 回～41 回： // 鉄材									
42 回～44 回： // 非鉄金属 その他									
45 回 まとめ、講評、自己評価									
事前学習		現代美術作品（立体、インスタレーション他）研究							
事後学習		その回の課題について深める							
履修上の注意		打合せの内容を自己の制作に生かすこと							
成績評価の方法・基準		作品 40%、制作態度 40%、課題提出 20%							
教科書		資料配付。							
参考書		資料配付。							

授業科目		卒業研究Ⅰ（洋画）				担当者	森 敏美		
単位数	6	必・選	選必	授業形式	演習	開講期	前期	対象	美4年
授業の概要									
計画的に制作に臨む事。十分な資料収集と担当とのディスカッションを行い、四年間の集大成としての作品になる事を望む。特にその準備を丁寧に取り組むよう指導する。									
授業の目標(到達目標)									
様々な美術表現を四年間学び、その中で各自の選択した技法を単独で、或いは複合で一番自分に適した形に持って行き、自己の可能性を見出す事により将来に繋げる事を確認し、表現することの意味合い、テーマ性等を十分に自覚する事を目的とする									
授業計画及び内容									
1 回：課題の説明、計画表の作成									
2 回：資料検索（収集）、アイディアスケッチ									
3 回：ラフスケッチ									
4 回：ディスカッション									
5 回～9 回：材料準備など									
10 回～15 回：エスキース期間									
16 回～18 回：試作制作									
19 回～20 回：支持体、材料チェック									
21 回～25 回：試作									
26 回：本制作、中間チェック									
27 回～35 回：試作									
36 回～39 回：本制作準備									
40 回～42 回：本制作打ち合わせ									
43 回：構想、調整期間									
44 回：プレゼンテーション、制作意図の文章化など本制作、仕上げ									
45 回：提出、中間審査、発表									
事前学習		資料収集等（製作ノート・日誌）を充実させる。							
事後学習		四年間の集大成と言える、卒業制作の構想、資料収集、エスキース等の準備を通して、後期の卒業制作に生かす。							
履修上の注意		健康に留意し、日々のリズムをくずさない様に制作を行う。							
成績評価の方法・基準		作品（試作、エスキースを含む）及び制作に対する取り組みなどにより評価を行う。							
教科書	資料配布。								
参考書	特になし								

授業科目		卒業研究Ⅰ（壁画）				担当者	森 敏美		
単位数	6	必・選	選必	授業形式	演習	開講期	前期	対象	美4年
授業の概要									
計画的に制作に臨む事。十分な資料収集と担当とのディスカッションを行い、四年間の集大成としての作品になる事を望む。特にその準備を丁寧に取り組むよう指導する。									
授業の目標(到達目標)									
様々な美術表現を四年間学び、その中で各自の選択した技法を単独で、或いは複合で一番自分に適した形に持って行き、自己の可能性を見い出す事により将来に繋げる事を確認し、表現することの意味合い、テーマ性等を十分に自覚する事を目的とする									
授業計画及び内容									
1回：課題の説明、計画表の作成									
2回：資料検索（収集）、アイディアスケッチ									
3回：ラフスケッチ									
4回：ディスカッション									
5回～9回：材料準備など									
10回～15回：エスキース期間									
16回～18回：試作制作									
19回～20回：支持体、材料チェック									
21回～25回：試作完成									
26回：本制作、中間チェック									
27回～35回：本制作準備									
36回～39回：本制作取り組み									
40回～42回：本制作確認チェック									
43回：本制作調整期間									
44回：プレゼンテーション、制作意図の文章化などまとめる									
45回：提出、中間審査、発表									
事前学習		資料収集等（製作ノート・日誌）を充実させる。							
事後学習		四年間の集大成と言える、卒業制作の構想、資料収集、エスキース等の準備を通して、後期の卒業制作に生かす。							
履修上の注意		健康に留意し、日々のリズムをくずさない様に制作を行う。							
成績評価の方法・基準		作品（試作、エスキースを含む）及び制作に対する取り組みなどにより評価を行う。							
教科書	資料配布。								
参考書	特になし								

授業科目	卒業研究Ⅰ（視覚デザイン）				担当者	三上 秀夫			
単位数	6	必・選	選必	授業形式	演習	開講期	前期	対象	美4年
授業の概要									
卒業研究Ⅰ・Ⅱは、1.テーマ設定、2.技法や材料研究、3.プレゼンテーションの順で行う。Ⅰでは、その前半を行う。									
授業の目標(到達目標)									
4年間の集大成に相応しい作品を完成させることを目標とする。作品づくりのための一連の「進め方」「考え方」を身につけることができる。									
授業計画及び内容									
1 回ガイダンス					16 回 完成予想から実際の作業、制作				
2 回 テーマ設定（調査方法、情報収集）検討					17 回 テーマ設定 テーマの再確認				
3 回 テーマ設定（調査）作業					18 回 テーマ設定 調査 1				
4 回 テーマ設定（情報収集）作業					19 回 テーマ設定 調査 2				
5 回 完成予想（図やマケット）					20 回 テーマ設定 情報収集 1				
6 回 完成予想 制作 材料準備					21 回 テーマ設定 情報収集 2				
7 回 完成予想 制作 基本構造					22 回 テーマ発表				
8 回 完成予想 制作 中間構造					23 回 制作 （日程・計画）				
9 回 完成予想 制作 細部・表面					24 回 制作 （制作ノート確認）				
10 回 完成予想 制作 仕上げ					25 回 制作 進行・日程（発表）				
11 回 完成予想制作 設置計画					26～29 回 制作 技法研究（技法確認）				
12 回 完成予想 制作 設置方法					30～34 回 制作 材料準備（材料確認）				
13 回 完成予想 サイズ、量、大きさの確認					35～39 回 制作 材料準備（色彩計画）				
14 回 完成予想 発表 手直し					40～44 回 制作 基本構造（計画）				
15 回 まとめ					45 回 前期まとめ				
事前学習		事前に情報を収集しておくこと。詳細は授業時にプリントまたは口頭で伝える。							
事後学習		各自、卒業研究の経過を記録すること。							
履修上の注意		道具・材料について授業内の話し合いで各自に適したものを指示する。							
成績評価の方法・基準		提出課題の内容（30%）、授業の取り組みに対する意欲と姿勢（30%）、講評での発表の内容（40%）で評価する。							
教科書	授業時にプリントを配布する。								
参考書	こちらで授業時に参考図書を用意する。								

授業科目		卒業研究Ⅰ(論文)				担当者		瀬戸 典彦		
単位数	6	必・選	選必	授業形式	演習	開講期	前期	対象	美4年	
授業の概要										
・ 論執筆の意味について論じる。 ・ 論文の構成について、理解を促す。 ・ 対話を重視し、問題の発見から解決策の立案まで支援する。										
授業の目標(到達目標)										
・ 問題を探求し、その問題に沿ったテーマを設定することができる。 ・ 必要な参考資料等を収集／活用することができる。 ・ 問題の分析及び、そのことに関する論理的な推論と考察ができる。 ・ テーマを的確に表現することができる。 ・ 論旨を論理的に説明することができる。										
授業計画及び内容										
1. テーマ案-1 (選定指導) 検証内容：テーマ設定の背景について					24. 論文構成案-1 (評価指導) 結論					
2. テーマ案-1 (選定指導) 検証内容：予想される論旨の展開について					25. 論文構成案-1 (修正指導) トピック					
3. テーマ案-1 (選定指導) 検証内容：予想される結論について					26. 論文構成案-1 (修正指導) 本文					
4. テーマ案-1 (評価指導) 評価対象：背景					27. 論文構成案-1 (修正指導) 結論					
5. テーマ案-1 (評価指導) 評価対象：論旨					28. 論文構成案-1 (作成指導) トピック					
6. テーマ案-1 (評価指導) 評価対象：結論					29. 論文構成案-1 (作成指導) 本文					
7. テーマ案-1 (修正指導) 修正対象：序章 (ドラフト)					30. 論文構成案-1 (作成指導) 結論					
8. テーマ案-1 (修正指導) 修正対象：本文 (ドラフト)					31. 論文構成案-2 (評価指導) トピック					
9. テーマ案-1 (修正指導) 修正対象：結論 (ドラフト)					32. 論文構成案-2 (評価指導) 本文					
10. テーマ案-2 (選定指導) 検証内容：テーマ設定の背景について					33. 論文構成案-2 (評価指導) 結論					
11. テーマ案-2 (選定指導) 検証内容：予想される論旨の展開について					34. 論文構成案-2 (修正指導) トピック					
12. テーマ案-2 (選定指導) 検証内容：予想される結論について					35. 論文構成案-2 (修正指導) 本文					
13. テーマ案-2 (評価指導) 評価対象：背景					36. 論文構成案-2 (修正指導) 結論					
14. テーマ案-2 (評価指導) 評価対象：論旨					37. 論文構成案-2 (作成指導) トピック					
15. テーマ案-2 (評価指導) 評価対象：結論					38. 論文構成案-2 (作成指導) 本文					
16. テーマ案-2 (修正指導) 修正対象：序章 (ドラフト)					39. 論文構成案-2 (作成指導) 結論					
17. テーマ案-2 (修正指導) 修正対象：本文 (ドラフト)					40. テーマ決定					
18. テーマ案-2 (修正指導) 修正対象：結論 (ドラフト)					41. イントロダクション (執筆指導) トピック					
19. 論文構成案-1 (作成指導) トピック					42. イントロダクション (執筆指導) 構成					
20. 論文構成案-1 (作成指導) 本文					43. イントロダクション (執筆指導) 結論					
21. 論文構成案-1 (作成指導) 結論					44. 中間提出準備 1-提出書類作成					
22. 論文構成案-1 (評価指導) トピック					45. 中間提出準備 2-プレゼン予行					
23. 論文構成案-1 (評価指導) 本文										
事前学習		企画、立案、調査								
事後学習		修正案の作成／検討 (毎回、個別指導の際に課題を提示します)								
履修上の注意		対象：生活美術学科アートインストラクターコース生 テーマ：美術教育に関する内容 (原則)								
成績評価の方法・基準		テーマのオリジナリティ：30%、執筆過程：10% 内容：40%、プレゼンテーション：20%								
教科書	その都度、資料を配布する。									
参考書	その都度、参考資料を配布する。									

授業科目	卒業研究Ⅰ（情報デザイン）				担当者名	鶴巻 史子			
単位数	6	必・選	選必	授業形式	演習	開講期	前期	対象	美4年
授業の概要 デジタルメディアを用いたデザイン表現について研究と制作を行う。中間審査会に向けて目標設定と研究計画を立案し、クオリティの高いデザインを創造できるよう個別指導する。									
授業の目標(到達目標) 現代社会におけるデザインの役割について考察し、表現することができる。中間審査会に向けて自ら新しいデザインを発想することを到達目標とする。									
授業計画及び内容 1回：ガイダンス 2～5回：研究テーマ設定 6～10回：研究テーマに関する調査 11～15回：研究計画の作成 16～20回：デザインスケッチ制作 21～25回：モックアップ制作 26～30回：デザイン検討 31～39回：本制作 40～42回：プレゼンテーション準備 43～44回：プレゼンテーション、講評 45回：中間審査会									
事前学習	制作に関する情報収集、調査を行うこと。								
事後学習	制作プロセスをデジタルデータ形式にまとめ「ポートフォリオ（作品集）」として保存しておくこと。								
履修上の注意	「技法研究Ⅱ（視覚デザイン）」を履修していること。制作データはUSBメモリ等に保存し持参すること。								
成績評価の方法・基準	課題制作 90%、平常点（授業態度、取り組みの姿勢など） 10%								
教科書	使用しない。								
参考書	適宜指示する。								

授業科目	卒業研究Ⅰ（版画）					担当者	大堀 恵子		
単位数	6	必・選	選必	授業形式	演習	開講期	前期	対象	美4年
授業の概要 作品のテーマ、技法、支持体についての打ち合わせを行い、作品の試作を重ね、制作ノートに記録させ、制作の充実が図れるように指導する。									
授業の目標(到達目標) さまざまな素材や技法、そしていろいろな考え方にふれ、自己表現の手法を探求・確立し、4年間の集大成としての作品を制作することができる能力を身につける。									
授業計画及び内容									
1回	ガイダンス								
2～5回	テーマ設定・年間計画表作成（事前ポートフォリオを参考）								
6～10回	制作・技法研究試作								
11～15回	制作・支持体研究試作								
16～23回	制作・原寸大イメージへ展開								
24～34回	制作・版表現へ展開・描写								
35～40回	制作・版表現へ展開・印刷								
41～44回	制作ノートのまとめ（計画表、コンセプト、大きさ、版種、技法、支持体）								
45回	中間審査について								
事前学習		自分のコンセプトを再確認するために、作品のポートフォリオを作成する。							
事後学習		いろいろな展覧会を見る。							
履修上の注意		作品の計画又は途中経過を記録し、ポートフォリオを作成のための文章能力、PCの技術を習得する。							
成績評価の方法・基準		1.提出課題（技法、計画性、創意工夫、完成度 80%） 2.制作ノート又はポートフォリオ（20%）							
教科書		プリント配布。							
参考書		随時紹介。							

授業科目		卒業研究Ⅰ（染織）				担当者	三浦 輝子		
単位数	6	必・選	選必	授業形式	演習	開講期	前期	対象	美4年
授業の概要									
技法研究Ⅰ・Ⅱで設定した研究テーマを基に材料研究・試作等を行う。制作意図を明確にし、綿密な計画をたて、4年間の集大成として完成度の高い作品を制作できるよう指導する。									
授業の目標(到達目標)									
4年間の研究制作を通して習得した技法を用いて、卒業制作に相応しい作品を完成させるため、綿密な計画を立て、作品制作に必要な過程を構築することができる。									
授業計画及び内容									
1回：ガイダンス 課題説明									
2回～3回：研究内容の設定									
4回～10回：参考資料収集									
11回～12回：年間計画									
13回～18回：エスキース									
19回～22回：下図作成									
23回～28回：下図 原寸拡大									
29回～30回：材料実験① 素材の検討									
31回～32回：材料実験② 染料の検討									
33回～34回：染料・素材の決定									
35回～38回：材料準備									
39回～42回：試作制作									
43～44回：中間審査準備 記録整理									
45回：中間審査									
事前学習		制作に必要な事前調査・資料収集を行う。							
事後学習		授業毎に作業内容を記録しておくこと。							
履修上の注意		染料・助剤等備品類は各自責任を持って管理すること。							
成績評価の方法・基準		提出課題 80%、出席を含む平常点 20%（平常点は制作への取り組み等総合的に判断する。）							
教科書	無し。								
参考書	〔図解 染織技術事典〕〔田中清香 土肥悦子〕〔理工学社〕〔4200 円〕								

授業科目		卒業研究Ⅰ（陶芸）				担当者	立花 布美子			
単位数	6	必・選	選必	授業形式	演習	開講期	前期	対象	美4年	
授業の概要										
素材は技法研究を充分に行った上で、作品のテーマ設定をし、綿密な計画性を持って中間提出までの制作に取り組むよう指導する。焼成は各自が責任を持って行うため、制作ノート（テストピース等の焼成データ、グラフ作成）の指導を行う。										
授業の目標(到達目標)										
4年間で習得した技法・技術を駆使し、独創性のある完成度の高い作品を制作するため、焼成日を各自で設定し、中間提出までの綿密な計画性を持って制作に取り組めるようになる。										
授業計画及び内容										
1回：ガイダンス					27回：釉薬原料の微調整					
2回：年間計画の打ち合わせ 計画表作成					28回：釉薬原料の微調整 制作ノート確認③					
3回～4回：テーマ、デザイン、プレゼン等の打合せ					29回～30回：完成した釉薬の調合					
5回～9回：資料収集					31回～34回：マケット制作					
10回：テストピース生地制作 制作ノート確認①					35回：マケット制作 焼成 制作ノート確認④ 乾燥後、随時窯詰め作業(素焼き→本焼き)					
11回～14回：テストピース生地制作					36回～39回：マケット制作 焼成					
15回～19回：釉薬原料の調合 釉掛け 焼成					40回：本制作 制作ノート確認⑤					
20回：釉薬原料の調合 釉掛け 焼成 制作ノート確認②					41回～44回：本制作					
21回～24回：釉薬原料の調合 釉掛け 焼成					45回：中間審査打合せ 制作ノート確認⑥					
25回～26回：安定した釉薬が出来次第、実際の器に釉掛けを行う										
事前学習		研究テーマに関連した参考文献、参考資料の収集、展覧会鑑賞。								
事後学習		授業内で各自個別指導を行う。制作ノートのまとめ。								
履修上の注意		全体的な教室使用の状況と窯の管理を含め、計画性を持って臨むこと。								
成績評価の方法・基準		作品制作の過程、内容などの総合的評価 70% 制作意欲、自主性等 30%								
教科書	事前にプリントを配布する。									
参考書	随時紹介する。									

授業科目		卒業研究Ⅰ（日本画）				担当者	及川 聡子		
単位数	6	必・選	選必	授業形式	演習	開講期	前期	対象	美4年
授業の概要									
卒業制作展を踏まえ、展示空間を想定しながら作品制作を支援する。制作計画、エスキースなどは、担当と個々にコミュニケーションを持ちながら進めて行く。制作の記録を付けさせる。									
授業の目標(到達目標)									
これまでの集大成として培ってきた技術を駆使し、各自の主題を作品として結実させる。日本画の伝統を基にしながらも、既成概念にとらわれることなく、自由な発想で自己の領域を最大限に広げる。									
授業計画及び内容									
1回		導入：科目の説明							
2回		導入：テーマの探求							
3～5回		構想							
6～10回		デッサン・資料研究							
11～19回		エスキース（小下図）							
20回		テーマの探求							
21回		制作計画とテーマの相談							
22～30回		大下図制作							
31～35回		タブロー（本画）制作準備							
36～42回		タブロー（本画）制作 トレースから墨での制作							
43回		コンセプト及び展示計画の確認と制作記録のまとめ							
44回		中間審査作品提出準備、確認							
45回		中間審査作品提出							
事前学習		美術に限らず興味ある分野について知識を深め、自分の世界を広げるよう努める。興味あるものについて、なぜ自分が引かれるのか考察し、自己に向き合う中で、制作のテーマを探しておくこと。							
事後学習		道具の手入れを心を込めて行うこと。可能な限り制作に邁進すること。							
履修上の注意		毒性のある赤系の絵の具は水道に流さない。朱を使用した皿は、ふき取りの後、洗浄。							
成績評価の方法・基準		課題制作 90%（完成度 50% 意図・発想 40%） 授業態度 10%(創作意欲や創作の自主性等)							
教科書	無し。								
参考書	無し。								

授業科目		卒業研究Ⅰ（木工）				担当者	林 範親		
単位数	6	必・選	選必	授業形式	演習	開講期	前期	対象	美4年
授業の概要 テーマの選定・制作意図の確認、調査、取材、材料研究を基にデザインを決定し、材料等を準備する。									
授業の目標(到達目標) 加工道具の準備、木工技能の手練とともにコンセプトを深めたアイディアで4年間のまとめとしてのデザインを決定する。									
授業計画及び内容									
1回：ガイダンス、テーマ選定及び確認									
2回～4回：テーマ及び制作意の確定、年間計画作成									
5回～9回：取材、調査、資料収集									
10回～12回：取材・調査、資料の検討									
13回～16回：デザイン及び技法等の検討									
17回～21回：デザイン確認・模型等の制作									
22回～23回：テーマの再確認									
24回～28回：デザイン等の再確認									
29回～30回：デザインの決定									
31回～35回：図面の作成									
36回～38回：材料表、部材表の作成									
39回：材料注文									
40回：作品の作成について									
41回～43回：作品作成、荒木取り									
44回～45回：作品作成、木取り、板厚の決定									
事前学習		制作意図の確認としっかり、資料収集につとめる。							
事後学習		制作意図の確認のもと、更に充実したものへと。							
履修上の注意		木工Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・技法研究Ⅰ・Ⅱを修得し、それらを含め90単位以上取得していること。							
成績評価の方法・基準		作品90%（制作意図及びアイディア・オリジナリティ4、テクニック及び完成度6）制作への取り組み方や意欲10%							
教科書		なし。							
参考書		随時紹介する。							

授業科目		卒業研究Ⅰ（漆芸）				担当者名		井上 直美	
単位数	6	必・選	選必	授業形式	演習	開講期	前期	対象	美４年
授業の概要									
模型制作をさせた上で、作品に合った技法を用いて素地制作を進めさせる。									
授業の目標(到達目標)									
漆芸作品制作の集大成として、材料と形体の追求と素地の完成を目指す。									
授業計画及び内容									
1回	作品のエスキース制作 1				27、28回	麻布を貼る 1枚目			
2回	作品のエスキース制作 2 確認				29回	空研ぎ、錆付け			
3、4回	エスキースの細部調整				30、31回	麻布を貼る 2枚目			
5、6回	模型作成				32回	空研ぎ、錆付け			
7、8回	模型修正				33、34回	麻布を貼る 3枚目			
9、10回	図面作成				35回	空研ぎ、錆付け			
11、12回	材料と技法の考察				36、37回	麻布を貼る 4枚目			
13、14回	原型制作				38回	空研ぎ、錆付け			
15、16回	原型の調整				39回	空研ぎ、固め、黒、中			
17、18回	石膏型制作				40回	空研ぎ、黒、中 2			
19、20回	石膏型調整				41回	縁の始末、固め 黒、中			
21回	型に剥離剤 1層目を塗る				42回	空研ぎ、黒、中 2			
22回	型に剥離剤 2層目を塗る				43回	高温乾燥			
23、24回	剥離剤の表面を整える				44回	制作過程の確認			
25、26回	和紙を貼る				45回	中間審査			
事前学習		エスキース制作							
事後学習		布の厚みや塗りが足りない場合は重ねておく。							
履修上の注意		計画通りに進める。							
成績評価の方法・基準		適切な技術を選択できたか、出欠状況や意欲					30%		
		作品の完成度、デザイン、センス、個性の表現					70%		
教科書		特になし。							
参考書		[やさしく身に付くうるしのはなし 1～4][日本漆工協会][2160円]。							

授業科目		卒業研究Ⅰ（グラスアート）				担当者名		森合 暢子	
単位数	6	必・選	選必	授業形式	演習	開講期	前期	対象	美4年
授業の概要									
今までのバーナーワークによるガラス工芸の技術を駆使し、中間審査まで、計画的に制作に取り組めるように指導する。									
授業の目標(到達目標)									
バーナーワークの特長を生かした完成度の高いガラス作品を制作するために中間審査までにしっかりと作品をイメージし、作品の半分以上は完成させる。									
授業計画及び内容									
1～4回		テーマを考える①製作ノート確認							
5回		資料集め							
6～8回		資料研究							
9回		作りたい物の形状を把握する							
10～12回		デッサン		②製作ノート確認					
13回		全体のイメージを描く（配置）							
14回		全体のイメージを描く（土台）							
15回		全体のイメージを描く（色）							
16回		材料を選ぶ ③製作ノート確認							
17～26回		バーナーワーク技術練習（今までの復習）							
27～44回		テーマ作品の練習							
45回		中間審査打ち合わせ④製作ノート確認							
事前学習		作りたい世界をイメージしておく							
事後学習		作品をよく見ること 8							
履修上の注意		安全を考えて慎重に作業すること							
成績評価の方法・基準		制作への姿勢（50%）、作品完成度（50%）							
教科書		資料配付。							
参考書		[バーナーワークー酸素バーナーを使った耐熱ガラス工房（家庭ガラス工房）] [松村 潔著][ほるぷ出版][2808 円]							

授業科目	卒業研究Ⅰ（グラスアート）				担当者名		山口 綾子		
単位数	6	必・選	選必	授業形式	演習	開講期	前期	対象	美４年
授業の概要									
バーナーワーク技法の集大成として、作品表現を着実に身につけられる様に指導する。中間審査までの計画をうながす。									
授業の目標(到達目標)									
各自の主題に応じ、自由な発想で制作に取り組めるようになる。計画を立て自主的に制作できるようになる。									
授業計画及び内容									
1～5 回：ガイダンス・年間計画の作成									
6～10 回：資料集め									
10～15 回：イメージ・デザイン打合せ									
16～25 回：テストピース・モデル作成									
26 回：制作ノート確認①									
27～40 回：テーマ作品の練習①									
41 回：制作ノート確認②									
42～44 回：テーマ作品 本制作②／展示イメージ打合せ									
45 回：中間審査前確認									

授業科目		卒業研究Ⅰ（人形）				担当者	福田 一実		
単位数	6	必・選	選必	授業形式	演習	開講期	前期	対象	美4年
授業の概要 作品のテーマを設定し、展示空間を考えながら、程表に解説し着実に制作するように指導する。									
授業の目標(到達目標) 今までに学んだ事を駆使し集大成として自分の世界の創作人形を展示の仕方も含めて完成させる。また技術だけではなく、人形との向き合い方を深める。									
授業計画及び内容									
1回：ガイダンス									
2回：年間計画の打ち合わせ。計画表作成。テーマを決める。									
3～4回：原寸大の下図をかき、型紙を作る。									
5～6回：芯材に下図をあててカッター等で削り形を作る。									
7～9回：粘土を練り芯材に 3～5mm 厚さに粘土を巻く。									
10～12回：顔の造形をする。									
13～14回：胴の造形をする。									
15～17回：ステンレス製の針金で手の芯を作り、手の造形をする。									
18～19回：腕の造形をし、手とのバランスもチェックする。									
20～25回：脚を造形し、足も作る、必要であれば芯も入れる。									
26～29回：乾燥後、全てを磨き、関節を切断し、芯を抜く。									
30～33回：関節の球を作り、磨く。途中経過確認。									
34～38回：球を各関節に固定し、球に対する受けを作る。									
39～44回：各球にゴムの通る穴を開けステンレス線を固定し、仮組をし、やすりをかけ、調整する。									
45回：中間審査打ち合わせ、途中経過確認。									
事前学習		誰に、何処に作品を発信するのかをしっかりと考え、完成する作品、空間全てを含め、人形との向き合い方を考える。解剖学の資料は必ず用意すること。							
事後学習		その日の行程を終了させる。人形に限らず他の展覧会等にも足を運ぶこと。							
履修上の注意		人物の観察、本、解剖学から研究して造形力を付けておく。							
成績評価の方法・基準		作品の完成度。(丁寧さ、技術力、表情等の表現力、展示方法、アイデア) 制作への取り組み方、創作意欲							
教科書		[吉田式球体関節人形制作技法書][吉田 良][ホビージャパン][2,880 円]							
参考書		[美術解剖図ノート][視覚デザイン研究所・編集室][(株)視覚デザイン研究所][2,700 円] [はじめて作る球体関節人形][アイミ][秀和システム][2,000 円]							

授業科目		卒業研究Ⅰ（マンガ）				担当者	鹿野 明子		
単位数	6	必・選	選必	授業形式	演習	開講期	前期	対象	美４年
授業の概要									
作品のテーマの設定、それに関わる資料の収集と取材。中間提出までの計画、マンガの要となるネームの指導を行う。									
授業の目標(到達目標)									
絵と言葉、コマ割りをよく検討し、読みやすく魅力あるネームをつくる。そのための計画をつくる。									
授業計画及び内容									
1回：ガイダンス					24回：ノートチェック⑦ネームチェック				
2回：年間計画の確認					25～26回：ネーム修正				
3回：テーマ・プレゼンの打合わせ					27回：ノートチェック⑧ネームチェック				
4回～5回：プロット作成、資料収集、取材					28～29回：ネーム修正				
6回：ノートチェック①プロット確認					30回：ノートチェック⑨ネームチェック				
7～8回：ネーム作成					31～32回：ネーム修正				
9回：ノートチェック②ネームチェック					33回：ノートチェック⑩ネームチェック				
10～11回：ネーム修正					34～35回：ネーム修正				
12回：ノートチェック③ネームチェック					36回：ノートチェック⑪ネームチェック				
13～14回：ネーム修正					37～38回：ネーム修正				
15回：ノートチェック④ネームチェック					39回：ノートチェック⑫ネームチェック				
16～17回：プレゼン試作					40～41回：ネーム修正				
18回：ノートチェック⑤ネームチェック					42回：ノートチェック⑬ネームチェック				
19～20回：ネーム修正					43～44回：ネーム修正				
21回：ノートチェック⑥ネームチェック					45回：総評				
22～23回：ネーム修正									
事前学習		小説、映画、舞台等で物語の研究、背景、設定などの資料収集、表現技法の研究。							
事後学習		作品の修正や改訂。							
履修上の注意		技法研究Ⅱを履修している事が望ましい。							
成績評価の方法・基準		課題 80%（アイデア 40%、絵（丁寧さ、画力、仕上げ） 40%）、授業態度（創作意欲や創作の自主性等）20%							
教科書	必要に応じて、その都度、資料を配付する。								
参考書	特になし								

授業科目	卒業研究Ⅱ(洋画)					担当者名	北折 整		
単位数	6	必・選	選必	授業形式	演習	開講期	後期	対象	美4年
授業の概要									
これまでの大学での学びの集大成として個人の取り組むべき課題を明確にさせ、完成度の高い作品制作を指導する。コンセプトノートの作成により制作内容についての言語化を課す。									
授業の目標(到達目標)									
研究テーマを設定し、的確な表現材料を使用して計画的に密度ある制作を行う。研究内容の深化と、作品の社会における意味や意義について十分理解し、生涯に渡って主体的に美術に関わっていく姿勢を身に付ける。									
授業計画及び内容									
1～3回：導入：科目・課題の説明、自己の既制作のまとめ、課題確認、授業計画の作成									
4～6回：資料検索									
7～9回：エスキース制作(1)									
10～12回：エスキース制作(2)									
13～15回：エスキース制作(3)									
16～18回：本制作／支持体・下地作成									
19～21回：本制作／描画(下素描等)									
22～24回：本制作／描画(下描き)									
25～27回：本制作／描画(着彩)									
28～30回：本制作／描画(着彩)									
31～33回：本制作／描画(着彩)									
34～36回：本制作／描画(着彩)									
37～39回：本制作／描画(着彩)									
40～42回：本制作／描画(仕上げ)									
43～45回：本制作／描画(仕上げ)、プレゼンテーション、課題提出									
事前学習		制作に必要となる各種資料の収集を行う。							
事後学習		担当からのアドバイスを踏まえた上で、制作を続行する。							
履修上の注意		アトリエは常時使用可能なので、自分のリズムを維持し毎日制作に励むことが望ましい。							
成績評価の方法・基準		提出課題 90%(創意、表現力、計画性、完成度等)、平常点 10%(授業態度、集中力、主体性等)							
教科書		各種画集を使用する。							
参考書		各種画集を使用する。							

授業科目	卒業研究Ⅱ（彫刻）					担当者	佐藤 淳一		
単位数	6	必・選	選必	授業形式	演習	開講期	後期	対象	美4年
授業の概要 指導担当との打合せをしながら、自己のイメージ、素材、制作完成へと十分に時間をかけながら、着実に研究を進め完成させる。									
授業の目標(到達目標) 自己の独自性を確立し地域社会との関係性について作品として表現できる。 +									
授業計画及び内容									
1 回～3 回：ガイダンス 卒制の構想研究									
4 回：ガイダンス 地域と自己の作品の関係性から発想を寝る									
5 回～8 回：テーマ研究 自己の独自性									
9 回～12 回：テーマ研究 地域とは 展覧会鑑賞研究									
13 回～15 回：テーマ制定 彫刻、素材									
16 回～18 回：テーマ制定 確定									
19 回：テーマの確定による、構想マケット									
20 回～22 回：制作									
23 回～25 回：制作 支持構造									
26 回～28 回：制作 大きく、面で、空間を表現									
29 回～33 回：制作 大きさを失わない密度とは									
34 回～38 回：制作 素材を活かすとは									
39 回～41 回：制作 集中力から感得するもの									
42 回～44 回：制作 見せることと魅せること プレゼン									
45 回 まとめ 講評、自己評価									
事前学習		現代美術作品（立体、インスタレーション他）研究							
事後学習		その回の課題について深める							
履修上の注意		打合せの内容を自己の制作に生かすこと							
成績評価の方法・基準		作品 40%、制作態度 40%、課題提出 20%							
教科書		資料配付。							
参考書		資料配付。							

授業科目		卒業研究Ⅱ（洋画）				担当者	森 敏美		
単位数	6	必・選	選必	授業形式	演習	開講期	後期	対象	美4年
授業の概要 計画的に制作に臨む事。十分な資料収集、試作（エスキースを含む）と担当とのディスカッションを元に本制作をさせる。四年間の集大成としての作品になる様指導する。									
授業の目標(到達目標) 様々な美術表現を四年間学び、その中で各自の選択した技法を単独で、或いは複合で一番自分に適した形に持って行く。自己の可能性を見出す事により将来に繋げる事を確認し、表現することの意味合い、テーマ性等を十分に自覚する事を目的とする。									
授業計画及び内容									
1 回：課題の説明、計画表の作成									
2 回：資料検討、アイディアスケッチ・試作品等の確認									
3 回：制作材料等の確認整理									
4 回：ディスカッション									
5 回～9 回：本制作 全体像作りこみ									
10 回：調整確認									
11 回～18 回：本制作 部分修正および作りこみ									
19 回～20 回：担当との途中経過確認									
21 回～25 回：本制作 全体バランスチェック、作りこみ									
26 回：中間確認									
27 回～35 回：本制作 仕上げ段階に入る									
36 回～39 回：本制作・詳細チェックと作りこみ									
40 回～42 回：本制作・微調整（修正期間）									
43 回：完成									
44 回：プレゼンテーション、制作意図の文章化などまとめる									
45 回：提出（審査、発表の最終確認）									
事前学習		資料・技法習得・制作過程等の製作ノート・日誌を確認する。							
事後学習		事前学習と同様製作ノート・日誌等の確認を卒業制作に生かす。							
履修上の注意		健康に留意し、日々のリズムをくずさない様に制作を行う。							
成績評価の方法・基準		卒業制作（試作、エスキースを含む）及び制作に対する取り組み（制作ノート・日誌等を含む）により評価を行う。							
教科書		資料配布。							
参考書		特になし。							

授業科目		卒業研究Ⅱ（壁画）				担当者	森 敏美		
単位数	6	必・選	選必	授業形式	演習	開講期	後期	対象	美4年
授業の概要									
計画的に制作に臨む事。十分な資料収集、試作（エスキースを含む）と担当とのディスカッションを元に本制作をさせる。四年間の集大成としての作品になる様指導する。									
授業の目標(到達目標)									
様々な美術表現を四年間学び、その中で各自の選択した技法を単独で、或いは複合で一番自分に適した形に持って行く。自己の可能性を見出す事により将来に繋げる事を確認し、表現することの意味合い、テーマ性等を十分に自覚する事を目的とする。									
授業計画及び内容									
1 回：課題の説明、計画表の作成									
2 回：資料再検討、アイディアスケッチ・試作品等の再確認									
3 回：制作材料等の補充確認整理									
4 回：ディスカッション									
5 回～9 回：本制作 全体作りこみ									
10 回：調整確認									
11 回～18 回：本制作 詳細作りこみ									
19 回：担当との途中経過確認									
20 回～25 回：本制作 全体と詳細のバランス確認									
26 回：中間確認									
27 回～35 回：本制作 仕上げ段階に入る									
36 回～39 回：本制作 作りこみ									
40 回～42 回：本制作・微調整（修正期間）									
43 回：完成									
44 回：プレゼンテーション、制作意図の文章化などまとめる									
45 回：提出（審査、発表の最終確認）									
事前学習		資料・技法習得・制作過程等の製作ノート・日誌を確認する。							
事後学習		事前学習と同様製作ノート・日誌等の確認を卒業制作に生かす。							
履修上の注意		健康に留意し、日々のリズムをくずさない様に制作を行う。							
成績評価の方法・基準		卒業制作（試作、エスキースを含む）及び制作に対する取り組み（制作ノート・日誌等を含む）により評価を行う。							
教科書	資料配布。								
参考書	特になし。								

授業科目		卒業研究Ⅱ(視覚デザイン)				担当者名		三上 秀夫	
単位数	6	必・選	選必	授業形式	演習	開講期	後期	対象	美4年
授業の概要									
卒業研究Ⅰ・Ⅱは、1.テーマ設定、2.技法や材料研究、3.プレゼンテーションの順で行う。 Ⅱでは、その後半を行う。									
授業の目標(到達目標)									
4年間の集大成に相応しい作品を完成させることを目標とする。作品づくりのための一連の「進め方」「考え方」を身につけることができる。									
授業計画及び内容									
1回ガイダンス					16回 制作 日程確認				
2回 制作 基本構造 構造計画1					17回 制作 全体構造 構造計画1				
3回 制作 基本構造 構造計画2					18回 制作 全体構造 構造計画2				
4回 制作 基本構造 色彩計画1					19回 制作 全体構造 色彩計画1				
5回 制作 基本構造 色彩計画2					20回 制作 全体構造 色彩計画2				
6回 制作 基本構造 全体計画1					21回 制作 全体構造 全体計画1				
7回 制作 基本構造 全体計画2					22回 制作 全体構造 全体計画2				
8回 中間発表(進行状況、今後の予定)					23回 制作 日程・計画発表				
9回 制作 中間構造 構造計画1					24回 制作 細部の制作 制作ノート確認				
10回 制作 中間構造 構造計画2					25回 制作 表面の制作 制作ノート確認				
11回 制作 中間構造 色彩計画1					26～29回 制作 仕上げ				
12回 制作 中間構造 色彩計画2					30～34回 制作 作品周辺計画				
13回 制作 中間構造 全体計画1					35～39回 制作 設置計画				
14回 制作 中間構造 全体計画2					40～44回 制作 手直し 完成				
15回 前半のまとめ					45回 全体まとめ				
事前学習		事前に情報を収集しておくこと。詳細は授業時にプリントまたは口頭で伝える。							
事後学習		各自、卒業研究の経過を記録すること。							
履修上の注意		道具・材料について授業内の話し合いで各自に適したものを指示する。							
成績評価の方法・基準		提出課題の内容(30%)、授業の取り組みに対する意欲と姿勢(30%)、講評での発表の内容(40%)で評価する。							
教科書		授業時にプリントを配布する。							
参考書		こちらで授業時に参考図書を用意する。							

授業科目		卒業研究Ⅱ(論文)				担当者		瀬戸 典彦		
単位数	6	必・選	選必	授業形式	演習	開講期	後期	対象	美4年	
授業の概要										
- 論文執筆の意味について論じる。 - 論文の構成について理解を促す。 - 対話を重視し、問題の発見から解決策の立案まで支援する。										
授業の目標(到達目標)										
- 問題を探求し、その問題に沿ったテーマを設定することができる。 - 必要な参考資料等を収集／活用することができる。 - 問題の分析及び、そのことに関する論理的な推論と考察ができる。 - テーマを的確に表現することができる。 - 論旨を論理的に説明することができる。										
授業計画及び内容										
1. イントロダクション (評価) 対象：トピック					24. 第3章 (修正指導) 対象：結論					
2. イントロダクション (評価) 対象：構成					25. 第3章以降 (執筆指導) 対象：トピック					
3. イントロダクション (評価) 対象：結論					26. 第3章以降 (執筆指導) 対象：本文					
4. イントロダクション (修正) 対象：トピック					27. 第3章以降 (執筆指導) 対象：結論					
5. イントロダクション (修正) 対象：構成					28. 第3章以降 (評価指導) 対象：トピック					
6. イントロダクション (修正) 対象：結論					29. 第3章以降 (評価指導) 対象：本文					
7. 第2章 (執筆指導) 対象：トピック					30. 第3章以降 (評価指導) 対象：結論					
8. 第2章 (執筆指導) 対象：本文					31. 第3章以降 (修正指導) 対象：トピック					
9. 第2章 (執筆指導) 対象：結論					32. 第3章以降 (修正指導) 対象：本文					
10. 第2章 (評価指導) 対象：トピック					33. 第3章以降 (修正指導) 対象：結論					
11. 第2章 (評価指導) 対象：本文					34. 考察 (執筆指導) トピックパラグラフ					
12. 第2章 (評価指導) 対象：結論					35. 考察 (執筆指導) 構成					
13. 第2章 (修正指導) 対象：トピック					36. 考察 (執筆指導) 結論					
14. 第2章 (修正指導) 対象：本文					37. 考察 (評価指導) トピックパラグラフ					
15. 第2章 (修正指導) 対象：結論					38. 考察 (評価指導) 構成					
16. 第3章 (執筆指導) 対象：トピック					39. 考察 (評価指導) 結論					
17. 第3章 (執筆指導) 対象：本文					40. 考察 (修正指導) トピックパラグラフ					
18. 第3章 (執筆指導) 対象：結論					41. 考察 (修正指導) 構成					
19. 第3章 (評価指導) 対象：トピック					42. 考察 (修正指導) 結論					
20. 第3章 (評価指導) 対象：本文					43. 要旨作成					
21. 第3章 (評価指導) 対象：結論					44. 最終提出準備 内容確認					
22. 第3章 (修正指導) 対象：トピック					45. プレゼン予行					
23. 第3章 (修正指導) 対象：本文										
事前学習		企画、立案、調査								
事後学習		修正案の作成／検討 (毎回、個別指導の際に課題を提示します)								
履修上の注意		対象：生活美術学科アートインストラクターコース生 テーマ：美術教育に関する内容 (原則)								
成績評価の方法・基準		テーマのオリジナリティー：30%、執筆過程：10% 内容：40%、プレゼンテーション：20%								
教科書	その都度、資料を配布する。									
参考書	その都度、参考資料を配布する。									

授業科目	卒業研究Ⅱ（情報デザイン）					担当者名	鶴巻 史子		
単位数	6	必・選	選必	授業形式	演習	開講期	後期	対象	美4年
授業の概要 デジタルメディアを用いたデザイン表現について研究と制作を行う。4年間の集大成として、クオリティの高いデザインを創造できるよう個別指導する。									
授業の目標(到達目標) 現代社会において「デザインで何が可能か？」というアプローチを行い、表現することができる。既存のデザインに留まらず、自ら新しいデザインを提案することを到達目標とする。									
授業計画及び内容									
1回：研究テーマの確認									
2～5回：研究計画の作成									
6～10回：研究テーマに関する調査									
11～15回：デザインスケッチ制作									
16～20回：デザイン検討									
21～37回：本制作									
38～42回：プレゼンテーション準備									
43～44回：プレゼンテーション、講評									
45回：本審査会									
事前学習		制作に関する情報収集、調査を行うこと。							
事後学習		制作プロセスをデジタルデータ形式にまとめ「ポートフォリオ（作品集）」として保存しておくこと。							
履修上の注意		「技法研究Ⅱ（視覚デザイン）」を履修していること。制作データはUSBメモリ等に保存し持参すること。							
成績評価の方法・基準		課題制作 90%、平常点（授業態度、取り組みの姿勢など） 10%							
教科書		使用しない。							
参考書		適宜指示する。							

授業科目		卒業研究Ⅱ（版画）				担当者	大堀 恵子		
単位数	6	必・選	選必	授業形式	演習	開講期	後期	対象	美4年
授業の概要									
作品コンセプト、技法、支持体、大きさ、プレゼンテーションの打ち合わせを行い、完成度の高い卒業制作となるように指導する。									
授業の目標(到達目標)									
生活美術学科の卒業制作として、さまざまな素材や技法、そしていろいろな考え方にふれ、自己表現の手法を探究・確立し、4年間の集大成としての作品を制作することができる能力を身につける。									
授業計画及び内容									
1 回	ガイダンス、後期作業の確認								
2～10 回	本制作、部分								
11～21 回	本制作、細部								
22～30 回	本制作、仕上げ								
31～33 回	プレゼンテーション（検討）								
34～39 回	プレゼンテーション（完成）								
40～44 回	制作ノートのまとめ（完成写真、プロセスのまとめ）								
45 回	本審査								
事前学習		自分のコンセプトを再確認するために今までの作品のポートフォリオを作成し卒制に臨む。							
事後学習		いろいろな展覧会を見る。							
履修上の注意		作品の計画又は途中経過を記録し、ポートフォリオを作成のための文章能力、PCの技術を習得する。							
成績評価の方法・基準		1.卒業制作（80%） 2.制作ノート又はポートフォリオ（20%）							
教科書	プリント配布。								
参考書	随時紹介。								

[illegible]

授業科目		卒業研究Ⅱ（陶芸）				担当者		立花 布美子	
単位数	6	必・選	選必	授業形式	演習	開講期	後期	対象	美4年
授業の概要 中間提出の結果より進捗状況を確認し、本提出まで綿密な計画性を持って制作に取り組むよう指導する。焼成は各自が責任を持って行うため、制作ノート（テストピース等の焼成データ、グラフ作成）の指導を行う。									
授業の目標(到達目標) 4年間で習得した技法・技術を駆使し、独創性のある完成度の高い作品を制作するため、焼成日を各自で設定し、本提出まで綿密な計画性を持って制作に取り組めるようになる。									
授業計画及び内容									
1 回～9 回：本制作									
10 回：本制作 制作ノート確認① 材料追加発注									
11 回～19 回：本制作									
20 回：本制作 制作ノート確認② 進捗状況の確認、調整									
21 回～29 回：本制作									
30 回：本制作 制作ノート確認③ プレゼン材料打合せ									
31 回～40 回：本制作									
41 回：本制作 最終焼成 窯出し									
42 回～44 回：プレゼンテーション確認 修正									
45 回：制作ノート確認④ 最終プレゼンテーション確認									
事前学習		研究テーマに関連した参考文献、参考資料の収集、展覧会鑑賞。							
事後学習		授業内で各自個別指導を行う。制作ノートのまとめ。							
履修上の注意		全体的な教室使用の状況と窯の管理を含め、計画性を持って臨むこと。							
成績評価の方法・基準		作品制作の過程、内容などの総合的評価 70% 制作意欲、自主性等 30%							
教科書		事前にプリントを配布する。							
参考書		随時紹介する。							

授業科目		卒業研究Ⅱ（日本画）				担当者名		及川 聡子	
単位数	6	必・選	選必	授業形式	演習	開講期	後期	対象	美４年
授業の概要									
卒業制作展を踏まえ、展示空間を想定しながら作品制作を支援する。より高い完成度を目指すし、制作計画の変更、改善など担当と個々にコミュニケーションを持ちながら進めて行く。制作の記録を付けさせる。									
授業の目標(到達目標)									
これまでの制作の中で得られた気づきを作品に反映させ、各自の主題を作品として結実させる。日本画の伝統を基にしながらも、既成概念にとらわれることなく、自由な発想で自己の領域を最大限に広げる。									
授業計画及び内容									
1～8回：タブロー（本画）制作 骨抜き等									
9回：制作及び展示計画の確認 1									
10～22回：タブロー（本画）制作 下塗り、墨の濃淡等									
23回：制作及び展示計画の確認 2									
24～30回：タブロー（本画）制作 墨、水干絵具での制作等									
31回：卒業作品展に向けての展示の準備									
32～38回：タブロー（本画）制作 墨、岩絵具での制作等									
39回：制作記録のまとめ									
40～43回：タブロー（本画）制作 描き込み～完成									
44回：卒業制作提出準備									
45回：卒業制作提出									
事前学習		美術に限らず興味ある分野について知識を深め、自分の世界を広げるよう努める。興味あるものについて、なぜ自分が引かれるのか考察し、自己に向き合う中で、制作のテーマを探しておくこと。							
事後学習		道具の手入れを心を込めて行うこと。可能な限り制作に邁進すること。							
履修上の注意		毒性のある赤系の絵の具は水道に流さない。朱を使用した皿は、ふき取りの後、洗浄。							
成績評価の方法・基準		課題制作 90%（完成度 50% 意図・発想 40%） 授業態度 10%(創作意欲や創作の自主性等)							
教科書	無し。								
参考書	無し。								

授業科目		卒業研究Ⅱ(木工)				担当者	林 範親		
単位数	6	必・選	選必	授業形式	演習	開講期	後期	対象	美4年
授業の概要									
模型・試作。図面の作成等の前期の準備のもと、作品制作を指導し進める。									
授業の目標(到達目標)									
デザインをもとに、4年間の集大成として相応しい、技術的にも内容的にも実のある作品を完成させる能力を身につける。									
授業計画及び内容									
1回～3回：作品制作、墨付け									
4回～7回：木材加工、板巾、板長の決定									
8回～22回：組み立て接合部分の加工									
23回～33回：仮組み、調整									
34回～36回：本組み									
37回～40回：仕上げ									
41回～42回：塗装									
43回：仕上げ、金具付け等									
44回～45回：制作ノート等のまとめ、完成									
事前学習		制作意図の確認をしっかりと資料収集につとめる。							
事後学習		制作意図の確認のもと、更に充実したものへと。							
履修上の注意		木工Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・技法研究Ⅰ・Ⅱ・卒業研究Ⅰを修得し、それらを含め90単位以上取得していること。							
成績評価の方法・基準		作品90%（制作意図及びアイディア・オリジナリティ4、テクニック及び完成度6）制作への取り組み方や意欲10%							
教科書		なし。							
参考書		随時紹介する。							

授業科目		卒業研究Ⅱ(漆芸)				担当者名		井上 直美	
単位数	6	必・選	選必	授業形式	演習	開講期	後期	対象	美4年
授業の概要									
手板などで色見本・加飾見本を制作させ、実験した上で作品に色や加飾を施す。									
授業の目標(到達目標)									
漆芸作品制作の集大成として、制作した素地に色彩、加飾を施し、今まで学んだ技術を表現出来る能力を身に付ける。									
授業計画及び内容									
1、2回 脱乾					24回 色漆調整・見本板研ぎ出し				
3、4回 縁の調整					25回 色漆塗り 内1				
5回 固め、黒中					26回 色漆塗り 外1				
6回 捨て塗り					27、28回 水研ぎ				
7回 水研ぎ					29回 色漆塗り 内2				
8回 黒、中1 内					30回 色漆塗り 外2				
9回 水研ぎ					31、32回 水研ぎ				
10回 黒、中1 外					33回 貝、卵殻貼り				
11、12回 水研ぎ					34回 塗り込み				
13回 黒、中2 内					35、36回 研ぎ出し				
14、15回 水研ぎ					37、38回 述べ摺り				
16回 黒、中2 外					39～41回 生摺り				
17、18回 水研ぎ					42回 蒔絵・漆絵				
19回 黒、中3 内					43回 蒔絵・漆絵				
20、21回 水研ぎ					44回 磨き、プレゼン確認				
22回 黒、中3 外					45回 審査				
23回 色漆練り・見本板制作									
事前学習		色や加飾を考える。							
事後学習		使用してみての満足度、完成度を知る。							
履修上の注意		計画通りに進める。							
成績評価の方法・基準		適切な技術を選択できたか、出欠状況や意欲					30%		
		作品の完成度、デザイン、センス、個性の表現					70%		
教科書		特になし。							
参考書		[やさしく身に付くうるしのはなし 1～4][日本漆工協会][2160円]。							

授業科目		卒業研究Ⅱ（グラスアート）				担当者名		森合 暢子	
単位数	6	必・選	選必	授業形式	演習	開講期	後期	対象	美４年
授業の概要									
今までのバーナーワークによるガラス工芸の技術を駆使し、卒業制作を指導する。									
授業の目標(到達目標)									
バーナーワークの特長を生かしたガラス作品を自分のイメージ通り制作し、完成度の高い作品に仕上げる。									
授業計画及び内容									
1～10 回		制作実演を見て、本制作をする。							
11～29 回		仕上げの形作り（素材感・色・強度）①製作ノート確認							
30 回		各パーツの完成確認							
31～33 回		展示方法を考える②製作ノート確認							
34～35 回		展示台作り							
36 回		配置を決定する（光の当て方）③製作ノート確認							
37～43 回		最終手直し							
44 回		写真撮影④製作ノート確認							
45 回		完成確認 最終打ち合わせ⑤製作ノート確認							
事前学習		作りたい世界をイメージしておく。展示方法を研究する。							
事後学習		作品をよく見ること							
履修上の注意		安全を考えて慎重に作業すること							
成績評価の方法・基準		制作への姿勢（50%）、作品完成度（50%）							
教科書		資料配付。							
参考書		[バーナーワーク―酸素バーナーを使った耐熱ガラス工房（家庭ガラス工房）] [松村 潔著][ほるぷ出版][2808 円]							

授業科目	卒業研究Ⅱ（グラスアート）				担当者	山口 綾子			
単位数	6	必・選	選必	授業形式	演習	開講期	後期	対象	美4年
授業の概要									
バーナーワーク技法の集大成として、作品表現を着実に身につけられる様に指導する。 技術表現の他、作品を他者へ提供するアプローチも指導する。									
授業の目標(到達目標)									
各自の主題に応じ、自由な発想で制作に取り組める様になる。展示空間も想定し、より完成度の高い作品を制作出来るようになる。									
授業計画及び内容									
1～5 回：中間審査の内容確認・修正や改善									
6～35 回：本制作（随時、制作ノート確認）									
36～40 回：仕上げ									
41～44 回：プレゼンテーション準備（展示方法の仕上げ）									
45 回：本審査 打合せ 確認									

授業科目		卒業研究Ⅱ（人形）				担当者		福田 一実	
単位数	6	必・選	選必	授業形式	演習	開講期	後期	対象	美4年
授業の概要 作品のテーマを設定し、展示空間を考えながら、程表に解説し着実に制作する様に指導する。									
授業の目標(到達目標) 今までに学んだ事を駆使し集大成として自分の世界の創作人形を展示の仕方も含めて完成させる。また技術だけではなく、人形への向き合い方を深める。									
授業計画及び内容 1～3回：仮組をし、バランスチェック。塗装が出来る様しっかりやすりをかける。 4～8回：塗装をし、磨く。 9～12回：塗装したものに着色する。 13～14回：メイクする。 15～18回：かせを作り、髪を貼る。 19回：組み立てる。 20～32回：衣装を作る。 33～44回：背景、展示方法 45回：完成。講評。									
事前学習		誰に、何処に作品を発信するのかをしっかりと考え、完成する作品、空間全てを含め、人形との向き合い方を考える。解剖学の資料は必ず用意すること。							
事後学習		その日の行程を終了させる。人形に限らず他の展覧会等にも足を運ぶこと。							
履修上の注意		人物の観察、本、解剖学から研究して造形力を付けておく。							
成績評価の方法・基準		作品の完成度。（丁寧さ、技術力、表情等の表現力、展示方法、アイデア） 制作への取り組み方、創作意欲							
教科書	[吉田式球体関節人形制作技法書][吉田 良] [ホーヰャホン][2,880 円]								
参考書	[美術解剖図ノート][視覚デザイン研究所・編集室][(株)視覚デザイン研究所][2,700 円] [はじめて作る球体関節人形][アイミ][秀和システム][2,000 円]								

授業科目		卒業研究Ⅱ（マンガ）				担当者		鹿野 明子	
単位数	6	必・選	選必	授業形式	演習	開講期	後期	対象	美4年
授業の目標(到達目標)									
中間審査の結果をふまえ、本提出に向けた計画の見直しやプレゼンテーション、製作ノートの指導を行う。									
授業の概要									
ていねいなペン入れと仕上げを行い、迫力のある画面を作る。妥協せず完成度の高くなる仕上げをする。作品のよさが伝わる展示方法を実践する。									
授業計画及び内容									
1回：計画の見直し					25回：ノートチェック⑧				
2回～3回：ペン入れ					26回～27回：ペン入れ				
4回：ノートチェック①					28回：ノートチェック⑨				
5回～6回：ペン入れ					29回～30回：ペン入れ				
7回：ノートチェック②					31回：ノートチェック⑩				
8回～9回：ペン入れ					32回～33回：プレゼンテーション 1, 2				
10回：ノートチェック③					34回：ノートチェック⑪				
11回～12回：ペン入れ					35回～36回：プレゼンテーション 3, 4				
13回：ノートチェック④					37回：ノートチェック⑫				
14回～15回：ペン入れ					38回～39回：プレゼンテーション 5, 6				
16回：ノートチェック⑤					40回：ノートチェック⑬				
17回～18回：ペン入れ					41回～42回：プレゼンテーション 7, 8				
19回：ノートチェック⑥					43回：プレゼンテーションの確認				
20回～21回：ペン入れ					44回：プレゼンテーションの修正				
22回：ノートチェック⑦					45回：本提出前の確認 ノートチェック⑭				
23回～24回：ペン入れ									
事前学習		展示の技術について研究する。本の仕組みについて調べる。							
事後学習		作品の修正や改訂。							
履修上の注意		卒業研究Ⅰ（マンガ）を履修している。							
成績評価の方法・基準		課題 80%（アイデア 40%、絵（丁寧さ、画力、仕上げ） 40%）、授業態度（創作意欲や創作の自主性等）20%							
教科書	必要に応じて、その都度、資料を配付する。								
参考書	特になし								

授業科目		卒業研究特別講義Ⅰ				担当者	森 敏美・大堀恵子		
単位数	1	必・選	必	授業形式	講義	開講期	前期	対象	美4年
授業の概要									
卒業研究全般に関する内容について毎週 45 分の講義を行う。									
授業の目標(到達目標)									
卒業研究を進めていく上で基本となる考え方およびスキルを学ぶことで、大学4年間の学習の集大成としての課題を達成できる様になる。									
授業計画及び内容									
1. 卒業研究の概要（履修登録確認）									
2. 卒業研究の成果と課題									
3. 卒業研究の年間計画									
4. 卒業研究の立案									
5. 卒業制作展について（ファイル参考）									
6. 卒業制作展について（係分担）									
7. 材料・技法検討									
8. 材料準備									
9. エスキース制作（支持体）									
10. エスキース制作（大きさ）									
11. エスキース制作（技法）									
12. 本制作（下地）									
13. 本制作（全体）									
14. 本制作（全体）									
15. 中間発表について									
事前学習		事前の配布物を熟読する。							
事後学習		年間計画に合わせて、自分自身の進捗状況をチェックする。							
履修上の注意		授業内でその都度指示する。							
成績評価の方法・基準		授業参加状況 50% レポートの内容 50%							
教科書	事前に資料を配布する。								
参考書	特になし								

授業科目		卒業研究特別講義Ⅱ				担当者	森 敏美・大堀恵子		
単位数	1	必・選	必	授業形式	講義	開講期	通年	対象	美4年
授業の概要									
卒業研究全般に関する内容について毎週 45 分の講義を行う。									
授業の目標(到達目標)									
卒業研究を進めていく上で基本となる考え方およびスキルを学ぶことで、大学4年間の学習の集大成としての課題を達成できる様になる。									
授業計画及び内容									
1. 学生相互の情報交換（履修登録確認）									
2. 学生相互の情報交換（進路確認）									
3. 学生相互の情報交換（卒業制作展・展示計画）									
4. 学生相互の情報交換（卒業制作展・広報）									
5. 学生相互の情報交換 5（卒業制作展・搬出入計画）									
6. 本制作（全体）									
7. 本制作（部分）									
8. 本制作（細部）									
9. 本制作（仕上げ）									
10. 本制作（完成）									
11. 本制作（手直し）									
12. プレゼンテーション案について									
13. プレゼンテーション手直し									
14. プレゼンテーション完成									
15. 卒業研究提出について									
事前学習		事前の配布物を熟読する。							
事後学習		年間計画に合わせて、自分自身の進捗状況をチェックする。							
履修上の注意		授業内でその都度指示する。							
成績評価の方法・基準		授業参加状況 50% レポートの内容 50%							
教科書	事前に資料を配布する。								
参考書	特になし。								

授業科目		生活美術特別講義Ⅰ～Ⅵ			担当者	生活美術学科教員他			
単位数	各1	必・選	選	授業形式	集中講義	開講期	前・後	対象	美1～3年
授業の概要									
特別講義Ⅰ：常勤教員が東京方面への研修旅行のコーディネートを行う。									
特別講義Ⅱ～Ⅳ：様々なジャンルで活躍するゲストレクチャーがそれぞれの専門について語る。									
授業の目標(到達目標)									
研修旅行での体験または様々なジャンルで活躍する講師との出会いをとおして、美術の可能性、多様性を認識し、鑑賞及び制作にあたり、主体的に取り組む姿勢を身につける。									
授業計画及び内容									
・生活美術特別講義Ⅰ：東京方面研修旅行（予定：5月中／1泊2日）									
・生活美術特別講義Ⅱ：1年時前期開講（担当講師と講義内容については決定後、掲示にて連絡する）									
・生活美術特別講義Ⅲ、Ⅳ：2年時開講（担当講師と講義内容については決定後、掲示にて連絡する）									
・生活美術特別講義Ⅴ、Ⅵ：3年時開講（担当講師と講義内容については決定後、掲示にて連絡する）									
事前学習		集中講義前に掲示にて指示する。							
事後学習		講義内で指示する。							
履修上の注意		- 必ず以下の指示に従うこと - 選択科目を履修する場合は、履修登録期間内に履修登録用紙の所定欄に科目名を記入し、期限までに教務課に提出すること - ゲスト講師の略歴及び講義内容の掲示を確認後、定められた期限までに履修希望者リストに記名すること - リストは大会議室前掲示板に講義開始約1ヶ月前に掲示する。 - 準備物、教材費等についても、事前に掲示するので、見落としのないよう注意すること。 注）2日間の集中講義のため、欠席／遅刻は認めない。							
成績評価の方法・基準		参加状況（50％）とレポート（50％）又は作品（50％）等で評価する。							
教科書	適宜指示する。								
参考書	特になし。								

教 職 に 関 す る 科 目

4. 教職に関する科目

授業科目		教職概論				担当者		佐々木 晃	
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	家・美1年
授業の概要									
学校教育のねらいと教員の役割・使命を理解するとともに、現在の教員に何が求められているかを考える。加えて、教育実践に必要な基礎的知識・技能を身に付け、教員としての適格性を持つためにどのような努力が必要かを学ぶ。									
授業の目標(到達目標)									
教員を目指すにあたり、学校教育の概要と教育活動の基礎・基本を修得し、教員としての資質を身につける。									
授業計画及び内容									
1. オリエンテーション（教職を志す者の心構えとしての知見・実践的指導力・使命感）									
2. 教職の意義及び教員の役割									
3. 学校の目的・学校の教育目標									
4. 教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等）									
5. 教員養成・教員任用の仕組み									
6. 教員の資質向上と関係法規									
7. 生徒との関わり方、ほめ方、叱り方									
8. 新たな学びを展開できる学習活動と評価（情報機器の活用等）									
9. 学習指導案の基本									
10. 学習指導案の作成									
11. 道徳・特別活動の基本									
12. 進路指導・キャリア教育									
13. 生徒指導・教育相談									
14. 進路選択に資する各種の機会の提供等									
15. 教育改革の中の教師（近年の教育改革の動向について）									
事前学習		教育や子育てに関する新聞記事に目を通しておくこと							
事後学習		講義記録をとり、スクラップする							
履修上の注意		教師の社会的役割を意識して受講すること							
成績評価の方法・基準		授業への参加状況、レポート（70％）提出物（30％）							
教科書	〔これからの学校教育と教師〕〔佐々木 司他〕〔ミネルヴァ書房〕〔2,376 円〕								
参考書	〔中学校学習指導要領〕〔文科省〕〔東山書房〕〔244 円〕								

授業科目		教育原理				担当者		菅並 茂樹	
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	家・美2年
授業の概要									
授業では、一人一人が「教育とは何か」について考え、教育問題に対応していくための基礎的な知識を供することをねらいとして、教育の本質と意義、発達と教育、教育の場と内容、欧米の教育思想・教育目的、学校制度などについて概説する。									
授業の目標(到達目標)									
発達段階の特徴とそれに応じた教育のあり方、欧米の教育思想の概要、教育の場とその内容・特質を把握、理解することを通して、「教育とは何か」について様々な視点から各自考察する。									
授業計画及び内容									
1. 授業全般に関する説明、履修上の諸注意									
2. 教育の本質と意義（教育とは何か、教育の意義）									
3. 発達と教育（1）発達とは何か、発達の原理、発達の要因									
4. 発達と教育（2）発達段階（乳幼児期～児童期）									
5. 発達と教育（3）発達段階（青年期～老年期）									
6. 発達課題（ハヴィガーストによる発達課題、エリクソンによる発達論）									
7. 教育の場と内容（1）（家庭教育の内容と特徴）									
8. 教育の場と内容（2）（学校教育の内容と特徴）									
9. 教育の場と内容（3）（社会での教育の内容と特徴、生涯学習）									
10. 欧米の教育思想、教育目的（1）（18～19世紀）									
11. 欧米の教育思想、教育目的（2）（19～20世紀）									
12. 欧米の教育思想、教育目的（3）（20世紀）									
13. 日本の学校制度									
14. 学校教育の課題									
15. 授業のまとめと補足									
16. 試験									
事前学習		授業計画を見て、他の科目（哲学、社会学、心理学など）で関連する内容を学習したときはその部分を復習すること。また、配布資料を読んでおくこと。							
事後学習		ノートと資料を読み返し、学習した事柄を復習しまとめておくこと。							
履修上の注意		第1回目の授業で履修上の注意と授業の進め方について話す。現在の教育問題を参考に「教育とは何か」について自分なりに考えておくように。							
成績評価の方法・基準		学期末試験（60％）、提出課題（40％）で評価する。							
教科書	授業前に資料を配布する。								
参考書	授業で紹介する。								

授業科目	教育心理学					担当者	植松 公威		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	家・美2年
授業の概要 「発達と教育」では虐待によって心身に発達の遅れが生じても教育によって遅れを取り戻すことが可能であること、人間は他者の援助によって発達が促進されることなどについて解説する。「授業と学習」では学習の転移と記憶を高める指導法や有意味学習の効果について、教授者が実際に模擬授業をしながら理解の促進を図る。									
授業の目標(到達目標) 1 虐待によって心身に深刻な発達の遅れが生じても教育によって遅れを取り戻せることを理解する。 2 教育には社会的活動として「発達の最近接領域」を開き、子どもの発達を促す働きがあることを学ぶ。 3 学習の転移と記憶を高めるには、ルールと事例をどのように関連づけて学ぶのがよいか、理解する。 4 有意味学習を実際に体験し、機械的暗記学習の学習観・知識観を批判できるようになる。									
授業計画及び内容 1. ガイダンス（教授内容と教育目的） 2. 「赤ちゃんー成長の不思議な道のりー」（NHKスペシャル）の視聴 3. 虐待における発達の遅れの障害と補償教育の事例 4. 人間における臨界期、敏感期の問題 5. 障害の理解 障害のある子どもの発達と教育 6. 発達障害ー学習障害、高機能自閉症、注意欠陥多動性障害、アスペルガー症候群の理解と支援ー 7. 発達の成熟優位説とそれに反する事例 8. I Q の遺伝決定論ー人間の測り間違いー 9. ヴィゴツキーの「発達の最近接領域説」 10. ルール（法則）学習の事例とその長所 11. 学習の転移と記憶を促すための指導法ー小学3年、「金属ならば電気を通す」の授業ー 12. 学習の転移と記憶を促すための指導法ー帰納法、演繹法に対する検証法の効果ー 13. 有意味学習と機械的暗記学習ーシグナリング・スキーマ・先行オーガナイザーなどー 14. ルールによって意味を理解するー「砂漠は地球のどこにあるか」の模擬授業を通してー 15. まとめと復習 16. 学期末試験									
事前学習	シラバスをよく読み、キーワードの意味を事前に調べ、疑問をあらかじめ明らかにしておくことよい。								
事後学習	作成したノート、配られたプリントをもう一度見直し、わかったところ、わからなかったところを明らかにしておく。ノートは後で見えてわかるように補足のコメントなどを加筆しておくことよい。								
履修上の注意	毎回コメントペーパーに感想などを書いて提出すること。								
成績評価の方法・基準	試験の成績 90%、受講態度 10%								
教科書	授業の前にプリントを配布する								
参考書	授業の中で適宜、紹介する								

授業科目		教育制度論				担当者	菅並 茂樹		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	家・美3年
授業の概要 近代国家の発展に伴って、私的な営みであった教育活動は国家によって組織的、体系的に整備され、制度化されていく。授業では、学校制度を中心とした教育制度の発展と制度の基本的な部分を占める教育法規に関する基礎的な知識を概説する。									
授業の目標(到達目標) 近代以降の教育制度(学校制度)の構造及び「公教育」の発展とその原理を把握したうえで、憲法教育を受ける権利の保障を基盤とした、教育基本法他主な教育法規の重要な条文の内容、意義、解釈上の問題点について理解する。									
授業計画及び内容									
1. 授業内容全般に関する説明、履修上の諸注意									
2. 欧米の教育制度の発展（学校の成立～産業革命期）									
3. 欧米の教育制度の発展（産業革命期以後～現代）									
4. 日本の教育制度の発展（明治期）									
5. 日本の教育制度の発展（大正期～戦後教育改革）、現在の教育制度									
6. 公教育の概念、組織原理									
7. 憲法の人権条項と教育規定（教育を受ける権利）									
8. 教育基本法（法の概要、成立過程、前文）									
9. 教育基本法（1～4条）									
10. 教育基本法（5～9条）									
11. 教育基本法（10～15条）									
12. 教育基本法（16、17条、まとめ）									
13. 教育委員会制度									
14. 教員に関する法規									
15. 授業のまとめと補足									
16. 試験									
事前学習		日本の戦後の歴史をおおまかに把握しておくこと。法規に関する学習では次回に学習する法規の条文をよく読んでおくこと。							
事後学習		ノートと授業で配布した資料（法規集等）を読み返し、学習した事柄を復習すること。							
履修上の注意		第1回目の授業で履修上の注意と授業の進め方について話す。現在の教育問題に関心を持つようにする。							
成績評価の方法・基準		定期試験（80%）、提出課題（20%）で評価する。							
教科書		授業前に資料を配布する。							
参考書		〔教育小六法（平成29年版）〕〔市川須美子他〕〔学陽書房〕〔2,700円〕							

授業科目		教育課程論				担当者		菅並 茂樹	
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	家・美2年
授業の概要									
教育課程と学習指導に関する基礎的な知識について概説する。特に審議会の答申内容を踏まえて学習指導要領の変遷を見ることによって、戦後の教育課程編成に関する諸問題を考察していく。									
授業の目標(到達目標)									
教育課程の意義、編成の方法、種類とその特徴について把握したうえで、わが国の教育課程の要となる学習指導要領について、改訂の背景や経緯、その特徴、課題となった事柄について把握、理解する。									
授業計画及び内容									
1. 授業内容全般に関する説明、履修上の諸注意									
2. 教育課程の意義、編成の基本的な考え方、教育課程法制									
3. 教育課程編成の方法									
4. 教育課程の類型（1）（教科教育課程）									
5. 教育課程の類型（2）（経験教育課程）									
6. 学習指導要領の変遷（1）（昭和 22、26 年版の特徴）									
7. 学習指導要領の変遷（2）（昭和 33 年版 改訂の経緯と特徴）									
8. 学習指導要領の変遷（3）（学問中心のカリキュラム、昭和 43 年版 改訂の経緯と特徴）									
9. 学習指導要領の変遷（4）（人間中心の教育、昭和 52 年版 改訂の経緯と特徴）									
10. 学習指導要領の変遷（5）（平成元年版 改訂の経緯と特徴、学力のとらえ方）									
11. 学習指導要領の変遷（6）（平成 10 年版、20 年版 改訂の経緯と特徴）									
12. 平成 28 年度改訂の学習指導要領の概要と特徴									
13. 系統学習									
14. 問題解決学習									
15. 授業のまとめと補足									
16. 試験									
事前学習		日本の戦後の歴史をおおまかに把握しておくこと。また、配布した資料を読んでおくこと。							
事後学習		ノートと授業で配布した資料を読み返し、学習した事柄を復習すること。							
履修上の注意		第 1 回目の授業で履修上の注意と授業の進め方について話す。							
成績評価の方法・基準		学期末試験（80％）、提出課題（20％）による。							
教科書		授業前に資料を配布する。							
参考書		〔小学校、中学校、高等学校学習指導要領〕〔文部科学省〕〔各 238 円、244 円、588 円〕							

授業科目		家庭科教育法Ⅰ			担当者		鈴木 行子		
単位数	4	必・選	選	授業形式	講義	開講期	通年	対象	家3年
授業の概要									
家庭科教育の変遷、目標・内容、小・中・高校の家庭科相互及び他教科との関連、指導計画、指導法、評価法などについての理解を深めさせる。さらに模擬授業による実践的・体験的学習を通して、家庭科教育の望ましいあり方や指導技術の基礎・基本を習得させる。									
授業の目標(到達目標)									
家庭科教育の意義及び内容、指導法など家庭科教育に必要な知識と技術について理解を深め、これからの家庭科教育のあり方を模索する。また、学習指導計画案の作成のしかたを習得し、模擬授業を体験しながら、実践的な学習指導法の基礎を養う。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス：家庭科教師の資質・資格・研修					16. 学習指導計画：教材研究 模擬授業指導時案作成				
2. 家庭科教育の歴史：家庭科教育の歴史と変遷					17. 学習指導法①：原理 類型 形態				
3. 家庭科教育の意義：家庭科と家庭科教育、生涯学習					18. " ②：実験・実習の指導 家庭科学習指導の特質				
4. 指導上の留意点：学習に影響する要件 社会の変化と家庭科教育					19. 評価法①：目的と対象 手順（時期・用具）・演習				
5. 家庭科教育の目標と 21 世紀の家庭科					20. " ②：資料の解釈と結果の利用 記録と通知				
6. 小・中・高の家庭科の内容① 小学校の家庭科					21. 教材研究①：分野の研究要点・教材作成上の留意点				
7. " ② 中学校の技術・家庭科					22. " ②：模擬授業指導案作成（教材研究）				
8. " ③ 高等学校の家庭科					23. 模擬授業①：中・高に関する模擬授業実践（導入の工夫）				
9. H・Pと家庭クラブ 技術検定 小・中・高の関連					24. " ②： " （展開のヤマ場）				
10. 他教科、道徳及び総合的な学習などとの関連・教育課程					25. " ③： " （板書・学習カード）				
11. 学習指導計画①：作成の意義 配慮すべき事項 種類と形式					26. " ④： " （教材・教具作成）				
12. " ②：年間指導計画案 題材指導計画案（形式と留意点）					27. " ⑤： " （まとめの工夫）				
13. " ③：指導時案作成（その他の諸形式と留意点）					28. 施設・設備：施設設備の必要性和管理運営				
14. 模擬授業実践（導入・展開の進め方）					29. 今後の課題：社会情勢の変化への対応・世界の家庭科教育				
15. まとめ（試験を含む）と評価					30. まとめ：模擬授業の反省 教育実習に向けて 31. 試験				
事前学習		家庭科の教科書（中・高）・指導要領の精読を心がけること。 家庭科の指導上の資料となり得るもの等（ニュース、新聞等 他）の収集に努めること。							
事後学習		模擬授業後の反省（指導案や指導内容等）を十分に振り返りに生かせるようにしておくこと。							
履修上の注意		実践的・体験的学習に対する真摯な取り組みと協力的な姿勢の保持。 受講は自主的・積極的に、さらに提出物の期日厳守に留意すること。							
成績評価の方法・基準		定期試験 50%、 レポート・提出物等 25% 模擬授業実践 25%（学習指導計画案、指導技術・態度等）							
教科書		[中学校「技術・家庭」（家庭）][開隆堂][624 円] [高等学校「家庭総合」][美教出版][685 円] [中学校学習指導要領][文部科学省][80 円] [高等学校学習指導要領][文部科学省][280 円]							
参考書		[教育実践力をつける家庭科教育法（第3版）][多々納道子・福田公子] [大学教育出版][2400 円]							

授業科目		家庭科教育法Ⅱ				担当者		鈴木 行子	
単位数	4	必・選	選	授業形式	講義	開講期	通年	対象	家4年
授業の概要									
学習指導計画・指導法・評価・教材研究の進め方・教材教具の作成等演習を重視して、総合的・実践的な学習を深め、教育実習をより効果的に行う能力と態度を育成する。あわせて新しい世紀を生きる力を養成するための家庭科教育の望ましい指導のあり方についての理解を深める。									
授業の目標(到達目標)									
学習指導法、教材研究、教材教具の作成の総合的・実践的な学習を深め、教育実習を効果的に行う能力と態度の育成。さらに男女共同参画、少子高齢化等の今日的課題に対応すべく、生活の自立に配慮し、家庭科教育の内容を重視した学習指導のあり方に迫る。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス：教育実習について 模擬授業実践計画					16. 学習指導計画：体験・実習・実験学習実践指導方法				
2. 教育実習：教育実習事前指導 教材研究・指導案					17. 実践学習指導：実践学習の進め方（シニア体験学習）				
3. 教員採用試験に向けて・指導案作成方法					18. " : "（家庭看護）				
4. 学習指導：模擬授業実践に向けて（教材研究の要点）					19. 実験・実習学習指導の進め方（例①）（食物分野）				
5. 模擬授業Ⅰ：模擬授業実践① （導入の工夫・展開のヤマ場）					20. " : "（例②）（衣生活分野）				
6. " : 模擬授業実践②（まとめの工夫）					21. 模擬授業の計画：模擬授業指導案作成（食物分野）				
7. " : 模擬授業実践③（板書の工夫）					22. 模擬授業Ⅱ：食物分野実験学習指導①（導入の工夫）				
8. " : 模擬授業実践④（評価の研究）					23. " : " ②（展開のヤマ場）				
9. " : 模擬授業実践⑤ （教材教具の工夫と提示）					24. " : " ③（板書・学習プリント）				
10. 教育実習のまとめ：教育実習の反省・評価・まとめ					25. " : " ④（教材教具の工夫）				
11. 教育実習研究授業実践発表会・評価①					26. 模擬授業Ⅲ：衣生活分野実習学習指導①（導入の工夫）				
12. " ②					27. " : " ②（展開のヤマ場）				
13. " ③					28. " : " ③（板書・学習プリント）				
14. " ④					29. " : " ④（教材教具の工夫）				
15. 模擬授業実践の反省・評価 教員採用試験に向けて					30. まとめ：模擬授業のまとめと評価、反省 31. 試験				
事前学習		家庭科の教科書（中・高）・指導要領の精読を心がけること。模擬授業の教材研究、事前準備及び家庭科の指導上の資料となり得るもの等（ニュース、新聞等、他）の収集を努めること。							
事後学習		模擬授業後の反省（指導案や指導技術等）を十分に振り返り活かせるようにしておくこと。							
履修上の注意		受講は自主的・積極的に、実践的・体験的学習に対する真摯な取り組みを望む。さらに授業態度、提出物の期限厳守に留意のこと。 家族・家庭生活・衣・食・住・環境・福祉・消費者教育などについて自分の生活と関わりを持ち、教養を深めると共に実践力を高める姿勢の保持。							
成績評価の方法・基準		定期試験 50％、レポート・提出物 25％ 模擬授業実践 25％(学習指導計画案、指導技術・態度等)							
教科書	家庭科教育法Ⅰで使用したものを継続使用する。								
参考書	無し								

授業科目		美術科教育法Ⅰ				担当者	加美山 裕子		
単位数	4	必・選	選	授業形式	講義	開講期	通年	対象	美3年
授業の概要 中学校美術科・高等学校美術科の教員に必要なとされる基礎的な知識の習得を図る。美術教育の時代的変遷を学ぶことを通して、学習指導要領の理解を図るとともに、基礎的な指導方法や造形的表現技術の指導方法について習得させる。中学校美術科の教科書を参考にした教材研究や模擬授業を行い、4年次の教育実習に向けての準備としていきたい。									
授業の目標(到達目標) 一つ一つの題材に含まれる教材としての価値を把握し、学習を分析して、創造的・造形的な視点での授業が展開できるような力を身につけ、学習指導案の作成がスムーズにできるようにする。4年次の教育実習での基本的・実践的な教授方法の基礎を養う。									
授業計画及び内容									
1. オリエンテーション、美術教育とは何か	16. 美術教育での評価Ⅰ①（評価の種類）								
2. 学びの基礎とはⅠ（学校教育の意義）	17. " ②（評価の観点）								
3. 学びの基礎とはⅡ（学びと評価 指導の手だて）	18. 美術指導での改革 （美術指導を改革していく7つのポイント）								
4. 美術教育の確立Ⅰ（教科としての美術教育）	19. 学習指導案の作成について								
5. 美術教育の確立Ⅱ①（美術教育の目指すもの）	20. 指導内容や題材の分析、指導案作成①								
6. " ② （基礎・基本の指導の重要性について）	21. 指導案作成②								
7. 美術教育の確立Ⅲ① （発達課題と美術教育とのかかわり）	22. 指導案作成③								
8. " ② （パートナーシップを生かした美術学習）	23. 模擬授業発表①								
9. 学校の役割と美術教育Ⅰ①（学校の教育役割）	24. 模擬授業発表②								
10. " ②（美術における発散的学習について）	25. 模擬授業発表③								
11. " ③（表現の学習に関する指導）	26. 模擬授業のまとめと講評								
12. 学校の役割と美術教育Ⅱ（教員養成から考察した造形教育指導上の課題）	27. 年間指導計画について								
13. 学習指導要領の研究①（学習指導要領について）	28. 年間指導計画の作成①								
14. " ②（指導計画の作成と内容の取扱い）	29. 年間指導計画の作成②と計画案の発表								
15. 美術教育の指導（指導と評価の一体化）	30. 講評とまとめ								
事前学習	・前時の講義内容の把握と確認をしておくこと。 ・指導要領の精読に努めること								
事後学習	・講義で配布したレジメについて、よく復習をしておくこと。								
履修上の注意	・講義時に配布するレジメをファイリングし、受講の際は持参すること。 ・自主的・意欲的に受講し、進んでメモを取るなど自己の学習の積み重ねに努め、提出物は期限厳守で必ず提出すること。								
成績評価の方法・基準	レポート、提出物（年間指導計画案、学習指導案など） 60%， 模擬授業 30%，受講態度 10%								
教科書	[中学校学習指導要領解説美術編] [文科省] [96 円] ※授業前にプリントも配布する [高等学校学習指導要領解説芸術編] [文科省] [305 円]								
参考書	[中学校美術科教科書] [日文] [1000 円以内] [美術資料集] [秀学社] [780 円]								

授業科目		美術科教育法Ⅱ			担当者		加美山 裕子		
単位数	4	必・選	選	授業形式	講義	開講期	通年	対象	美４年
授業の概要									
教育実習の意義等について理解を深め、授業実践への意欲を高める。模擬授業の展開にあたり、教材の分析や指導案作成の手順を具体例にそくして把握させ美術指導の実践力を養う。題材の展開や授業の進め方などを模擬授業の中で理解させるとともに、美術指導における指導と評価のあり方や美術教育のねらいについての考えをしっかりと持つことができるようにしていきたい。									
授業の目標(到達目標)									
美術科での効果的な指導力の向上を目指し、美術教員としての資質や力量形成の基礎を培う。美術教育の意義を理解・把握し、そこから学校現場での実践感覚を育み、自己の指導力向上に努めていけるようにする。									
授業計画及び内容									
１．オリエンテーション、美術教育について					16. 教育実習の反省とまとめ				
２．教育実習での留意事項と心得①					17. 美術の授業の特色（授業づくりの基本的留意点）				
３．〃 ②					18. 美術教育の評価と指導①（学びと評価）				
４．学習指導案の書き方〈確認〉					19. 〃 ②（絶対評価と指導の実際）				
５．美術教育の確立①（義務教育の目指すもの）					20. 授業の実際（学習指導案に基づいて）				
６．〃 ②（美術教育の持つ教育力）					21. 学習指導案の作成について（題材分析）、作成①				
７．中学校での美術の授業①（美術教育の特色）					22. 学習指導案の作成 ②				
８．〃 ②（題材について）					23. 〃 ③				
９．年間指導計画の実際について					24. 模擬授業，講評 ①				
10. 年間指導計画作成①					25. 〃 ②				
11. 〃 ②					26. 〃 ③				
12. 教育実習感想発表、まとめ					27. 評価をふまえた学習指導案について				
13. 教員採用試験に向けて・諸注意					28. 評価をふまえた指導案（略案）作成①				
14. 教育実習の指導案の発表、講評①					29. 評価をふまえた指導案（略案）作成，発表 ②				
15. 〃 ②					30. 講評とまとめ				
事前学習		・前時の講義内容の把握と確認をしておくこと。 ・指導要領の精読に努めること							
事後学習		・講義で配布したレジメについて，よく復習しておくこと。							
履修上の注意		・講義時に配布するレジメをファイリングし、受講の際に持参すること。 ・自主的、意欲的に受講し、提出物の期限を厳守すること。							
成績評価の方法・基準		レポート，提出物（年間指導計画案、学習指導案） 50%， 模擬授業 40%，受講態度 10%							
教科書	〔中学校学習指導要領解説美術編〕〔文科省〕〔96円〕＊3年次に購入済 〔高等学校学習指導要領解説芸術編〕〔文科省〕〔305円〕※授業前にプリントも配布								
参考書	〔中学校美術科教科書〕〔日文〕〔1000円以内、〕〔美術資料集〕〔秀学社〕〔780円〕 ＊3年次に購入済								

授業科目		工芸科教育法				担当者		瀬戸 典彦	
単位数	4	必・選	選	授業形式	講義	開講期	通年	対象	美3年
授業の概要									
・工芸科学習指導要領に関する理解を促す。 ・教育現場における工芸科教育の可能性について示唆を与える。 ・教材開発能力を育成する。 ・模擬授業をととして、授業実践力を高める。									
授業の目標(到達目標)									
・学校教育における工芸科の意味と重要性について説明できる。 ・教材を開発できる。 ・授業（工芸科）の実践力を身につける。									
授業計画及び内容									
1. オリエンテーション「表現教育としての工芸科のあり方について」					16. 機能とは				
2. 工芸と工芸科教育について					17. 機工からの教材開発（事例研究）				
3. 林竹二の教育論と工芸科の役割について					18. 機工からの教材開発（実践）				
4. 美術科の役割と工芸科の役割について					19. 機工からの教材開発（発表）				
5. 工芸科教育の歴史について					20. 機能からの教材開発（事例研究）				
6. 構成学及び構成教育について					21. 機能からの教材開発（実践）				
7. 構成教育の実践例について					22. 機能からの教材開発（発表）				
8. バウハウスまでの工芸・デザイン					23. 工芸科教育における情意の意味について				
9. バウハウス（起源）					24. 工芸科学習指導要領について				
10. バウハウス（ワイマール）					25. 学習指導案の作成方法（概要）				
11. バウハウス（ワイマール以降）					26. 学習指導案の作成方法（実践）				
12. 素材からの教材開発（事例研究）					27. 模擬授業（教材開発）				
13. 素材からの教材開発（実践）					28. 模擬授業（指導案作成）				
14. 素材からの教材開発（発表）					29. 模擬授業（実践）				
15. フィールドトリップ					30. まとめ				
事前学習		配布資料に目を通し、内容を理解する。（理解できなかった部分については、質問項目表にまとめる）							
事後学習		その都度、配布されるワークシートの内容に沿ってレポートを作成する。							
履修上の注意		積極性／主体性を有する学生を対象とする。							
成績評価の方法・基準		レポート：60％ 指導案：20％ 模擬授業：20％							
教科書	〔高等学校学習指導要領解説 芸術編〕〔文部科学省〕〔305 円〕								
参考書	その都度、参考資料を配布する。								

授業科目	道徳教育の指導法						担当者	加美山 裕子	
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	家・美3年
授業の概要									
道徳性の涵養は、人間性発達の根幹をなすものである。道徳性を養い道徳的実践力の育成のためには、学校における「道徳」の時間だけでなく教育活動全体を通して行われる必要がある。その基盤となるのはしっかりとした指導計画に沿った計画的な指導の実践である。ここでは道徳教育の歴史の把握や道徳教材の分析などを通して、学校における「道徳」の指導方法を模索していく。									
授業の目標(到達目標)									
人間の道徳性の発達やその育成の重要性について理解を深め、児童・生徒を、人格を持った一人の人間として尊重していく姿勢を身につける。教職を目指す者としての資質や道徳の指導案の作成方法、授業の実際について学んでいく。									
授業計画及び内容									
1. オリエンテーション、道徳の定義									
2. 道徳教育の基礎Ⅰ（学校における道徳教育の充実）									
3. 道徳教育の基礎Ⅱ（学習指導要領改訂の歩みから見る道徳教育の歴史・道徳教育の目標）									
4. 道徳教育の基礎Ⅲ（生き方教育としての道徳教育）									
5. 道徳教育の基本的あり方 ①（内容項目と主題について）									
6. 〃 ②（道徳教育の基本的あり方）									
7. 〃 ③（道徳性の発達と道徳教育）									
8. 道徳性の具体的把握 ①（道徳的判断力とは）									
9. 〃 ②（ピアジェ・コールバーグ等の理論）									
10. 〃 ③（道徳的实践意欲とは）									
11. 〃 ④（道徳性を育む家庭教育の役割）									
12. 学習指導案の内容と作成（教材分析と学習指導案の作成について）									
13. 学習指導案の作成									
14. 道徳の授業の実際（模擬授業①）									
15. 道徳の授業の実際（模擬授業②）、講評とまとめ									
16. 試験									
事前学習		・前時の講義内容の把握と確認をしておくこと。							
事後学習		・講義で配布したレジメについて、よく復習をしておくこと。							
履修上の注意		・講義時に配布するレジメをファイリングし、受講の際は持参すること。 ・自主的、意欲的に受講し、進んでメモを取るなど、自己の学習の積み重ねに努めること。							
成績評価の方法・基準		レポート、提出物（学習指導案）、模擬授業など 40%、期末試験 50%、授業態度 10%							
教科書	〔中学校学習指導要領解説道徳編〕〔文科省〕〔139円〕 ※授業前にプリントも配布する								
参考書	無し								

授業科目	特別活動の指導法				担当者	大山 芳宏			
単位数	1	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	家・美2年
授業の概要 文献資料や VTR 資料を活用して理解を図るとともに、特別活動の活動内容について、実際の指導計画の検討や各種活動計画の作成を行うなど、実践的に学べるようにする。また、特別活動における具体的な課題をとりあげ、グループワークなどをおして意見交換を行い考察させる。									
授業の目標(到達目標) 学校教育における特別活動のねらいや意義・役割・内容について理解し、よりよい人間関係を築く力、社会に参画する態度や自治能力など、特別活動が生徒の人間形成にとって大切な領域であることを認識し、教職を担うための基礎的な資質・能力を修得する。									
授業計画及び内容									
1. 特別活動の基本的性格と意義									
2. 特別活動の歴史									
3. 特別活動の目標									
4. 学級活動・ホームルーム活動（1）学級や学校の生活づくり（生徒指導との関連）									
5. 学級活動・ホームルーム活動（2）適応と成長及び健康安全・学業と進路									
6. 生徒会活動（1）目標と内容									
7. 生徒会活動（2）生徒会活動の諸問題									
8. 学校行事（1）意義と目標 ①儀式的行事									
9. 学校行事（2）②文化的行事 ③体育的行事									
10. 学校行事（3）④旅行・集団宿泊的行事 ⑤勤労生産・奉仕的行事									
11. 特別活動の指導計画の作成と内容の取扱い									
12. 学級活動指導案の作成									
13. 生徒会活動計画の作成									
14. 学校行事・大会等の計画案の作成									
15. 特別活動研究のまとめ									
16. 試験									
事前学習	次回のテーマについて、文献等で調べ考察する。								
事後学習	課題について考察し、まとめ提出する。								
履修上の注意	教員免許取得に関わる科目であり、必ず初回から授業に出席すること。特に毎回の課題作成は、授業内容を身につける上で重要であり、評価の割合が大きい。								
成績評価の方法・基準	毎回の課題（60％）と試験（40％）による総合評価（100点）								
教科書	毎回レジュメプリントを配布する								
参考書	[中学校学習指導要領解説特別活動編] [文部科学省] [118 円] [高等学校学習指導要領解説特別活動編] [文部科学省] [216 円]								

授業科目	教育方法論				担当者	植松 公威・松尾 広			
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	家・美2年
授業の概要									
学習者がもつ「誤った、または不完全な知識」の修正を促すためには、どのような教授ストラテジーが有効であるかを検討するとともに、学習評価と教育評価の概念と方法について解説する。また、視聴覚機器の効果的な利用法についても考察する。									
授業の目標(到達目標)									
1. 学習者がもつ「誤った、または不完全な知識」の修正に有効な教授ストラテジーの種類と問題点を知り、教授ストラテジーを有効に用いるための工夫（技術）を理解する。 2. 「到達度・自己評価」が内発的動機づけの向上に有効であることを理解する。 3. 教育活動の効果の検証方法（比較法、相関法、構成法）の特徴や問題点を理解する。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス（教授内容と教育目標）									
2. 学習者の過去経験と「誤った、または不完全な知識」（ル・バー）の形成について									
3. 「ル・バー対決型ストラテジー」の授業例（仮説実験授業など）と問題点									
4. 詩の読みとりに及ぼす「矛盾を喚起する発問」の効果									
5. 「ル・バー懐柔型ストラテジー」の効果と問題点									
6. 教授ストラテジーを有効に用いるための工夫（技術）について									
7. 一般化のしすぎのル・バー修正に及ぼす「範囲画定型ルール」提示の効果									
8. 適性処遇交互作用（ATI について）									
9. 学習評価としての到達度自己評価が内発的動機づけに及ぼす効果、教育評価活動の定義									
10. 教育活動の効果の検証方法－比較法と倫理的問題－									
11. 教育活動の効果の検証方法－相関法と構成法－									
12. 比較法、相関法、構成法のそれぞれの長所と短所（問題点）									
13. まとめの講義（以上1回目から13回目は植松が担当）									
14. 視聴覚機器の特性（松尾）									
15. コンピューターと教育方法（松尾）									
16. 学期末試験									
事前学習	シラバスをよく読み、キーワードの意味やテーマについて事前に調べ、疑問をあらかじめ明らかにしておくことよ。								
事後学習	作成したノート、配られたプリントをもう一度見直し、わかったところ、わからなかったところを明らかにしておく。ノートは後でわかるように補足のコメントなどを加筆しておくことよ。								
履修上の注意	毎回コメントペーパーに感想などを書いて提出すること。								
成績評価の方法・基準	試験の成績 90%、受講態度 10%								
教科書	授業の前にプリントを配布する								
参考書	授業の中で適宜、紹介する								

授業科目	生徒指導の理論と方法 A				担当者	大山 芳宏			
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服・美3年
授業の概要 生徒指導の意義や役割・児童生徒理解、教育相談、いじめや不登校等の個別課題への対応等について、文献や具体的な実践事例をもとに理解を図る。事例の考察等については、グループワークを活用した意見交換を取り入れるなど、主体的に学べるようにする。 進路指導の理論や方法については、特にキャリア教育と関連づけながら理解を図る。									
授業の目標(到達目標) 学校教育における生徒指導の意義と役割、理論と考え方、指導方法など生徒指導を行う上で必要とする知識や理解を深め、教職を担うための基礎的な資質・能力を修得する。									
授業計画及び内容									
1. 生徒指導の意義と課題と役割									
2. 生徒指導の前提となる生徒理解（発達観と指導観）									
3. 教育課程における生徒指導の位置付け									
4. 教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動と生徒指導									
5. 集団指導と個別指導の方法原理									
6. 教育相談と児童生徒理解									
7. 学校における生徒指導体制									
8. 学級経営と生徒指導									
9. 人権教育と生徒指導									
10. 特別支援教育と生徒指導									
11. 進路指導・キャリア教育と生徒指導									
12. 個別の課題を抱える児童生徒への指導（1）…問題行動・非行・暴力行為への対応									
13. 個別の課題を抱える児童生徒への指導（2）…いじめ・不登校等への対応									
14. 個別の課題を抱える児童生徒への指導（3）…生命・自殺・児童虐待・家出への対応									
15. 生徒指導に関する法令等及び学校と地域の連携									
16. 試験									
事前学習	次回のテーマについて、文献等で調べ考察する。								
事後学習	課題について考察し、まとめ提出する。								
履修上の注意	教員免許取得に関わる科目であり、必ず初回から授業に出席すること。 特に毎回の課題作成は、授業内容を身につける上で重要であり、評価の割合が大きい。								
成績評価の方法・基準	毎回の課題（60点）と試験（40点）による総合評価（100点）								
教科書	毎回レジュメプリントを配布する								
参考書	[生徒指導提要] [文部科学省] [298円]								

授業科目		生徒指導の理論と方法 B			担当者		大山 芳宏		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	健専3年
授業の概要									
生徒指導の意義や役割、児童生徒理解、教育相談、いじめや不登校等の個別課題への対応について、文献や具体的な実践事例をもとに理解を図る。事例の考察等については、グループワークを活用した意見交換を取り入れるなど、主体的に学べるようにする。									
授業の目標(到達目標)									
学校教育における生徒指導の意義と役割、理論と考え方、指導方法など生徒指導を行う上で必要とする知識や理解を深め、教職を担うための基礎的な資質・能力を習得する。									
授業計画及び内容									
1. 生徒指導の意義と役割									
2. 生徒指導の前提となる生徒理解（発達観と指導観）									
3. 教育課程における生徒指導の位置づけ									
4. 教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動と生徒指導									
5. 集団指導と個別指導の方法原理									
6. 教育相談と児童生徒理解									
7. 学校における生徒指導体制									
8. 学級経営と生徒指導談									
9. 人権教育と生徒指導									
10. 特別支援教育と生徒指導									
11. キャリア教育と生徒指導									
12. 個別の課題を抱える児童生徒への指導（1）・・問題行動・非行・暴力行為への対応									
13. 個別の課題を抱える児童生徒への指導（2）・・いじめ・不登校への対応									
14. 個別の課題を抱える児童生徒への指導（3）・・生命・自殺・児童虐待・家出への対応									
15. 生徒指導に関する法令等及び学校と地域の連携									
16. 試験									
事前学習		次回のテーマについて、文献等で調べ考察する。							
事後学習		課題について考察し、まとめ提出する。							
履修上の注意		教員免許取得に関わる科目であり、必ず初回から授業に出席すること。特に毎回の課題作成は、授業内容を身につける上で重要であり、評価の割合が大きい。							
成績評価の方法・基準		毎回の課題（60点）と試験（40点）による総合評価（100点）							
教科書	毎回レジュメプリントを配布する								
参考書	[生徒指導提要][文部科学省][298円]								

授業科目	教育相談				担当者	植松 公威			
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	家・美3年
授業の概要 現在、学校では、多くの教員がいじめ、不登校、薬物乱用など、児童・生徒の生命や健康にかかわる問題に直面し、それらへの対処方法に苦慮している。講義では、これらの諸問題について概説するとともに、対応についても検討する。とりわけカウンセリングの基礎的な理論や技法について学べるように演習を行う。									
授業の目標(到達目標) 1 不登校の問題において、初期の対応と長期化した場合の対応を理解する。 2 いじめの問題において、個へのアプローチと集団へのアプローチを理解する。 3 カウンセリングにおいて受容と共感は何故必要か、カールロジャースの理論を学ぶ。 4 カウンセリングの初期と中期では目標や技法がどのように異なるか、理解する。 5 カウンセリングの基本的な技法をいじめや不登校の相談場面で使えるようになる。									
授業計画及び内容 1. ガイダンス（教授内容と教育目標） 2. 青年期と自我同一性の確立について 3. 生徒理解の方法－心理テスト法、観察法、面接法－ 4. 不登校－現状と学校での取り組みについてビデオ視聴－ 5. 不登校－初期の対応と長期化した場合の対応について－ 6. いじめ－集団構造とピアプレッシャー－ 7. いじめ－個へのアプローチと集団へのアプローチ（サイコドラマなど）について－ 8. 薬物非行－非行少年とは、DARC を紹介したビデオ視聴－ 9. 薬物非行－対応のあり方について－ 10. カウンセリング－受容と共感は何故必要か、カールロジャースの理論－ 11. カウンセリング－基本法な技法についてのビデオ視聴と解説－ 12. カウンセリング－不登校やいじめの相談場面を想定した演習－ 13. カウンセリング－初期の目標と有効な技法－ 14. カウンセリング－中期の目標と有効な技法－ 15. カウンセラーとクライアントに分かれて実践的な練習（ロールプレイング） 16. 学期末試験									
事前学習	テーマやキーワードの意味を調べ、疑問を明らかにしておくこと。								
事後学習	作成したノート、配られたプリントをもう一度見直し、わかったところ、わからなかったところを明らかにしておく。ノートは後で見えてわかるように補足のコメントなどを加筆しておくことよい。								
履修上の注意	毎回コメントペーパーに感想などを書いて提出すること。								
成績評価の方法・基準	試験の成績 90%、受講態度 10%								
教科書	授業の前にプリントを配布する								
参考書	講義の中で適宜、紹介する								

授業科目		教職実践演習（中・高）			担当者		菅並 茂樹・植松 公威		
単位数	2	必・選	選	授業形式	演習	開講期	後期	対象	家・美4年
授業の概要									
教職課程履修の総まとめとして、教育実習をはじめ教職課程履修の成果を踏まえて、教科指導、生徒指導、教育方法、学級経営に関する諸問題の講義と討議を行い、また、教育実習での授業の検討や作成した学習指導案の検討等を行うことにより、教員として必要とされる資質・能力の基礎が育成されるようにする。									
授業の目標(到達目標)									
①教育に対する使命感、責任観、規範意識、教育的愛情を持ち、職務を遂行することができる。②教員組織の一員としての自覚を持ち、他の教職員と協力して職務を遂行することができる。③生徒理解を基盤として適切な生徒指導や学級経営ができる。④学習指導の基礎的・基本的事項を習得している。これら4点の基礎を養うことを目標とする。									
授業計画及び内容 各回末尾のSは菅並、Uは植松、Gはゲストスピーカー担当を示す									
1. 授業内容全般に関する説明、履修上の諸注意 S, U									
2. 教職課程履修の振り返り(学習履歴の確認、省察) S, U									
3. 教職の意義、教員の使命、職務等について(講義－討議を交える－) S									
4. 教科内容と教科指導の諸問題について(講義－討議を交える－) U									
5. 教育方法(学習指導)の諸問題について(講義－討議を交える－) U									
6. 生徒理解、生徒指導に関する諸問題について(講義－討議を交える－) S									
7. 学級経営の諸問題について、学級経営案について (講義－討議を交える－) S									
8. 教職経験者による講義(主として教科指導、道徳教育についての講義と討議) G									
9. 教職経験者による講義(主として生徒指導、学級経営についての講義と討議) G									
10. 学習指導案の作成法、それを踏まえた研究授業指導案の検討(講義と討議) S, U									
11. 研究授業指導案の検討(前回の続き) S, U									
12. 教育実習での授業の反省(討議) S									
13. 教職員間の関係、チーム学校、保護者や地域の人々との関係について(講義) S									
14. レポートなど提出物に対する教員による概評等 S, U									
15. 授業の補足 S, U									
事前学習		教職課程履修の成果を踏まえて、各回の授業に関する資料を読み、分析、考察を行うこと。							
事後学習		授業の内容をまとめ、考察し、教師としての資質・能力の基礎を築くよう努めること。							
履修上の注意		第1回目の授業で履修上の注意と授業の進め方について説明する。教職課程履修のまとめ、反省、自己評価を行っておくこと。							
成績評価の方法・基準		授業への参加状況（発表、討議など）（40％）、レポート等の課題の内容（60％）によって総合的に評価する。							
教科書	授業前に資料を配付する。								
参考書	[中学校、高等学校学習指導要領] [文部科学省] [各 244 円、588 円] 他								

授業科目		教職実践演習（栄養教諭）				担当者	菅並 茂樹・植松 公威		
単位数	2	必・選	選	授業形式	演習	開講期	後期	対象	健4年
授業の概要									
教職課程履修の総まとめとして、教職課程履修の成果を踏まえて、給食をはじめとした食育に関する諸問題の講義と討議、生徒理解や生徒指導に関する講義と討議、教育実習での授業や作成した学習指導案の検討等を行うことにより、栄養教諭に必要とされる資質・能力の基礎が育成されるようにする。									
授業の目標(到達目標)									
①教育に対する使命感、責任感、規範意識、児童生徒への教育的愛情を持ち、職務を遂行することができる。②教員組織の一員としての自覚を持ち、他の教職員と協力して職務を遂行することができる。③学校給食の管理に関する職務内容を理解し、学校での食育に必要な基礎的・基本的知識と指導方法を習得している。これら3点の基礎を養うことを目標とする。									
授業計画及び内容 各回末尾のSは菅並、Uは植松、Gはゲストスピーカー担当を示す									
1. 授業内容全般に関する説明、履修上の諸注意 S, U									
2. 教職課程履修の振り返り(学習履歴の確認、省察) S, U									
3. 栄養教諭の意義、使命、職務について(講義－討議を交える－) S									
4. 食育に関わる諸問題について(学校での食育の計画、展開等についての講義) G									
5. 食育に関わる諸問題について(食物アレルギー等子どもの食に関する諸問題の講義) G									
6. 学校給食の歴史と実情、給食の指導について(講義) S									
7. 生徒指導、生徒理解に関する諸問題について(講義－討議を交える－) S									
8. 教職経験者による講義(主として教科指導、道徳教育についての講義と討議) G									
9. 教職経験者による講義(主として生徒指導、学級経営についての講義と討議) G									
10. 学習指導案の作成法、それを踏まえた研究授業指導案の検討(講義と討議) S, U									
11. 研究授業指導案の検討(前回の続き) S, U									
12. 子どもの「食」に関する諸問題の討議(各自課題を設定して対応策を発表) S									
13. 教職員間の関係・連携、チーム学校、保護者や地域の人々との関係について(講義) S									
14. レポートなどの提出物に対する教員による概評等 S, U									
15. 授業の補足 S, U									
事前学習		教職課程履修の成果を踏まえて、各回の授業に関する資料を読み、分析、考察を行うこと。							
事後学習		授業の内容をまとめ、考察し、栄養教諭としての資質・能力の基礎を築くよう努めること。							
履修上の注意		第1回目の授業で履修上の注意と授業の進め方について説明する。教職課程履修のまとめ、反省、自己評価を行っておくこと。							
成績評価の方法・基準		授業への参加状況（発表、討議など）（40%）、レポート等の課題の内容（60%）によって総合的に評価する。							
教科書	授業前に資料を配付する。								
参考書	[食に関する指導の手引][文部科学省][東山書房][1,260円]他								

博物館に関する科目

5. 博物館に関する科目

授業科目	生涯学習概論				担当者	大山 芳宏			
単位数	2	必・選	学(必)	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服・美1年
授業の概要 生涯学習の意義や課題、取り込みについて、具体的な資料やデータにもとづいて理解させるとともに、歴史的背景や社会的背景を踏まえ、体系的に学ばせる。 双方向の授業や各回の課題をとおして、自分の意見や感想を述べさせ、主体的な学びが身につくようにする。									
授業の目標(到達目標) 生涯学習についての基本的な考え方やあゆみ、生涯発達の課題について理解し、生涯学習が家庭教育・学校教育・成人教育・社会教育・まちづくりなどと相互に関連しあっていることや、生涯発達の各時期における意義や課題があることにより、自己の生き方に反映できる生涯学習を修得する。									
授業計画及び内容									
1. 生涯学習とは									
2. 生涯学習と世界のあゆみ									
3. 生涯学習と日本のあゆみ									
4. 生涯学習と生涯発達									
5. 幼児期と生涯学習									
6. 少年期と生涯学習									
7. キャリア教育と生涯学習									
8. 学校教育と生涯学習									
9. 青年期と生涯学習									
10. 男女共同参画社会の形成と生涯学習									
11. 成人期と生涯学習									
12. 高齢化社会と生涯学習									
13. 社会教育と生涯学習									
14. まちづくりと生涯学習									
15. 生涯学習の今後の動向と課題									
16. 試験									
事前学習		次回のテーマについて、事前に文献等で調べ考察する。							
事後学習		課題について考察し、自分の意見や感想をまとめ提出する。							
履修上の注意		毎回の課題が成績評価に大きく影響するので、欠席をしないように。							
成績評価の方法・基準		毎回の課題（60点）と試験（40点）による総合評価（100点）							
教科書		毎回レジュメプリントを配布する							
参考書		必要に応じ資料プリントを配布する							

授業科目		博物館概論				担当者		近江 恵美子		
単位数	2	必・選	学(必)	授業形式	講義	開講期	前期	対象	服・美1年	
授業の概要										
博物館の目的・機能・歴史等、博物館に関する基礎的知識の習得を図り、社会的役割への理解を深め、学芸員の任務について解説する。										
授業の目標(到達目標)										
博物館に関する基礎的知識である博物館の目的・機能を学んだ上で、博物館の歴史や種類を理解し、学芸員の仕事の全体像を把握する。										
授業計画及び内容										
1. 概要 要：講義計画について、学芸員資格について										
2. 博物館の目的：博物館学史										
3. 博物館の定義：博物館とは何か、定義・目的										
4. 博物館の種類：館種・設置者別等 博物館の分類										
5. 博物館の機能：資料の収集										
6. 〃：資料の保管・保存										
7. 〃：資料の調査研究										
8. 〃：展示・教育普及										
9. 博物館の歴史：博物館の起源と歴史										
10. 〃：近代における博物館										
11. 〃：日本における博物館の歴史										
12. 〃：博物館の現状										
13. 博物館関係法令：博物館法										
14. 〃：文化財法・その他の法令										
15. まとめ：博物館の未来像										
16. 試験										
事前学習		授業計画に基づき、与えられたテーマについて事前に調べ学習を行う。								
事後学習		授業内容を補足するため指示された項目について調べまとめる。								
履修上の注意		資格取得科目のため出席を重視する。自主的学習を望む。								
成績評価の方法・基準		期末試験成績 70%、平常点（調べ学習を含む）30%の総合点で評価する。								
教科書	使用しない。資料（プリント等）を配布する									
参考書	[博物館概論] [鈴木真理編集] [樹村房] [1,900 円]									

授業科目		博物館教育論				担当者		伊藤 優	
単位数	2	必・選	学(必)	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服・美1年
授業の概要									
「博物館教育」という営みを、これまでの研究成果をもとに客観的に示し、どのように立案・実施されるかを具体的な事例を通して解説する。									
授業の目標(到達目標)									
博物館教育の理論と実践、多様な形態や手法の意味を理解し、博物館教育プログラムを自分自身で創造する基礎的能力を習得する。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス（講義の進め方・評価方法等・博物館の役割）＊小レポート課題提示									
2. 博物館教育の目的と方法									
3. 博物館教育の基礎理論①（市民と博物館・学校と博物館）									
4. 博物館教育と基礎理論②（「分かる」・「知る」・「学ぶ」ことの意義）									
5. 博物館の教育活動①（教育活動の諸形態）									
6. 博物館の教育活動②（教育プログラムの立案と実施プロセス）									
7. 博物館の教育活動③（教材の作成・ユニバーサルデザイン）									
8. 博物館利用実態と博物館教育									
9. 博物館教育プログラムの評価									
10. 博物館教育と学芸員の役割									
11. 博物館教育とボランティア活動									
12. 美術館・歴史系博物館の教育活動									
13. 自然科学系博物館・文学館の教育活動									
14. 野外博物館・大学博物館の教育活動									
15. 講義の総括・最終レポート課題提示　＊小レポート提出									
事前学習		博物館施設の多様な事業等に積極的に参加すること。							
事後学習		「博物館教育論」に関して、講義以外の多彩な情報を収集しておくこと。							
履修上の注意		資格取得科目のため、出席、意欲的な学習姿勢を重視する。							
成績評価の方法・基準		最終レポート 50%、小レポート 30%（これからの未提出者は評価の対象としないことがある）、平常点（小テスト含む） 20%							
教科書	なし　必要に応じて講義前に資料を配布								
参考書	必要に応じて講義中に紹介する								

授業科目	博物館資料論				担当者	近江 恵美子			
単位数	2	必・選	学(必)	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服・美2年
授業の概要									
博物館資料とは何か、また人文科学資料と自然科学系資料のそれぞれについて資料の収集、整理保管、調査研究に関する理論や方法、知識、技術について解説する。									
授業の目標(到達目標)									
博物館資料の分類や収集方式、整理保管に関する知識と方法論を身につけ、博物館資料の取扱い方法や活用について理解する。									
授業計画及び内容									
1.	概 要			・博物館資料とは「モノ」から「資料」へ					
2.	博 物 館 資 料 の 概 念			・資料の意義					
3.	〃			・資料の種類、一次資料と二次資料					
4.	〃			・資料化の過程					
5.	博物館資料の収集、整理、活用			・収集理念と方法					
6.	〃			・収集の倫理、法規					
7.	〃			・受入手続、登録					
8.	〃			・資料の分類、整理					
9.	〃			・資料公開の理念と方法					
10.	博物館における調査研究活動			調査研究活動の意義と内容					
11.	〃			・博物館資料に関する研究					
12.	〃			・資料保存に関する研究					
13.	〃			・博物館に関する研究					
14.	〃			・調査研究成果の還元					
15.	ま と め			・博物館資料と情報化社会					
16.	試験								
事前学習		授業で指示された資料の事前調査及びテーマの検索							
事後学習		各自が任意に用意した資料の資料カード作成							
履修上の注意		資格取得科目のため出席を重視する。事前事後学習に重点を置く。							
成績評価の方法・基準		期末試験成績 50%、事前事後学習 30%、平常点 20%の総合点で評価する。							
教科書	使用しない 資料（プリント等）を配布する								
参考書	〔博物館資料論〕〔有本修一編集〕〔樹村房〕〔1,900 円〕								

授業科目	博物館資料保存論					担当者	手塚 均		
単位数	2	必・選	学(必)	授業形式	講義	開講期	前期	対象	服・美2年
授業の概要									
資料保存に関する基礎的な知識として、資料劣化の要因とその対策、収蔵および展示環境のあり方、保存と活用などについて解説する。また、東日本大震災以降に展開された全国的な規模のレスキュー活動の実際についても詳述する。座学のみならず実際の施設での研修も予定。									
授業の目標(到達目標)									
博物館・美術館資料を後世に伝えるためには、日々進行する資料の劣化を抑えるための環境設定と資料を大切に扱う意識が重要であることが理解できるようになる。									
授業計画及び内容									
1. 博物館における資料保存の意義									
2. 資料保存の歴史									
3. 資料劣化の要因とその対策 ①温度と湿度									
4. 資料劣化の要因とその対策 ②光と空気汚染									
5. 資料劣化の要因とその対策 ③虫・カビなど生物被害と I P M									
6. 収蔵庫と展示室の環境									
7. 東日本大震災における資料の救出（レスキュー活動）									
8. 救出された資料の管理・修復から公開まで									
9. 伝統的な修理と修復（映像）									
10. 有機質資料（紙・木製品など）の科学的保存処理									
11. 無機質資料（金属製品など）の科学的保存処理									
12. 資料の梱包と運搬									
13. 資料の保存と活用－校外研修－ ①博物館バックヤード									
14. 資料の保存と活用－校外研修－ ①展示室など公開ゾーン									
15. 資料の保存と活用まとめ									
事前学習	規模の異なる博物館・美術館などの施設を実際に訪れてほしい。物理・化学・生物など自然科学系の基礎知識（中学校程度）の復習。								
事後学習	博物館概論、博物館実習などと重複する部分もあるので相互に学習してほしい。								
履修上の注意	学芸員としての実務において必須の基礎知識であることを念頭に受講してください。								
成績評価の方法・基準	学習意欲（授業態度）ミニテスト 50%、課題レポート 50%（未提出は評価 0 とする。）								
教科書	使用せず。講義前に A4 用紙 6～10 頁のプリントを配布する								
参考書	〔博物館資料保存論〕〔石崎武志〕〔講談社〕〔2,376 円〕								

授業科目		博物館情報・メディア論			担当者		佐藤 泰		
単位数	2	必・選	学(必)	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服・美2年
授業の概要									
教育・コミュニケーションツールとして情報・メディアの基本特性を概観しつつ、博物館における情報の種類や意義、メディアの活用方法や情報発信の手法について、具体的事例を参照し、一部体験を交えながら学ぶ。									
授業の目標(到達目標)									
博物館における情報・メディアの活用についての基礎的能力とあわせ、情報コミュニケーションの基本原則を習得することで、様々な場面での情報発信力や応用力を身につける。									
授業計画及び内容									
1. 博物館における情報・メディアとはなにか									
2. 教育・コミュニケーションツールとしての情報メディアの理論									
3. 教育・コミュニケーションツールとしての情報メディアの歴史									
4. 教育・コミュニケーションツールとしての博物館									
5. 展示のなかの情報・メディアの活用									
6. 教育、普及のなかの情報・メディアの活用									
7. 研究、保存その他における情報・メディアの活用									
8. メディアテークにおける情報・メディアの活用の実際									
9. アーカイブの作成と運用、デジタルアーカイブの課題									
10. 視覚など、障がいのある利用者のための情報・メディアの可能性									
11. 地域の文化資源をつなぎ街をミュージアム化するための情報・メディアの活用									
12. 仙台宮城ミュージアムアライアンス（SMMA）の取り組みの実際									
13. 情報リテラシーと博物館（知的財産、個人情報の保護）									
14. 博物館の魅力を発信するための提案書制作実習									
15. 博物館の魅力を発信するための提案の評価									
事前学習		博物館等を利用する際は、情報・メディアの活用についても観察すること。							
事後学習		博物館の意義や魅力をいかにしてとらえ、発信できるかを考えること。							
履修上の注意		各自、博物館や美術館での見学とレポート提出が必要です							
成績評価の方法・基準		学習意欲を含む授業態度 50%、課題レポート 50%							
教科書	講義のなかで資料を配付します								
参考書	講義のなかで資料を配付します								

授業科目		博物館経営論				担当者		笠原 信男	
単位数	2	必・選	学(必)	授業形式	講義	開講期	前期	対象	服・美3年
授業の概要									
博物館経営についての基本的な考え方・知識・動向を、時に図・表・写真等の資料・データを用いて解説する。また、博物館を訪れて、経営論の観点から実地の学習も行う。									
授業の目標(到達目標)									
博物館経営についての基本的な考え方・知識・動向を習得し、博物館学を学ぶ学生、博物館学芸員をめざす学生として博物館を多角的な視点で観覧・考察する姿勢を身につける。									
授業計画及び内容									
1. 博物館と博物館学及び博物館経営論									
2. 博物館の設置と使命									
3. 博物館経営の考え方									
4. 博物館の経営手法									
5. 博物館の運営方針									
6. 博物館の組織									
7. 博物館の中長期計画と予算									
8. 博物館の広報活動と来館者サービス									
9. 博物館の危機管理									
10. 博物館経営の実際 (1) 現地学習									
11. 博物館経営の実際 (2) 現地学習									
12. 経営論から見た博物館の展示活動									
13. 経営論から見た博物館の教育普及活動									
14. 経営論から見た博物館の資料収集・管理、調査研究活動									
15. 経営論から見た市民参画と地域社会との連携									
事前学習		ガイダンスで示す授業計画をもとにして、各回の内容について博物館学の文献等を用いて、確認しておく。							
事後学習		配布するプリント等で復習し、博物館経営の基本的な考え方を着実に身につける。							
履修上の注意		積極的、意欲的な姿勢で受講すること。							
成績評価の方法・基準		事前事後学習を含む授業姿勢 40%、レポート 60%、を目安として評価する。							
教科書		使用しない							
参考書		[新時代の博物館学][全国大学博物館学協議会西日本部会][芙蓉書房出版][2,052 円]							

授業科目		博物館展示論			担当者		田中 則和		
単位数	2	必・選	学(必)	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服・美3年
授業の概要									
博物館における展示に関する基礎的能力を養うことを目的として、その意義、構成する要素とプロセス及び解説活動に関する理論と方法・技術について解説する。									
授業の目標(到達目標)									
博物館展示についての基礎的な知識を習得し、学芸員として実際に基本的な展示活動ができるようになることを目的とする。									
授業計画及び内容									
1. 展示総論					: 博物館における展示の役割・社会性・制約				
2. 展示の理論1—歴史					: 展示の歴史（世界・日本）				
3. 展示の理論2—諸類型					: 展示の諸類型（視点と運用）				
4. 展示の理論3—教育					: 展示と教育（生涯学習・学校教育）				
5. 展示の理論4—展示評価					: 展示の評価法と手順				
6. 展示の技術1—地域社会					: 「溶け込む」「とびだす」「つながる」				
7. 展示の技術2—プロセス					: 企画・実施・終了				
8. 展示の技術3—動線計画					: 動線・ゾーニング計画				
9. 展示の技術4—展示環境					: 予防・リスクマネジメント				
10. 展示の技術5—照明					: 器具・照明計画				
11. 展示の技術6—展示ケース					: 役割・種類・メンテナンス				
12. 展示の技術7—グラフィック					: 種類・制作				
13. 展示の技術8—レプリカとジオラマ					: 種類・組合せ				
14. 展示の技術9—広報のデザイン					: ホームページ・ポータルサイト・プレリリース				
15. ユニバーサル・ミュージアム					: 触文化・体験プログラム				
事前学習		近くの博物館的施設を見学しておくこと							
事後学習		授業で学んだ視点で再び博物館的施設を見学し、所感をメモしておくこと。							
履修上の注意		博物館概論、博物館資料論、博物館教育論、博物館実習など博物館学芸員に関わる科目を受講すること。							
成績評価の方法・基準		事前事後学習を含む授業姿勢50%、レポート50%で評価します。							
教科書	[博物館展示論][黒澤 浩][講談社][2,592 円]								
参考書	[博物館展示論][佐々木利和 他][NHK出版][3,132 円]								

授業科目	博物館実習Ⅰ（学内・見学実習を含む）					担当者	小谷 竜介		
単位数	2	必・選	学(必)	授業形式	講義	開講期	通年(前)	対象	服・美3年
授業の概要									
本実習では、仮想企画展の企画書作成を通じて、学芸員として求められる思考、技能を解説し、実践する。なお、企画書作成に当たっては講義とともに、2つのグループに分かれ、個別面談形式を採用し進めていく。									
授業の目標(到達目標)									
博物館学芸員として必要な技能の獲得を目指す。特に学芸員として一番必要なモノを展示資料として評価し、展示を構成するまでの一連の流れを学ぶことで、学芸員としての思考法を身に付ける。									
授業計画及び内容									
1. オリエンテーション									
2. 学芸員の思考を考える									
3. 対象資料の選定についてのスクリーニンググループ①									
4. 対象資料の選定についてのスクリーニンググループ②									
5. 展示の方向性と目的について									
6. 展示方針についてのスクリーニンググループ①									
7. 展示方針についてのスクリーニンググループ②									
8. 展示目的についてのスクリーニンググループ①									
9. 展示目的についてのスクリーニンググループ②									
10. 展示平面を作成する									
11. 展示平面についてのスクリーニンググループ①									
12. 展示平面についてのスクリーニンググループ②									
13. 企画書を整える									
14. プレゼンテーショングループ①									
15. プレゼンテーショングループ②									
事前学習		展示対象となるモノ資料を考えておくこと。自分の興味のある展覧会を見学すること。							
事後学習		図書館、インターネット等を通しての資料調査を行うこと。							
履修上の注意		講義時間外での資料調査が必要となるので、熱意を持って取り組むこと。							
成績評価の方法・基準		完成した企画書 70% 受講態度（アドバイスに応えられたか等） 30%							
教科書	必要な資料を配付する								
参考書	なし								

授業科目		博物館実習Ⅰ（学内・見学実習を含む）				担当者		三上 秀夫		
単位数	1	必・選	学(必)	授業形式	講義	開講期	通年(後)	対象	服・美3年	
授業の概要										
博物館における学芸員の実務に関する実習。博物館資料の収集、整理、保管、調査研究、取り扱い方法、展示などの基本事項の理解と実務実習。学外の博物館等の施設における見学旅行もあわせて行う。										
授業の目標(到達目標)										
博物館における学芸員の仕事を、実習を通して体験し理解を深めることを目標とする。学外での実務実習に向けた基本事項を身につけることができる。										
授業計画及び内容										
1. ガイダンス 授業の概要説明										
2. 学外実務実習のための説明会 1 実習先希望調査										
3. 収集、整理、保管、調査の対象となる資料について 顕彰館、短大資料室見学										
4. 資料の取り扱い 1 短大資料の取り扱い（着物その他）										
5. 外部講師 掛軸の歴史										
6. 外部講師 表具の取り扱い 屏風 刷毛 道具										
7. 外部講師 学芸員の仕事										
8. 資料の取り扱い 2 顕彰館 資料の取り扱い（掛軸）グループで記録・調査										
9. 資料の取り扱い 3 顕彰館 資料の取り扱い（掛軸）グループで記録・調査										
10. 資料の取り扱い 4 顕彰館 資料の取り扱い（掛軸）グループで記録・調査										
11. 資料の取り扱い 5 顕彰館 資料の取り扱い（掛軸）グループで記録・調査										
12. 展示計画 1（概要説明）学外実務実習のための説明会 2 実習先希望調査結果調整／実習記録下書き										
13. 展示計画 2（動線計画）実習先希望調査結果調整／実習記録下書き										
14. 展示計画 3（展示器具）実習先希望調査結果調整／実習記録下書き										
15. 展示計画 4（発表）学外実務実習にあたっての諸注意 清書 写真準備										
事前学習		毎回の授業で指示する。								
事後学習		毎回の授業で指示する。								
履修上の注意		資格科目のため欠席のないよう望む。								
成績評価の方法・基準		授業の取り組みに対する意欲と姿勢（40%）、見学レポート（30%）、実務実習評価（30%）で評価する。								
教科書	授業時にプリントを配布する。									
参考書	こちらで授業時に参考図書を用意する。									